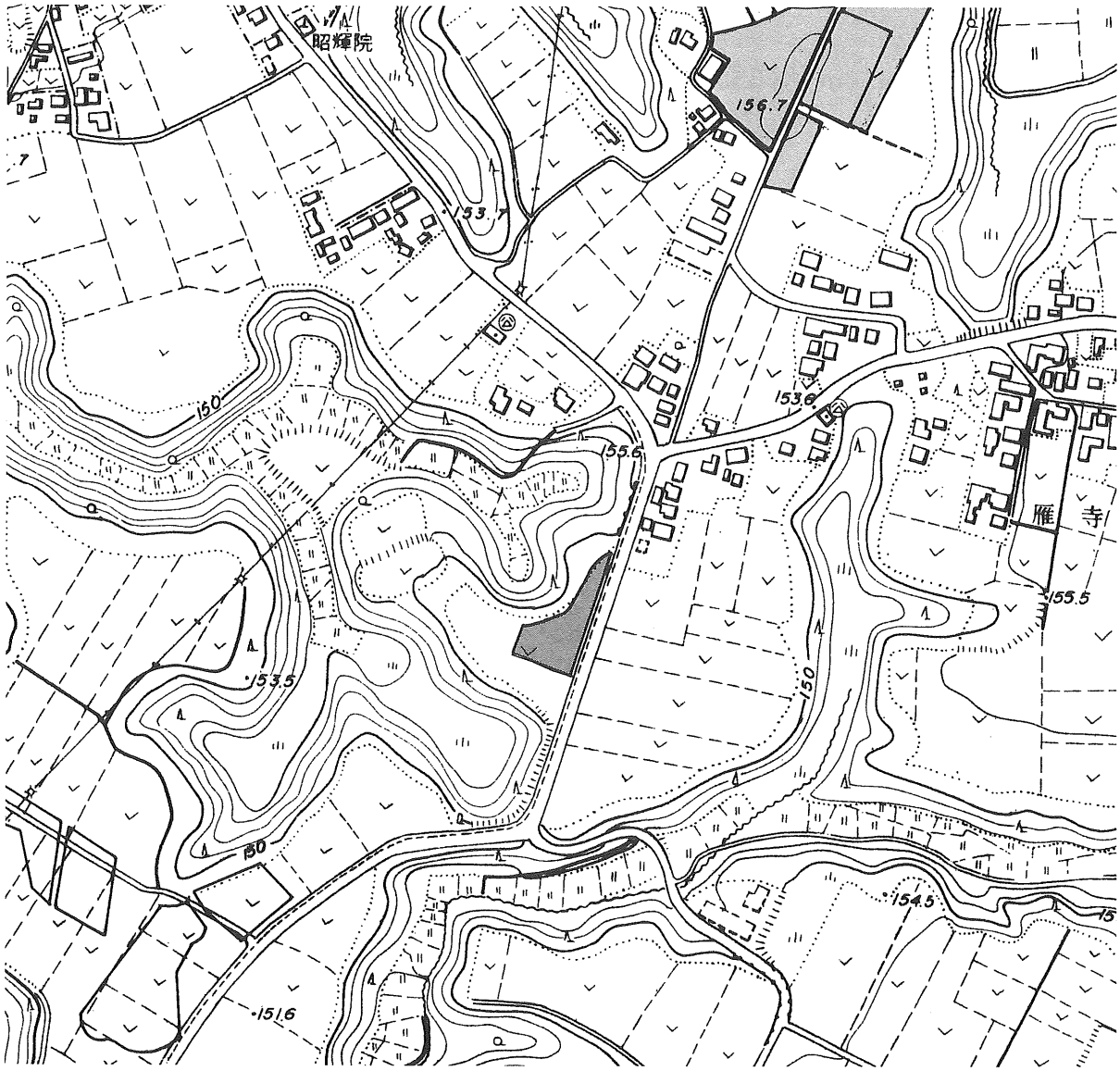


第１図　雁寺第２遺跡調査区位置図（1/5,000）

発掘調査に至る経緯

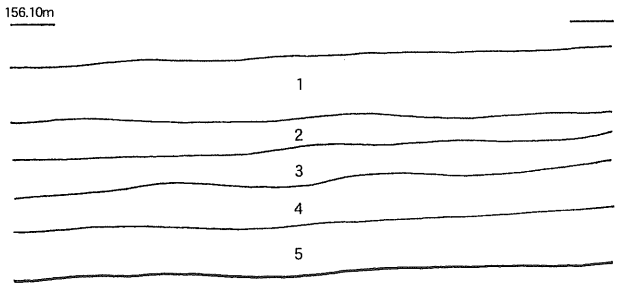
本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成7年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町耕地課(現農村整備課)、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課による協議の結果、平成7年9月18日より平成8年2月10日にかけて山城第1遺跡とあわせて発掘調査が実施された。調査対象面積は総計約5,568㎡である。平成7年度調査におけるC区に該当する。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地と谷を挟み北側、山城第1遺跡の所在する台地の南側に位置する。調査区は雁寺第2遺跡の範囲の西側、台地縁辺に位置し、調査区の北西側は谷に面している。

層序

調査区の標高は154.50m～155.50mで、北東側が高く南西に向け傾斜している。層序は下記のとおりである。



第２図　土層図（1/40）

1　耕作土

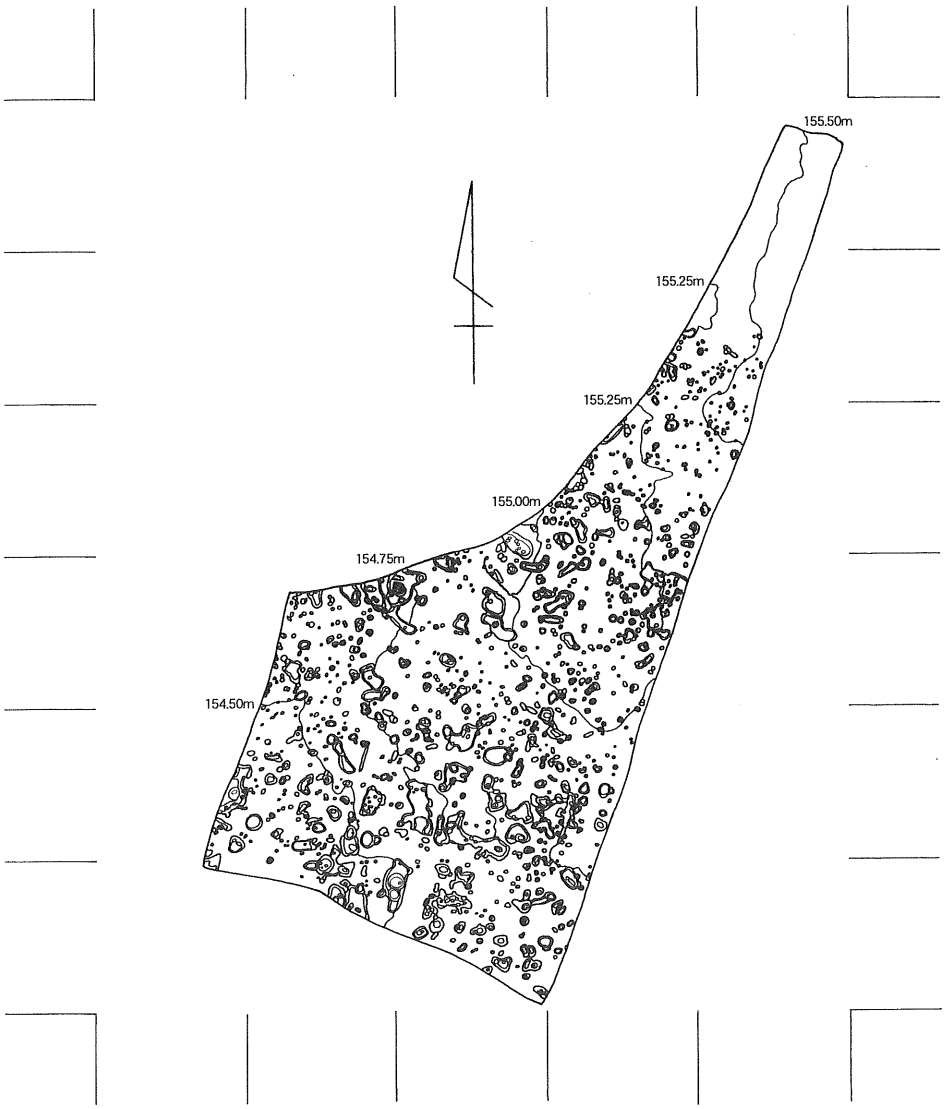
2　黒褐色土　　粒の大きな高原スコリアを含む。Hue 10YR 2/2

3　高原スコリア

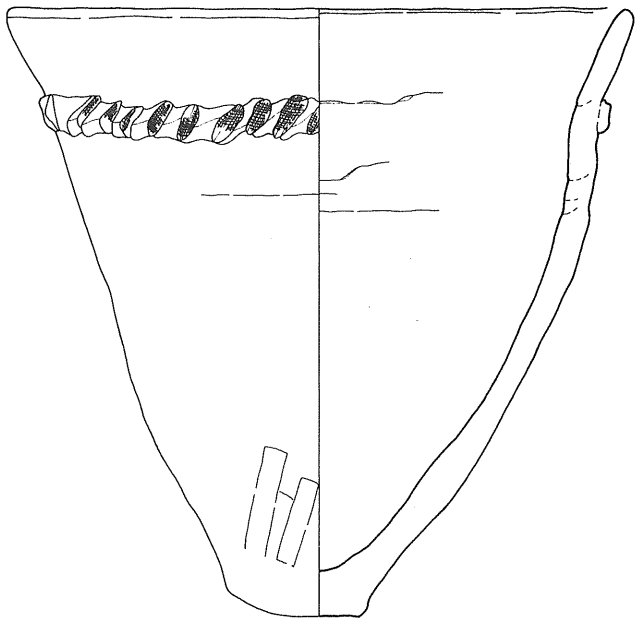
4　黒褐色土　　粒の小さな高原スコリアを多く含む。Hue 7.5YR 3/1

5　暗褐色　　御池軽石を少量含む。Hue 10YR 3/3

6　御池軽石



第３図　遺構分布図（1/500）



第４図　包含層出土土器実測図（1/3）

遺構と遺物

雁寺第2遺跡の調査においては時期の特定のできなかったピット多数が出土した他、包含層より土師器甕が出土した。

古墳時代の遺物

１は土師器甕で頸部に刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。レンズ状の平底より胴部はやや膨らみをもって立ち上がり、頸部において屈曲し口縁部は外方に向け開く。

表19　雁寺第2遺跡出土遺物観察表

単位：cm

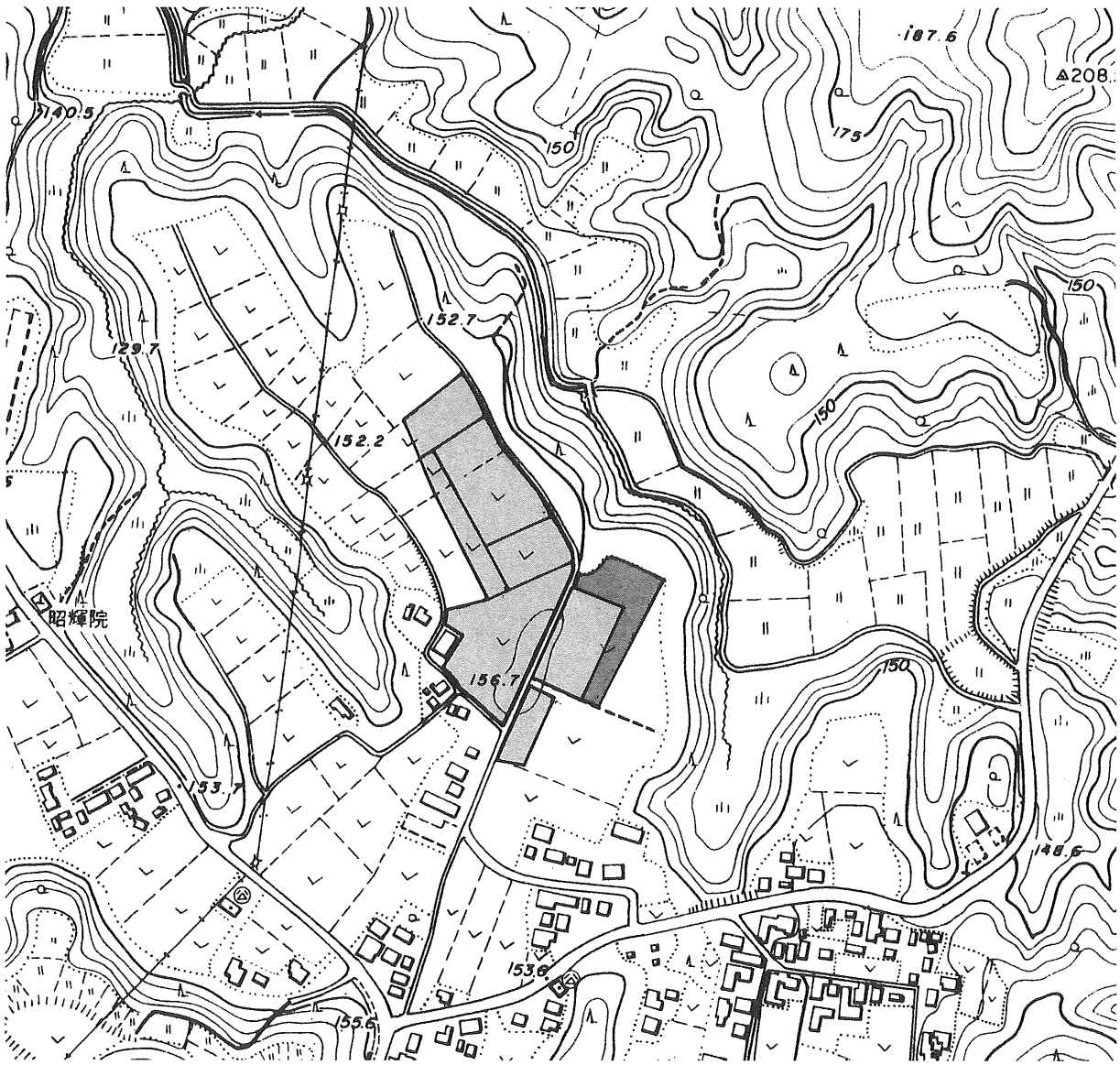
No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	包含層	土師器	甕	24.7	5.7	24.4	刻目突帯。工具ナデ。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・灰色・茶褐色粒少量。	

まとめ

雁寺第2遺跡においては時期不明のピット多数が検出されたが、建物等の構成はならなかった。

包含層からは縄文土器のほか、刻目突帯を有する古墳時代の土師器甕1点が出土している。

山城第1遺跡
（第2次調査）



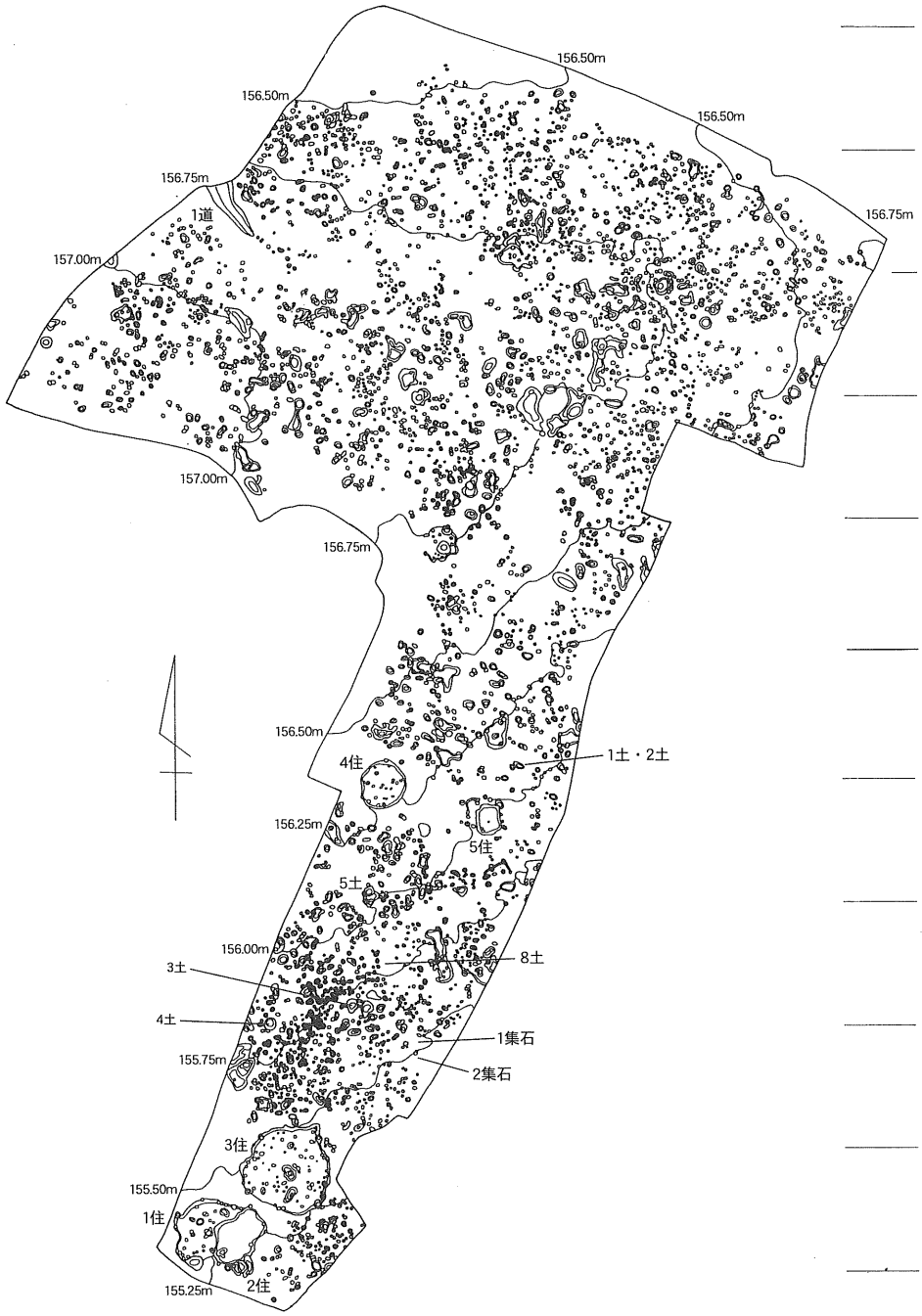
第１図　山城第１遺跡第２次調査調査区位置図（1/5,000）

発掘調査に至る経緯

本調査は平成4年度より平成15年度にかけて高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成12年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町農村整備課、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課による協議の結果、平成12年4月11日より平成12年6月30日にかけて発掘調査が実施された。調査対象面積は約3,000㎡である。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地と谷を挟み北側、山城第1遺跡の所在する台地の東側に位置する。平成7年度に調査を実施した第1次調査A区北側から東側にかけての周囲にあたる。調査区の北側は台地縁辺に位置し、台地下には八久保川が確認される。



第２図　遺構分布図（1/600）

層序

調査区の標高は155.25m～157.00mで、西を頂点とし北側、東側の台地縁辺に向け傾斜している。調査以前は畑地として利用されていた。本遺跡の基本土層は、山城第1遺跡第1次調査B区トレンチにて確認した土層堆積において代表させる。

1　耕作土
2　黒褐色土　　御池軽石を少量含む。Hue 7.5YR 3/2
3　暗褐色土　　御池軽石を多く含む。Hue 10YR 3/3
4　黒褐色土　　御池軽石を多く含む。Hue 10YR 3/2
5　御池軽石
6　黒色土　　御池軽石含有量は上層に向かい増加する。Hue 7.5YR 2/1
7　アカホヤ火山灰
8　カシワバン
9　黒褐色土　　パミスを含み下層に向かい増加する。Hue 5YR 2/1
10 暗赤褐色土　　パミスを含み上層に向かい増加する。Hue 5YR 3/2
11 黒褐色土　　軽石を多く含む。Hue 10YR 2/2

遺構と遺物

山城第1遺跡第2次調査においては縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑2基、集石遺構2基、古墳時代の土坑1基、古代の竪穴住居跡1軒、近世の道路状遺構1本、時期不明のピット多数が出土した。

縄文時代の遺構と遺物

1号竪穴住居跡

調査区の北側隅において検出された。2号竪穴住居跡と切りあっている。平面形態は円形と考えられ、直径約3m、検出面からの深さ約.03mを測る。床面はほぼ平坦で、土坑4基、ピットは計17本が確認されている。縄文土器の他、石錐、打製石斧各1点が出土している。いずれも埋土中からの出土である。

1は黒色磨研土器の深鉢、2は浅鉢の底部と考えられ、いずれも若干の上げ底を呈する。3は深鉢口縁部で外反する。6石錐で石材はチャートである。7は平面形態がしゃもじ状を呈する打製石斧で、石材はフォルンフェルスである。

2号竪穴住居跡

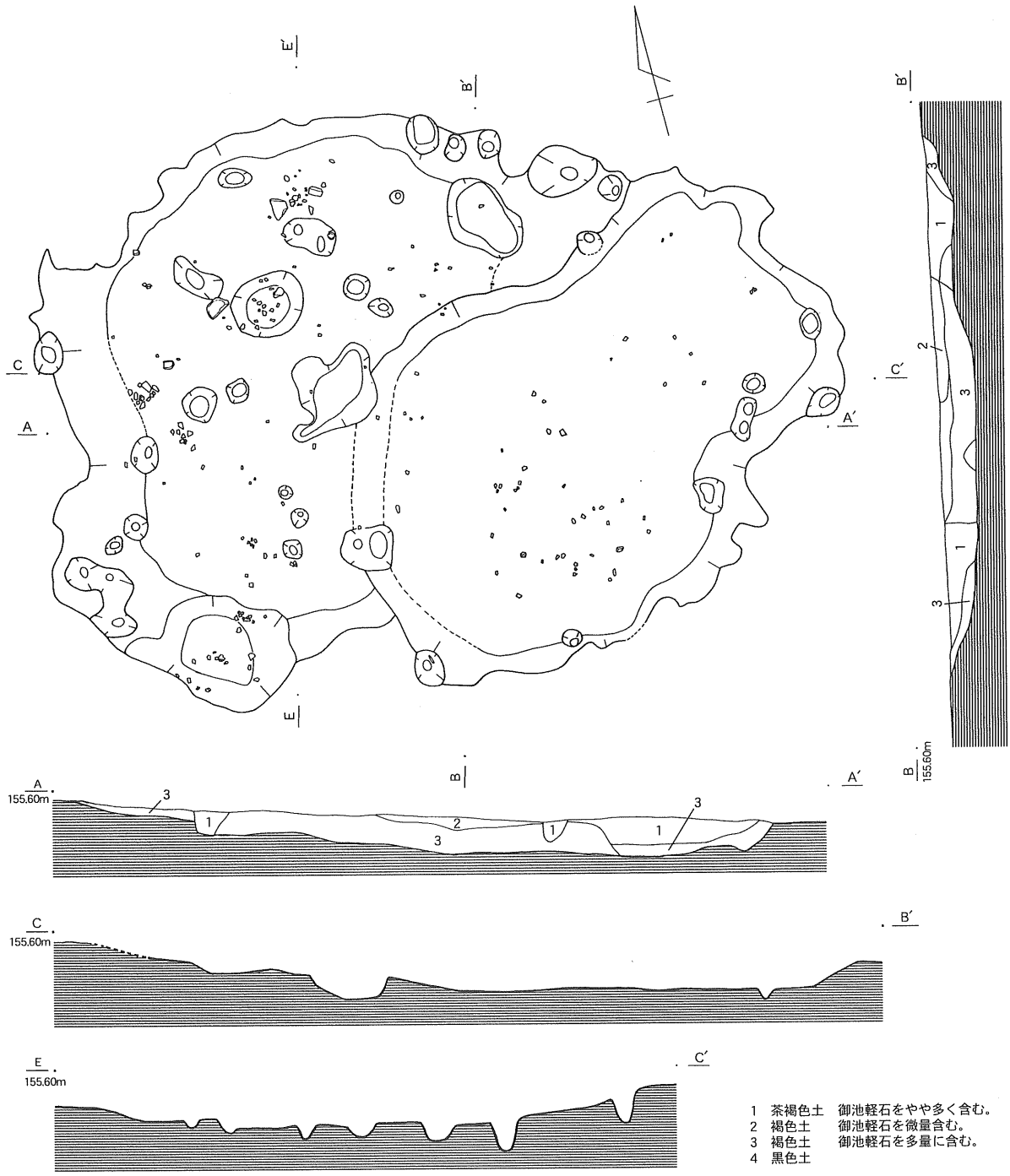
調査区の南隅において検出された。1号竪穴住居跡と切りあっている。平面形態は円形と考えられ、直径約3m、検出面からの深さ約0.3mを測る。ピットは計10本が確認された。埋土中より縄文土器が出土している。

4、5共に黒色磨研土器の深鉢口縁部で外反し、口唇部は平らに仕上げる。8は切目石錘で楕円形を呈し、長軸方向に切込みを施す。石材は砂岩である。

3号竪穴住居跡

調査区の南隅において検出された。1、2号竪穴住居跡の北側に隣接する。平面形態は円形を呈し、直径約7.0m、検出面からの深さ約0.2mを測る。計70本のピットが確認されている。床面のほぼ中央に楕円形を呈し、長径約1.5m、短径約1.0m、検出面からの深さ約0.2mを測る土坑を持つ。土坑の中央にはピット1基が伴い、土坑底面よりの深さ1.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

9は深鉢で頸部と胴部の境に明瞭な屈曲をもち、頸部はやや内傾しながら立ち上がり口縁部は外反する。10、11共に外反する深鉢口縁部である。12～14は石鏃で12、13、14とも平面形態は正三角形を呈するが、12、13は抉りが浅く、14はU字型の抉りが深い凹基である。

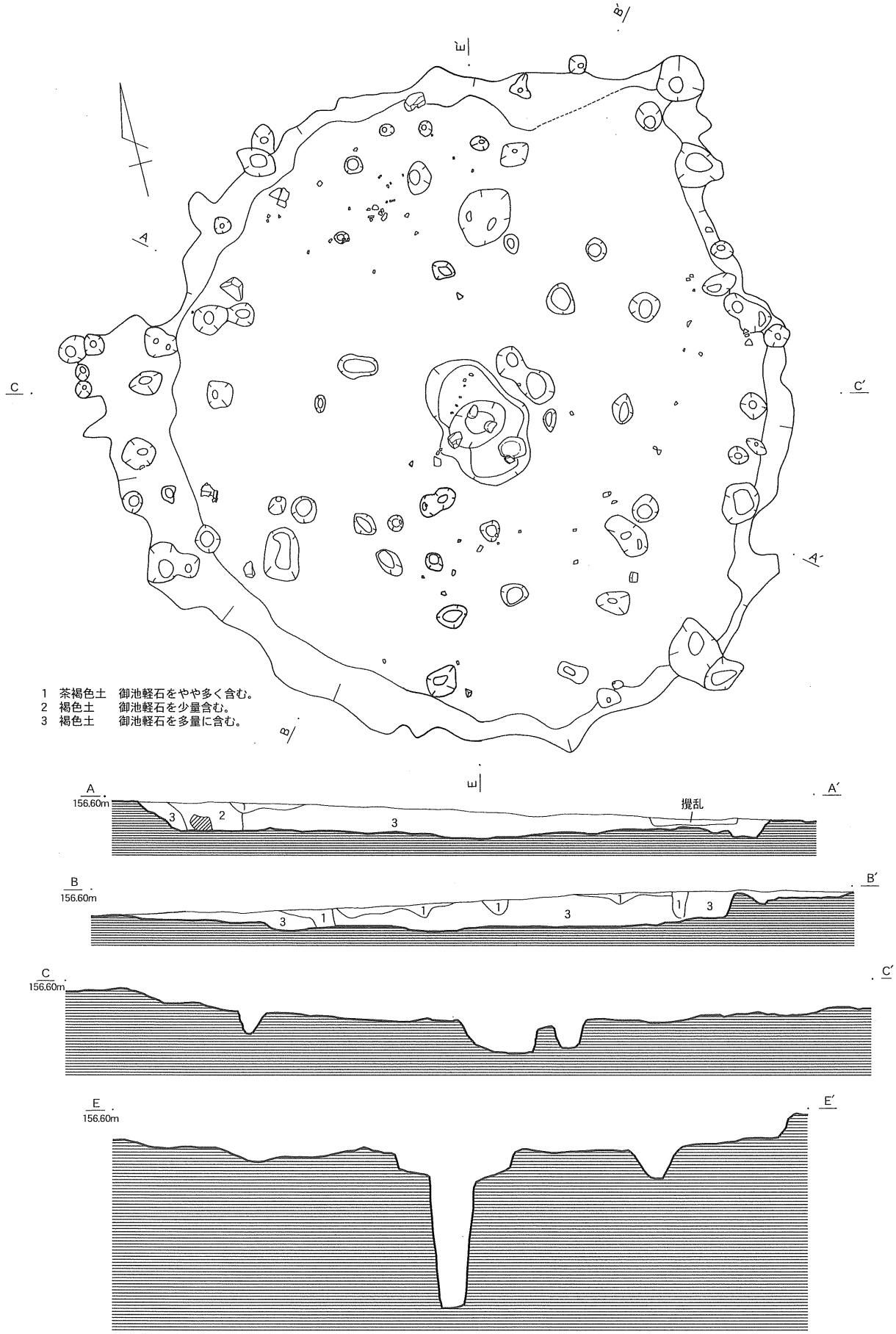


第３図　１・２号竪穴住居跡実測図（1/60）

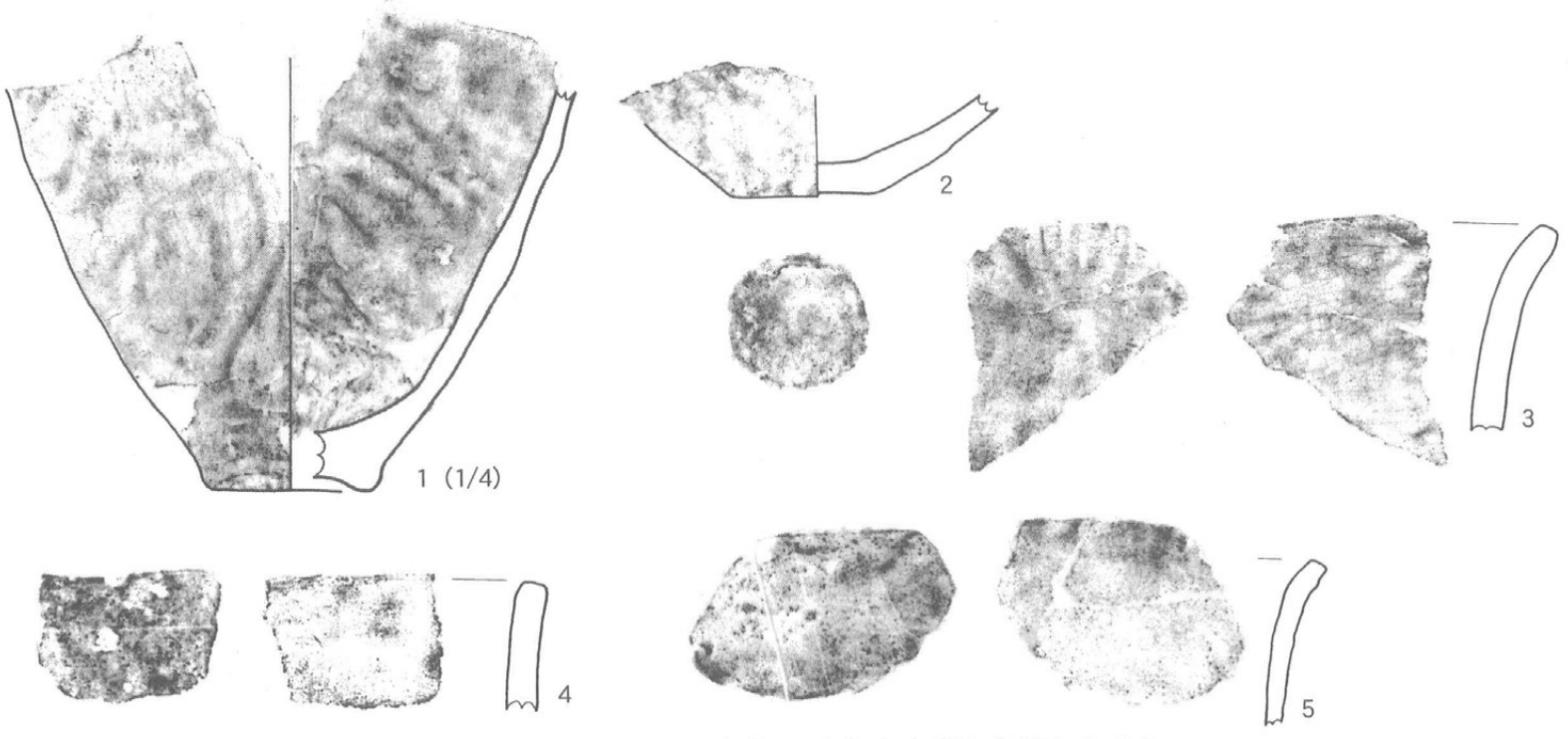
4号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約3.8m、短径約4m、検出面からの深さ約0.2mを測る。ピットは計19本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

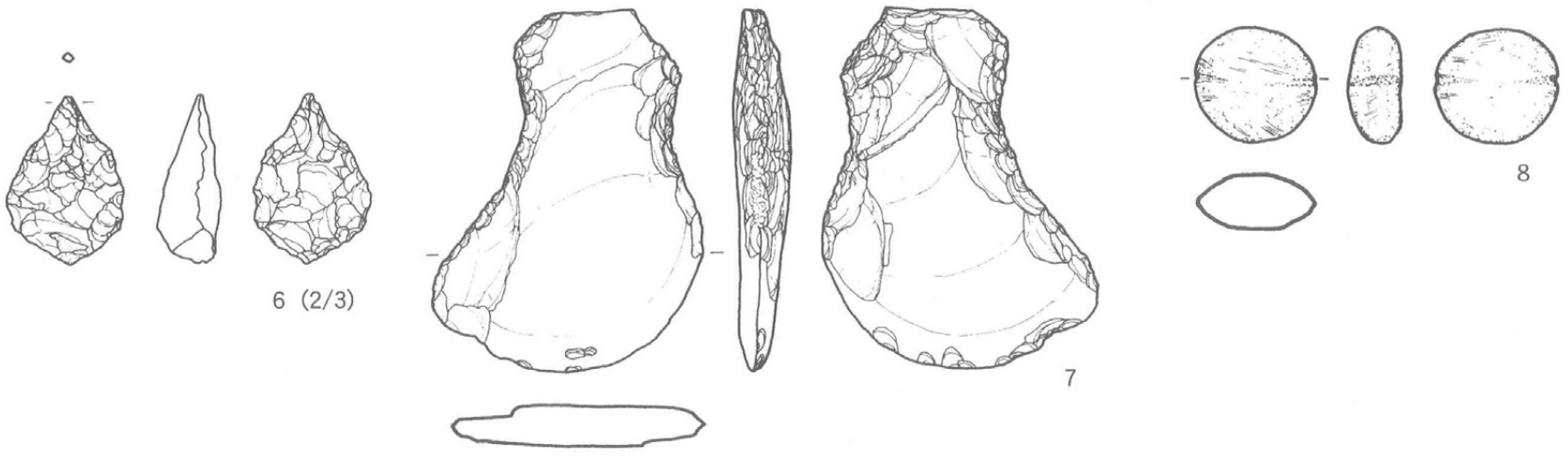
15は黒色磨研土器の深鉢で丸味を帯び弱く屈曲する頸部と胴部の境に3条の沈線を施し、頸部は外反しながら立ち上がり、口縁部に3条の沈線を施す。16は深鉢底部でやや上げ底である。



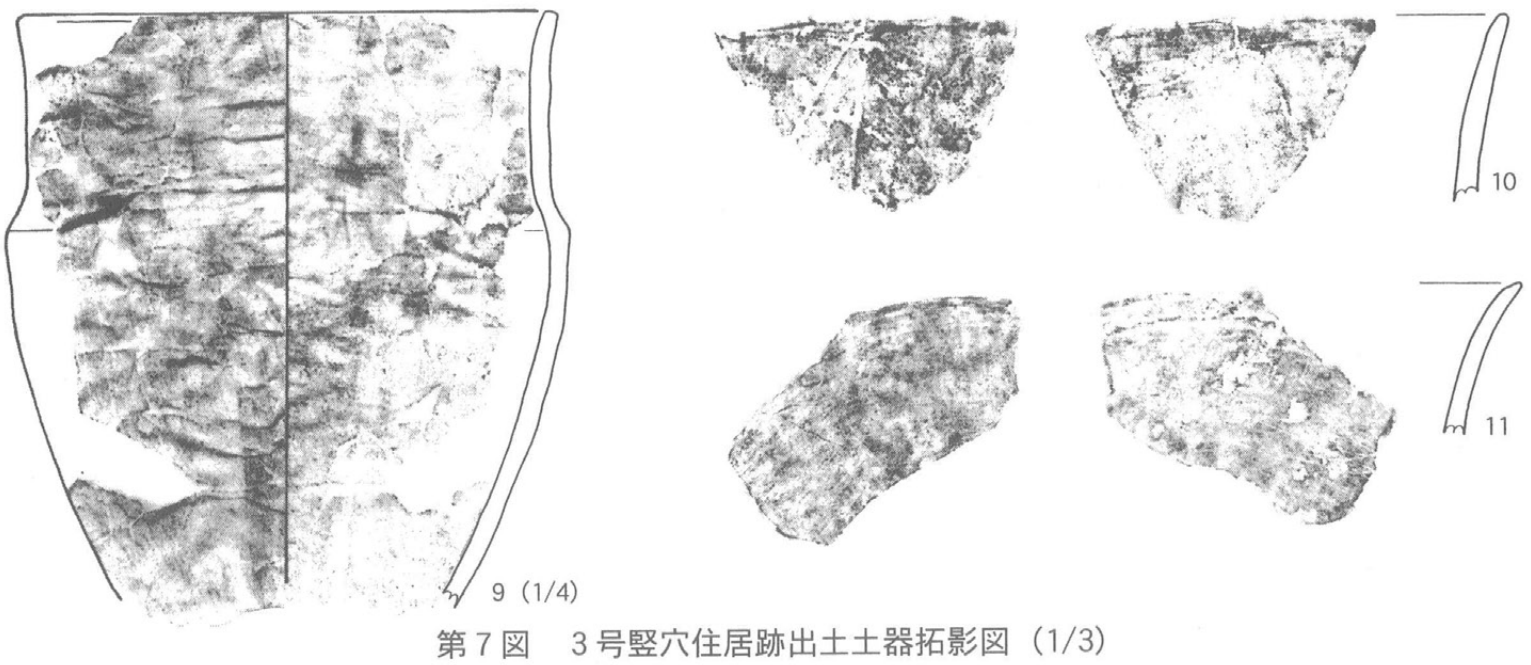
第４図　３号竪穴住居跡実測図（1/60）



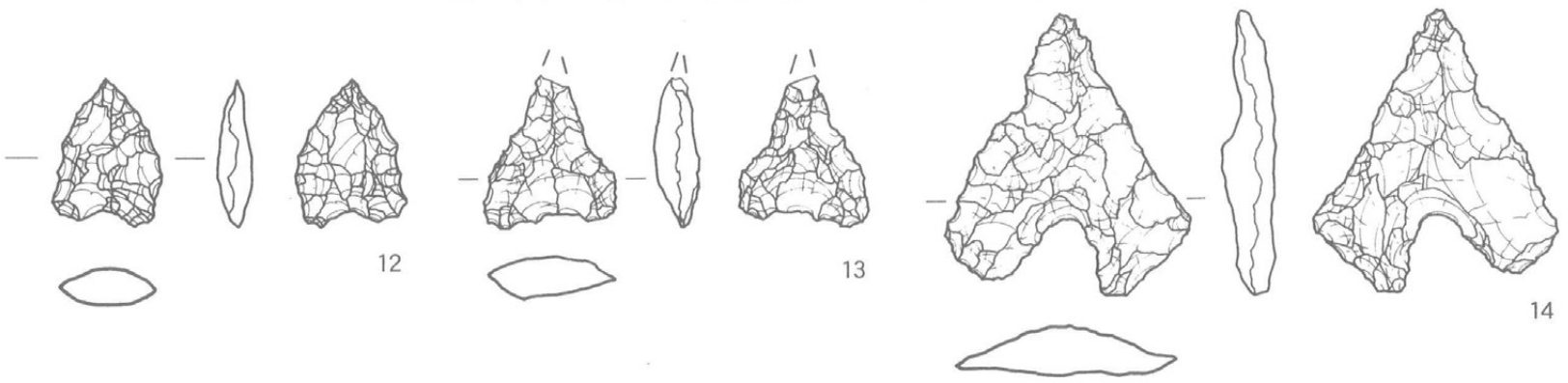
第５図　１・２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



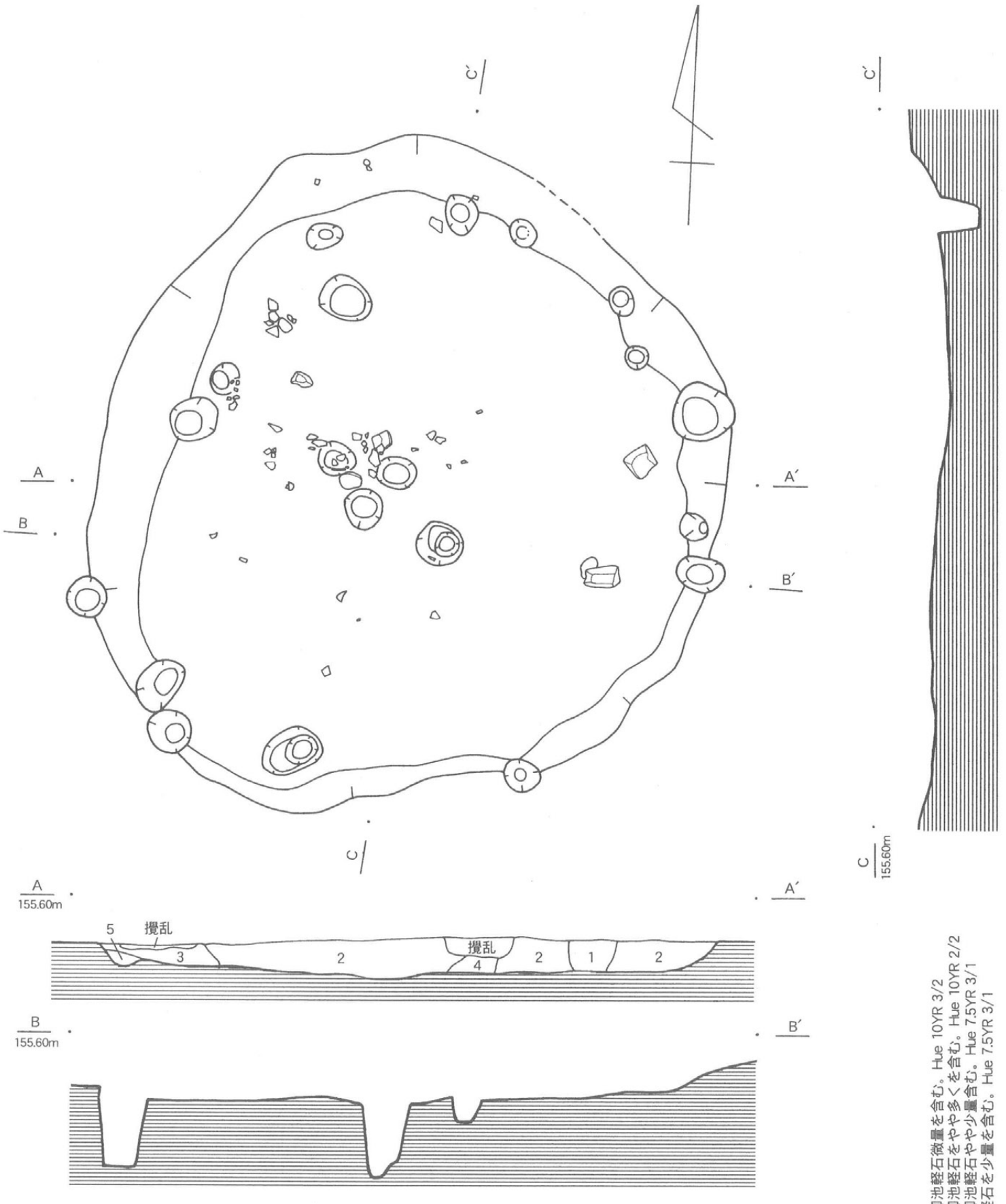
第６図　１・２号竪穴住居跡出土石器実測図（1/3）



第７図　３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

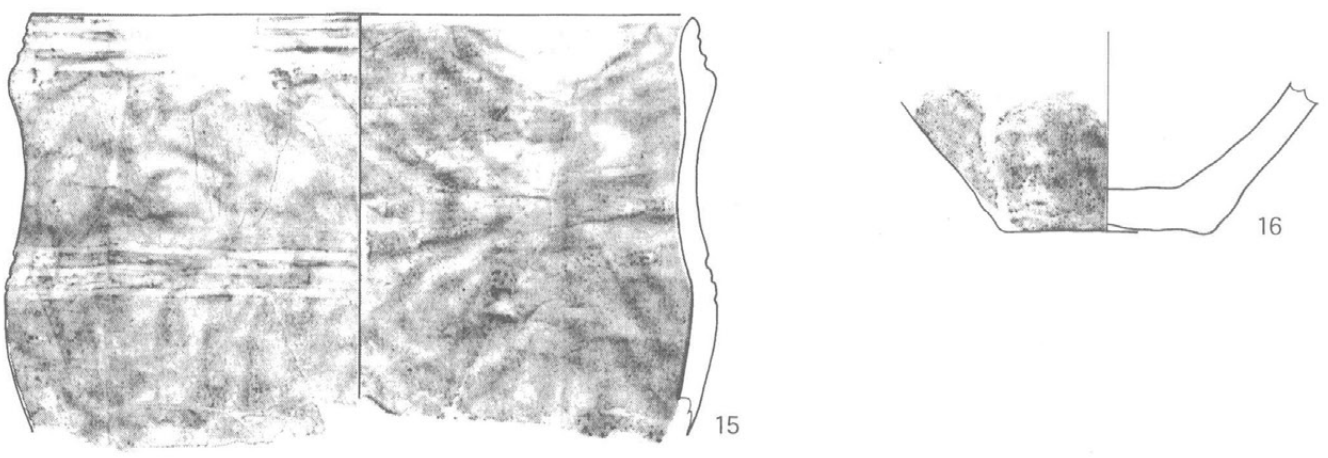


第８図　３号竪穴住居跡出土石器実測図（1/1）

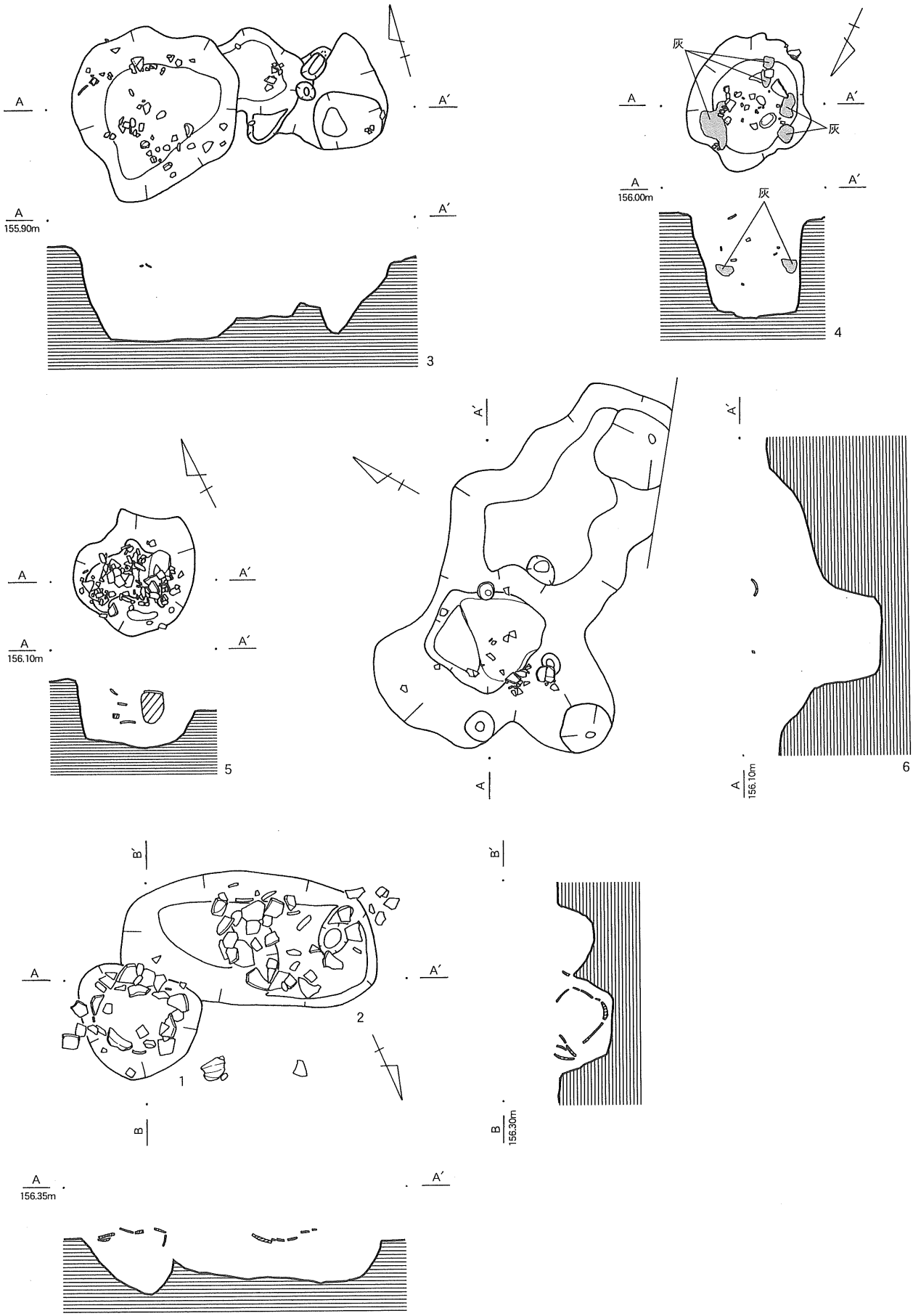


1　黒褐色土　やややわらかい。御池軽石微量を含む。Hue 10YR 3/2
2　黒褐色土　やややわらかい。御池軽石をやや多くを含む。Hue 10YR 2/2
3　黒褐色土　やややわらかい。御池軽石やや少量含む。Hue 7.5YR 3/1
4　黒褐色土　やわらかい。御池軽石を少量を含む。Hue 7.5YR 3/1

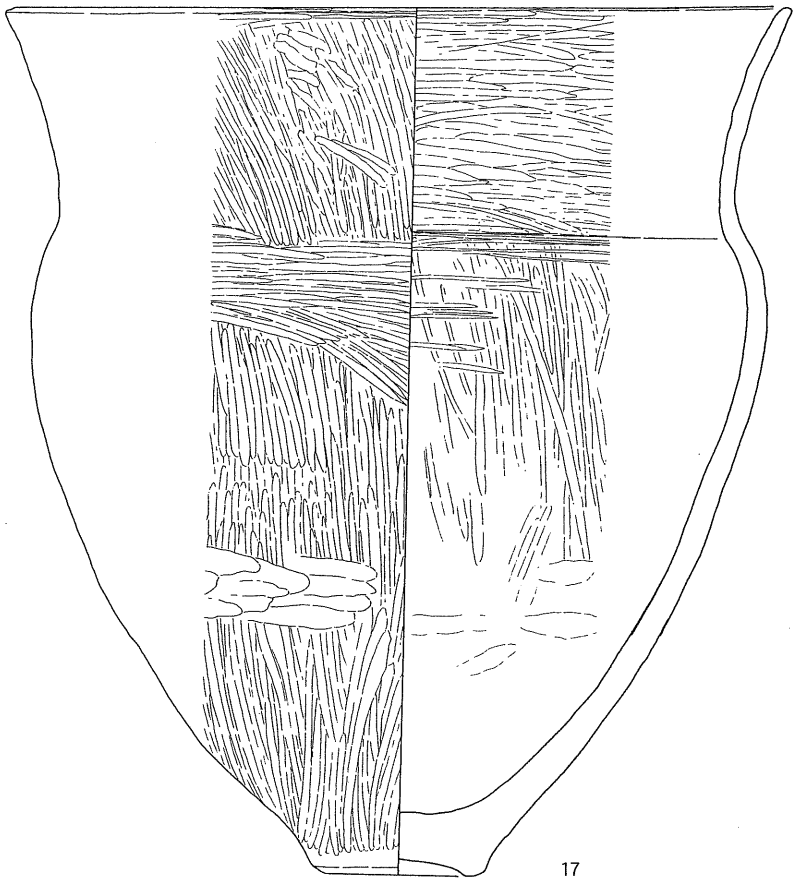
第９図　４号竪穴住居跡実測図（1/40）



第10図　４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第11図　土坑実測図（1/40）



第12図　1号土坑出土土器実測図（1/3）

1号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。2号土坑と切り合っている。平面形態は円形を呈し、直径約0.45m、検出面からの深さ約0.2mを測る。縄文土器が出土している。埋甕と考えられる。

17は黒色磨研土器の深鉢である。頸部と胴部の境にやや丸味を帯びた屈曲をもち、頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。口唇部は平坦に仕上げる。

2号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。1号土坑と切り合っている。平面形態は楕円形を呈し、長径約0.9m、短径約0.5m検出面からの深さ約0.15mを測る。黒色磨研土器が出土している。

3号土坑

調査区の南側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、直径約1.2m、検出面からの深さ約0.7mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

18、19は胴部に屈曲をもち口縁部が外反しながら開く浅鉢と考えられる。28はスクレイパーで、石材は頁岩である。

4号土坑

調査区の南側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.9m、検出面からの深さ約0.7mを測る。埋土中には灰の塊が混じる。埋土中より縄文土器が出土している。

20は深鉢底部で平底である。

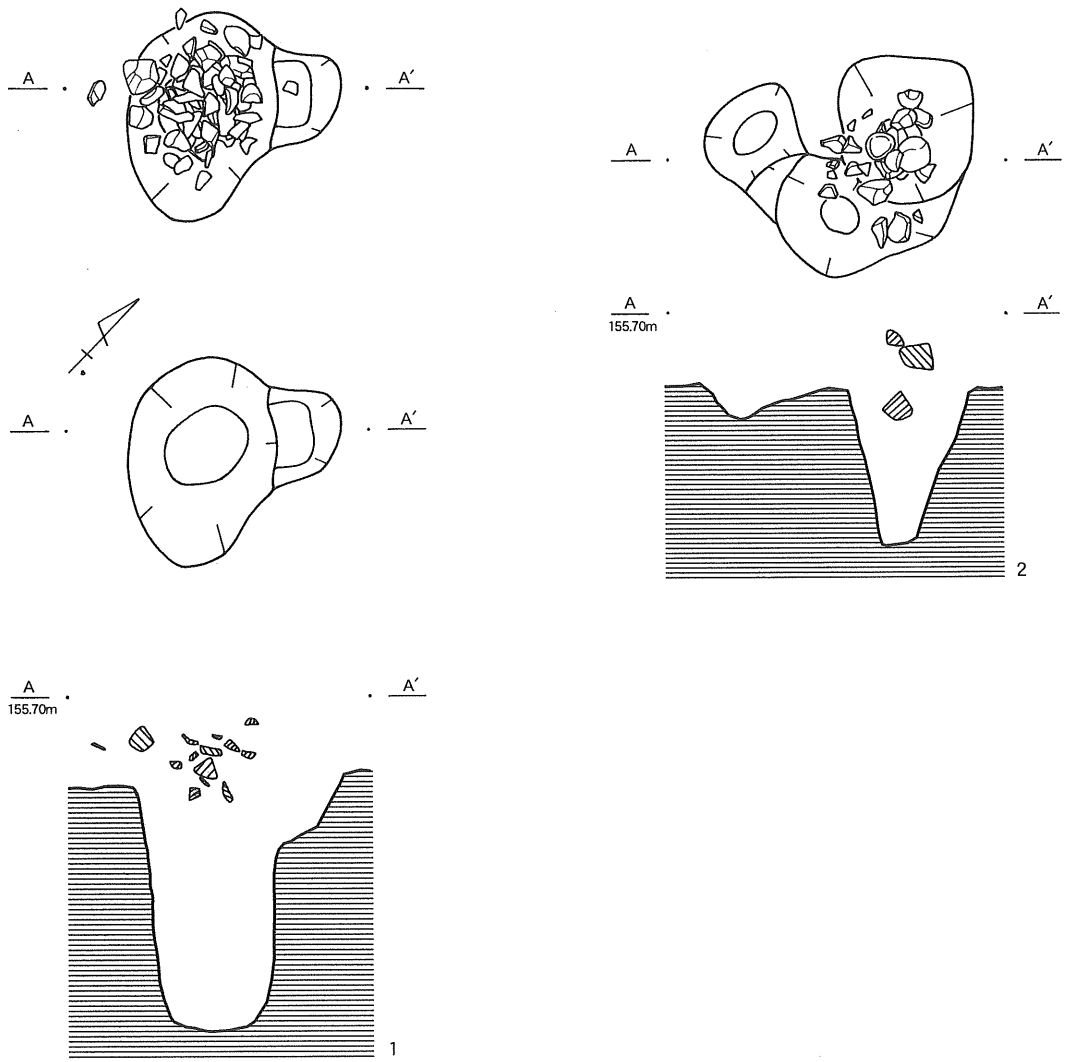
5号土坑

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.9m、検出面からの深さ約0.4mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

21～25は深鉢である。21は胴部において屈曲し、頸部において再び屈曲し口縁部は大きく開く。22、24は頸部の屈曲が弱く、口縁部はやや短く外反しながら開く。25は胴部が丸味を帯び、頸部の屈曲においては段が形成され口縁部はやや外反する。23は平底の底部である。

1号集石遺構

調査区の南側で検出された。長軸約55cm、短軸約45cmの範囲に広がり、礫72個から構成される。集石下より長径約55cm、短径約40cm、検出面からの深さ約60cmを測り、楕円形を呈し北東側に一段高い張り出しをもつ土坑が検出されている。



第13図　集石遺構実測図（1/20）

2号集石遺構

調査区の南側で検出された。長軸約40cm、短軸約30cmの範囲で、礫23個から構成される。長径約40cm、短径約35cm、検出面からの深さ約40cmを測り、円形を呈し底部に向かい細くなるピット状の掘り込みが伴う。

古墳時代の遺構と遺物

6号土坑

平面形態は不整楕円形を呈し、長径約3.0m、短径約1.4m、検出面からの深さ約0.8mを測る。埋土中より土師器が出土している。

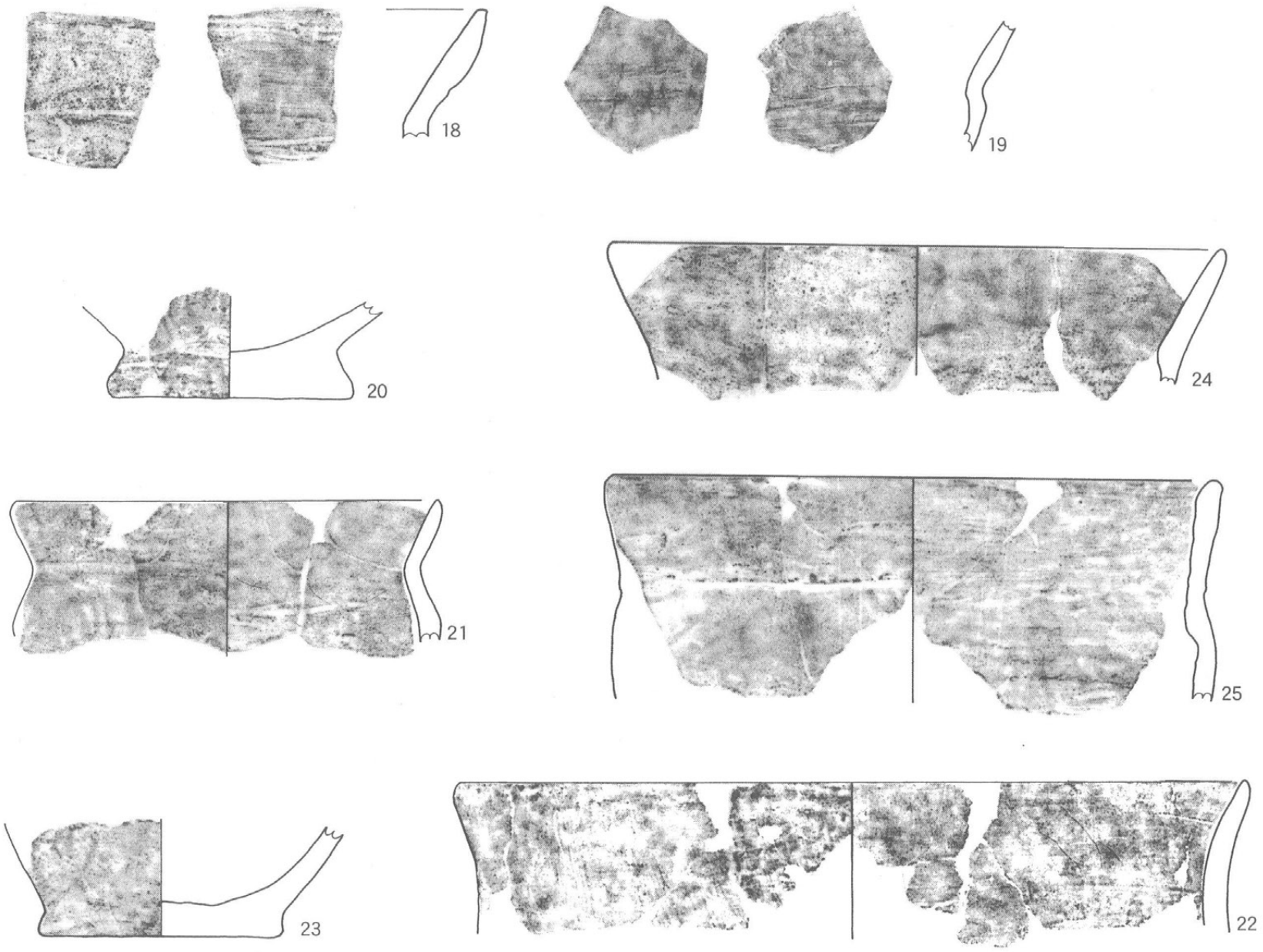
26は坏で丸底の底部から緩やかに開きながら立ち上がり口縁部はわずかに内湾する。27は小型甕で頸部において屈曲し、口縁部は短く外反する。

古代の遺構と遺物

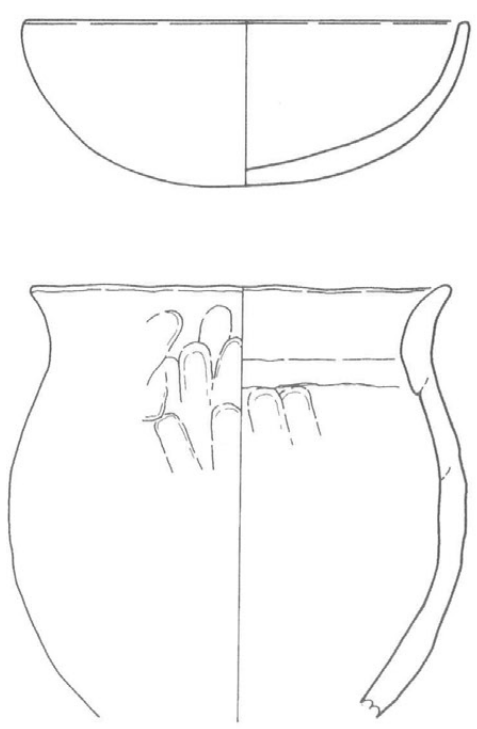
5号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、長軸約2.6m、短軸約2m、検出面からの深さ約0.4mを測る。ピットは計3本が確認された。埋土中より土師器が出土している。

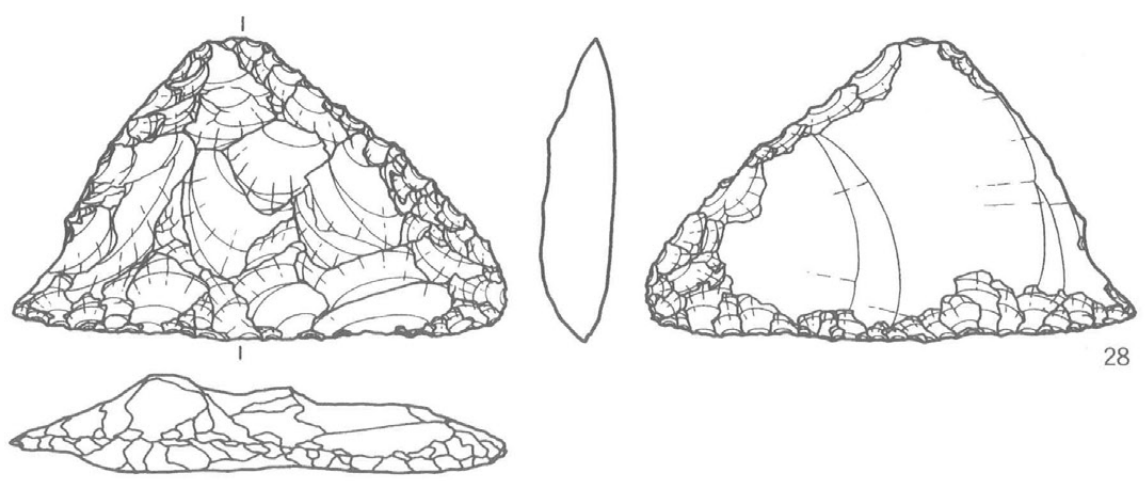
29、30はいずれも甕口縁部で、29は口縁部がやや短く直線的に開き、端部を平坦に仕上げる。30は口縁部がやや長く直線的に開き端部を丸く仕上げる。31は高台付坏である。



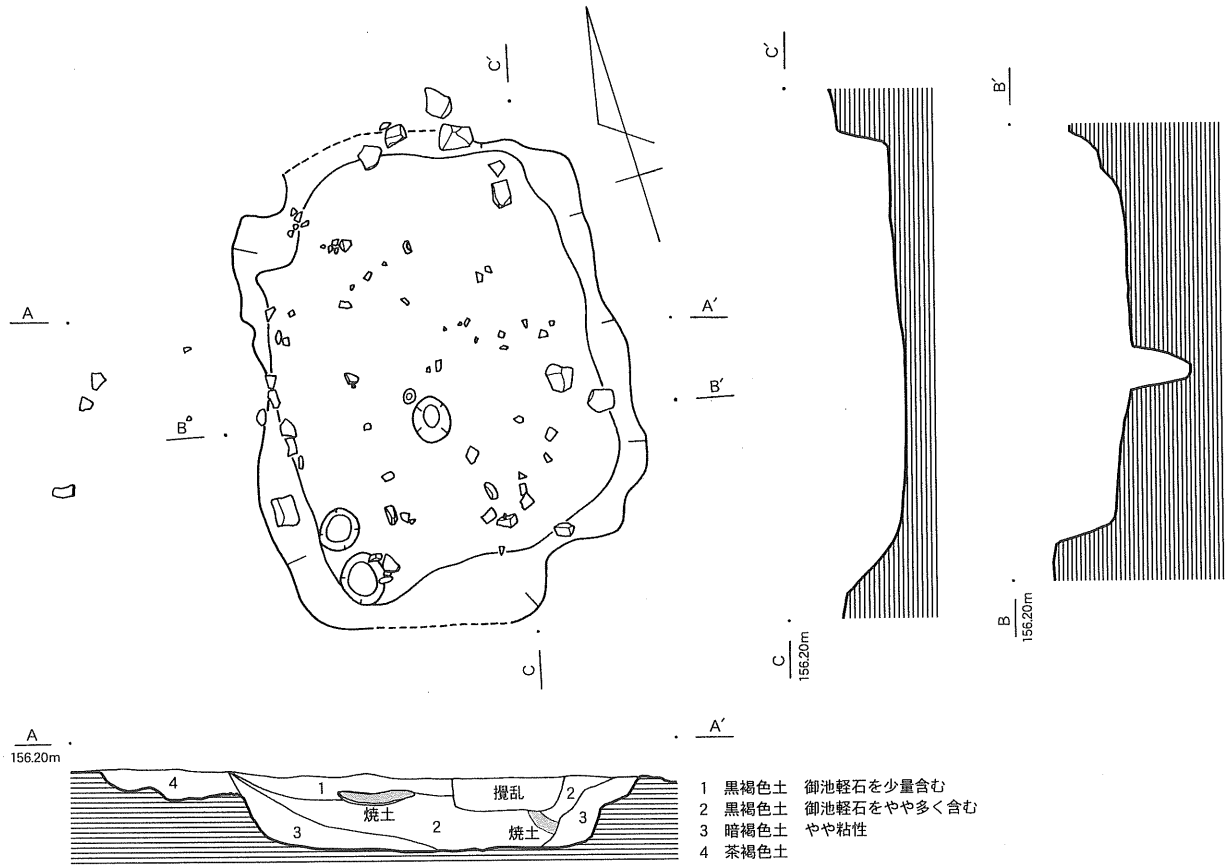
第14図　3～5号土坑出土土器拓影図（1/3）



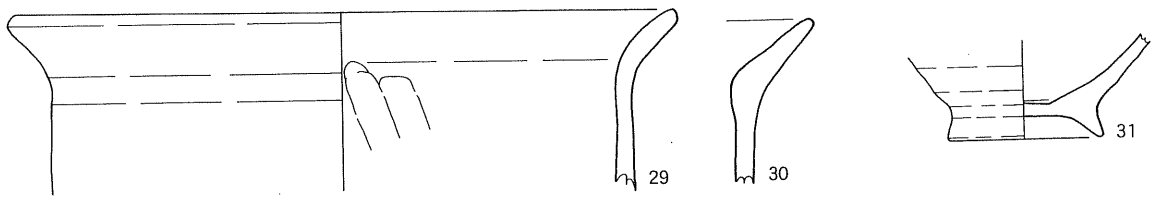
第15図　6号土坑出土土器実測図（1/3）



第16図　3号土坑出土石器実測図（2/3）



第17図　5号竪穴住居跡実測図（1/40）

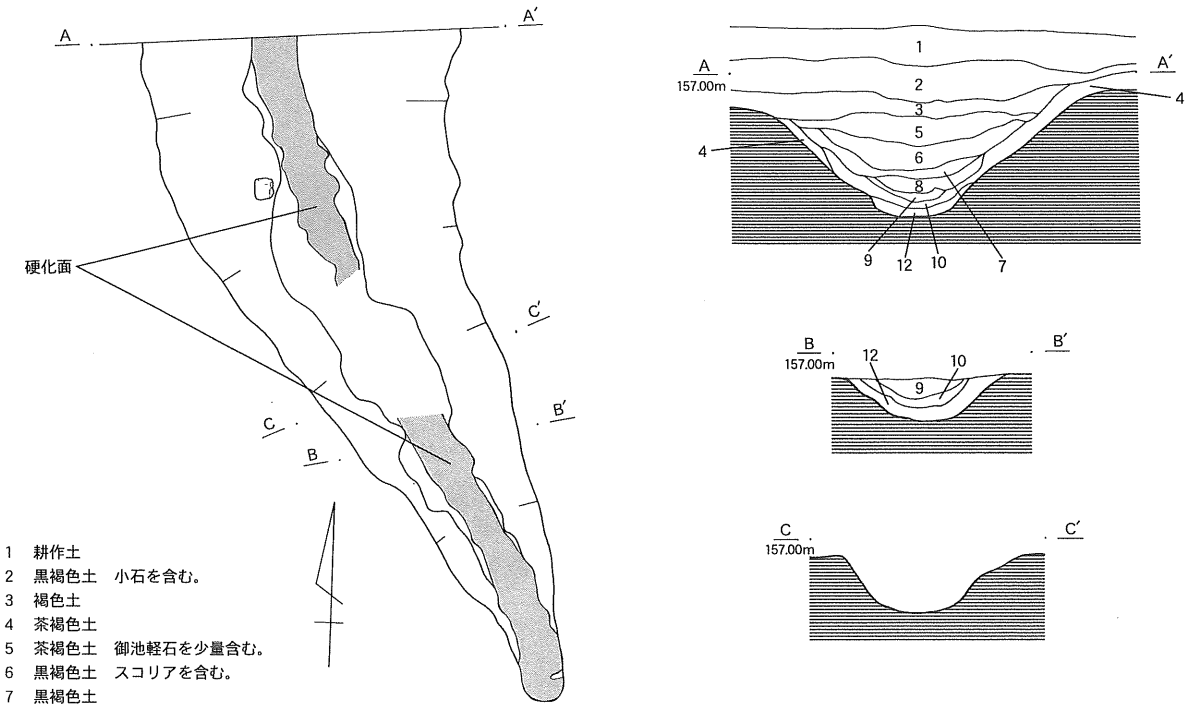


第18図　5号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

近世の遺構

1号道路状遺構

調査区の北西隅に位置し、南東側から北西方向に長さ約2.5mにわたり検出された。北側は調査区外である。南東側が高く北西に向けて約1mの傾斜をもつ。溝幅は約2.6mから約0.35mを測り、底面中央部に幅約30cmの硬化面が確認された。台地上から台地北側の谷へと下る道路としての役割が考えられる。



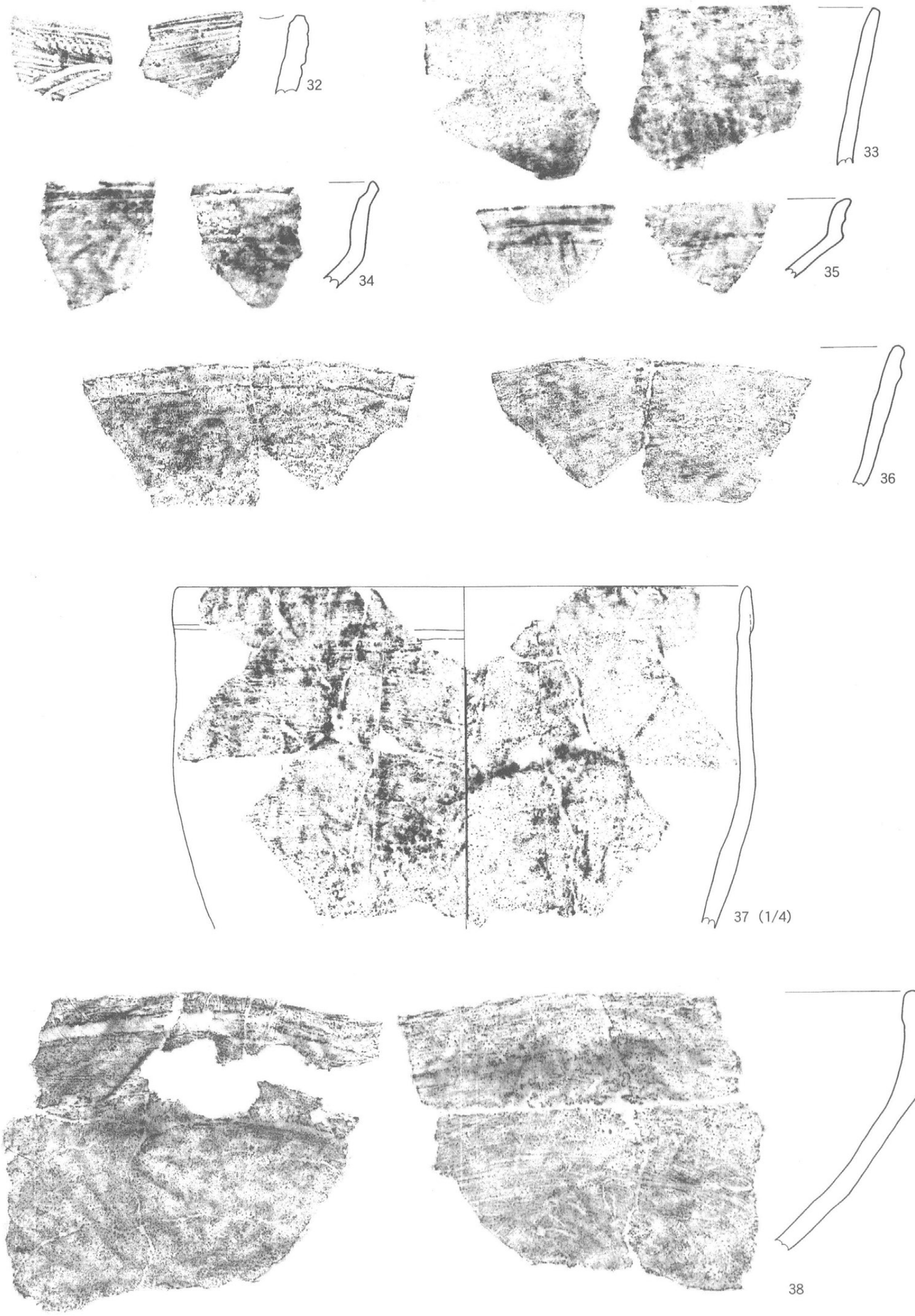
1　耕作土
2　黒褐色土　小石を含む。
3　褐色土
4　茶褐色土
5　茶褐色土　御池軽石を少量含む。
6　黒褐色土　スコリアを含む。
7　黒褐色土
8　黒褐色土　6層と色調はほぼ同じ。御池軽石を少量含む。
9　黒褐色土　しまり悪い。御池軽石、小石を含む。
10　新燃享保軽石
11　茶褐色土
12　黒褐色土　粘性。御池軽石を少量含む。

第19図　1号道路状遺構実測図（1/60）

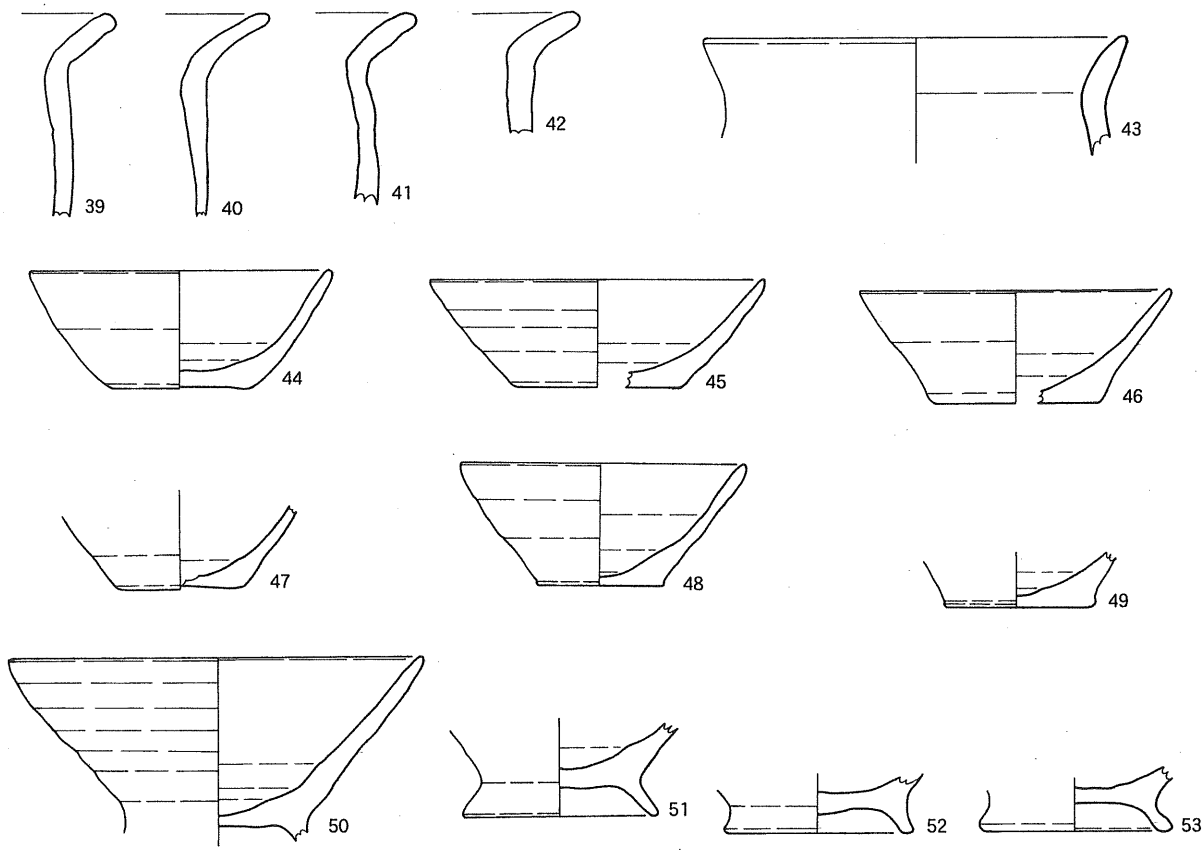
表20　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表1

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
1	1号住居	縄文土器	深鉢		4		ミガキ。	ミガキ。	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の白色粒ごく微量。	
2	1号住居	縄文土器	浅鉢		4		ミガキ。	ナデ。	にぶい褐	にぶい褐	1mm程度の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	
3	1号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。	ナデ。	にぶい褐	褐	1mm程度の黒色・白色粒ごく少量。雲母少量。	
4	2号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ナデ。	にぶい褐	褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
5	2号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ナデ。	明褐	黒褐	1mm以下の石英粒ごく少量。1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
6	1号住居	石器	石錐	2.6	1.8	0.9						4g・チャート
7	1号住居	石器	打製石斧	1.13	8.0	1.35						43g・フォルンフェルス
8	2号住居	石器	切目石錘	3.9	3.55	1.6						33g・砂岩
9	3号住居	縄文土器	深鉢	(30)			一部ミガキ。ナデ。スス付着。	ナデ。	明黄褐	にぶい橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。雲母微量。	
10	3号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ミガキ。ナデ。	黒褐	褐灰	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
11	3号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ミガキ。ナデ。	黒褐	褐灰	1mm以下の黒色・白色粒ごく微量。	
12	3号住居	石器	石鏃	1.5	1.1	0.35						0.6g・チャート
13	3号住居	石器	石鏃	(1.55)	1.35	0.45						0.7g・チャート
14	3号住居	石器	石鏃	2.9	2.55	0.55						2.2g・チャート
15	4号住居	縄文土器	深鉢	(20)			ミガキ。スス付着。	ミガキ。ナデ。	黒褐	褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
16	4号住居	縄文土器	深鉢		6		ナデ。	ナデ。	黒褐	褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
17	1号土坑	縄文土器	深鉢	31.8	6	34.9	ミガキ。スス付着。	ミガキ。スス付着。	にぶい橙	橙	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量	
18	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	



第20図　包含層出土土器拓影図（1/3）

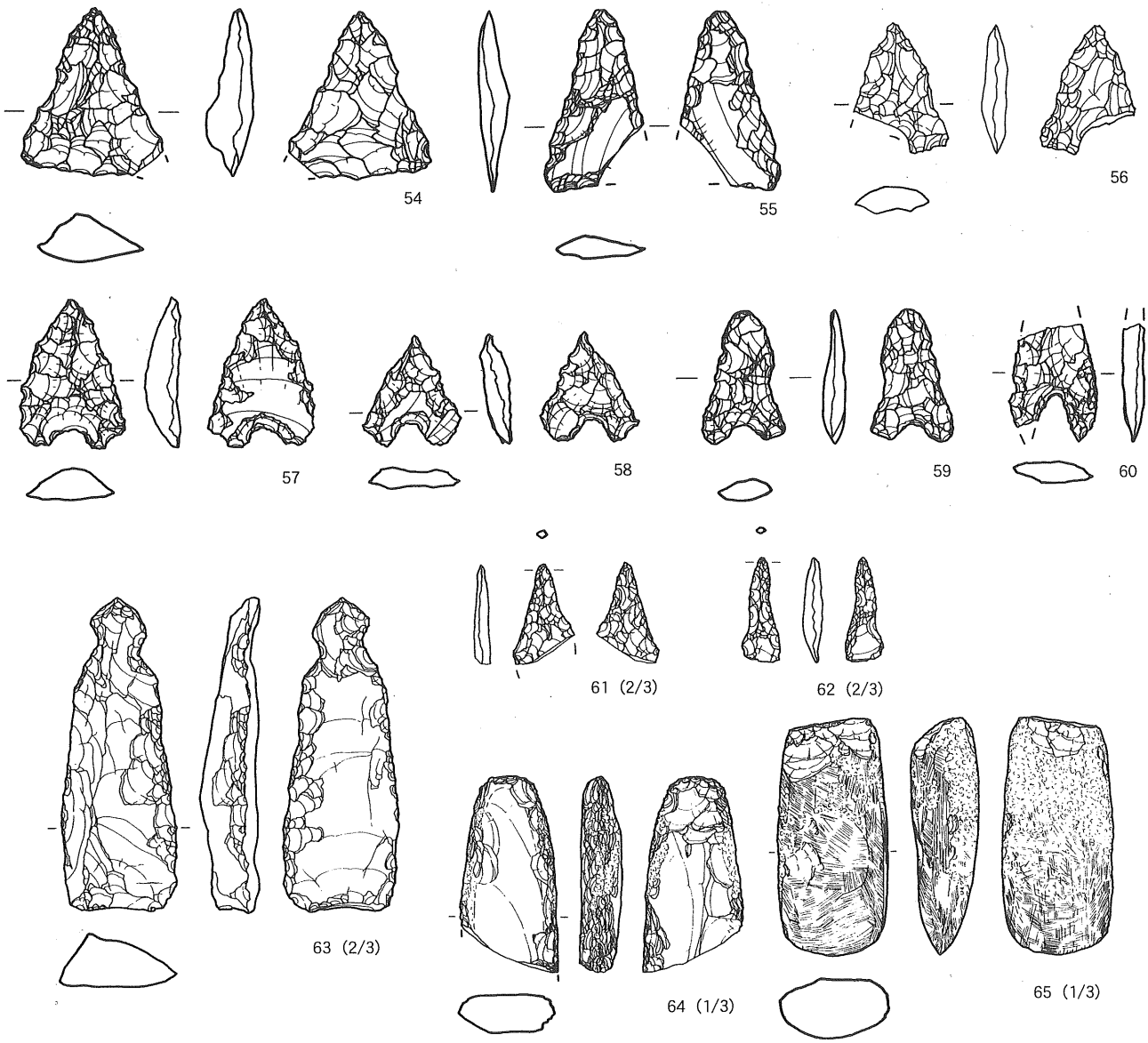


第21図　包含層出土土器実測図（1/3）

表21　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表2

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
19	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ナデ。	褐灰	褐灰	1㎜程度の石英粒微量。1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
20	3号土坑	縄文土器	深鉢		9.3		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
21	4号土坑	縄文土器	深鉢	(17)			ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色・白色粒微量。雲母微量。	
22	4号土坑	縄文土器	深鉢	(30.5)			ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	褐灰	1㎜程度の石英粒少量。1㎜程度の黒色粒少量。	
23	4号土坑	縄文土器	深鉢		9.5		ナデ。スス付着。	ナデ。スス付着。	にぶい黄橙	褐灰	1㎜以下の石英粒微量。1㎜以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
24	4号土坑	縄文土器	深鉢	(23)			ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	灰黄褐	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量	
25	4号土坑	縄文土器	深鉢	(23)			ナデ。スス付着。	ナデ。。	にぶい黄橙	褐灰	1㎜以下の白色・黒色・茶褐色粒少量。雲母ごく少量。	
26	5号土坑	土師器	坏	13	5		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1～2㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
27	5号土坑	土師器	甕	12.9			ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	黒色・茶褐色粒子ごく少量。1～2㎜の茶褐色粒微量。	
28	1号土坑	石器	スクレイパー	7.3	4.5	1.3						37g・頁岩？
29	5号住居	土師器	甕	(26)			ナデ。	ナデ。ケズリ。	橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
30	5号住居	土師器	甕				ナデ。	ナデ。ケズリ。	橙	橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
31	5号住居	土師器	高台付坏		(6)		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
32	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい褐	明赤褐	1㎜以下の黒色・白色粒ごく少量。	
33	包含層	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ナデ。	にぶい橙	明黄褐	1㎜以下の黒色・白色粒ごく少量。	
34	包含層	縄文土器	浅鉢				沈線。ナデ。	ナデ。一部ミガキ。	褐灰	黒褐	1㎜以下の白色粒少量。	



第22図　包含層出土石器実測図（1/1）

表22　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表3

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器) 口径 / 最大長	底径 / 最大幅	器高 / 最大厚	手法・文様 外器面	手法・文様 内器面	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
35	包含層	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。	にぶい褐	にぶい黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
36	土器集中区	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒ごく少量。	
37	土器集中区	縄文土器	深鉢	(30)			突帯。ナデ。スス付着。	ナデ。	灰黄褐	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
38	包含層	縄文土器	浅鉢				沈線。ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の石英粒少量。1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
39	包含層	土師器	甕				ヨコナデ。スス付着。	ヨコナデ。ケズリ。	にぶい黄橙	灰/白	1mm以下の黒色・茶褐色粒少量。	
40	包含層	土師器	甕				ヨコナデ。格子目タタキ。	ヨコナデ。ケズリ。	橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白・茶褐色粒少量。	
41	包含層	土師器	甕				ヨコナデ。ハケ目。	ハケ目。ケズリ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白・茶褐色粒ごく少量。	
42	包含層	土師器	甕				ヨコナデ。	ヨコナデ。ケズリ。	浅黄橙	浅黄橙	1～2mmの黒色・白・茶褐色粒少量。	
43	包含層	土師器	甕	(16.5)			ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。	

表23　山城第1遺跡第2次調査出土遺物観察表4

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
44	包含層	土師器	坏	(12)	5.3	4.6	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。	
45	包含層	土師器	坏	(13.1)	(6.3)	4.4	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
46	包含層	土師器	坏	(12.4)	(6.8)	4.4	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。	
47	包含層	土師器	坏		5.2		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
48	包含層	土師器	坏	(11)	(5)	4.7	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	にぶい橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒少量。	
49	包含層	土師器	坏		5.6		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
50	包含層	土師器	坏	(16)		7	回転ナデ。ナデ。スス付着。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
51	包含層	土師器	高台付坏		7.3		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
52	包含層	土師器	高台付坏		7.2		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色粒少量。	
53	包含層	土師器	高台付坏		7.2		回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
54	包含層	石器	石鏃	2.5	2.1	0.7						2.4g・チャート
55	包含層	石器	石鏃	2.7	(1.5)	0.4						1.2g・チャート
56	包含層	石器	石鏃	1.9	(1.4)	0.35						2g・チャート
57	包含層	石器	石鏃	2.2	1.55	0.55						1.5g・チャート
58	包含層	石器	石鏃	1.65	1.45	0.45						0.6g・チャート
59	包含層	石器	石鏃	2.0	1.2	0.35						0.6g・チャート
60	包含層	石器	石鏃	(2.75)	1.35	0.35						0.7g・チャート
61	包含層	石器	石錐	(2.2)	(1.4)	0.3						3g・チャート
62	包含層	石器	石錐	2.3	1.8	0.4						0.3g・チャート
63	包含層	石器	石匙	6.9	2.6	1.35						17g・チャート
64	包含層	石器	打製石斧	(8.7)	4.6	1.65						104g・砂岩
65	包含層	石器	磨製石斧	(10.4)	4.9	3.0						246g・砂岩

まとめ

山城第1遺跡第2次調査においては縄文時代の竪穴住居跡4軒、土坑2基、集石遺構2基、古墳時代の土坑1基、古代の竪穴住居跡1軒、近世の道路状遺構1本、時期不明のピット多数が検出された。遺物は縄文時代後期、晩期の土器を中心に、古代の土師器も多数出土している。

縄文時代の竪穴住居跡は計4軒の出土をみた。3号竪穴住居は直径約7mを測り、今回の調査において最も大型の住居である。いずれの住居址も平面形態は円形を呈し、掘り込みはやや浅く、多量のピットが伴ってはいたが主柱穴の確定には至らなかった。また住居址からはいずれも黒色磨研土器が出土している。土坑は5基が検出され、1号土坑については黒色磨研土器の埋甕が伴っていた。同様の埋甕は上原第3遺跡A区6号土坑からも出土している。3から5号土坑出土の浅鉢・深鉢については晩期土器と考えられる。また4号土坑については埋土中位より灰の塊が検出されている。

古墳時代の土坑については1基が検出され土師器坏、小形甕などが出土しているが、用途等は不明である。

古代の遺構としては5号竪穴住居跡が上げられる。平面形態は隅丸方形を呈しピットは3本が検出されている。出土土師器については9世紀後半から10世紀前半に位置付けられると考えられる。

近世の遺構としては道路状遺構1本が検出されている。この道路状遺構は南北に延び台地上から台地北側の谷へと下る道路としての役割が考えられた。また埋土中より享保2年(1717)噴火とされている霧島新燃岳享保軽石が検出されている。

時期の特定のできなかった遺構としては多量のピットが検出されているが建物等の構成はならなかった。

包含層出土の縄文土器は市来式、丸尾式土器、黒色磨研土器、精製・粗製浅鉢、突帯文土器など縄文時代後期中葉から晩期にかけての出土を見た。石器については石鏃を中心に石斧、石匙などが出土している。また古代の土師器もやや多く出土している。坏底部の切り離しはいずれもヘラ切りである。

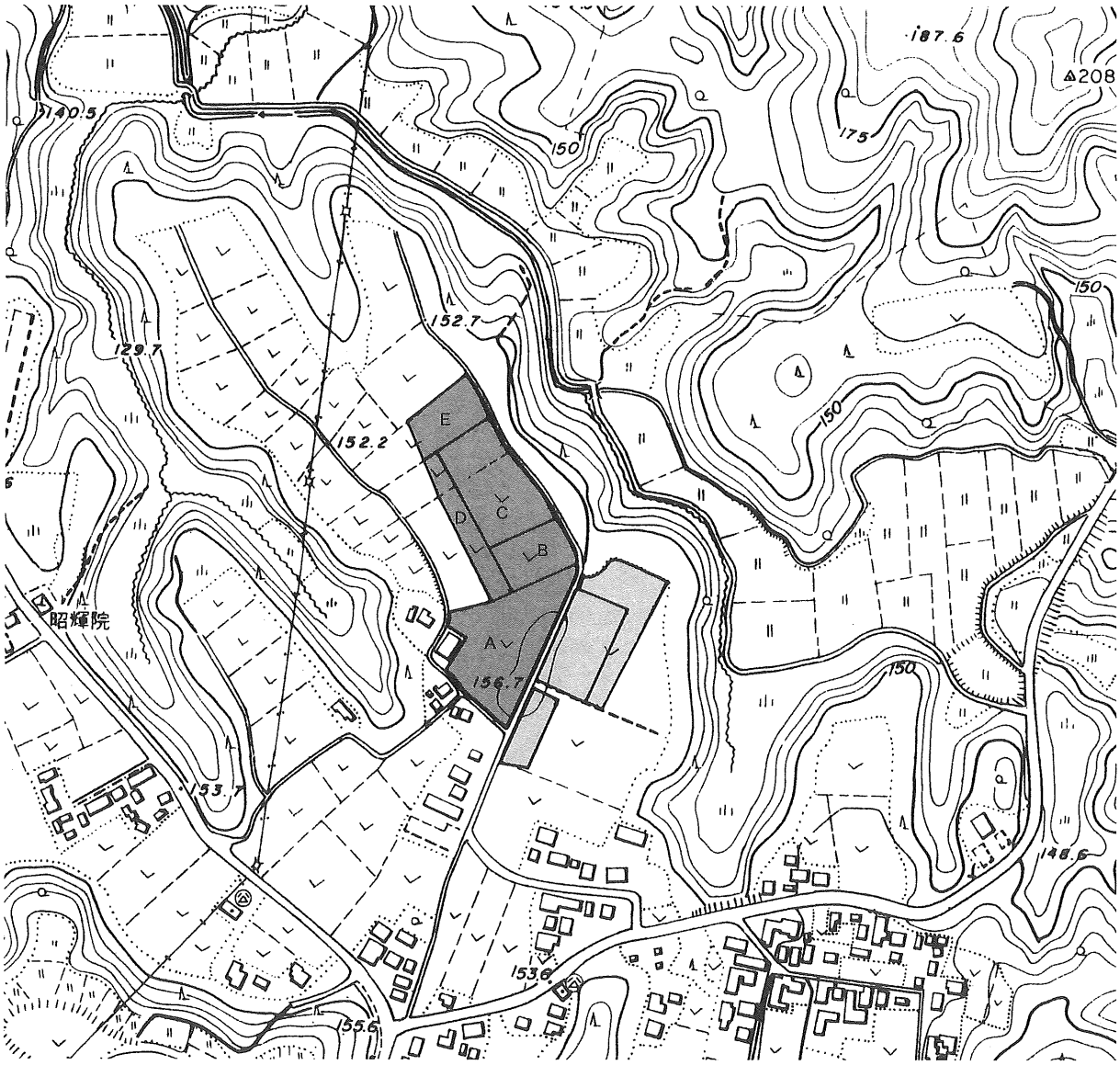
山城第1遺跡
（第3次調査）

発掘調査に至る経緯

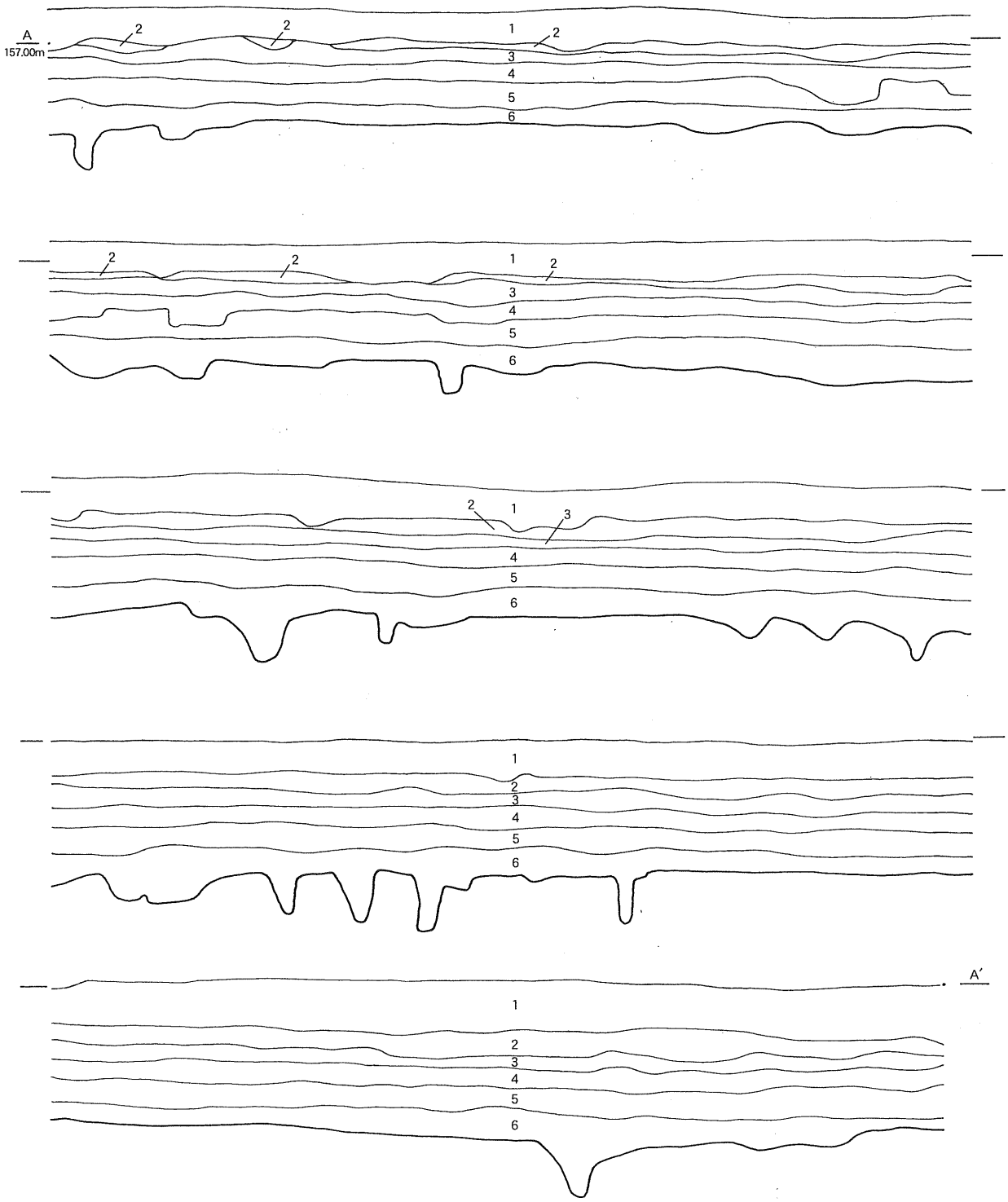
本調査は平成4年度より平成15年度にかけて、高城町大字有水において実施された、宮崎県北諸県農林振興局による細井地区県営農業基盤整備事業・平成12年度事業実施予定地における埋蔵文化財発掘調査である。細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町農村整備課、宮崎県教育庁文化課、高城町教育委員会社会教育課による協議の結果、平成12年8月1日より平成13年2月23日にかけて発掘調査が実施された。調査対象面積は総計約14,000㎡であり、調査の進行に従いAからE区の5区を設定ている。

立地と環境

本調査区は上原遺跡群の所在する台地と谷を挟み北側、山城第1遺跡の所在する台地のほぼ中央に位置する。平成7年度に調査を実施した第1次調査、平成12年度に調査を実施した第2次調査区と道を挟んだ西側にあたる。東からA区、B区、C区、E区と並び、B、C区の南側にD区が位置する。



第1図　山城第1遺跡第3次調査調査区位置図（1/5,000）



第２図　B区土層断面図（1/50）

層序

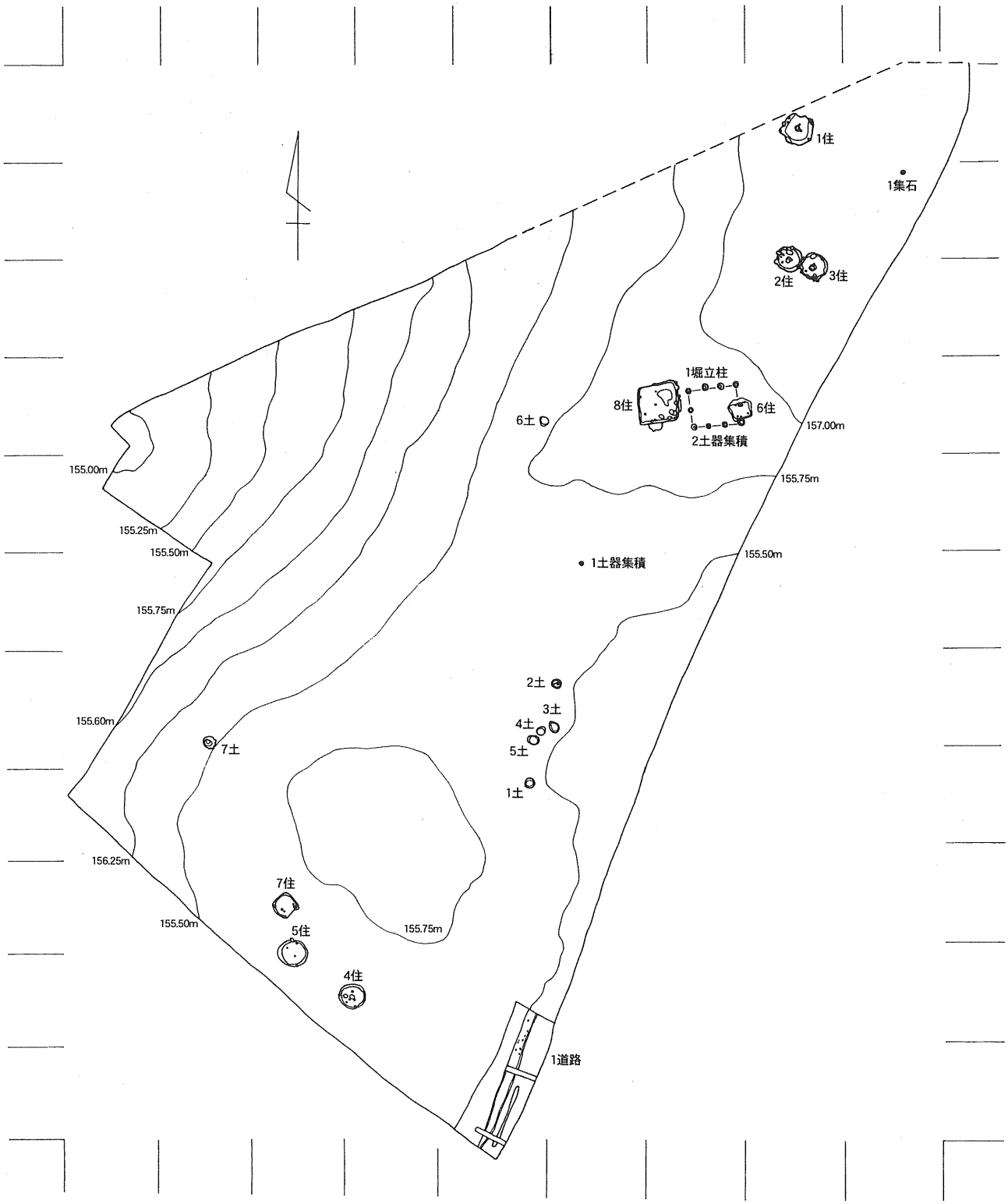
本遺跡の基本土層は、山城第1遺跡第3次調査B区において確認した土層堆積にて代表させる。

1　耕作土
2　黒色土
3　高原スコリア
4　黒褐色土
5　褐色土
6　暗褐色土
7　御池軽石

A区の調査

層序

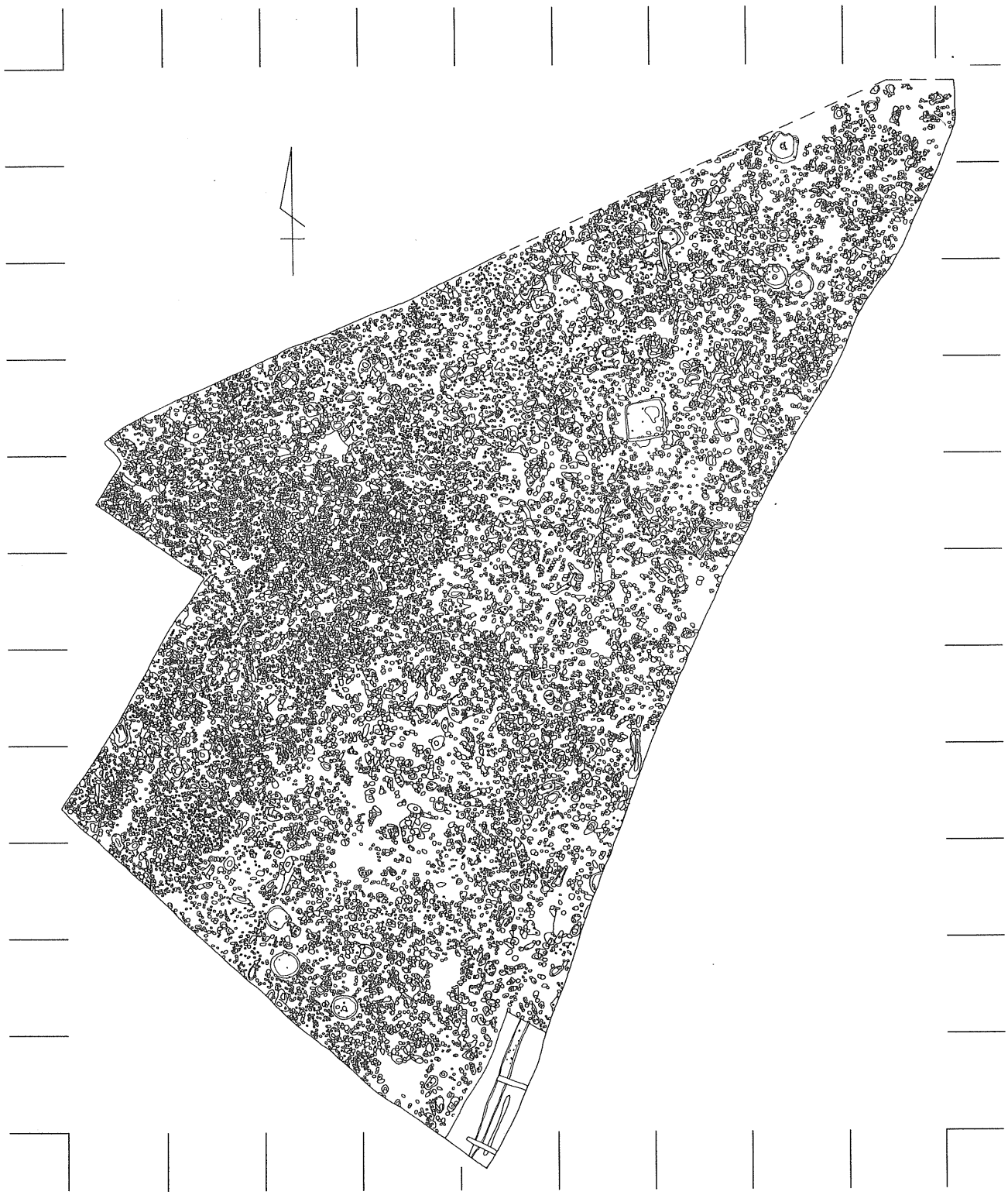
調査区の標高は約155.00m～157.00mで、北東側が高く、西に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・黒色土、3層・高原スコリア、4層・黒褐色土、5層・褐色土、6層・暗褐色土、7層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。



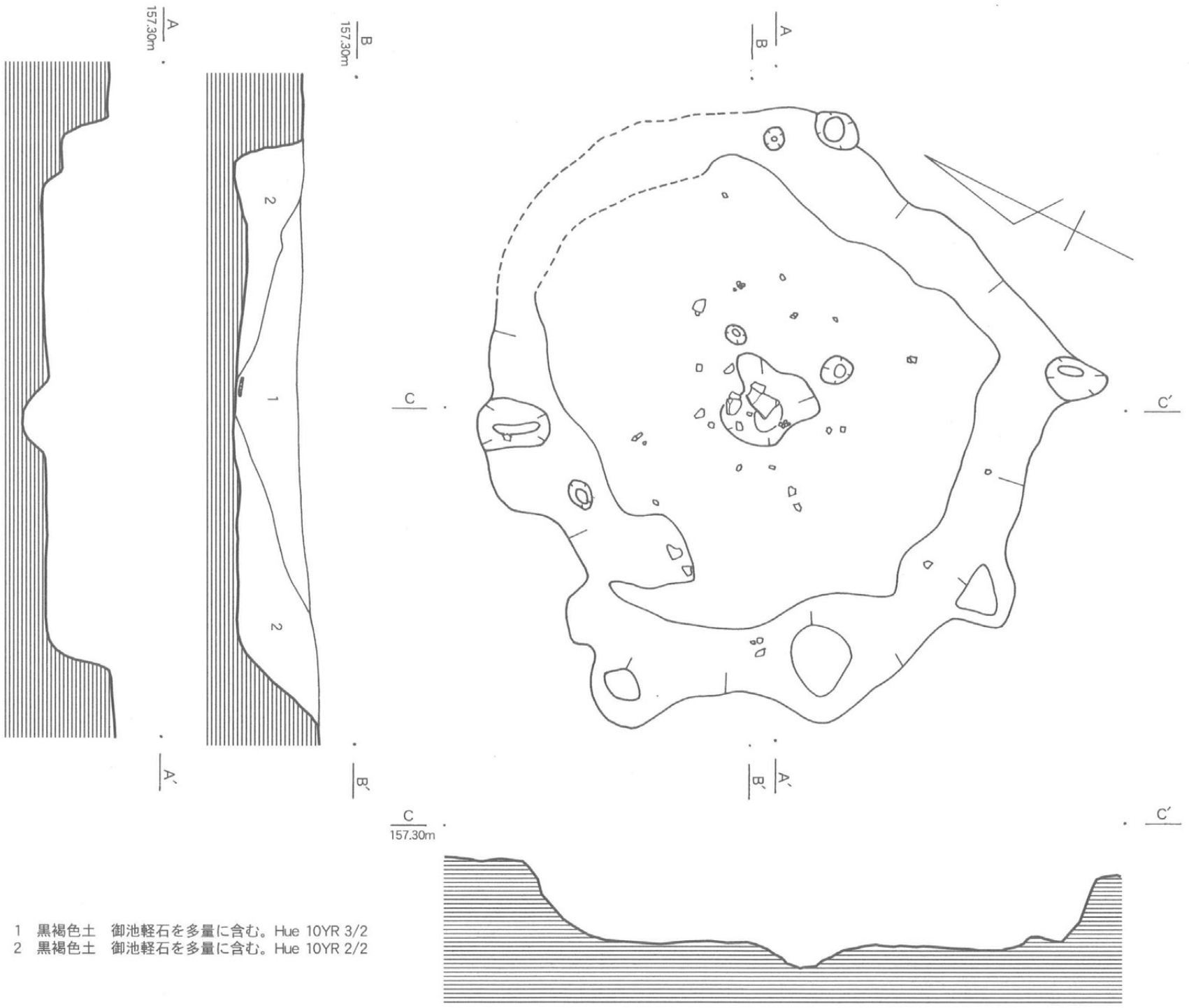
第３図　A区地形図（1/600）

遺構と遺物

A区の調査においては縄文時代の竪穴住居跡７軒、土坑７基、集石遺構１基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、古代の堀立柱建物跡柱跡1軒、土器集積２基、近世の道路状遺構１本のほか、時期不明のピット多数が出土した。



第４図　A区遺構分布図（1/600）



第５図　A区１号竪穴住居跡実測図（1/40）

第６図　A区１号竪穴住居跡
出土土器拓影図（1/3）

縄文時代の遺構と遺物

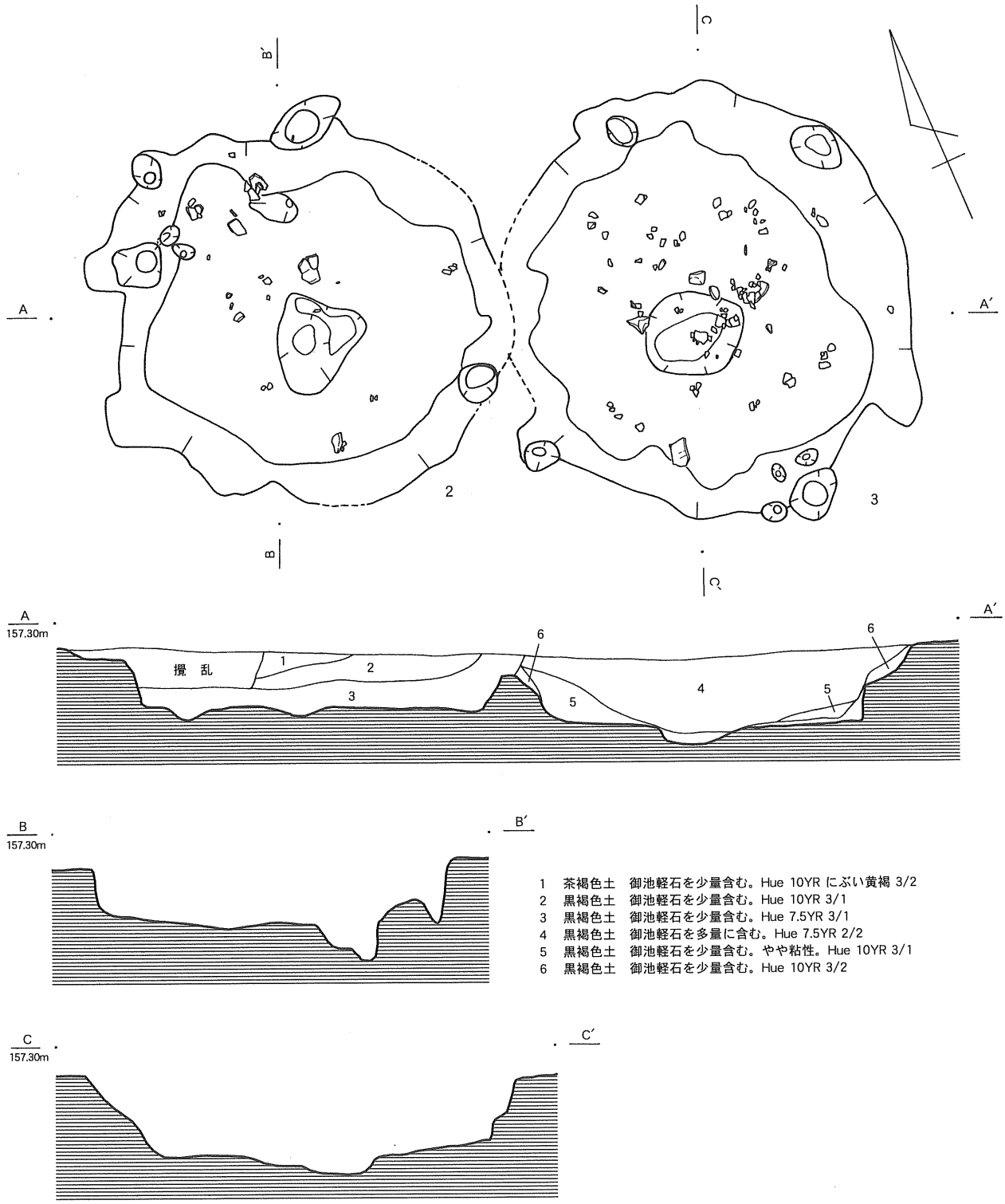
1号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。平面形態は円形と考えられ、直径約3.2m、検出面からの深さ約.04mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に不定形の掘り込みを持つ。ピットは計7本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

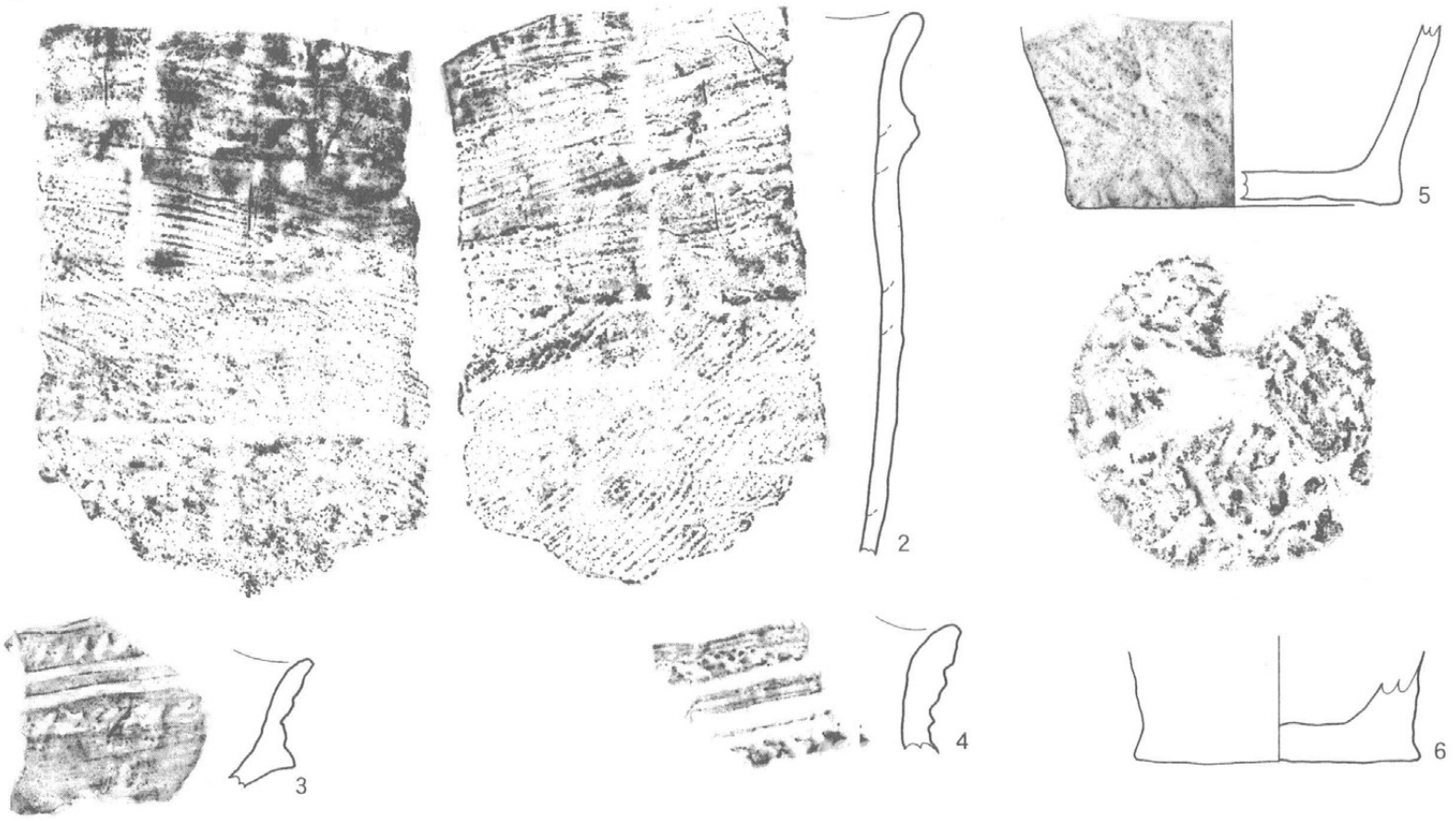
1は黒色磨研土器の深鉢口縁部でやや外反し、口唇部は平坦に仕上げる。

2号竪穴住居跡

調査区の北東側において検出された。東側は3号竪穴住居跡を切っている。平面形態は円形と考えられ、直径約2.5m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に平面形態が楕円形を呈し、長軸70cm、短軸60cm、床面からの深さ約20cmを測る土坑をもつ。ピットは計7本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。



第７図　A区２・３号竪穴住居跡実測図（1/40）



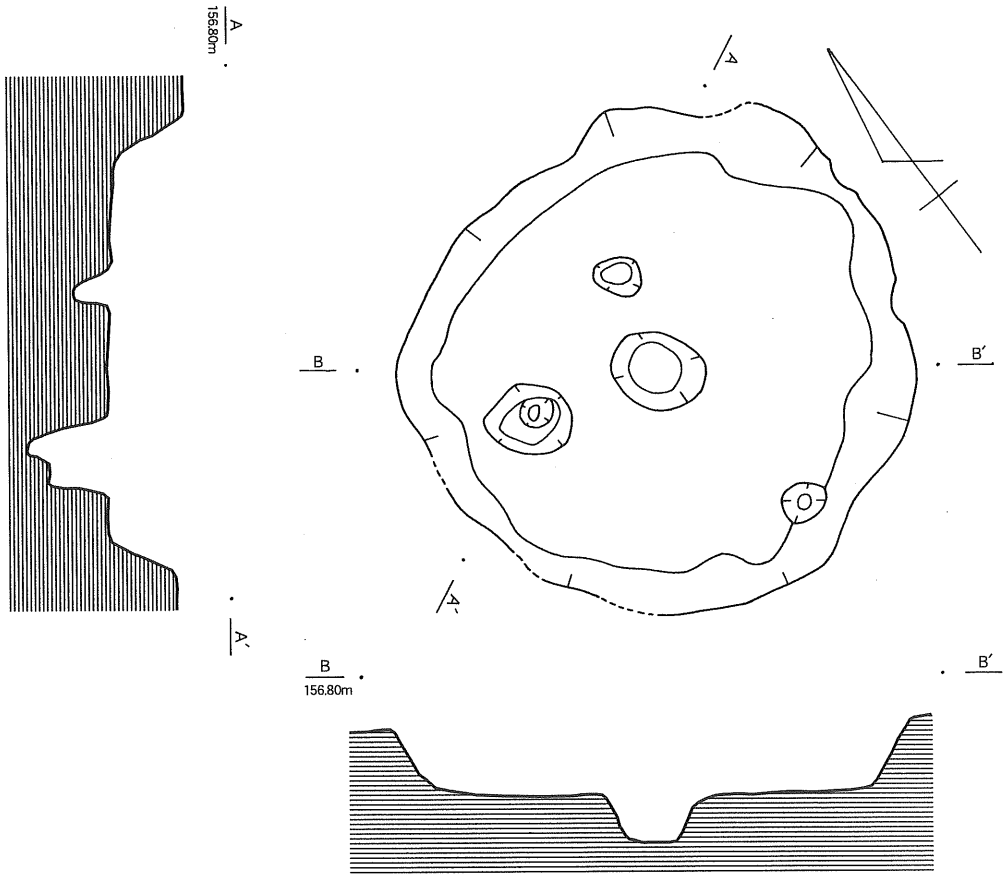
第８図　A区３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

第９図　A区４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/4）

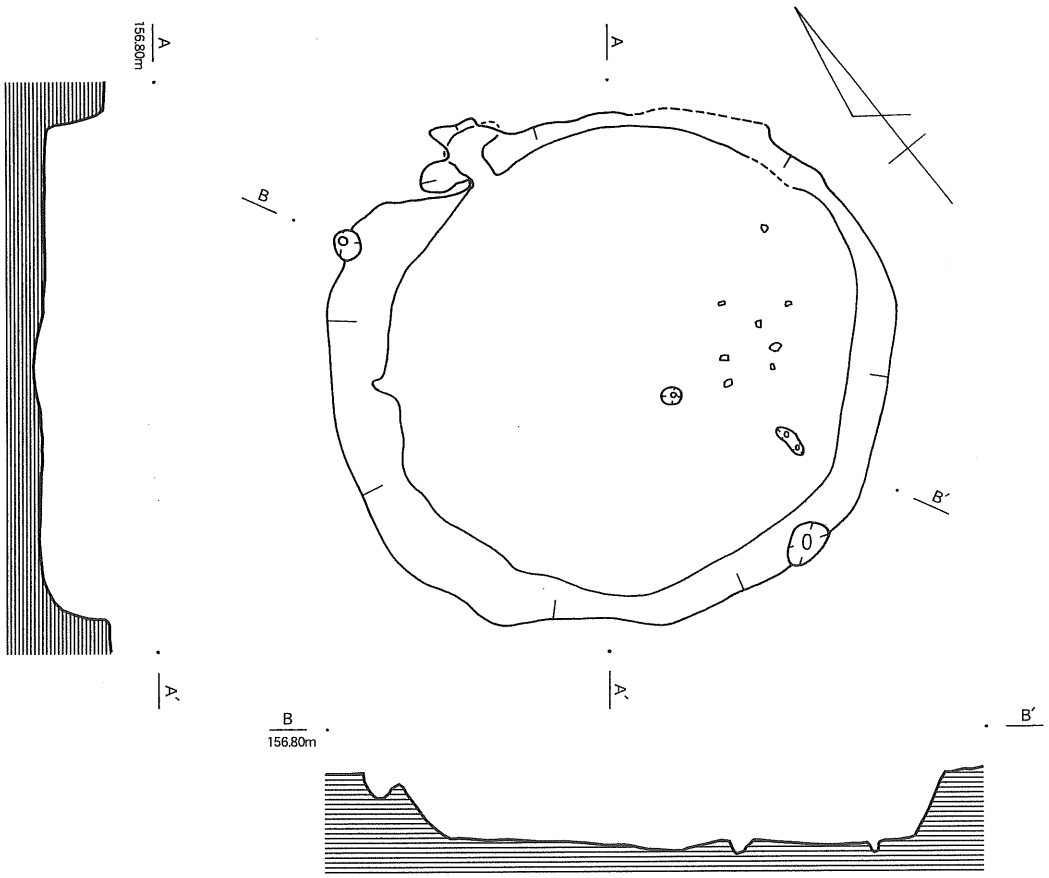
3号竪穴住居跡

調査区の北東側において検出された。西側を2号竪穴住居跡に切られている。平面形態は円形と考えられ、直径約2.8m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に平面形態が円形を呈し、長軸60cm、短軸50cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑をもつ。ピットは計7本が確認されている。その内、壁際に廻る4本が主柱穴と考えられる。縄文土器が出土している。5の底部は床面直上よりの出土、他は埋土中よりの出土である。

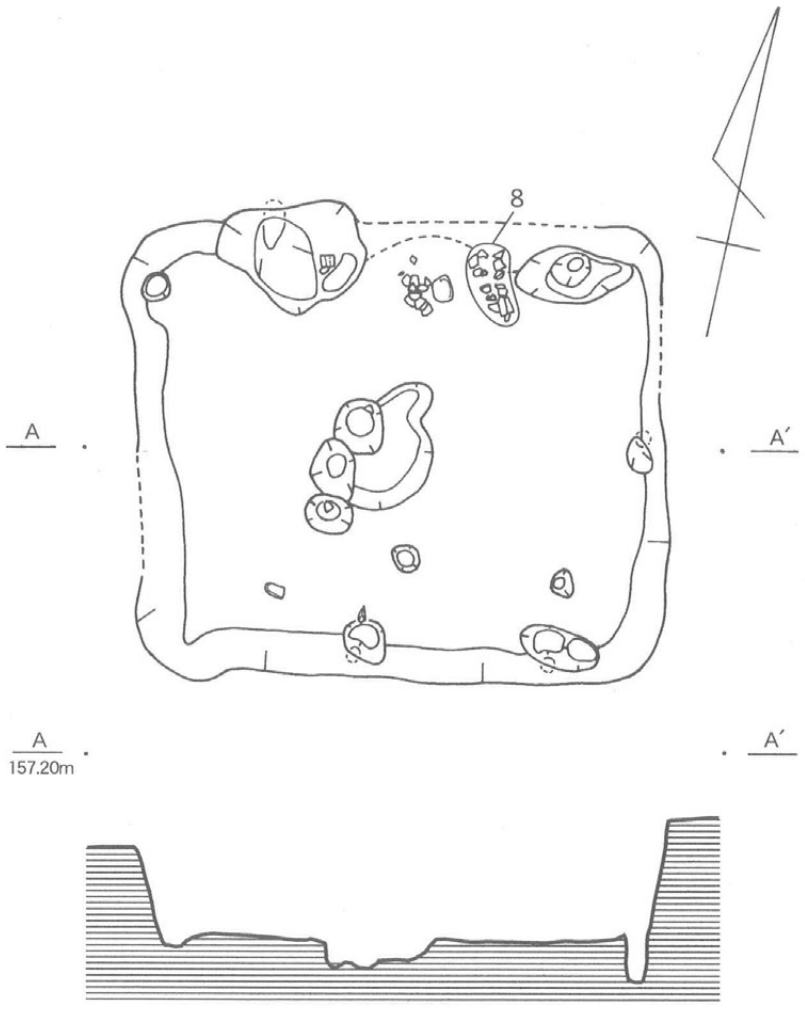
2から6は深鉢である。2から4は口縁部を肥厚させ文様帯とする。3は文様帯が大きく張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。2は貝殻条痕、3は中央に端部を刺突で止めた沈線文を中央に施し、上下に貝殻腹縁刺突文を施す。4は中央の沈線文の上下にヘラ状工具による連続刺突文を施す。5、6は底部で共に網代痕を有する。



第10図　A区４号竪穴住居跡実測図（1/40）



第11図　A区５号竪穴住居跡実測図（1/40）



第12図　A区６号竪穴住居跡実測図（1/40）

第13図　A区６号竪穴住居跡出土土器
拓影図（1/3）

4号竪穴住居跡

調査区の南西側において検出された。5号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は円形で、直径約2.7m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ほぼ中央に円形を呈し長径0.6m、短径0.5m、床面からの深さ約0.3mを測る土坑をもつ。計3本のピットが確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

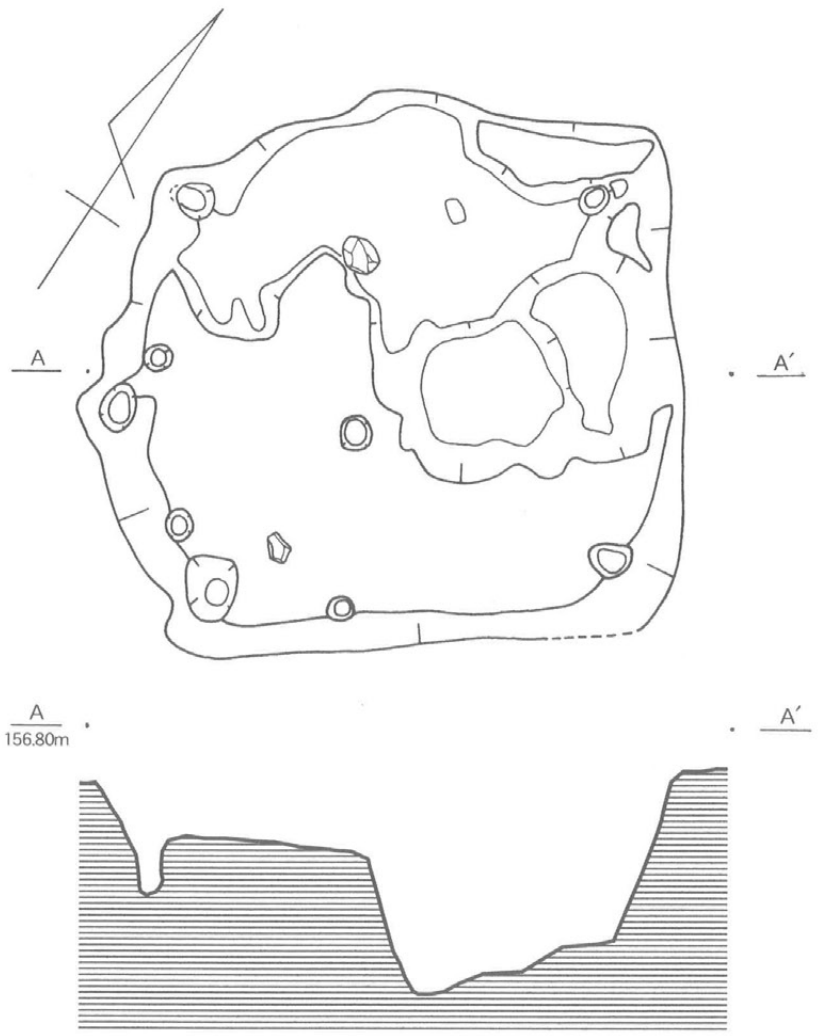
7は黒色磨研土器の深鉢で頸部と胴部の境にやや丸味を帯びた屈曲をもち、口縁部は開きながら立ち上がる。内面においては屈曲が強く、頸部から口縁部かけてきわめて直線的に立ち上がる。

5号竪穴住居跡

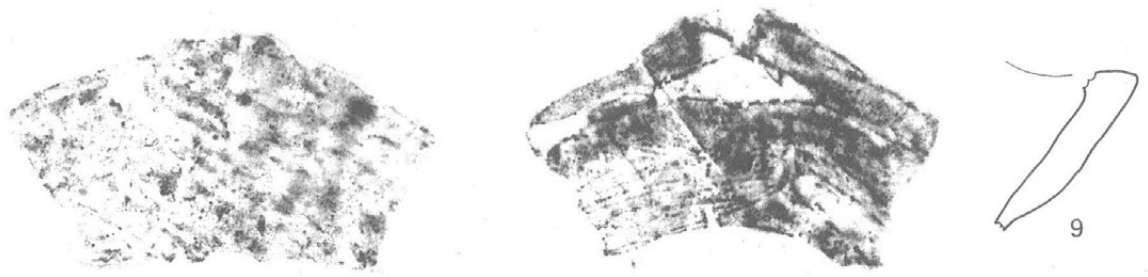
調査区の南西側において検出された。7号竪穴住居跡と4号竪穴住居跡の間に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約3.0m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦である。ピットは計2本が確認されている。

6号竪穴住居跡

調査区の北東側において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸2.2m、短軸1.9m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦でピットは11本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。１号掘立柱建物跡の北側柱穴と重複している。



第14図　A区７号竪穴住居跡実測図（1/40）



第15図　A区７号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

8は住居北側中央東寄りからの一括出土である。小型の深鉢で胴部に膨らみをもち、頸部の屈曲より口縁部は短く外反する。屈曲部に貝殻腹縁刺突文を施す。8の西側に位置する土器集中は1号掘立柱建物跡の柱穴に伴うものと考えられる。

7号竪穴住居跡

調査区の南西側において検出された。平面形態は隅丸方形で、長軸2.3m、短軸2.1m、検出面からの深さ約0.2mを測る。南側の床面は御池軽石層上に構築されているが、北側は大きく掘り込まれている。ピットは9本が確認されている。9は浅鉢口縁部と考えられる。

1号土坑

調査区のほぼ中央南東側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.45mを測る。埋土中より縄文土器が出土したほか、底面には石3個が設置されていた。

10は深鉢で口縁部は外反し、口縁端部に一条の突帯を施す。

2号土坑

調査区のほぼ中央南東側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約1.4m、短径約1.1m、検出面からの深さ約0.7mを測る。二段の掘り込みをもつ。埋土中より縄文土器が出土している。

11は深鉢口縁部で外反する。12は浅鉢口縁部で内湾する。18は平面形態が正三角形を呈する石鏃で、石材はチャートである。

3号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。4号土坑の北側に位置し、3、4、5号土坑と北から南へ一列に並ぶ。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.6mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

13は組織痕土器である。編布圧痕を有し、浅鉢底部と考えられる。

4号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。3、5号土坑の間に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.35mを測る。土坑上部より石皿が出土したほか、埋土中より縄文土器の小片が出土している。

19は石皿である。石材は砂岩で、被熱し赤化している。

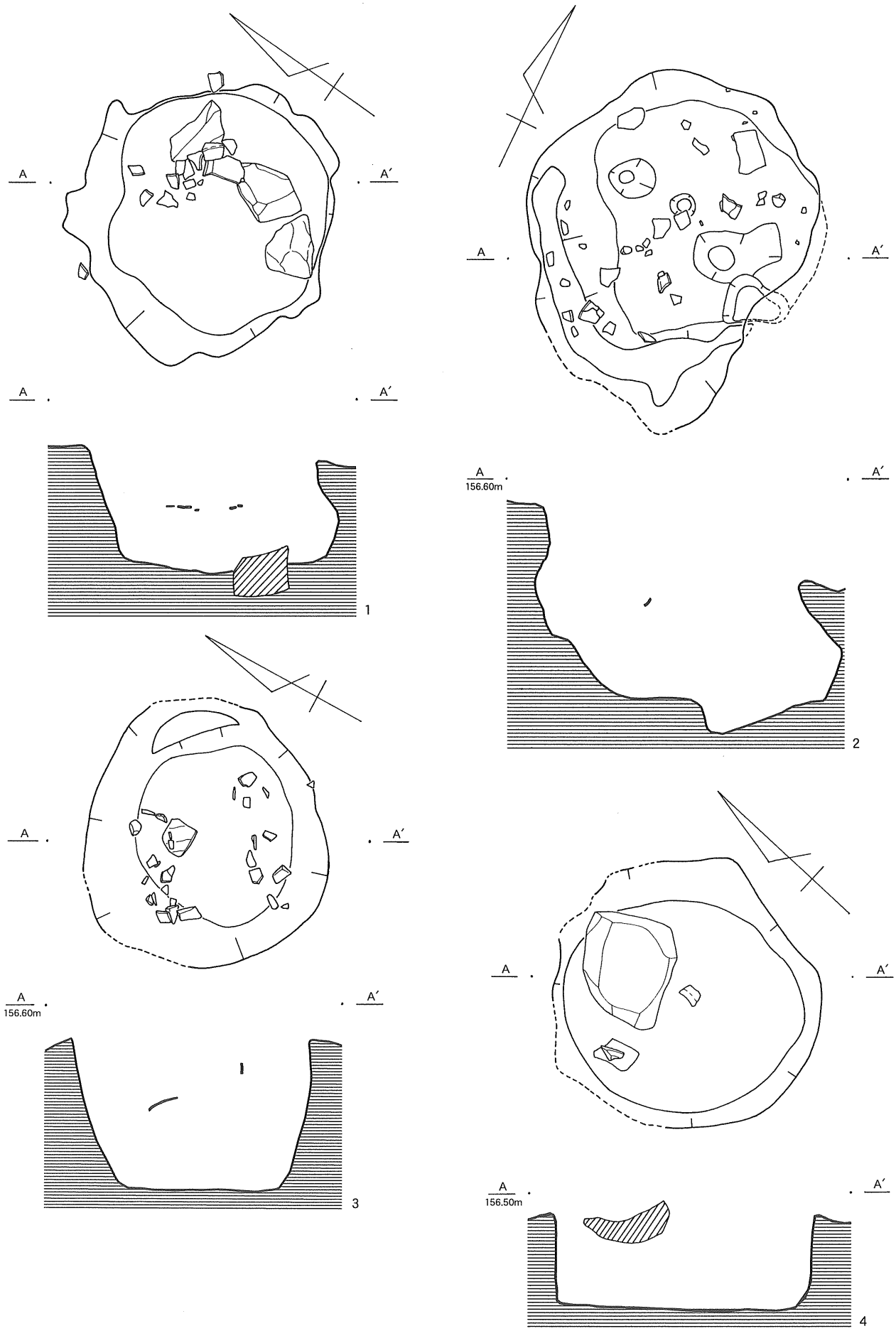
5号土坑

調査区のほぼ中央において検出された。4号土坑の南側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、長径約1.0m、短径約0.8m、検出面からの深さ約0.5mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

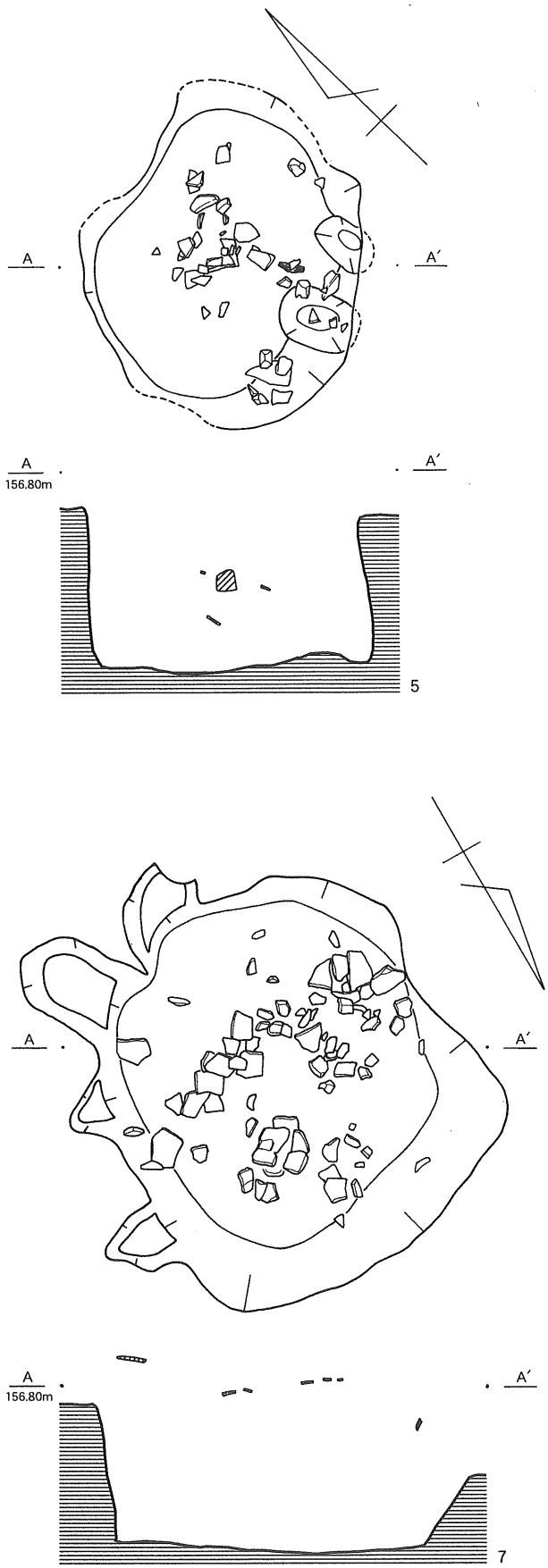
14は深鉢口縁部で一条の突帯を施す。15は浅鉢で口縁部は短く外反し玉縁状を呈し内外面に沈線文を施す。

6号土坑

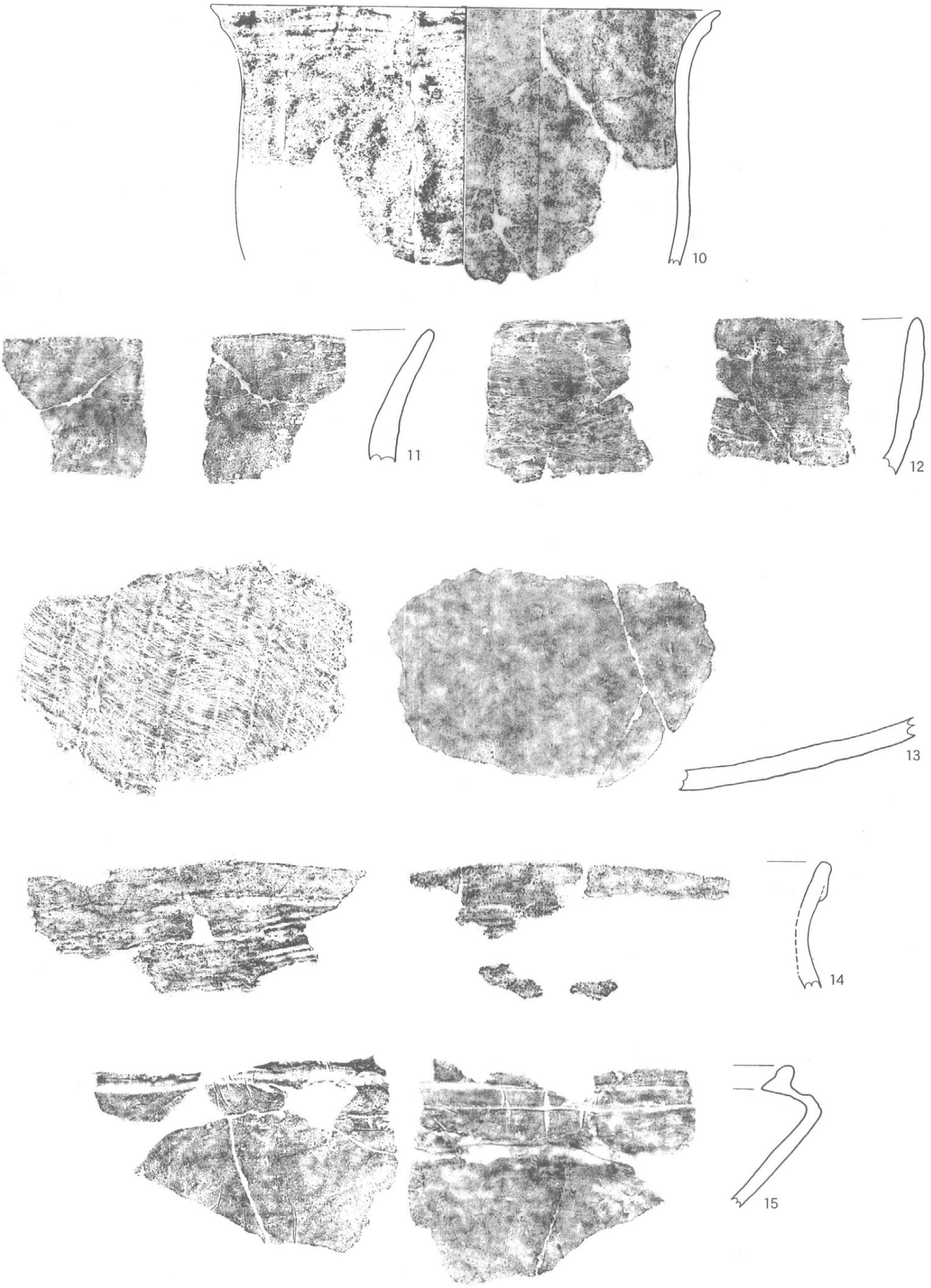
調査区のほぼ中央北側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.7mを測る。土坑上部より石皿が出土したほか、埋土中より黒色磨研土器の深鉢が出土している。



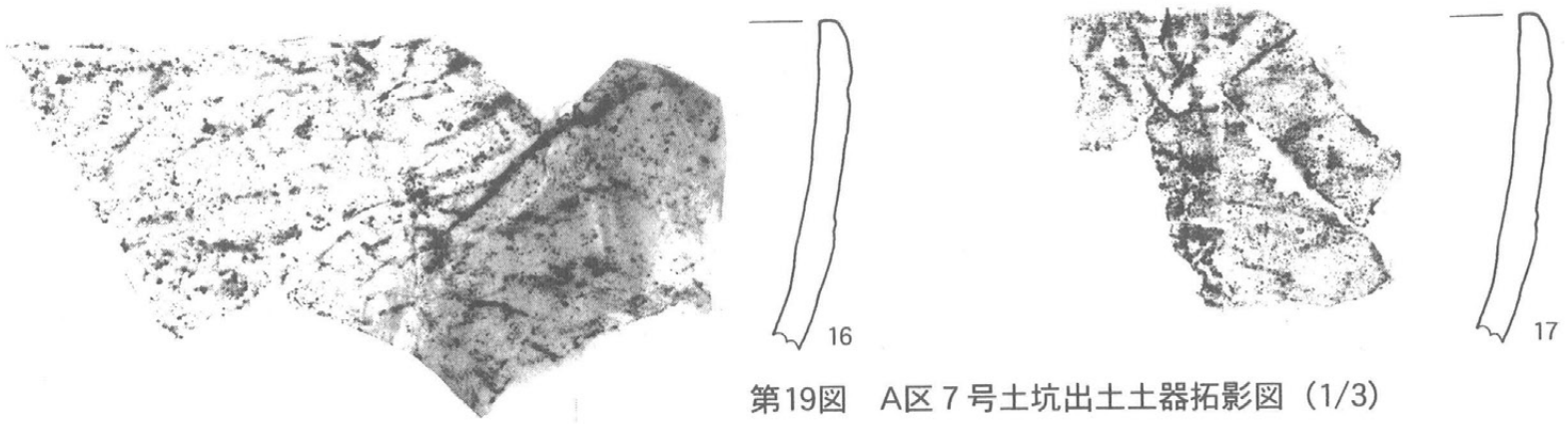
第16図　A区出土土坑実測図１（1/20）



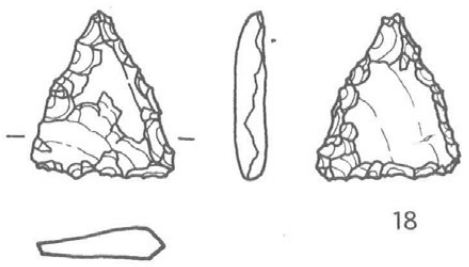
第17図　A区出土土坑実測図２（1/20）



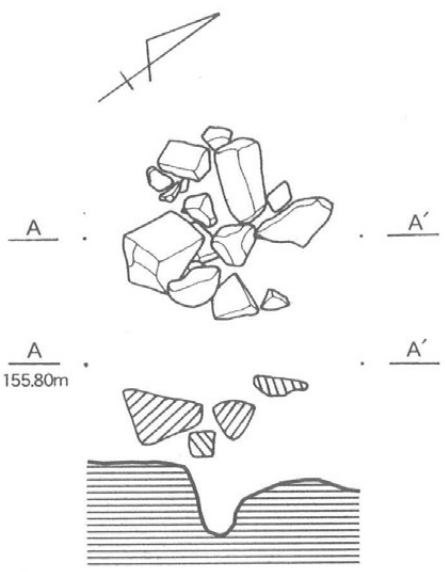
第18図　A区１～３・５号土坑出土土器拓影図（1/3）



第19図　A区７号土坑出土土器拓影図（1/3）



第20図　A区２号
土坑出土石器実測図（1/1）



第21図　A区１号
集石遺構実測図（1/20）

7号土坑

調査区の南西側において検出された。平面形態は不整円形を呈し、直径約1.0m、検出面からの深さ約0.3mを測る。埋土中より縄文土器が出土している。

16、17共に浅鉢で内湾しながらも開く口縁部になると考えられる。

1号集石遺構

調査区の北東隅で検出された。約40cmの範囲で、礫17個から構成される。

古墳時代の遺構と遺物

8号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央北東側において検出された。平面形態は隅丸方形で、長軸約4.0m、短軸約3.8m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面はほぼ平坦で、ピットは計7本が確認されている。埋土中より土師器が出土している。

20は甕頸部から胴部にかけてで、頸部はやや屈曲し刻目突帯を施す。刻目は布目圧痕を有する。21、22は高坏で21はエンタシス状、22はラッパ状に開く脚部である。

古代の遺構と遺物

1号土器集積

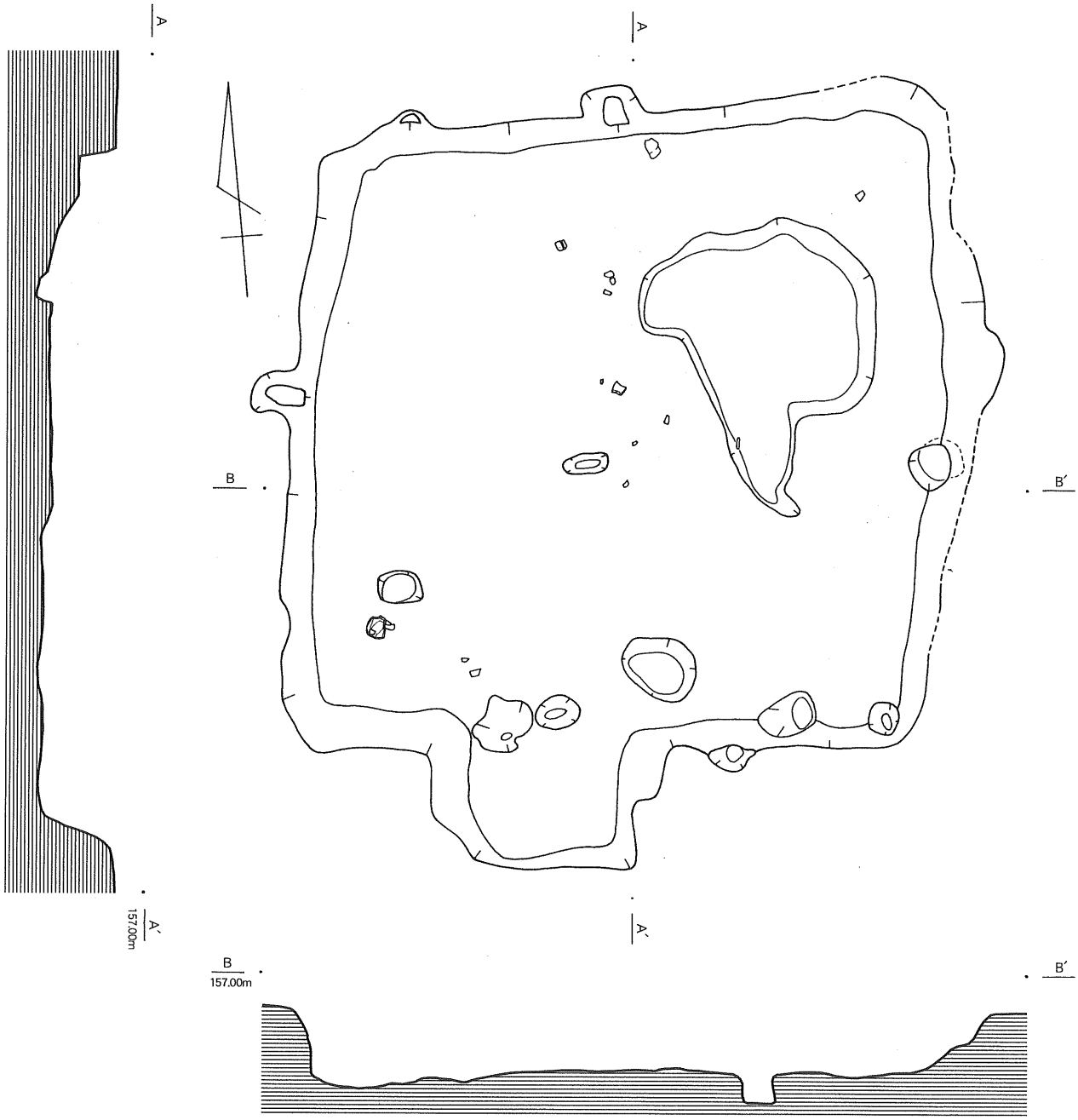
調査区のほぼ中央において検出された。南北約2.1m、東西約3.0mの範囲に約560点の土師器の破片が集中して出土した。

24が小型甕で他は中型甕である。調整は外面が24、26はタタキのちナデ、28がナデ、一部ハケ目、そのほかはナデ、内面はケズリである。器形は23から27が口縁部は緩やかに開き、胴部のはりが弱いタイプで、28は口縁部がやや長く、大きく開き胴部に膨らみをもつタイプである。26は口唇部が玉縁状になり、27は胴部に布目圧痕が確認される。28は口縁部内面に「×」字状の線刻を施す。

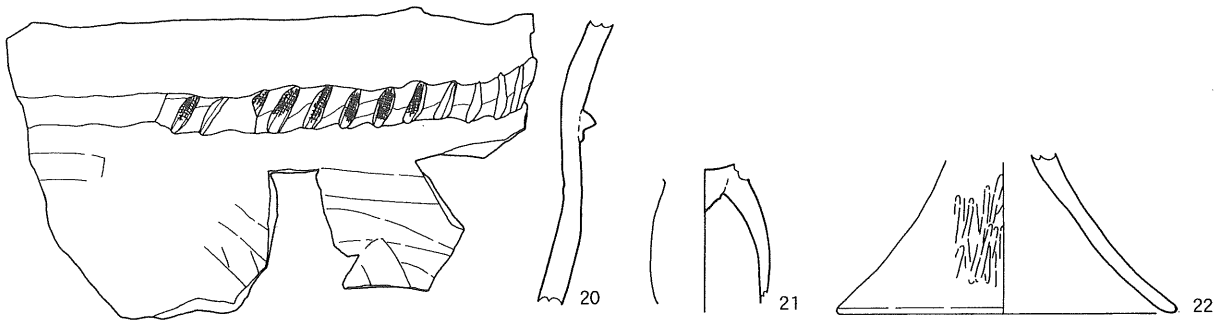
2号土器集積

調査区のほぼ中央北東側において検出された。約60cm四方に土師器、須恵器の破片約600点が集中して出土した。土器の下は直径約65cm、検出面からの深さ約95cmのピットとなり、これは1号掘立柱建物跡の南側柱穴に重なる。1号掘立柱建物跡の柱穴への一括廃棄と考えられる。

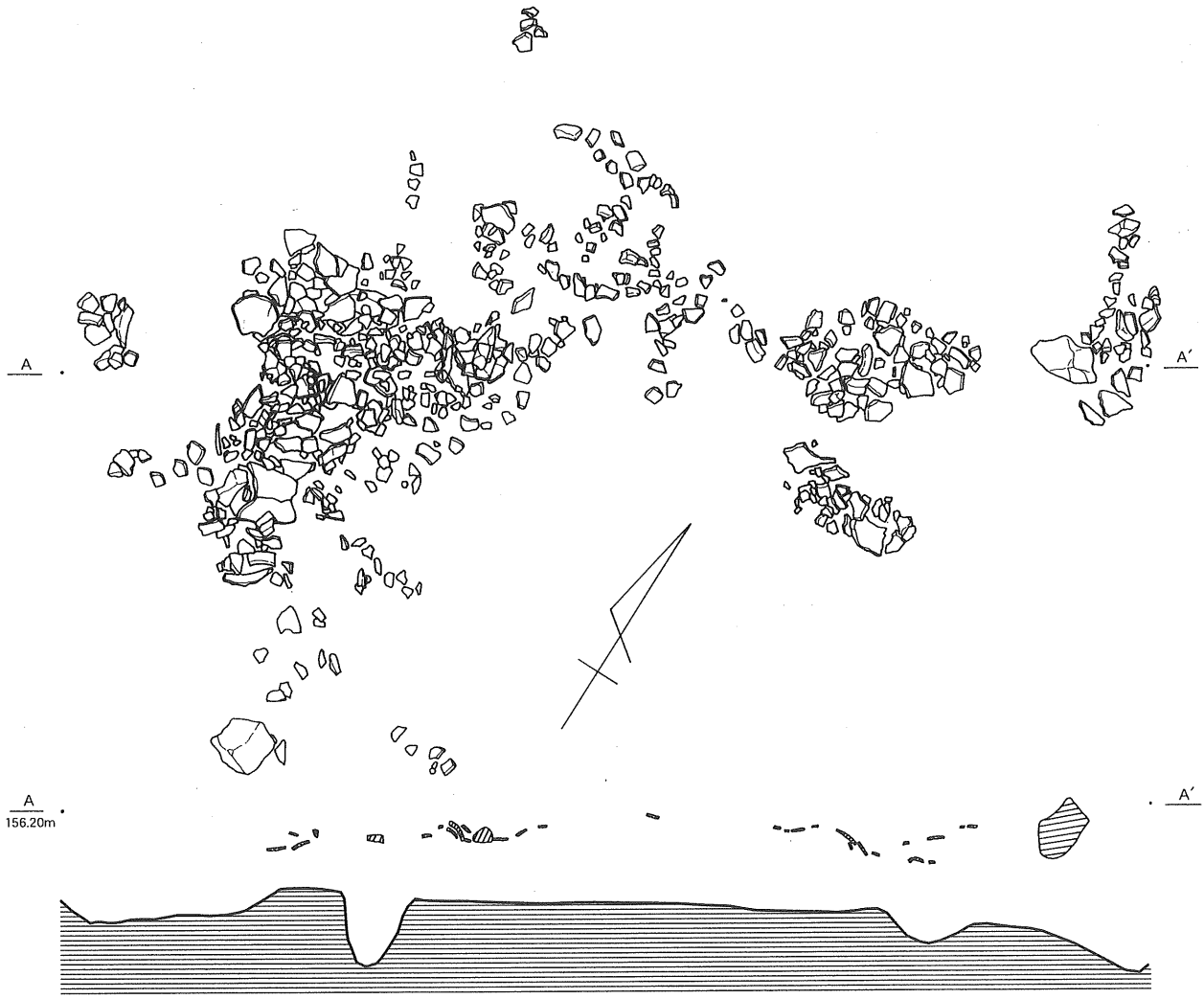
29から50は土師器である。29から33は甕で30、32が小型、他は中型である。29から31、33は口



第22図　A区８号竪穴住居跡実測図（1/40）



第23図　A区８号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



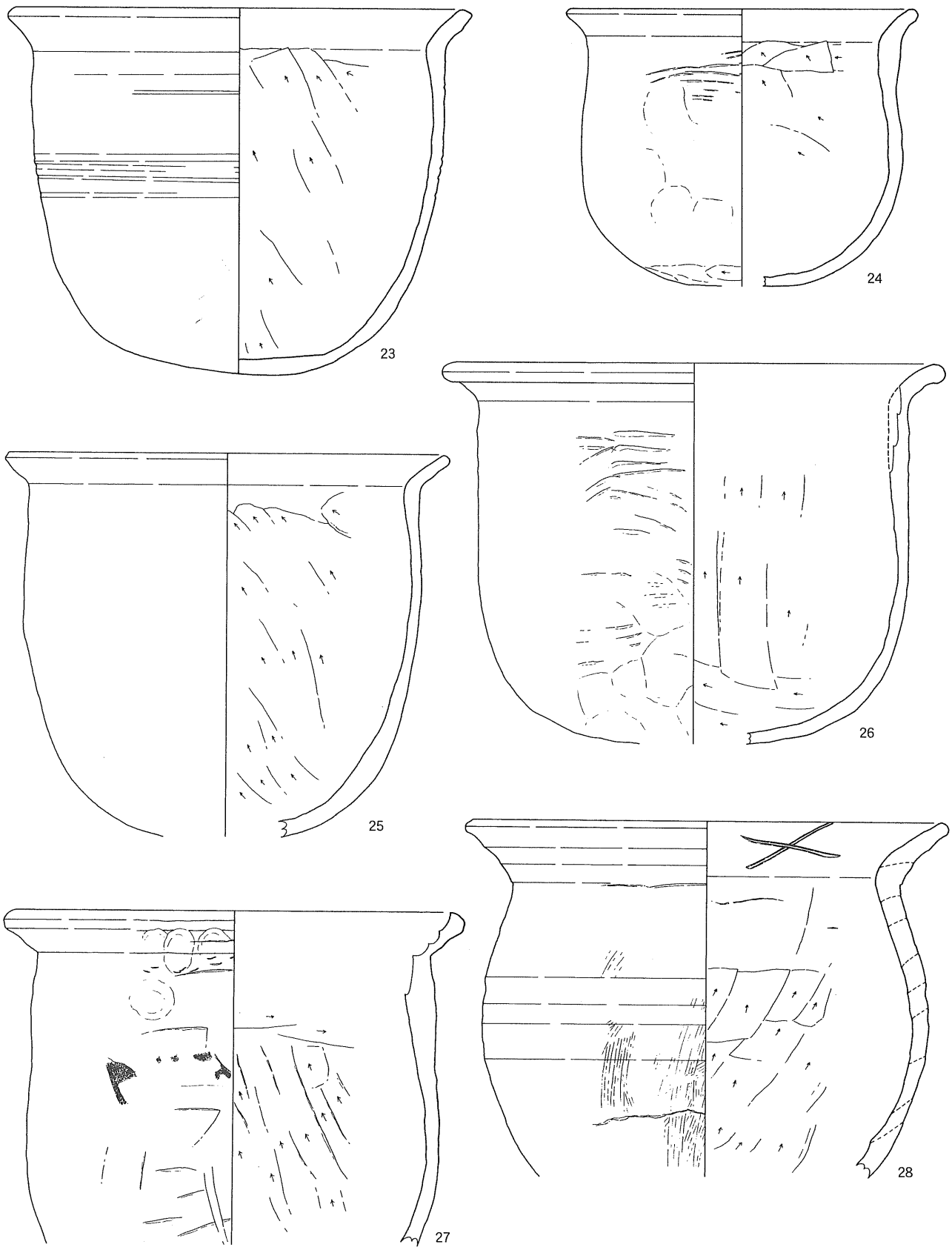
第24図　A区１号土器集積土器出土状況図（1/20）

縁部が緩やかに開き、胴部のはりが弱いタイプで、32は口縁部が短く、胴部に膨らみをもつタイプである。調整はいずれも内面はケズリ、外面は31、32が平行タタキ、29が格子目タタキ、30がナデ、33がハケ目である。34から42は坏で直線的に立ち上がり、大きく開く。底部はヘラ切り離しである。43から47は高台付坏で坏に比べやや大型のものが多く出土している。48から50は調整にミガキを用いており、やや内湾しながら立ち上がる。48、49は内面のみ、50は内外面ともにミガキを施す。

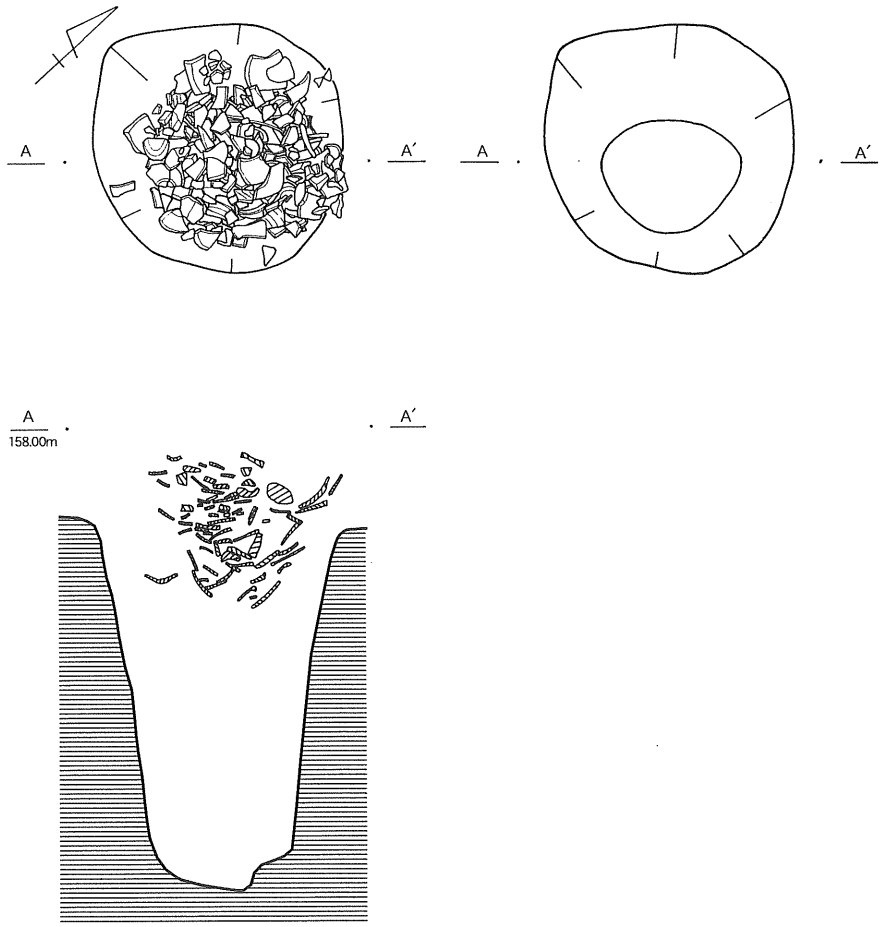
51、52は須恵器壷である。51は口縁部が二重口縁を呈し、肩部に縦耳をもち、調整は胴部が格子目タタキ、底部が同心円タタキである。52は底部に格子目タタキを有する。

1号掘立柱建物跡

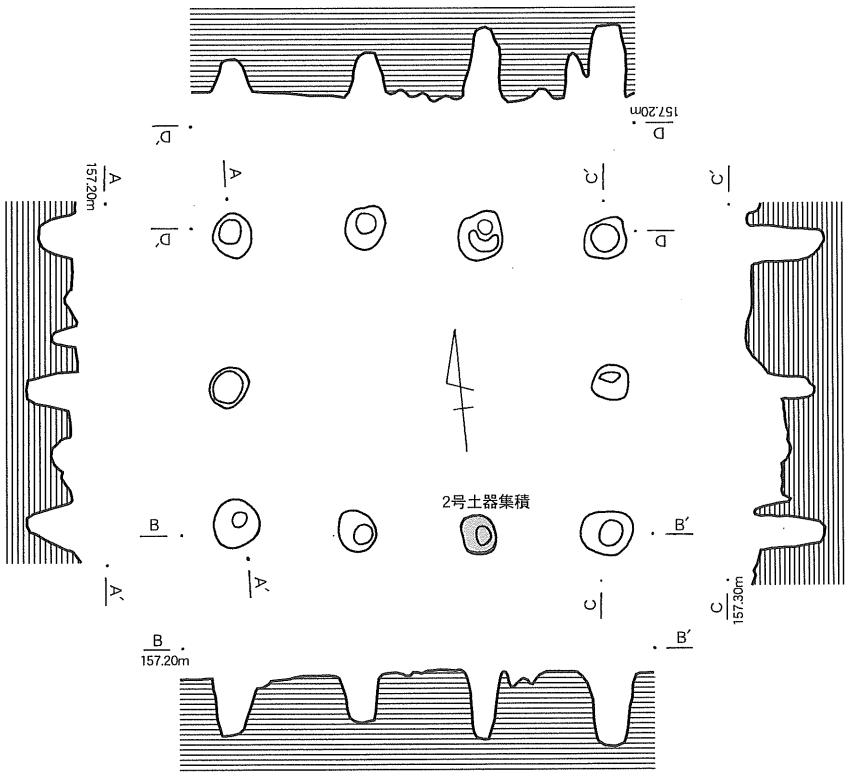
調査区のほぼ中央北東側において検出された。長軸方向はN－88°－Wをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約3.8m、桁行約5.0mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は約60～40cm、検出面からの深さは約90～50cmを測る。東側柱穴は6号竪穴住居跡と重複し、南側柱穴の上部からは2号土器集積が出土している。



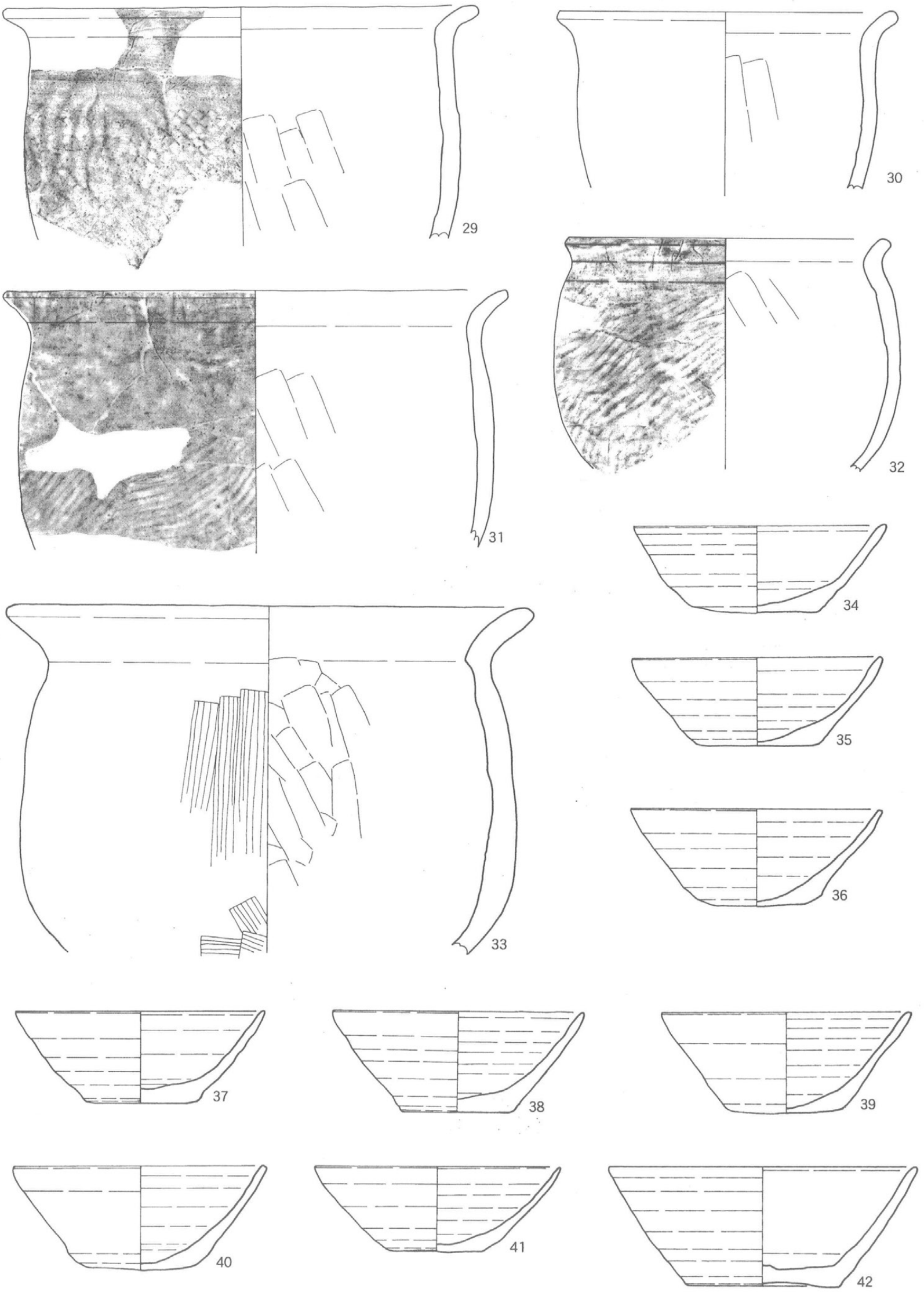
第25図　A区１号土器集積出土土器実測図（1/3）



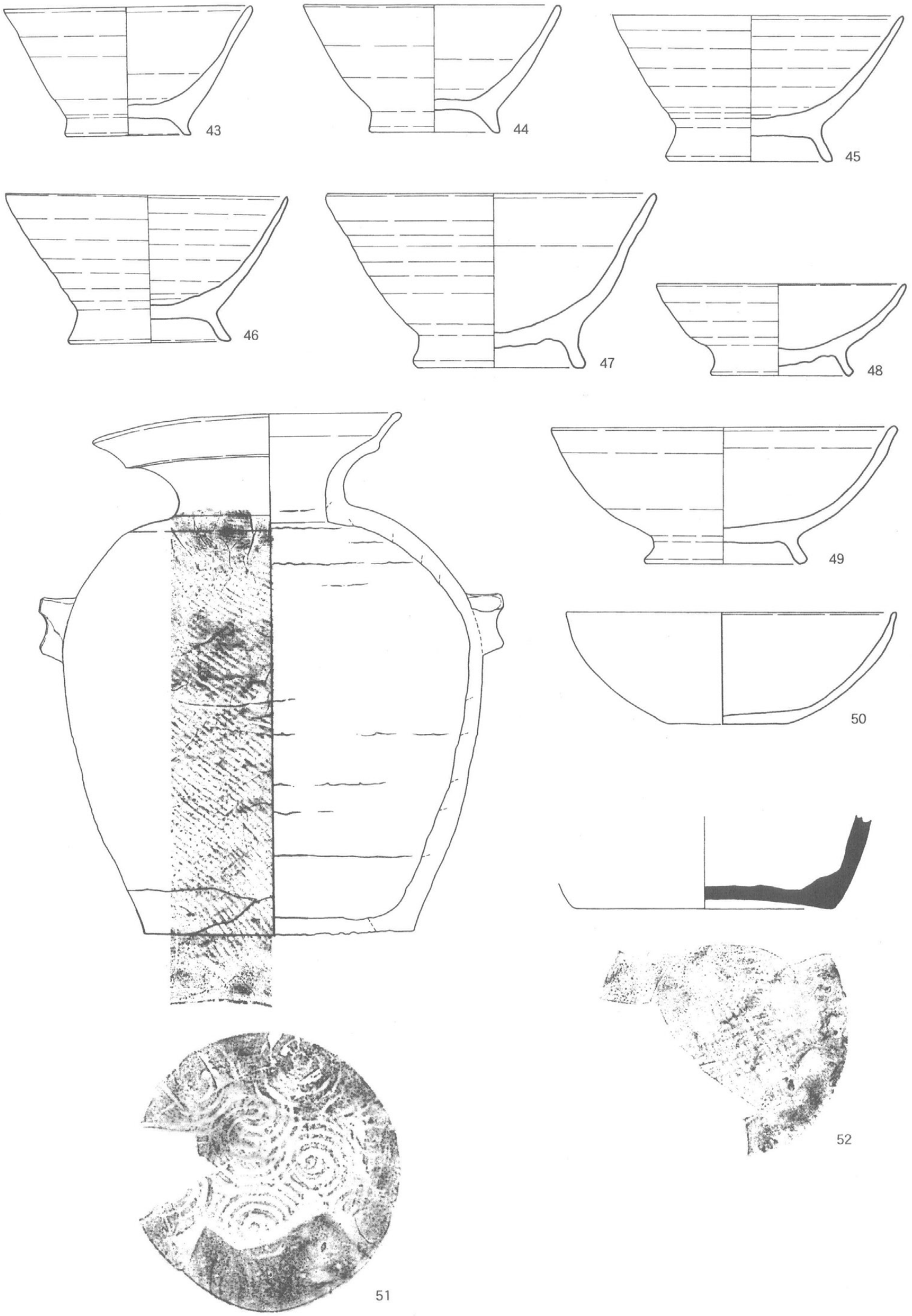
第26図　A区２号土器集積実測図（1/20）



第29図　A区１号掘立柱建物跡実測図（1/100）



第27図　A区２号土器集積出土土器実測図１（1/3）

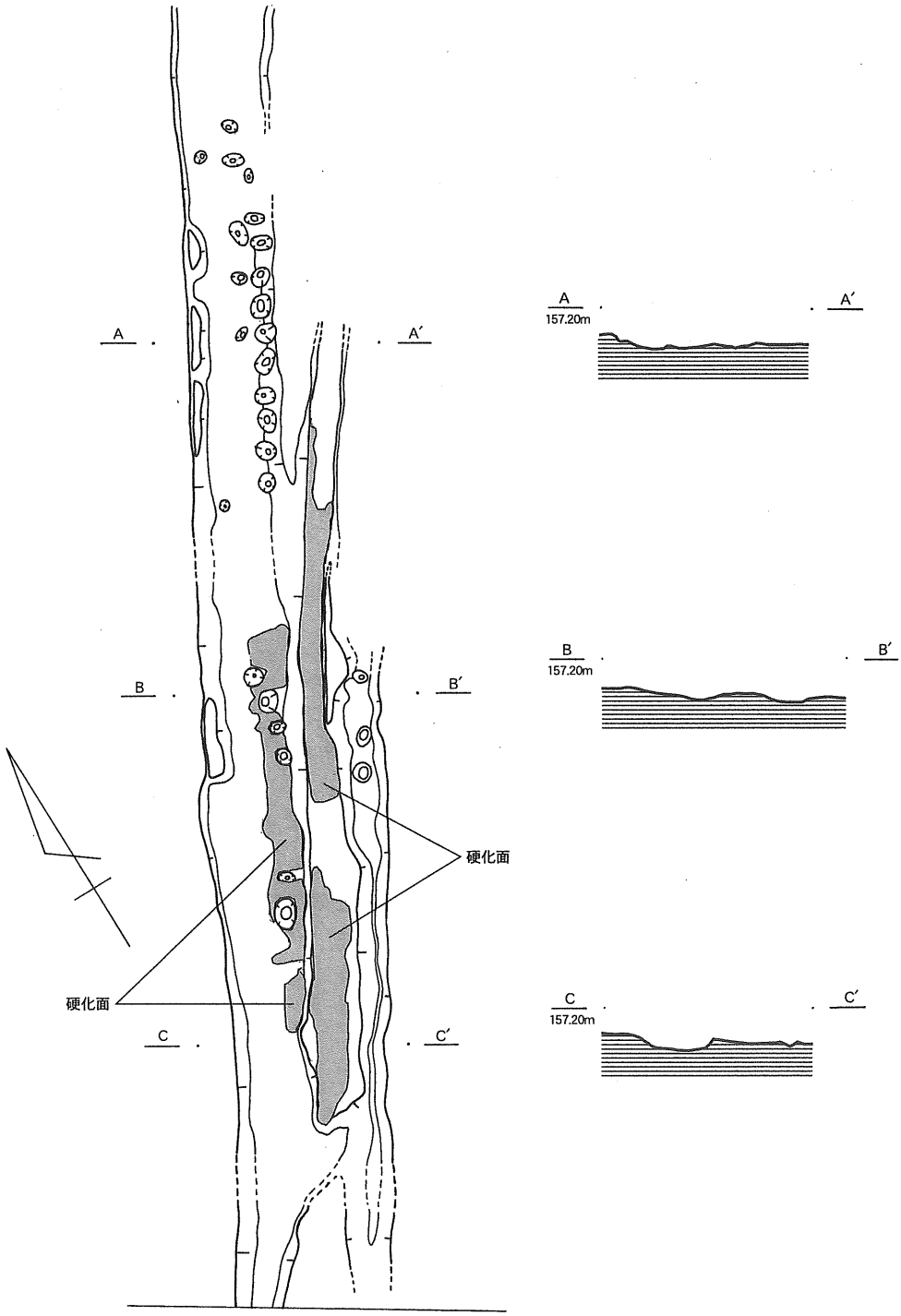


第28図　A区２号土器集積出土土器実測図２（1/3）

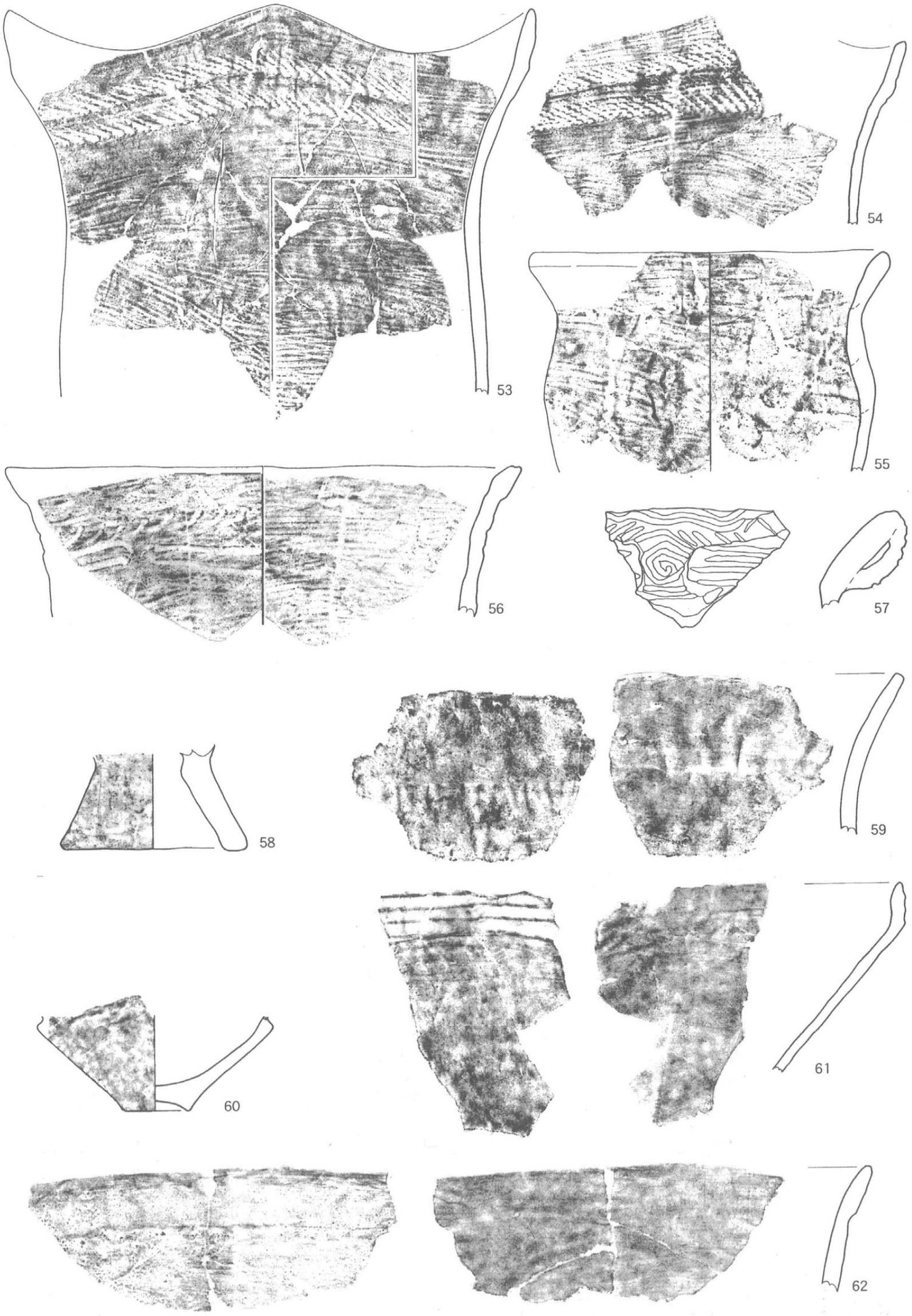
近世の遺構

1号道路状遺構

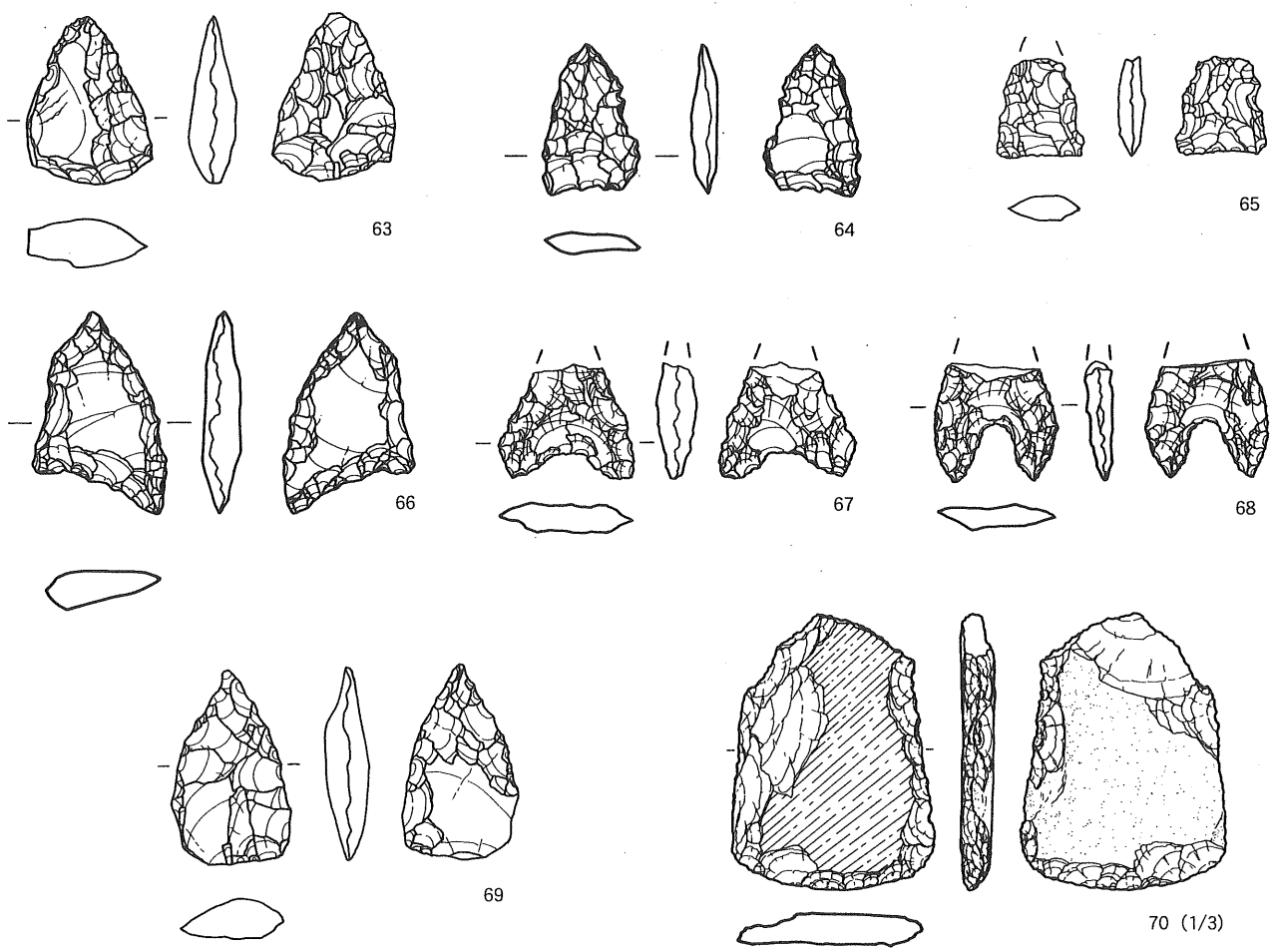
調査区の南端に位置する。幅約1.2を測り、北東から南西方向に長さ約4.5mにわたり検出された。南側は調査区外である。中央部に硬化面が確認され、硬化面の両側はやや低くなる。



第30図　A区１号道路状遺構実測図（1/80）



第31図　A区包含層出土土器拓影図（1/3）



第32図　A区包含層出土石器実測図（1/1）

表24　山城第1遺跡第3次調査A区出土遺物観察表1

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 / 最大長	底径 / 最大幅	器高 / 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
1	1号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ミガキ。	黒褐	黒褐	1mm以下の石英粒ごく微量。1mm程度の白色・茶褐色粒微量。雲母微量。	
2	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。	
3	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。	貝殻条痕。ナデ。	褐灰	にぶい褐	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。	
4	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。	
5	3号住居	縄文土器	深鉢		10.5		ナデ。網代痕。	ナデ。	にぶい黄橙	黒褐	1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
6	3号住居	縄文土器	深鉢		8.6		ナデ。網代痕。	ナデ。	にぶい黄橙	橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
7	4号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。	ミガキ。ナデ。	にぶい黄橙	橙	1mm程度の石英粒微量。1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
8	6号住居	縄文土器	深鉢	12.5			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい黄橙	黒褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
9	7号住居	縄文土器	浅鉢？									
10	1号土坑	縄文土器	深鉢	(26.5)			突帯。ナデ。	ナデ。	にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の石英粒ごく少量。1mm以下の茶褐色粒微量。	
11	2号土坑	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	灰黄褐	褐灰	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
12	2号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	

表25　山城第1遺跡第3次調査A区出土遺物観察表2

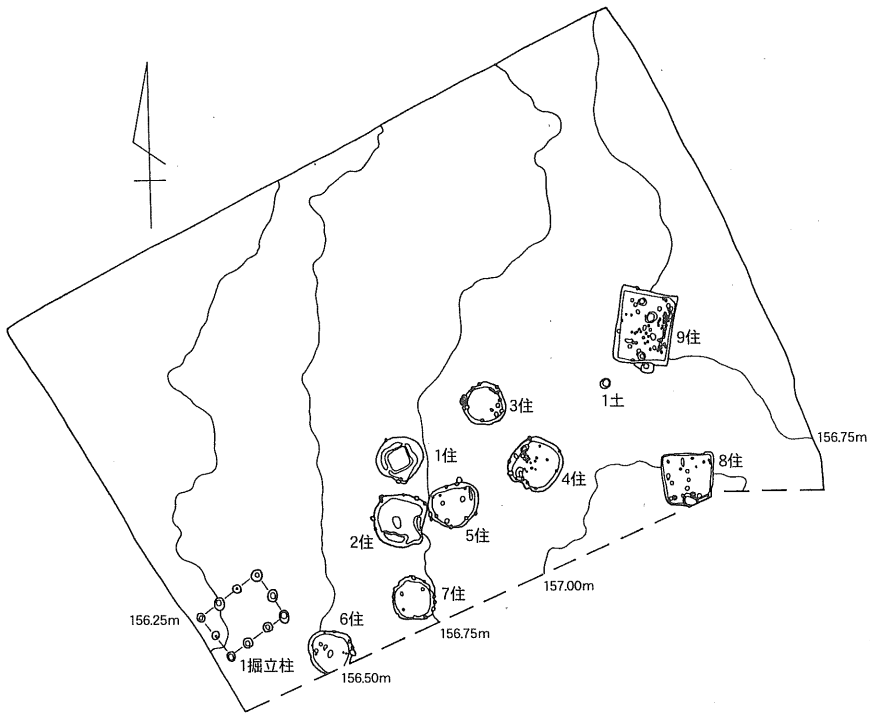
単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
13	3号土坑	縄文土器	浅鉢				編布圧痕。	ナデ。	浅黄橙	褐灰	1㎜以下の石英粒ごく少量。1㎜程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
14	5号土坑	縄文土器	深鉢				突帯。ナデ。	ナデ。	褐灰	黒褐	1～2㎜の石英粒少量。	
15	5号土坑	縄文土器	浅鉢				リボン状突起。ナデ。	ナデ。	明黄褐	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色・白色粒ごく少量。	
16	7号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ミガキ。	灰黄褐	黒褐	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
17	7号土坑	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。	にぶい黄褐	灰黄褐	1㎜以下の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
18	2号土坑	石器	石鏃	1.6	1.4	0.3						1g・チャート
19	4号土坑	石器	石皿	37	32	15.5						20.9kg・砂岩
20	8号住居	土師器	甕				刻目突帯。工具ナデ。スス付着。	ナデ。	淡黄	黄褐	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
21	8号住居	土師器	高坏				ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色粒微量。	
22	8号住居	土師器	高坏		(13.5)		ミガキ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
23	1号土器集積	土師器	甕	25.2		19.8	ナデ。	ケズリ。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
24	1号土器集積	土師器	甕	19		(15)	タタキのちナデ。	ケズリ。ナデ。	黄橙	橙	1㎜程度の白色・茶褐色粒ごく少量。	
25	1号土器集積	土師器	甕	24		(20.7)	ナデ。	ケズリ。ナデ。	灰白	浅黄橙	1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
26	1号土器集積	土師器	甕	(27.3)		(20.6)	タタキのちナデ。	ケズリ。ナデ。	にぶい橙	にぶい黄橙	1～2㎜の白色・茶褐色粒ごく少量。	
27	1号土器集積	土師器	甕	(24.9)		(18.1)	ナデ。布目痕。	ケズリ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒微量。	
28	1号土器集積	土師器	甕	(26)		(19.3)	ナデ。ハケ目。	ケズリ。ナデ。	浅黄橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒少量。3㎜程度の灰色・茶褐色粒微量。	
29	2号土器集積	土師器	甕	(25.8)			格子目タタキ。ナデ。	ケズリ。ナデ。	明黄褐	にぶい黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
30	2号土器集積	土師器	甕	(17.2)			ナデ。	ケズリ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
31	2号土器集積	土師器	甕	(24.4)			平行タタキ。ナデ。	ケズリ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
32	2号土器集積	土師器	甕	(16.2)			平行タタキ。ナデ。	ケズリ。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
33	2号土器集積	土師器	甕	(26.4)			ハケ目。ナデ。	ケズリ。ナデ。	橙	にぶい黄橙	1～2㎜程度の石英粒少量。1～2㎜の黒色・茶褐色粒少量。	
34	2号土器集積	土師器	甕	13	7	4.5	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
35	2号土器集積	土師器	坏	13	5.6	4.7	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の茶褐色粒ごく微量。	
36	2号土器集積	土師器	坏	13	5	5.1	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色粒ごく微量。	
37	2号土器集積	土師器	坏	11.8	(5.8)	5	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・白色粒子ごく微量。	
38	2号土器集積	土師器	坏	13.2	5.2	5.4	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
39	2号土器集積	土師器	坏	12.3	5.3	5.2	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく微量。	
40	2号土器集積	土師器	坏	13.2	5	5.2	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
41	2号土器集積	土師器	坏	12.8	5	4.3	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
42	2号土器集積	土師器	坏	(16)	7.8	6.2	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく微量。	
43	2号土器集積	土師器	高台付坏	(13.2)	6.3	7	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
44	2号土器集積	土師器	高台付坏	(13.6)	(7)	6.6	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
45	2号土器集積	土師器	高台付坏	(14.8)	8.6	7.8	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
46	2号土器集積	土師器	高台付坏	15	8.3	7.9	回転ナデ。ナデ。	回転ナデ。ナデ。	橙	橙	1㎜程度の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
47	2号土器集積	土師器	高台付坏	(18.2)	(8.9)	9.3	回転ナデ。ナデ。布目痕。	回転ナデ。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1㎜以下の黒色粒子ごく微量。	
48	2号土器集積	土師器	高台付坏	(13.3)	7.2	4.8	回転ナデ。ナデ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の黒色・茶褐色粒子微量。	
49	2号土器集積	土師器	高台付坏	(18.8)	8.5	7.5	回転ナデ。ナデ。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜程度の茶褐色粒ごく微量。	
50	2号土器集積	土師器	坏	(17)	(6.4)	6.2	ミガキ。	ミガキ。	明黄褐	明黄褐	1㎜以下の黒色・白色・茶褐色粒子ごく微量。	
51	2号土器集積	須恵器	壺	14.4	14.5	27.9	格子目タタキ。ナデ。	ナデ。	黄灰	灰白	1㎜以下の白色粒子微量。	

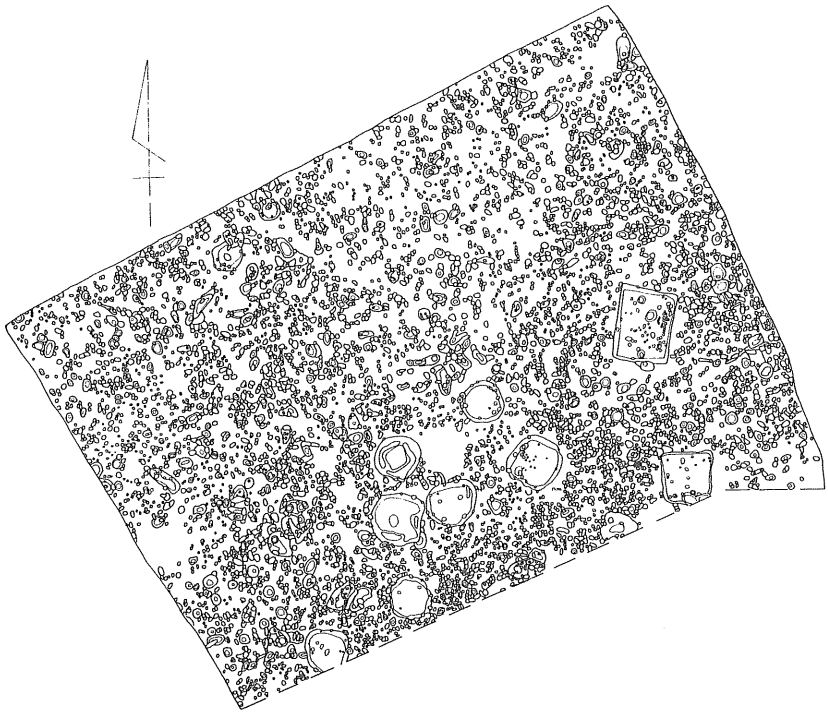
表26　山城第1遺跡第3次調査Ａ区出土遺物観察表3

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
52	２号土器集積	須恵器	ナデ		14		格子目タタキ。ナデ。	ナデ。	暗灰	灰	1mm以下の白色粒子ごく微量。	
53	包含層	縄文土器	深鉢	(30)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。スス付着。	貝殻条痕。	黒褐	にぶい赤褐	1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。雲母少量。	
54	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。	貝殻条痕。	黒褐	橙	1mm以下の白色粒少量。雲母微量。	
55	包含層	縄文土器	深鉢	(19)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい赤褐	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
56	包含層	縄文土器	深鉢	(28.5)			貝殻腹縁刺突文。沈線文。貝殻条。	貝殻条痕。	明赤褐	橙	1mm　以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
57	包含層	縄文土器					沈線文。	ナデ。	黒褐	にぶい褐	1mm以下の石英粒ごく微量。1mm以下の白色粒ごく少量。	
58	包含層	縄文土器	台付皿型土器		8.9		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm程度の黒色・白色茶褐色粒少量。	
59	包含層	縄文土器	深鉢				ミガキ。ナデ。スス付着。	ナデ。	暗褐	暗褐	1mm以下の黒色・白色茶褐色粒少量。	
60	包含層	縄文土器	浅鉢				押線文。ミガキ。	ミガキ。	暗褐	暗褐	1mm以下の白色粒ごく少量。	
61	包含層	縄文土器	浅鉢		3.5		ミガキ。	ミガキ。	黒褐	黒褐	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	
62	包含層	縄文土器	浅鉢				突帯。ナデ。スス付着。	ミガキ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の石英粒少量。雲母微量。	
63	包含層	石器	石鏃	2.65	1.7	0.5						2.2ｇ・頁岩？
64	包含層	石器	石鏃	2.0	1.3	0.35						3g・チャート
65	包含層	石器	石鏃	(1.3)	1.3	0.3						3g・チャート
66	包含層	石器	石鏃	2.65	1.7	0.5						2.2ｇ・頁岩
67	包含層	石器	石鏃	(1.55)	1.8	0.55						1.1g・黒曜石
68	包含層	石器	石鏃	(1.55)	1.65	0.35						0.79g・黒曜石
69	包含層	石器	石鏃	2.8	1.7	0.6						3g・頁岩？
70	包含層	石器	打製石斧	10.6	8.1	1.2						173g・砂岩



第33図　B区地形図（1/600）



第34図　B区遺構分布図（1/600）

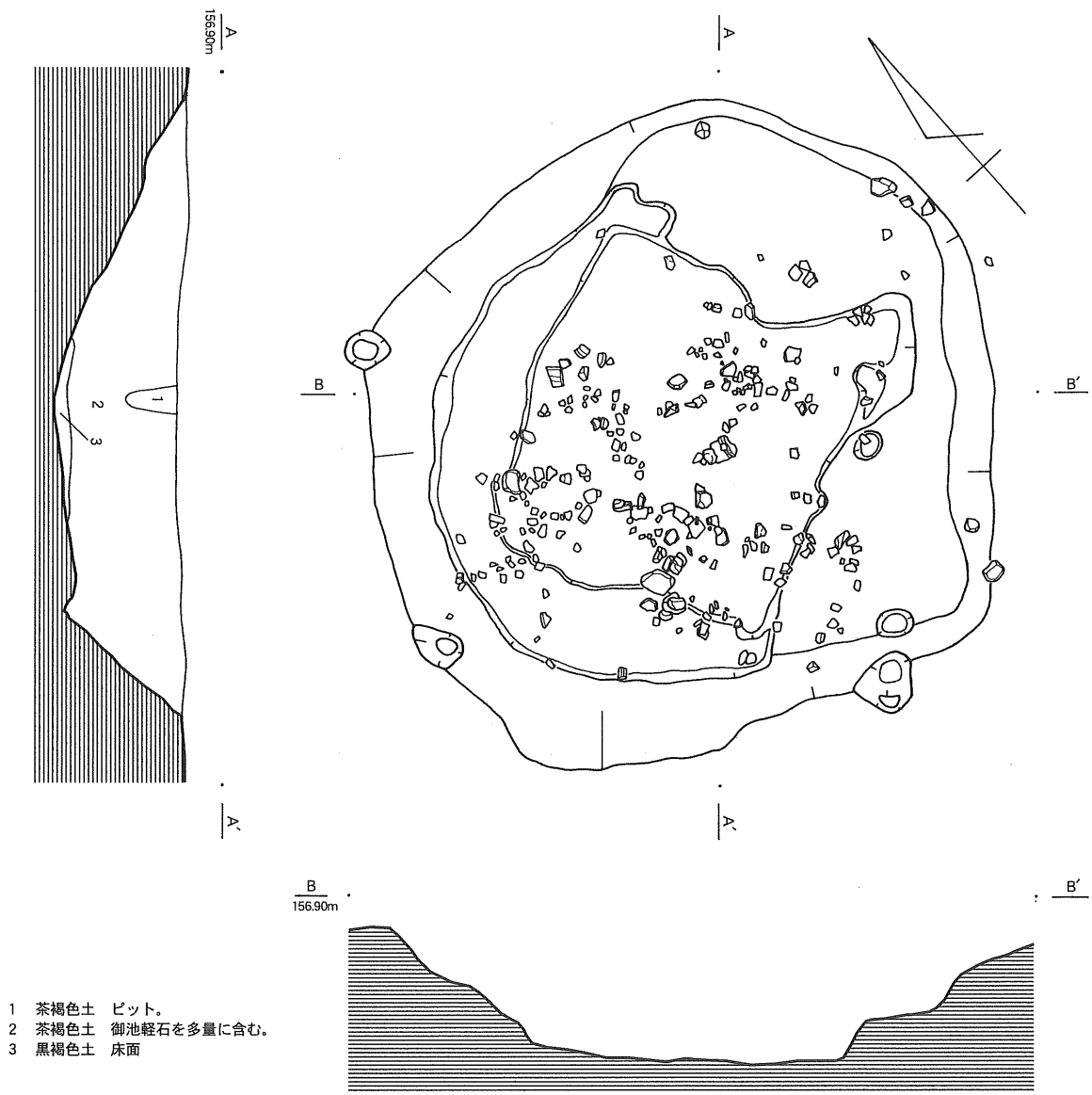
B区の調査

層序

調査区の標高は156.25m～156.75mで、東側が高く西に向け緩やかに傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・黒色土、3層・高原スコリア、4層・黒褐色土、5層・褐色土、6層・暗褐色土、7層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

B区においては縄文時代の竪穴住居跡7軒、土坑1基、古墳時代の竪穴住居跡2軒、古代の掘立柱建物跡1軒のほか、時期不明のピット多数が検出された。



1　茶褐色土　ピット。
2　茶褐色土　御池軽石を多量に含む。
3　黒褐色土　床面

第35図　B区１号竪穴住居跡実測図（1/40）

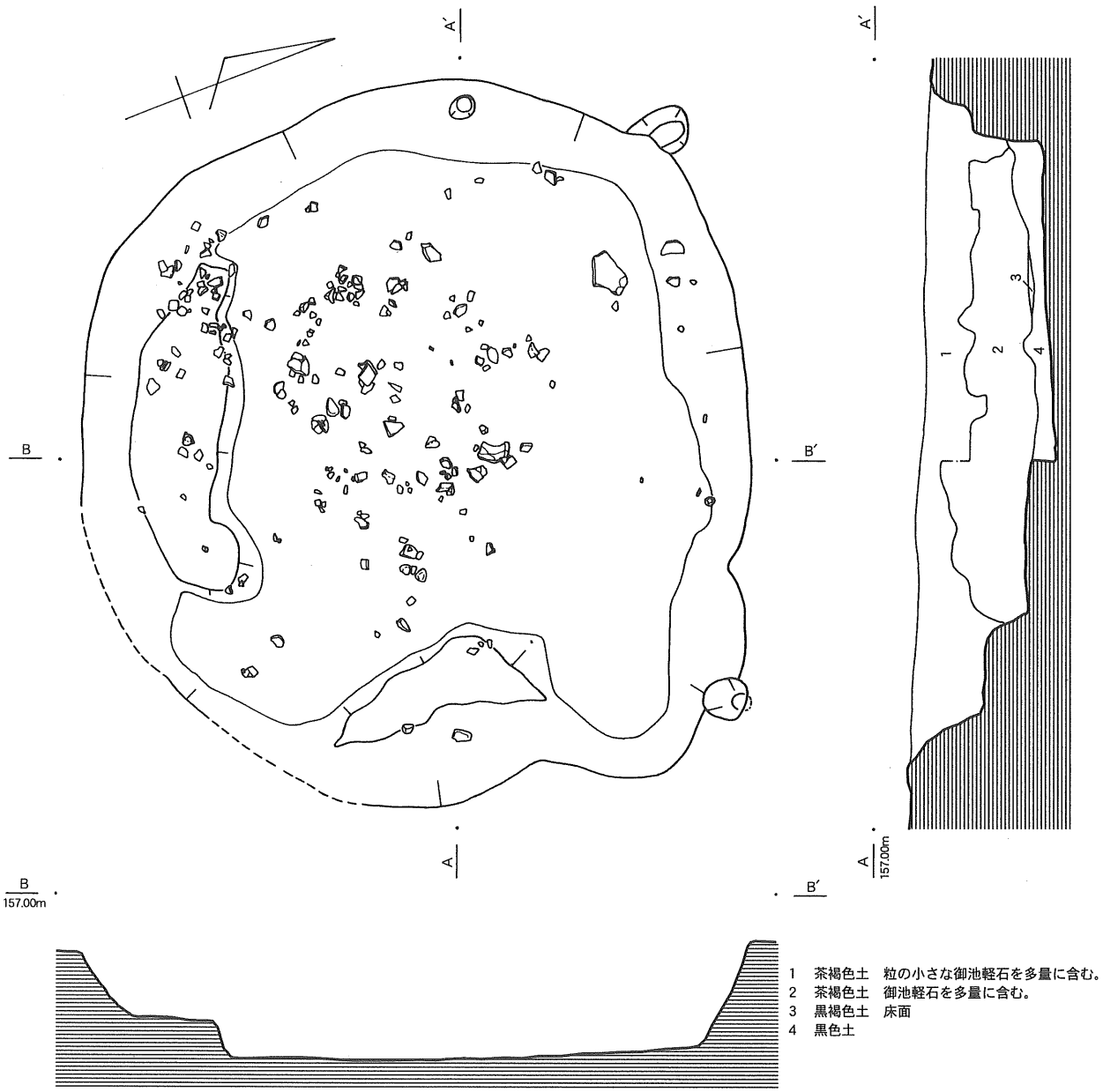
第36図　B区１号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

縄文時代の遺構と遺物

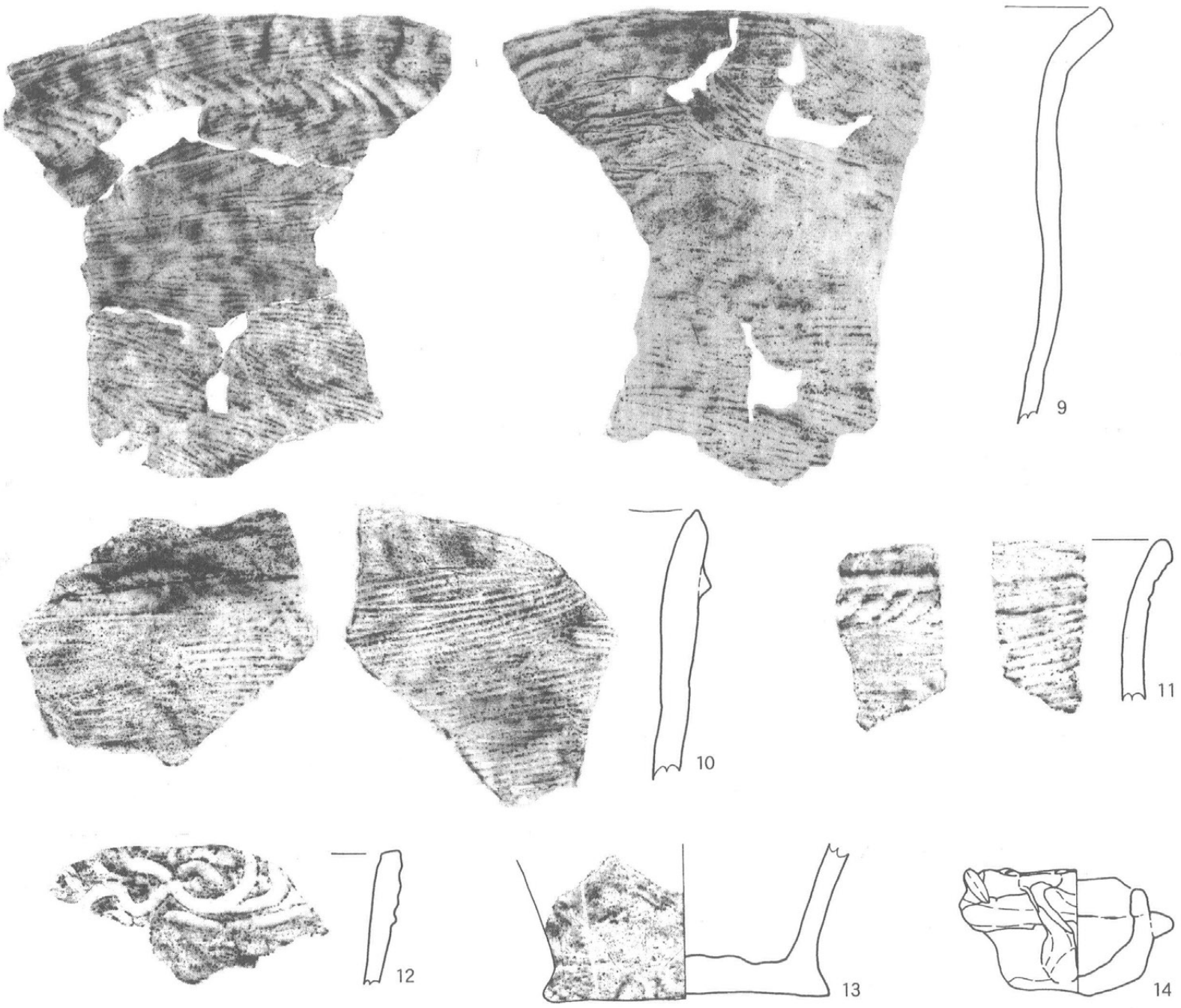
1号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央南側において検出された。2、5号竪穴住居跡の北側に位置する。平面形態は円形と考えられ、直径約3.6m、検出面からの深さ約0.8mを測る。床面は中央が一段下がる。ピットは計5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

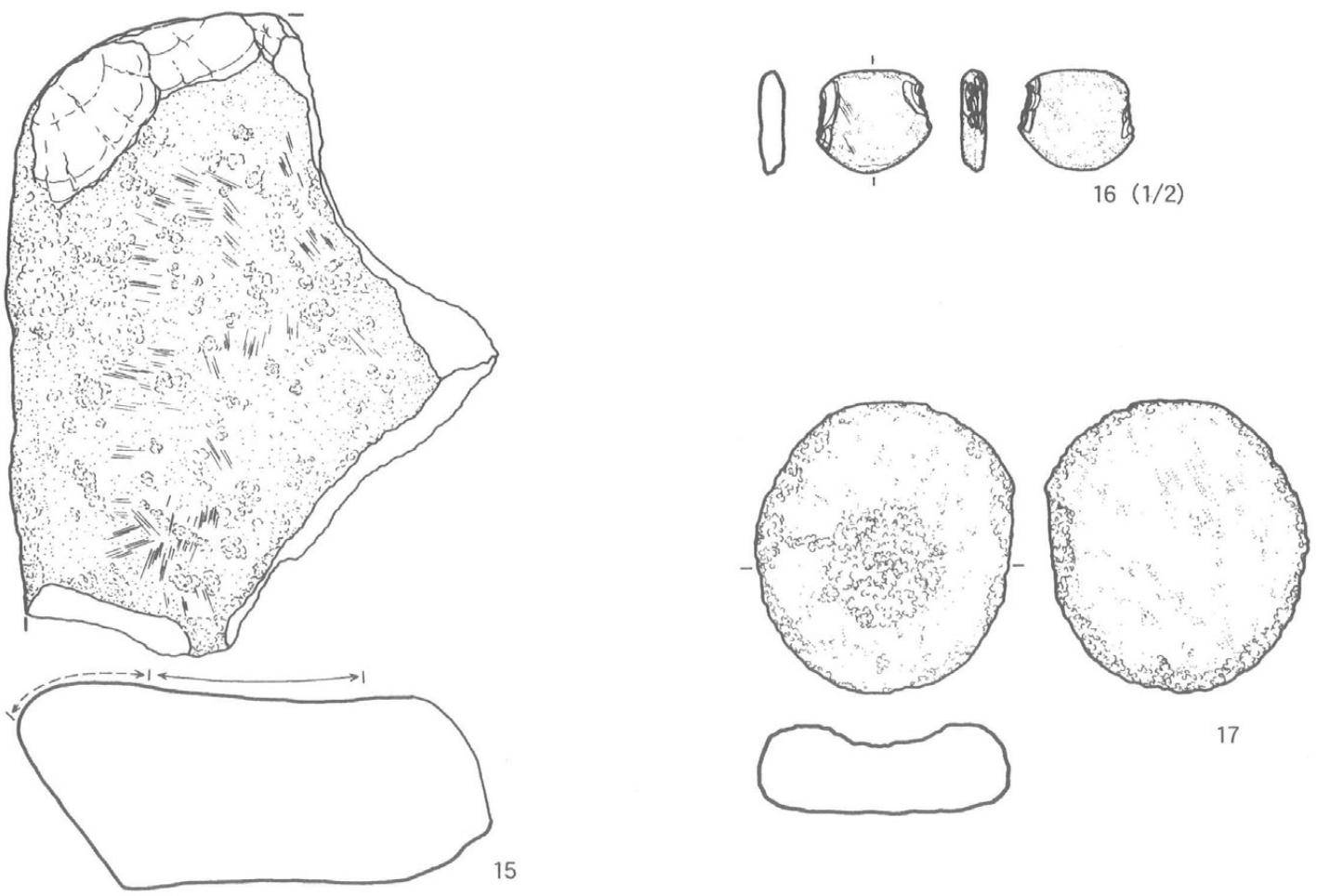
2、4から7は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す深鉢である。2、4は文様帯下部が張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。2は棒状工具による沈線文、4は沈線文と貝殻腹縁刺突文、5は貝殻腹縁刺突文を施す。6、7は口縁部文様帯が小さく、棒状工具による沈線文、刺突文を施す。3は頸部の屈曲より口縁部が外反する深鉢で、屈曲部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。1、8は直線的に立ち上がる深鉢で、口唇部を平坦に仕上げ貝殻腹縁刺突文及び貝殻条痕を施す。



第37図　B区２号竪穴住居跡実測図（1/40）



第38図　B区２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

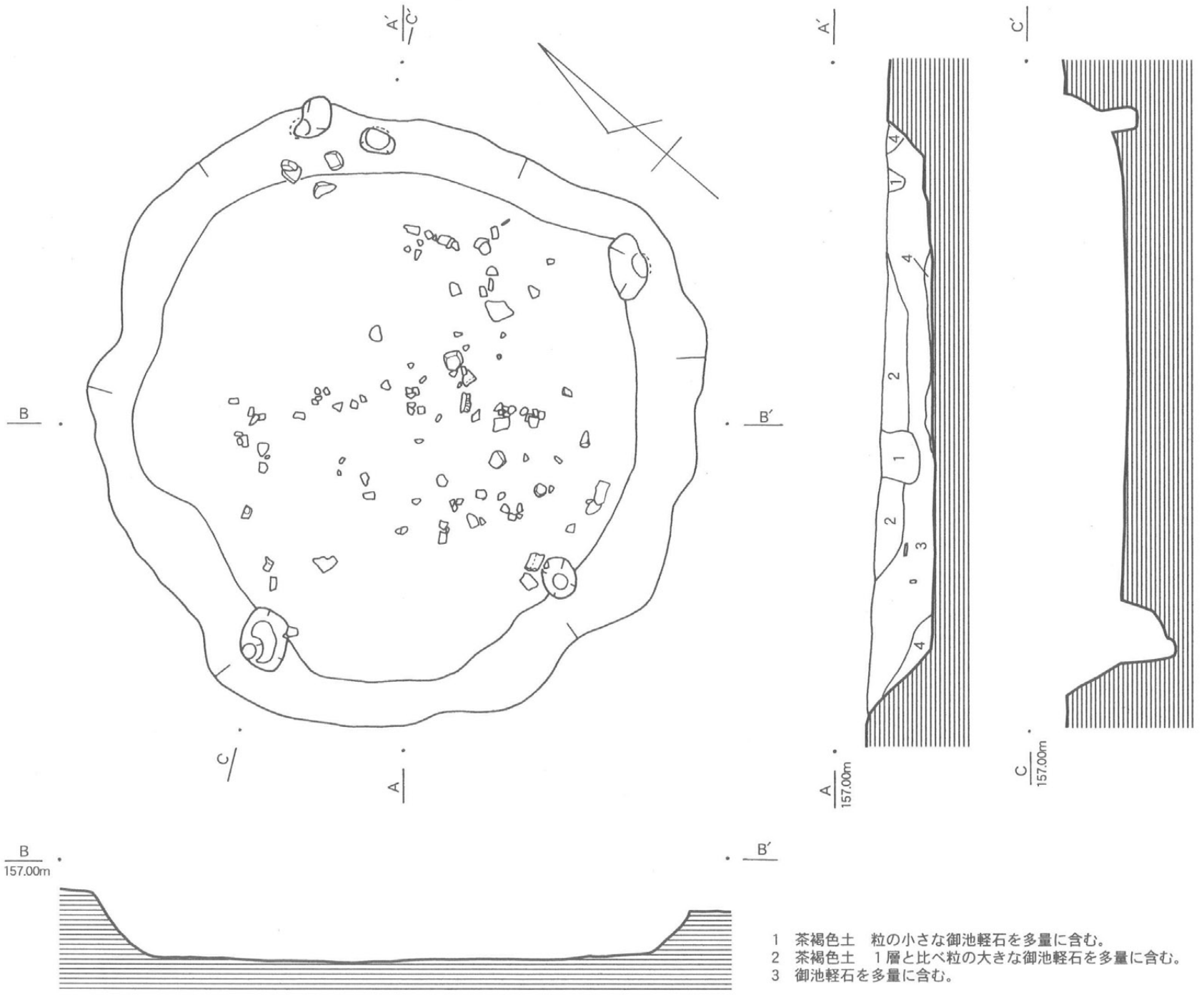


第39図　B区２・３・６号竪穴住居跡出土石器実測図（1/3）

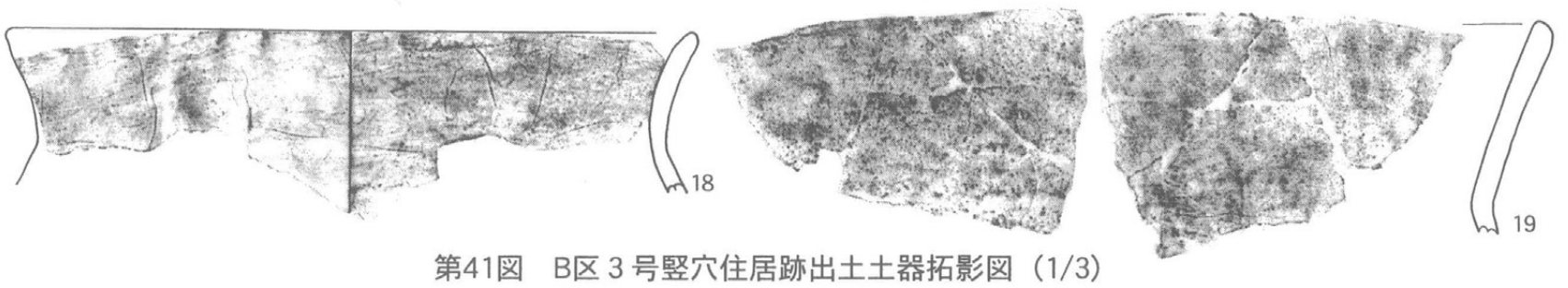
2号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。5号竪穴住居跡に隣接する。平面形態は円形を呈し、長径約4.3m、短径約4.0m、検出面からの深さ約0.6mを測る。床面はほぼ平坦であるが、東側、南側に一段高くなる面を持つ。ピットは計3本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。いずれも中位から上位にかけての出土である。

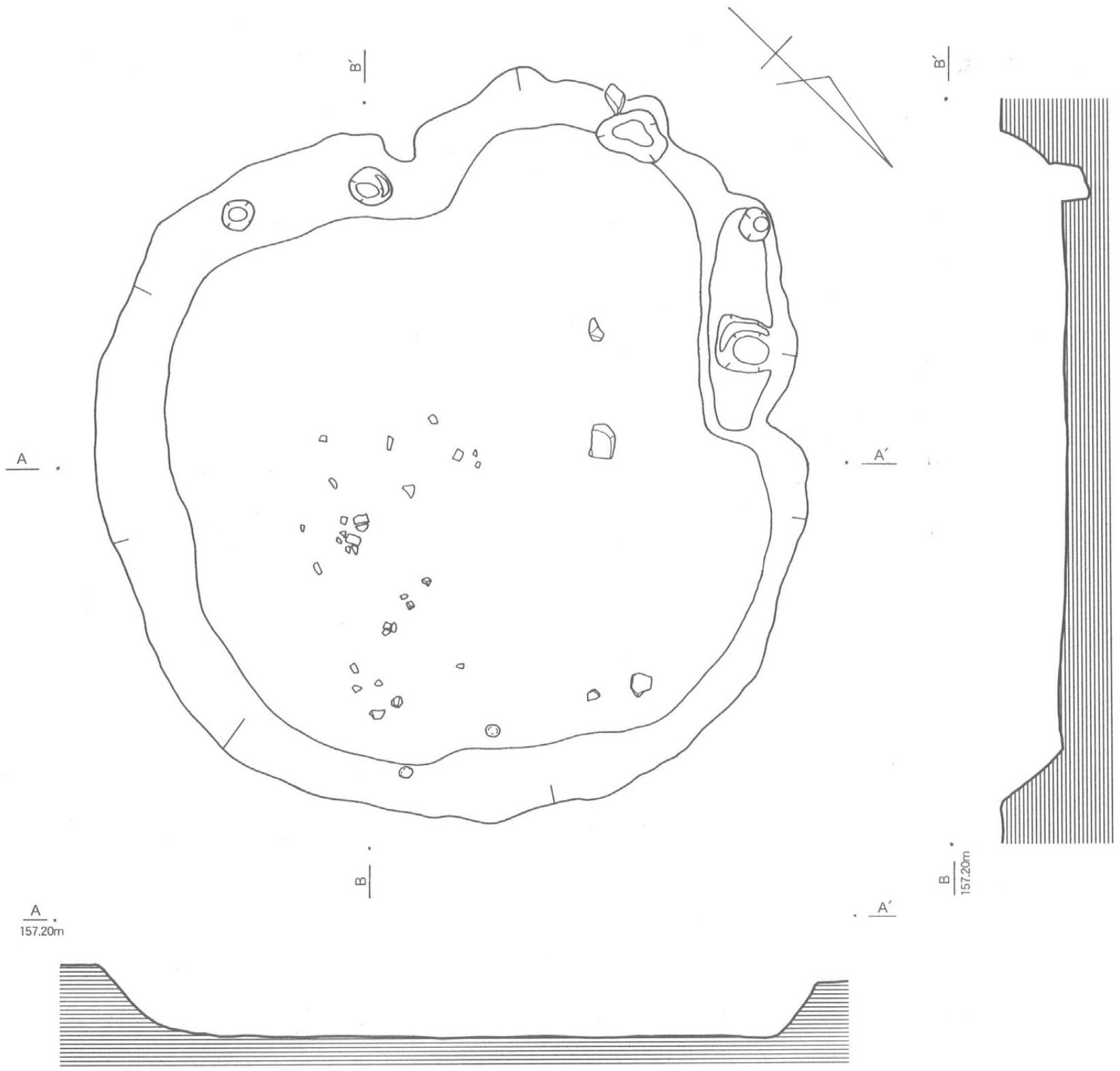
9から13は深鉢である。9、11は頸部の屈曲より口縁部が外反し、屈曲部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。10は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す。12は口縁部で沈線文を施す。また口唇部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。13は深鉢底部で平底である。14はミニチュア土器の鉢である。口縁部にヘラ状工具による刻目、全体に粘土紐を貼り付けた装飾を施す。左右のつまみ部には穿孔をもつ。15は石皿で石材は砂岩である。



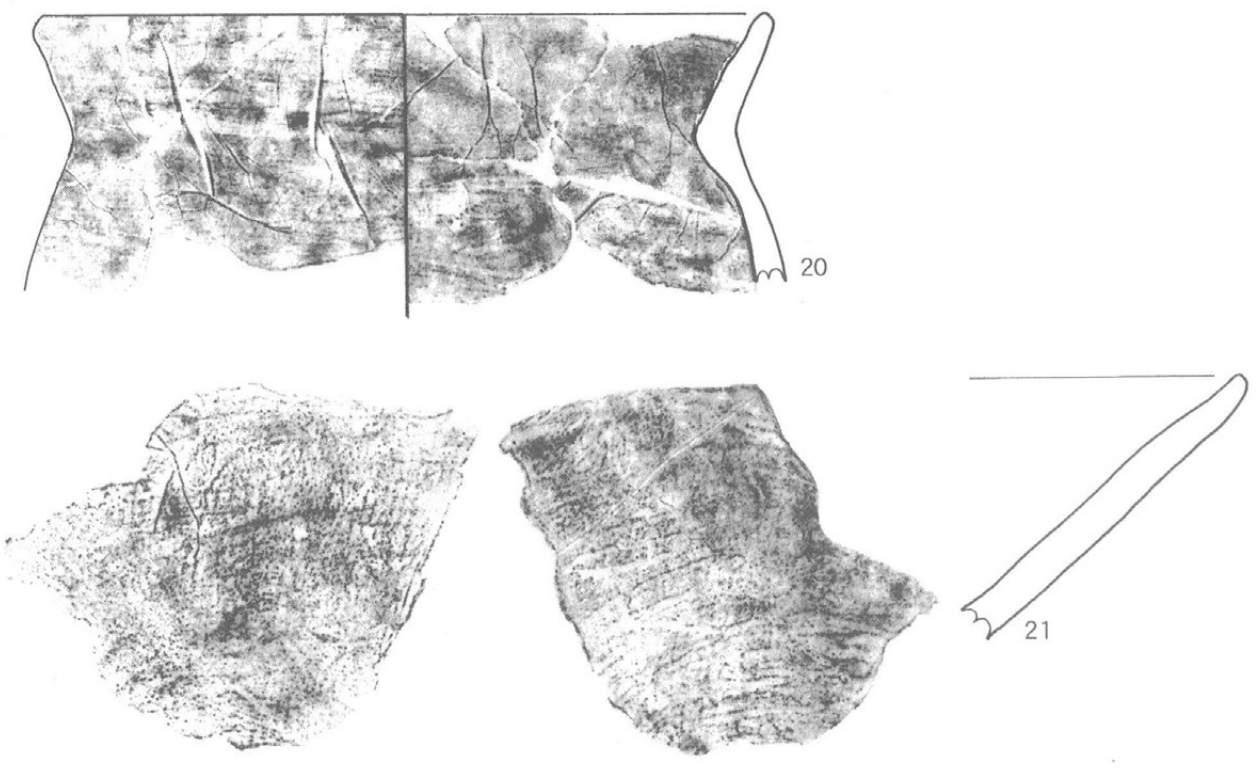
第40図　B区3号竪穴住居跡実測図（1/40）



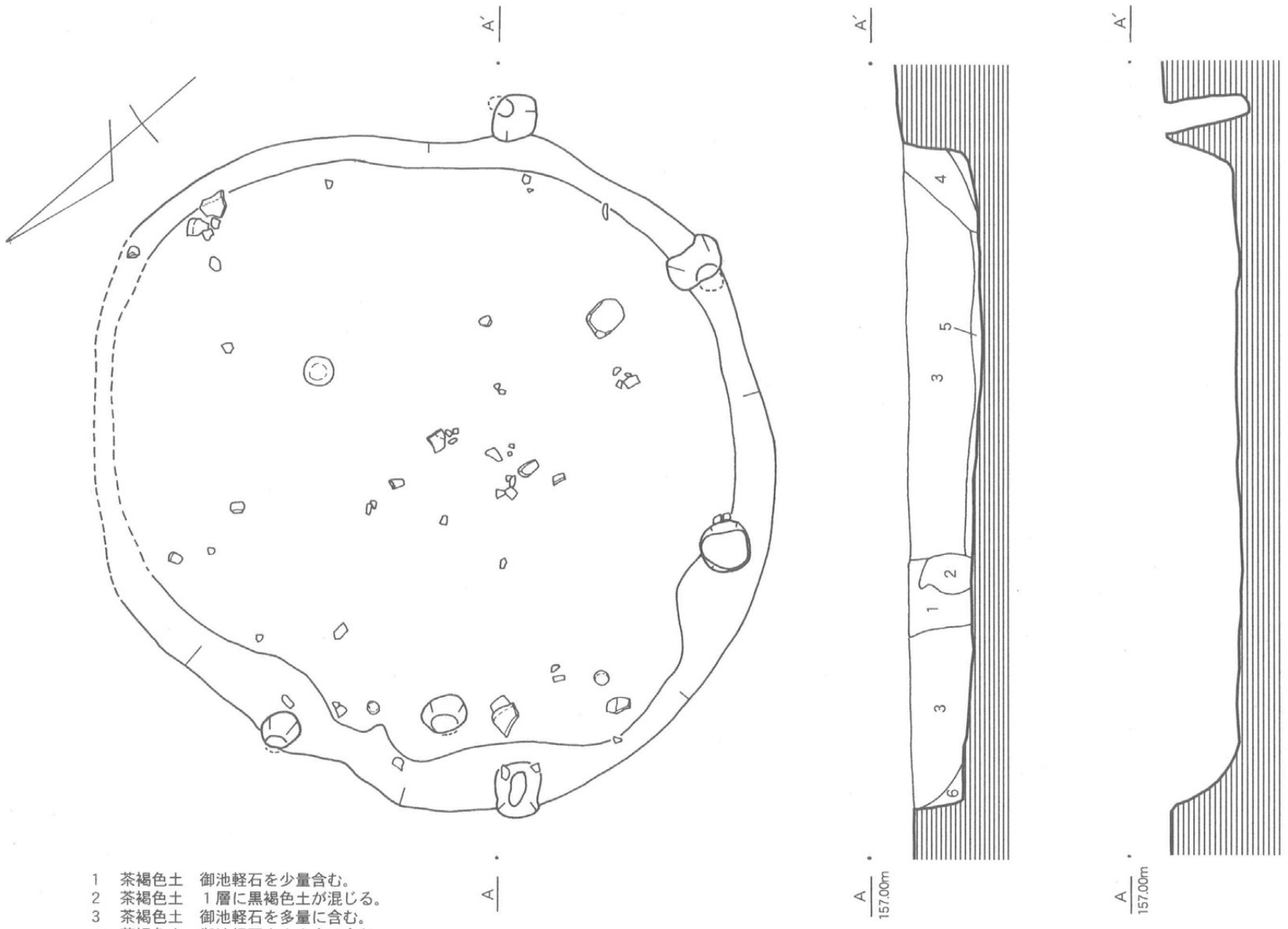
第41図　B区3号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第42図　B区４号竪穴住居跡実測図（1/40）

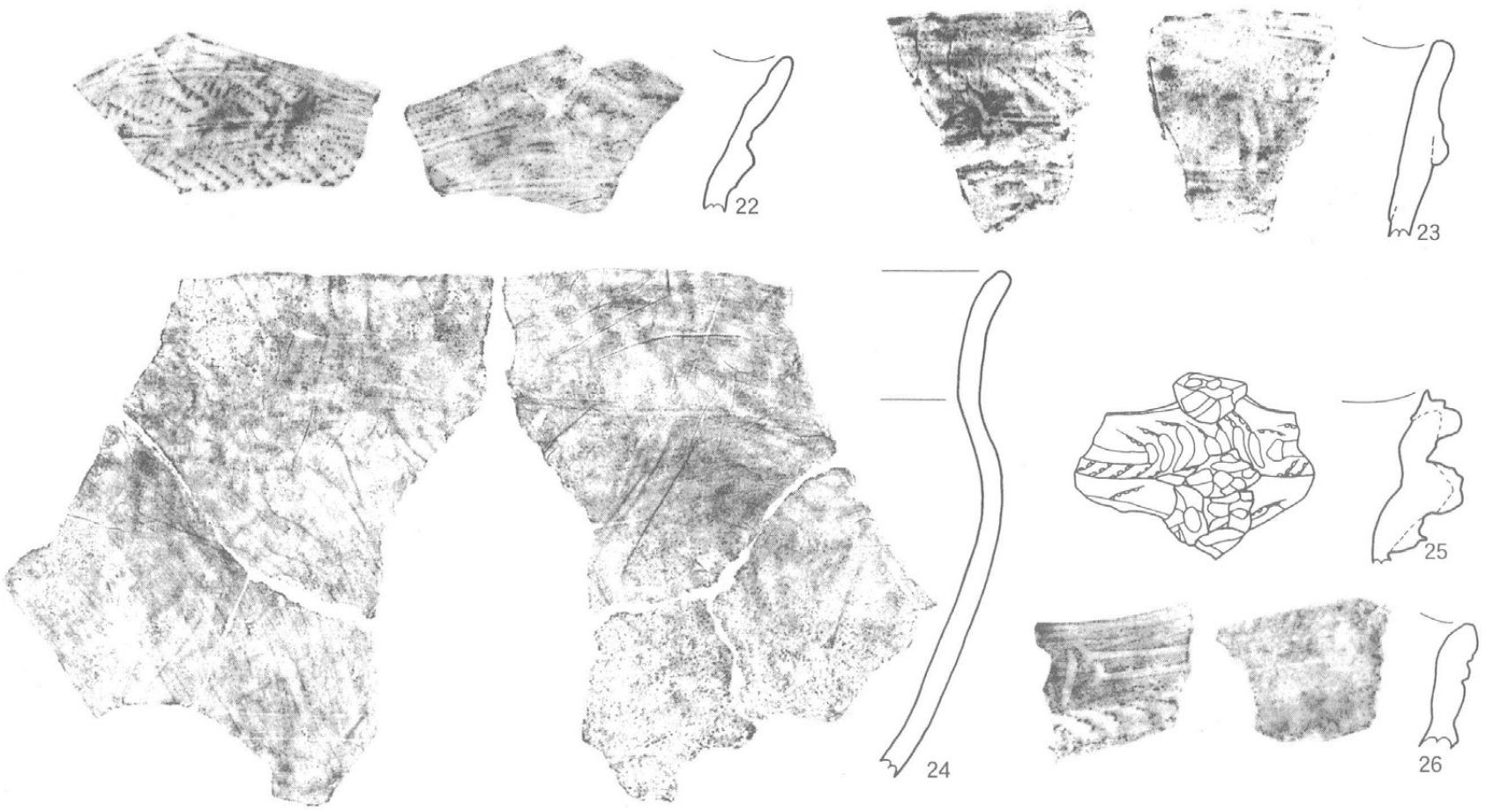


第43図　B区４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



1　茶褐色土　御池軽石を少量含む。
2　茶褐色土　１層に黒褐色土が混じる。
3　茶褐色土　御池軽石を多量に含む。
4　茶褐色土　御池軽石をやや多く含む。
5　褐色土　　御池軽石を含む。貼床。
6　御池軽石

第44図　B区５号竪穴住居跡実測図（1/40）



第45図　B区５・６号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

3号竪穴住居跡

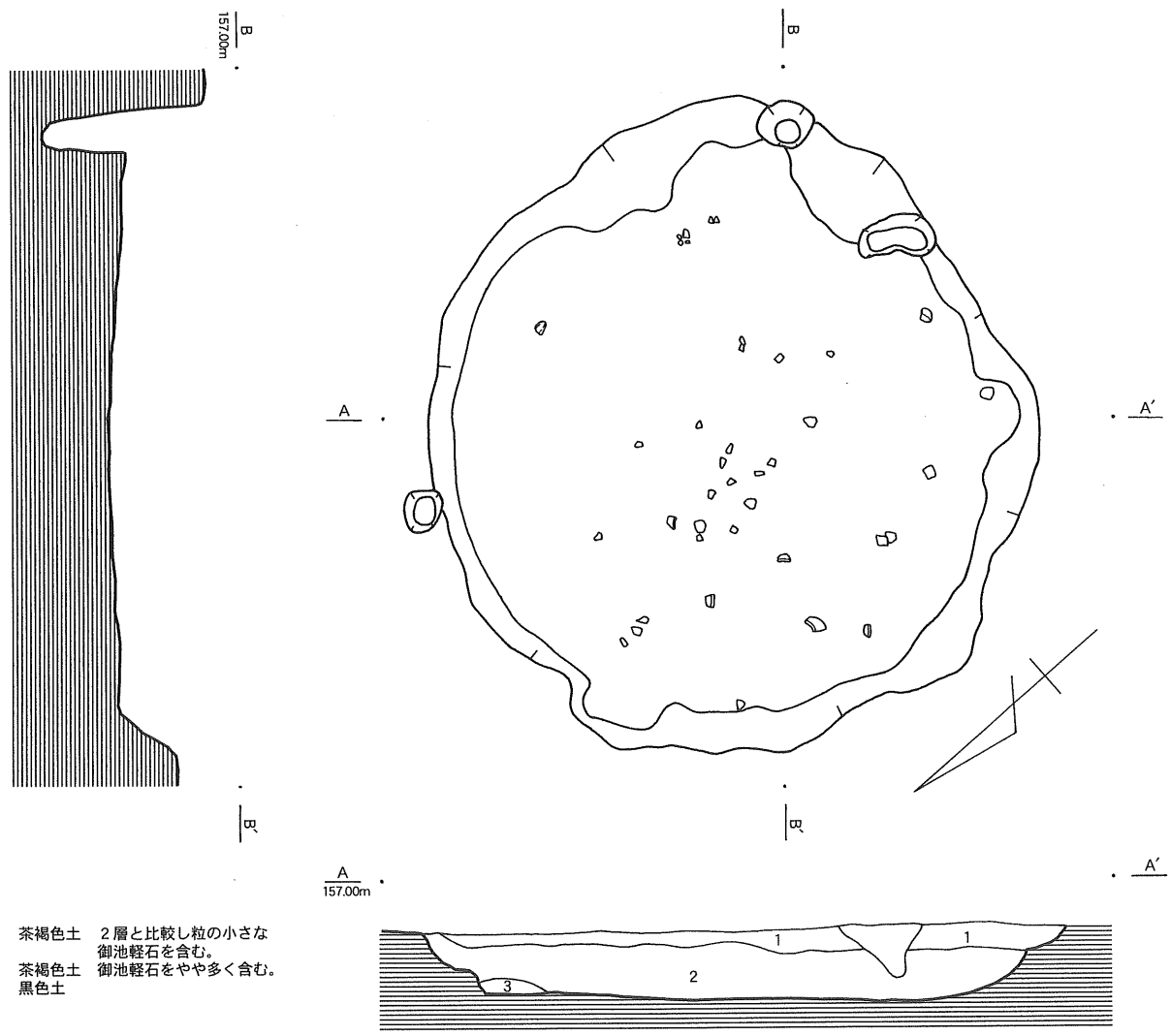
調査区のほぼ中央南側において検出された。1号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約3.3m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、計5本のピットが確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。18、19共に2層からの出土である。

18、19は黒色磨研土器の深鉢で外反する口縁部である。16は石錘で長軸の両端を打ち欠き抉りを作り出している。石材は頁岩である。

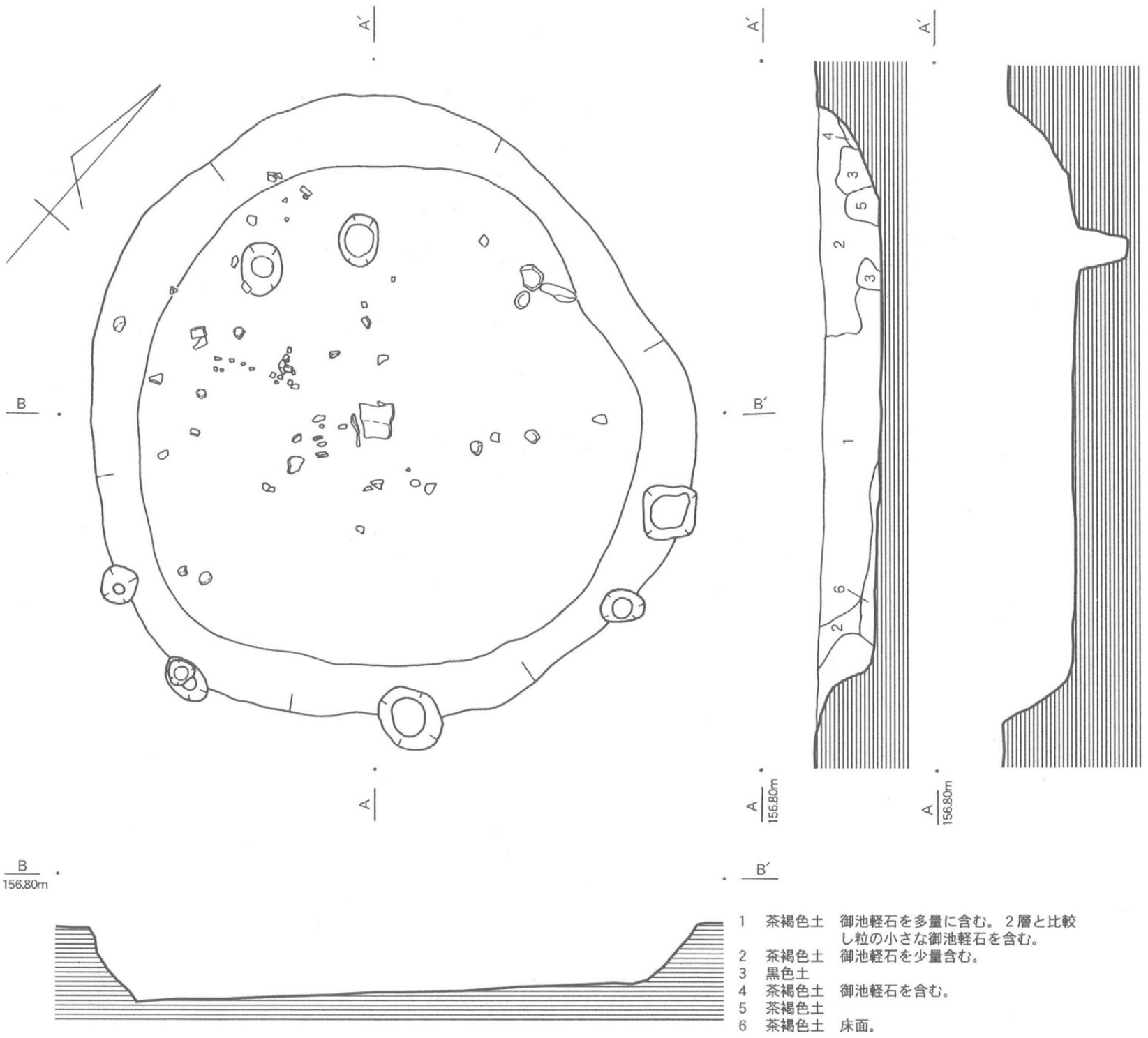
4号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。3号竪穴住居跡の南側、5号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は円形を呈し、長径約4.4m、短径約4.2m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面はほぼ平坦であるが、東側に一段高くなる面をもつ。ピットは壁に沿って計5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。20、21共に床面付近からの出土である。

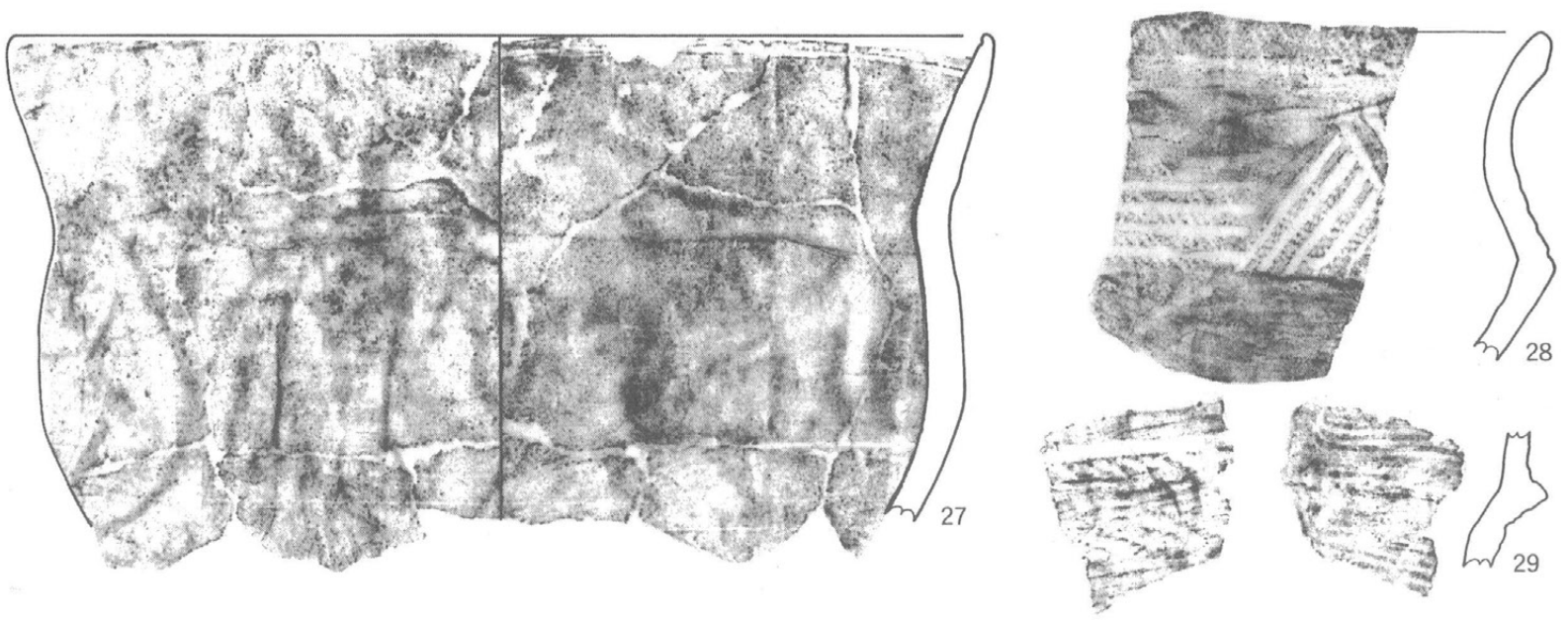
20は黒色磨研土器の深鉢で頸部の屈曲より口縁部が外反しながら開き、口唇部は平坦に仕上げる。21は台付付皿型土器の口縁部と考えられる。



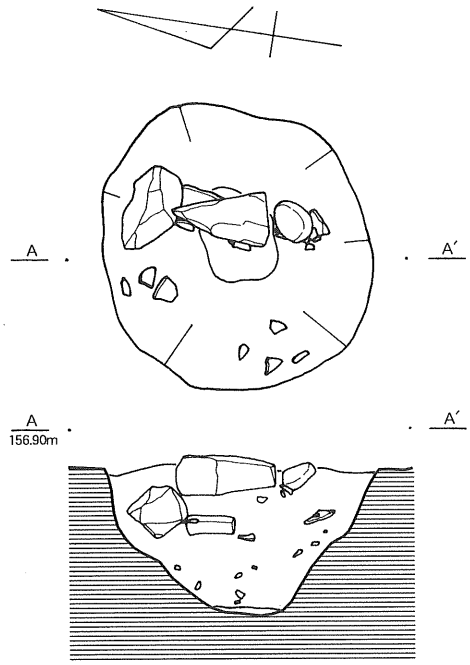
第46図　B区6号竪穴住居跡実測図（1/40）



第47図　B区７号竪穴住居跡実測図（1/40）



第48図　B区７号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第49図　B区１号土坑実測図（1/20）

5号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。2号竪穴住居跡の東側位置する。平面形態は円形を呈し、直径約3.5m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ピットは壁に沿って計6本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

22、23は深鉢で口縁部を肥厚させ文様帯を作り出し、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。24は黒色磨研土器の深鉢で頸部と胴部の境の屈曲は弱く、頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。

6号竪穴住居跡

調査区の南西隅において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約3.5m、短径約3.3m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ピットは壁に沿って計7本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。25、26共に中位から上位にかけての出土である。

25、26は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す深鉢で、文様帯下部が著しく張り出し口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。貝殻腹縁による連続刺文、沈線文を施す。17は凹石で表面にのみ敲打による凹みをもつ。石材は尾鈴山酸性岩類と考えられる。

7号竪穴住居跡

調査区の南西隅において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約3.5m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ピットは壁に沿って計7本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。27は接合資料で床面直上から1層上位にかけての出土である。28、29は1、2層上位からの出土である。

27は黒色磨研土器の深鉢で頸部と胴部の境の屈曲は弱く丸みを帯び、口縁部は外反する。28は胴部において屈曲し頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。磨消縄文を施す。29は深鉢で口縁部を肥厚させ作り出した文様帯下部が張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する深鉢の口縁下部と考えられる。貝殻腹縁による連続刺突文、沈線文を施す。

1号土坑

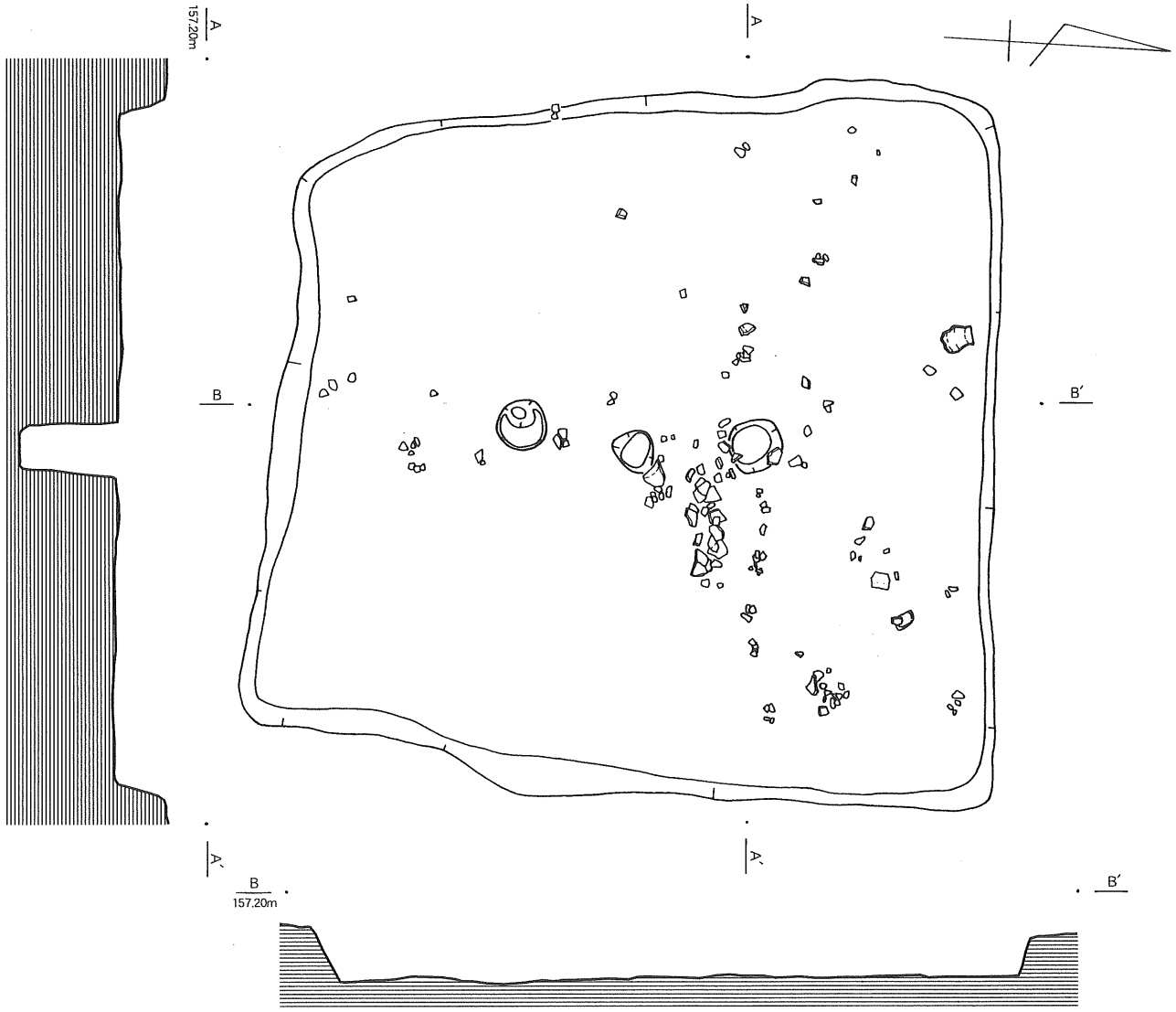
調査区の南東側で検出された。平面形態は円形を呈し、直径約0.72m、検出面からの深さ約0.4mを測る。上部に人頭大の石を配し、埋土中より突帯文土器の小片が出土している。

古墳時代の遺構と遺物

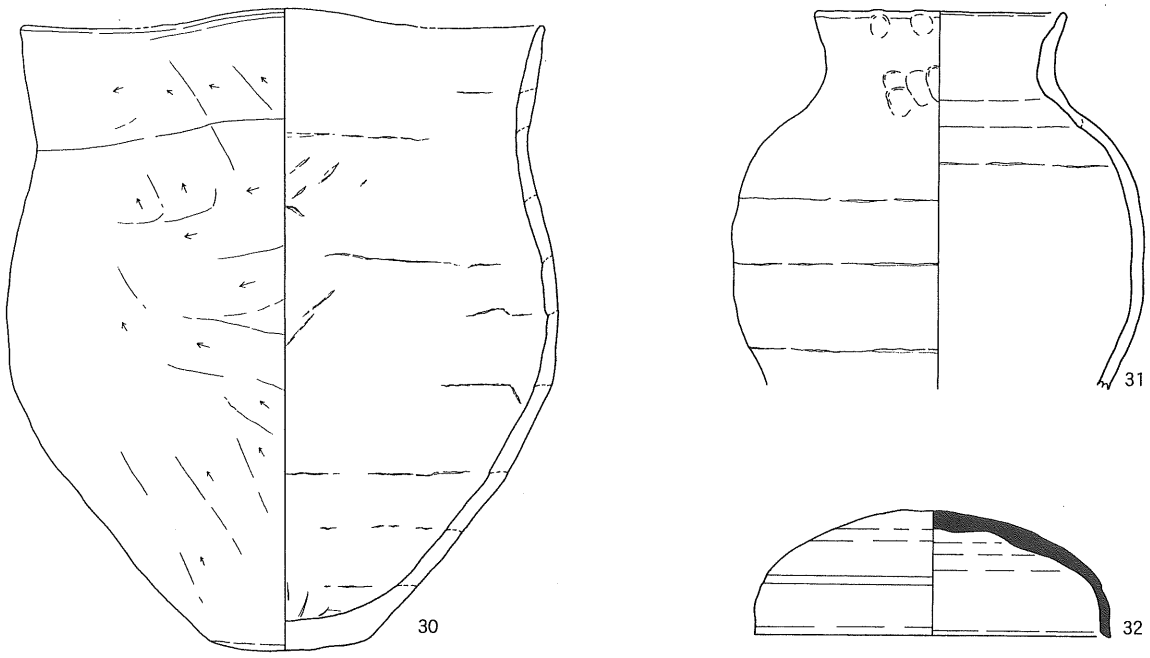
8号竪穴住居跡

調査区の南東隅において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約4.2m、短軸約4.0m検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で中央においてピット3本が確認されている。埋土は1層で御池軽石を多量に含む茶褐色土である。埋土中より須恵器、土師器が出土している。3は床面直上よりの出土である。

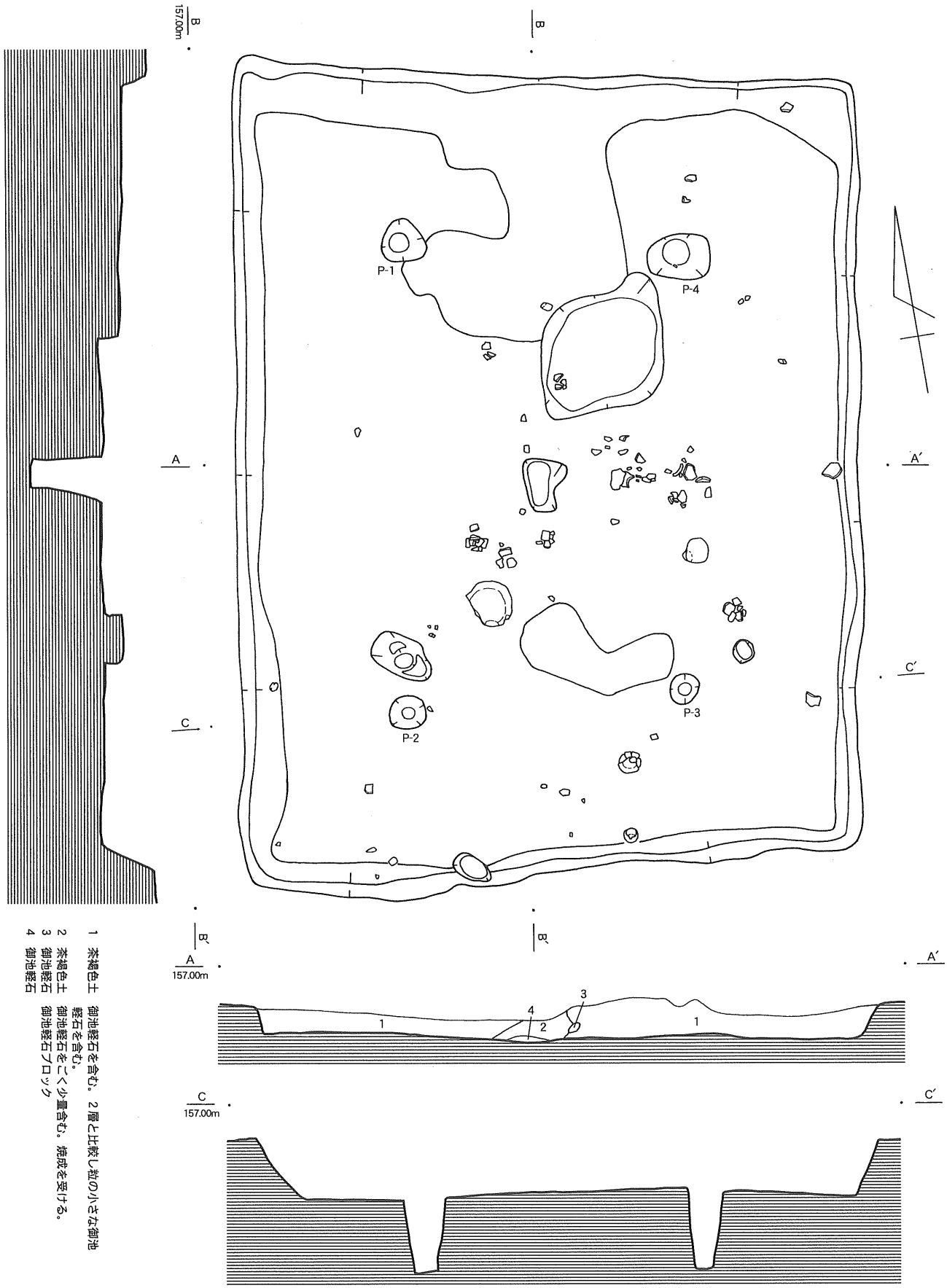
１は甕で胴部はやや膨らみをもちながら立ち上がり、頸部において屈曲し口縁部は外反する。2は壷で口縁部は外反する。3は須恵器坏蓋である。



第51図　B区８号竪穴住居跡実測図（1/40）

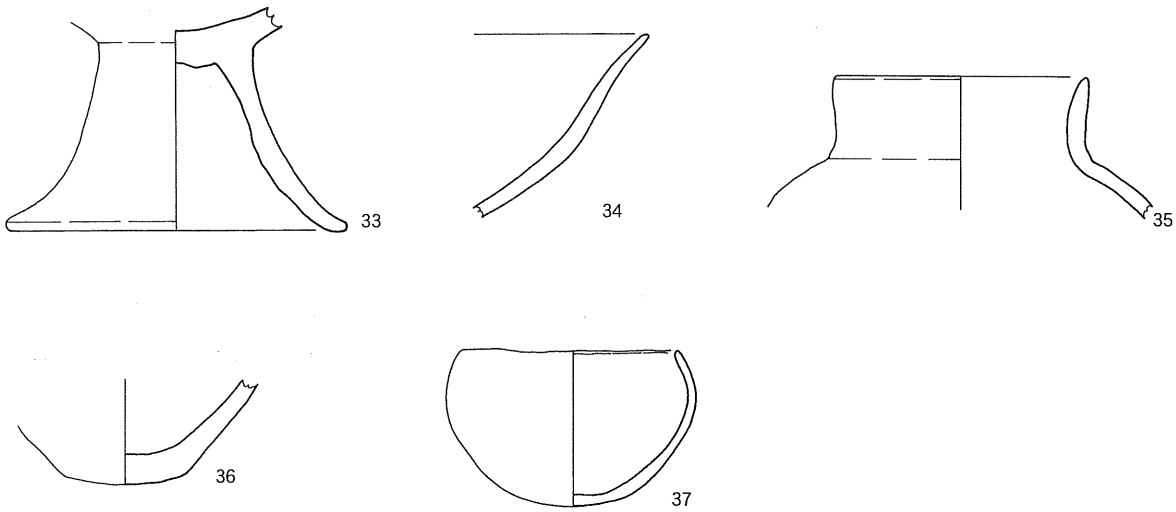


第52図　B区８号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

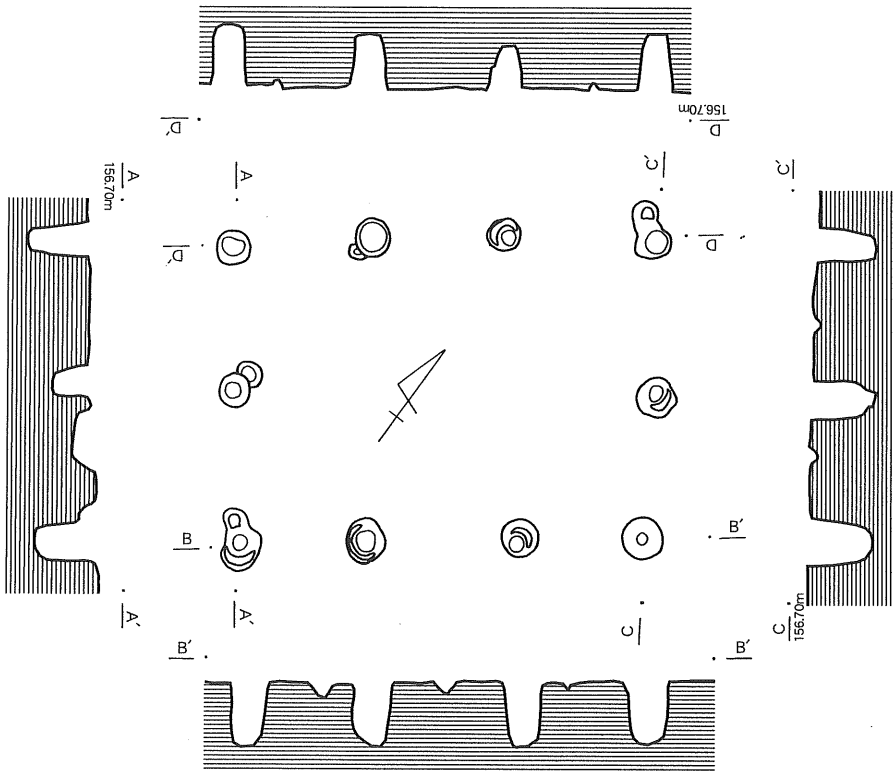


1　茶褐色土　御池軽石を含む。2層と比較し粒の小さな御池軽石を含む。
2　茶褐色土　御池軽石をごく少量含む。焼成を受ける。
3　御池軽石
4　御池軽石ブロック

第53図　B区9号竪穴住居跡実測図（1/40）



第54図　B区９号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）



第55図　B区１号掘立柱建物跡実測図（1/100）

9号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側おいて検出された。平面形態は長方形を呈し、長軸約5.7m、短軸約4.6m検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は二段になっているが、住居使用時は検出面からの深さ約0.2mの高さで平坦に構築されていたと考えられる。床面中央北側より楕円形を呈し長径約1.2m、短径約0.9m、床面からの深さ約0.2mを測る土坑をもつ。ピットは計7本が確認されており、主柱穴はP-1～4の4本と考えられる。埋土中より土師器が出土している。

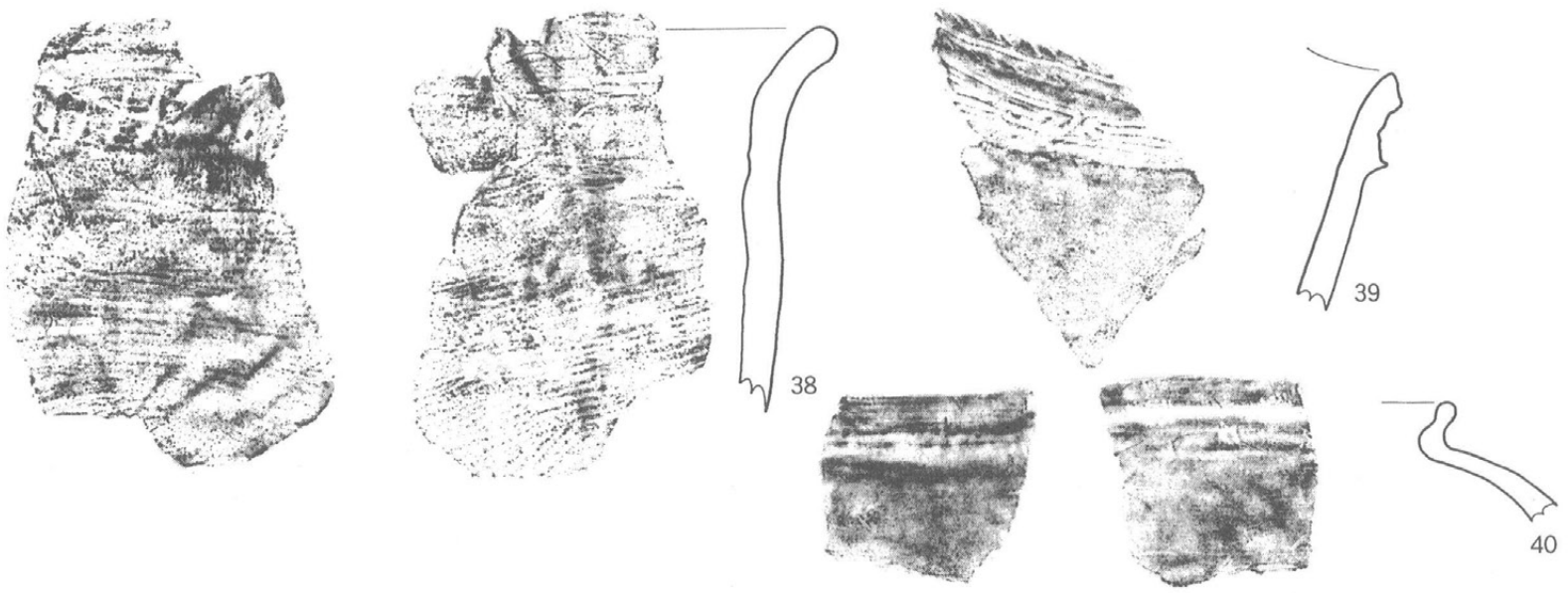
33、34は高坏である。33はラッパ状に開く脚部、34は受部と口縁部との境が丸味を帯び、口縁部

は大きく外反しながら大きく開く坏部である。いずれも赤色顔料を施す。35は壷口縁部でやや外反する。36は甕底部と考えられレンズ状の平底を呈する。37は底部が小さく口縁部は強く内湾する椀である。内外面に赤色顔料を施す。

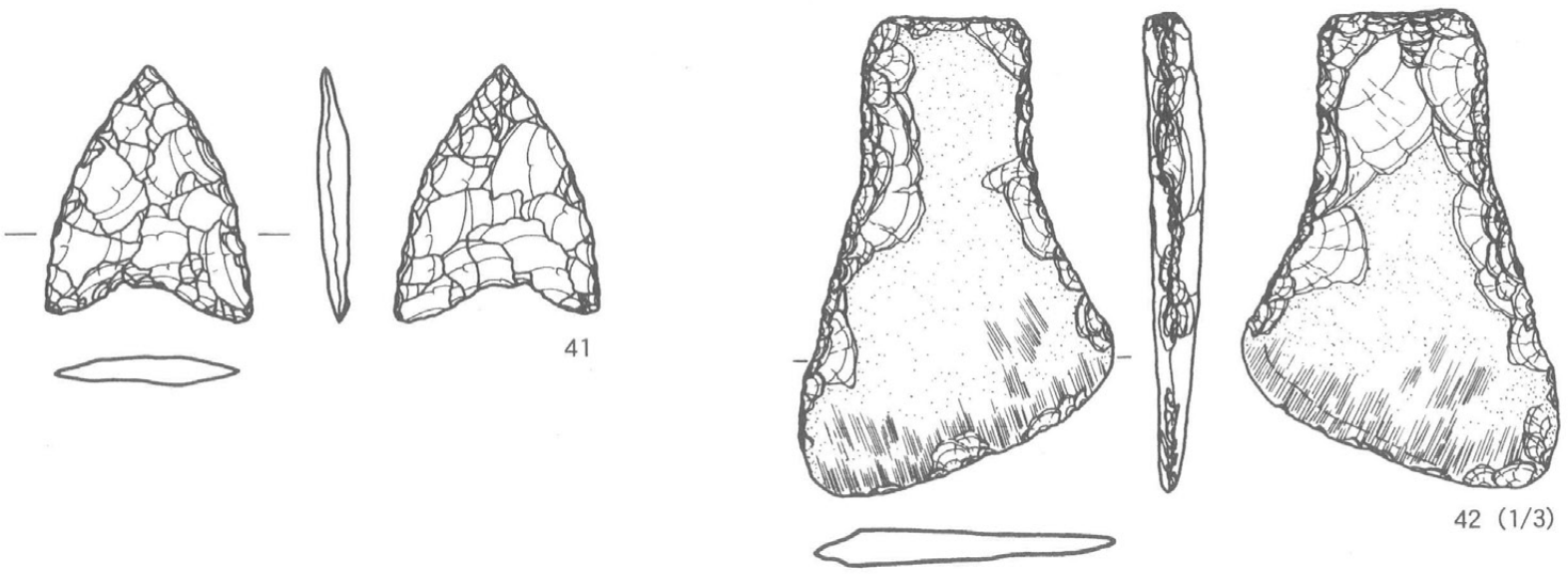
古代の遺構

1号掘立柱建物跡

調査区の南西隅において検出された。主軸方向はN－54°－Eをとる。2間×3間の側柱式の掘立柱建物になると考えられ、梁行約3.7m、桁行約5.5mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は約50cm、検出面からの深さは約75cmを測る。



第56図　B区包含層出土土器拓影図（1/3）



第57図　B区包含層出土石器実測図（1/1）

表27　山城第1遺跡第3次調査B区出土遺物観察表1

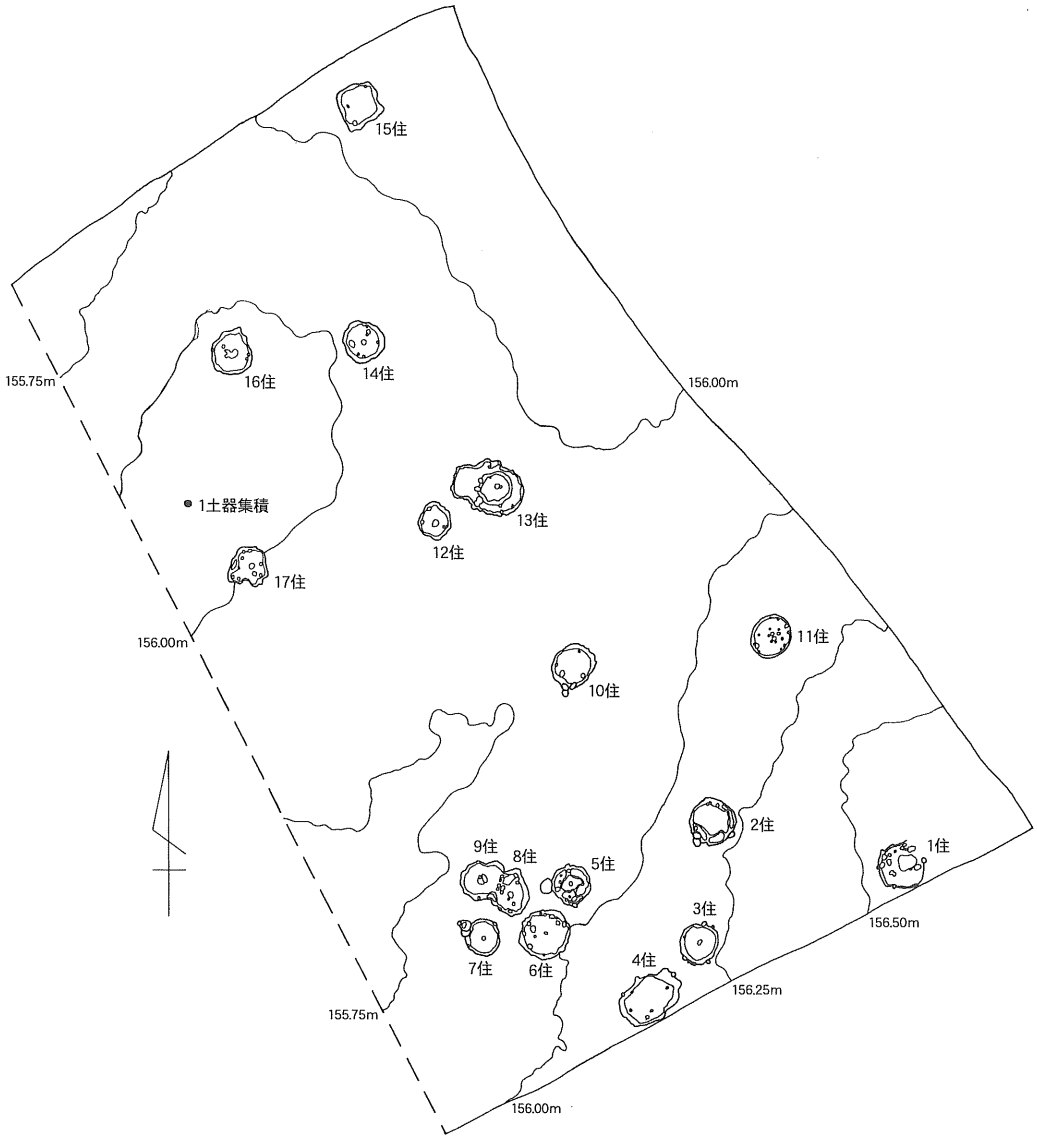
単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器) 口径 最大長	底径 最大幅	器高 最大厚	手法・文様 外器面	内器面	色調 外面	内面	胎土	備考
1	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
2	1号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
3	1号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	黒褐	1mm以下の白色粒ごく少量。	
4	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm程度の白色・灰色粒ごく少量。	
5	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	暗褐	黒褐	1～2mmの白色・茶褐色粒少量。	
6	1号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	にぶい橙	黒褐	1～2mmの白色・茶褐色粒ごく少量。	
7	1号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	にぶい黄橙	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色粒ごく微量。	
8	1号住居	縄文土器	深鉢	(16.4)			貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	褐灰	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
9	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
10	2号住居	縄文土器	深鉢				突帯。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
11	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	
12	2号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。口唇部に貝殻腹縁刺突文。	沈線文。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～2mmの白色・茶褐色粒少量。	
13	2号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
14	2号住居	縄文土器	鉢	6.0	5.2	4.8	ナデ。口唇部に刻目。粘土紐による装飾。	ナデ。	灰白	浅黄橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
15	2号住居	石器	石皿	(27)	(18)	9						4.9g・砂岩
16	3号住居	石器	石錘	3.7	3.1	0.8						14g・頁岩
17	6号住居	石器	凹石	6.3	8.2	3.25						301g・尾鈴山酸性岩類?
18	3号住居	縄文土器	深鉢	(22.3)			ミガキ。	ミガキ。ナデ。	黒褐	にぶい黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
19	3号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	ミガキ。ナデ。	黒褐	にぶい黄褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
20	4号住居	縄文土器	深鉢	(24.8)			ミガキ。	ミガキ。ナデ。	暗赤褐	褐灰	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
21	4号住居	縄文土器	台付皿形土器				ナデ。	ナデ。	明赤褐	橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。1～2mmの茶褐色粒ごく少量。	
22	5号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
23	5号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
24	5号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。スス付着。	沈線文。ミガキ。ナデ。	黒褐	灰黄褐	1mm以下の白色・茶褐色粒子ごく少量。雲母少量。	
25	6号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色粒子微量。	
26	6号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。刺突文。ナデ。スス付着。	ナデ。	黒褐	黒褐	1mm以下の石英粒少量。1mm以下の黒色粒微量。雲母ごく少量。	
27	7号住居	縄文土器	深鉢	(30.2)			ミガキ。スス付着。	沈線。ミガキ。ナデ。	にぶい橙	明黄褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母少量。	
28	7号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。磨消縄文。穿孔。ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の黒色粒少量。	
29	7号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗赤褐	明赤褐	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
30	8号住居	土師器	甕	(26)	6.2	25.8	工具ナデカ。	ナデ。	浅黄	灰白	1mm程度の石英粒ごく少量。1～2mmの黒色・白色・茶褐色粒少量。	
31	8号住居	土師器	壷	(9.8)			ナデ。	ナデ。	灰白	灰白	1mm以下の黒色・白色粒子ごく少量。1～2mmの茶褐色粒微量。	
32	8号住居	須恵器	坏蓋	14.1		5.3	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	回転ヘラケズリ。回転ナデ。	黄灰	灰	1mm以下の黒色・白色粒子微量。	
33	9号住居	土師器	高坏		13.4		ミガキ。赤色顔料。	ナデ。	暗赤褐	にぶい黄橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒子ごく少量。	
34	9号住居	土師器	高坏				ミガキ。赤色顔料。	ミガキ。赤色顔料。	赤褐	赤褐	1mm以下の白色粒子ごく少量。	

表28　山城第1遺跡第3次調査B区出土遺物観察表2

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
35	9号住居	土師器	壺		10.9		ミガキ。赤色顔料。	ナデ。	橙	浅黄橙	1～2㎜の茶褐色粒子ごく少量。	
36	9号住居	土師器	甕		5.4		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒子微量。	
37	9号住居	土師器	碗	9		6.3	ヨコ方向のミガキ。	ナデ。	明黄褐	明黄褐	1㎜以下の黒色・茶褐色粒ごく少量。	
38	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1～2㎜の茶褐色粒微量。雲母微量。	
39	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1㎜以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
40	包含層	縄文土器	浅鉢				ミガキ。	ミガキ。ナデ。	褐灰	褐灰	1㎜以下の白色粒子微量。	
41	包含層	石器	石鏃	2.6	2.05	0.3						1.2g・安山岩
42	包含層	石器	打製石斧	14.2	8.9	1.4						2.07g・フォルンフェルス



第58図　C区地形図（1/600）

第59図　C区遺構分布図（1/600）

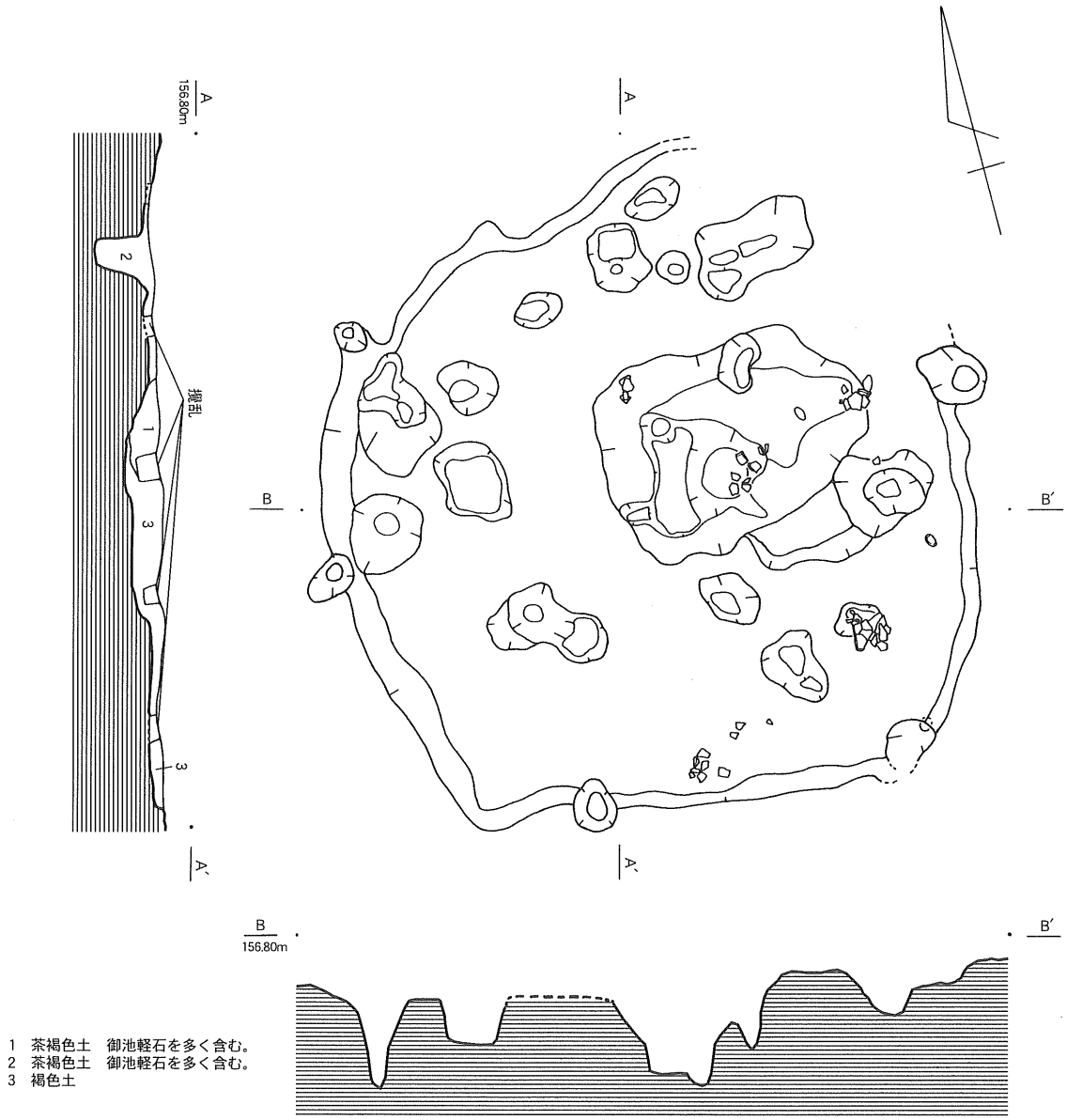
C区の調査

層序

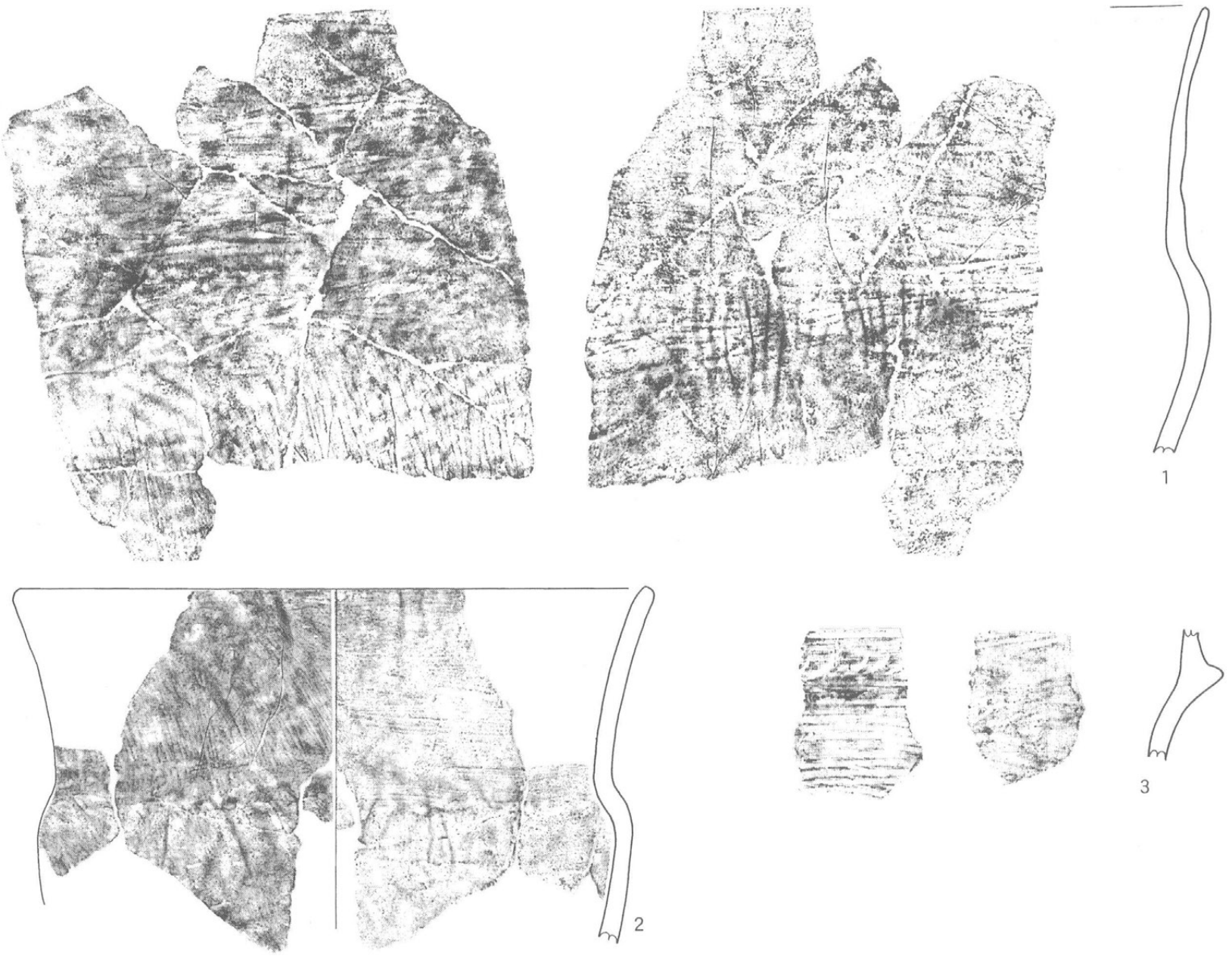
調査区の標高は155.75m～156.50mで、南側が高く、北西方向に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・黒色土、3層・高原スコリア、4層・黒褐色土、5層・褐色土、6層・暗褐色土、7層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

遺構と遺物

C区においては縄文時代の竪穴住居跡17軒、時期不明のピット多数が検出された。



第60図　C区１号竪穴住居跡実測図（1/40）



第61図　C区１・２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

縄文時代の遺構と遺物

1号竪穴住居跡

調査区の南東端において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約4.0m、検出面からの深さ約0.1mを測る。北東側は削平のため遺存していない。中央に楕円形を呈し、長径約150cm、短径約120cm、床面からの深さ約60cmを測る土坑を持つ。ピットは計19本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

1、2とも深鉢口縁部で、頸部から胴部にかけての屈曲は弱く丸みを帯び、頸部から口縁部にかけて外反しながら立ち上がる。

2号竪穴住居跡

調査区の南側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約3.6m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面はほぼ平坦であるが、東側、南側から西側壁に沿って一段高くなる。ピットは計9本が確認されている。埋土は御池軽石を多く含む黒褐色土一層である。埋土中より縄文土器が出土している。

3は口縁部文様帯が張り出し逆「く」字状の屈曲を呈する深鉢の口縁下部と考えられる。貝殻腹縁による連続刺突文を施す。

3号竪穴住居跡

調査区の南端において検出された。4号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約3.1m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、ピットは計5本が確認されている。埋土中

第62図　C区２号竪穴住居跡実測図（1/40）

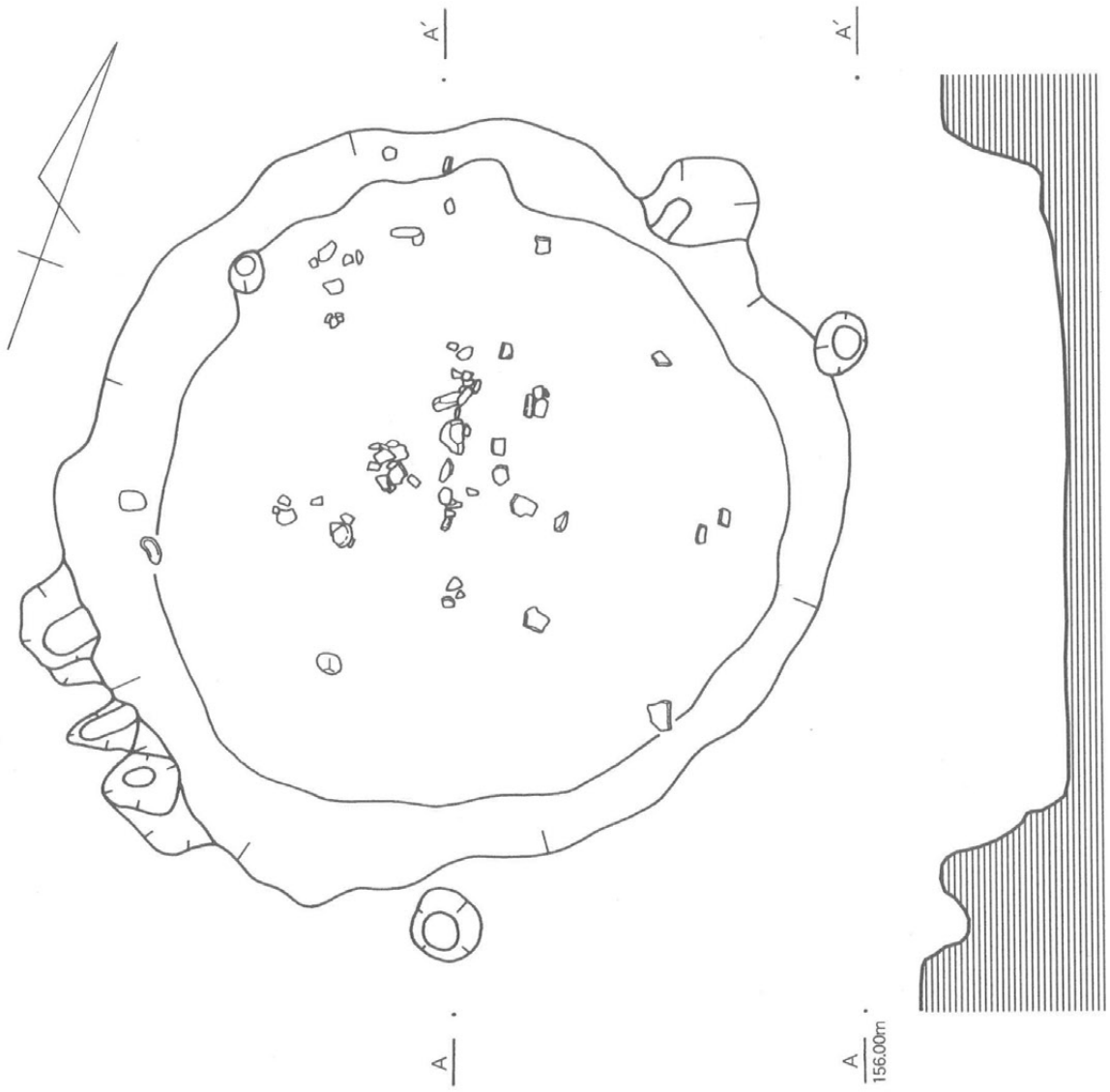
より縄文土器が出土している。5、7は床面付近からの出土である。

4から6は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す深鉢である。4は文様帯が著しく張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。5は文様帯が小さく、6は文様帯下部の張り出しが突帯様を呈する。7は直線的に立ち上がる深鉢口縁部で端部に2条の沈線文を施し、口唇部は平坦に仕上げる。8は口縁部が外反し屈曲部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。9は深鉢底部である。平底で網代痕を有する。

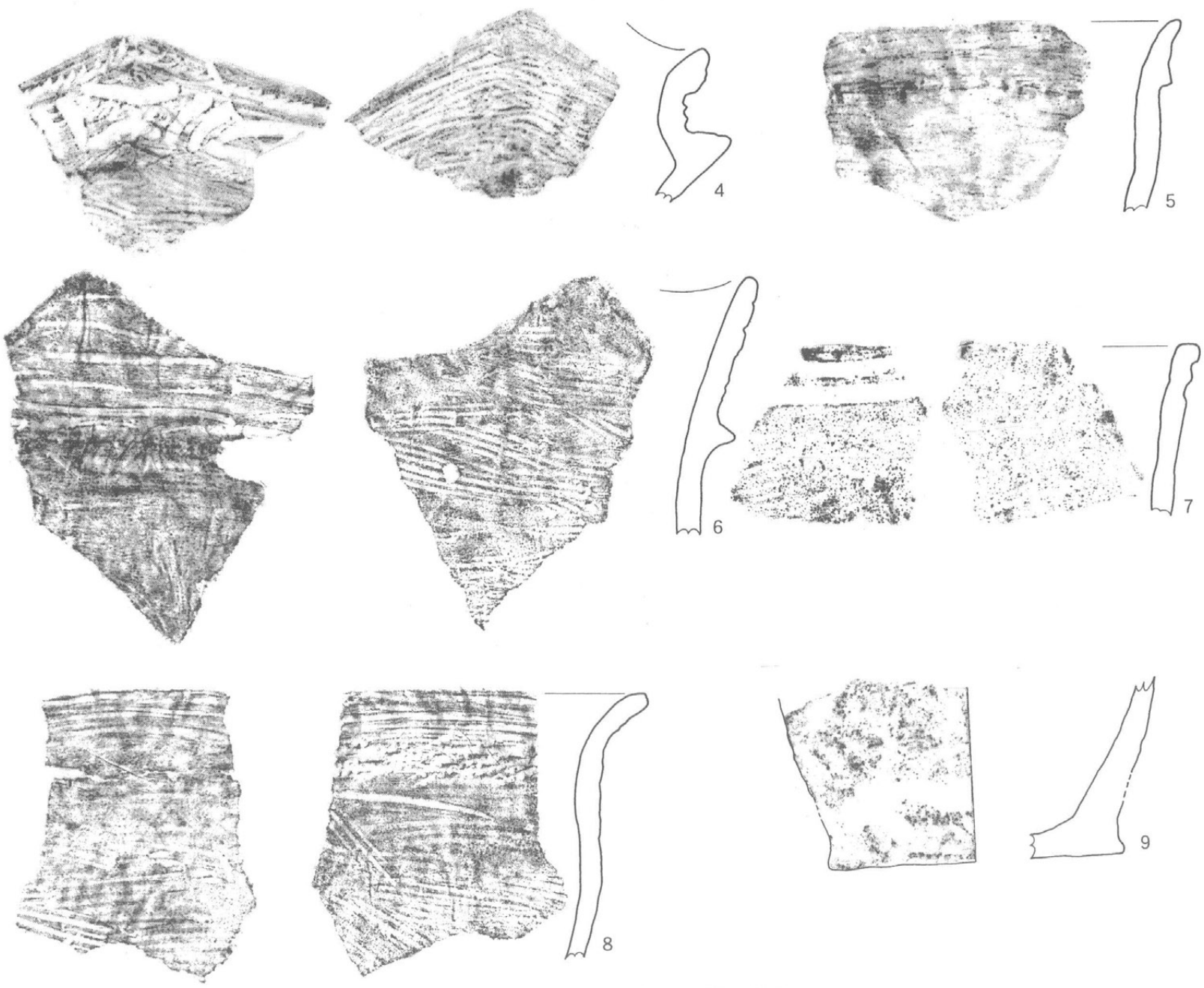
4号竪穴住居跡

調査区の南端において検出された。3号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、長径約5.3m、短径約3.7m、検出面からの深さ約0.6mを測る。床面はほぼ平坦で、ピットは計6本が検出されている。遺構検出時、住居の埋土上東側より焼土が検出されている。埋土中より縄文土器が出土している。13は床面付近からの出土である。

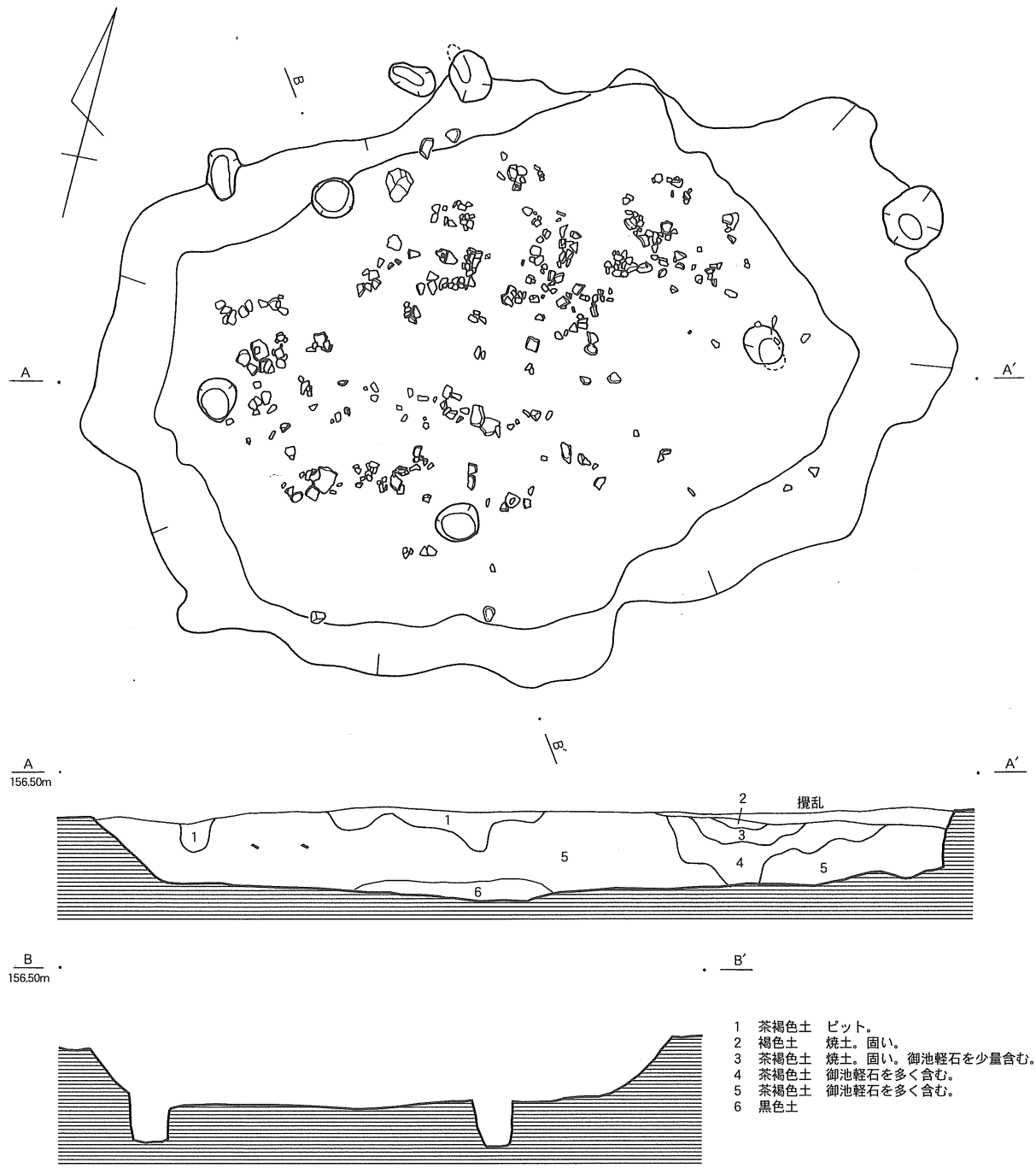
10～17は深鉢口縁部である。10は胴部においてやや内側に屈曲し、外反しながら口縁部に向かい立ち上がる。刺突で止めた沈線文の下に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。11、12は口縁部を肥厚させた文様帯をもち、貝殻腹縁による刺突文を施す。13、14は外反する口縁部で、13は沈線文による区画内に貝殻腹縁刺突文を施す。15～17は直線的に立ち上がる深鉢口縁部で、口唇部は平坦に仕上げる。いずれも貝殻条痕による調整を施す。18は深鉢底部で平底である。66は小型の磨製石斧で片面のみを研磨している。石材は頁岩である。



第63図　C区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



第64図　C区３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

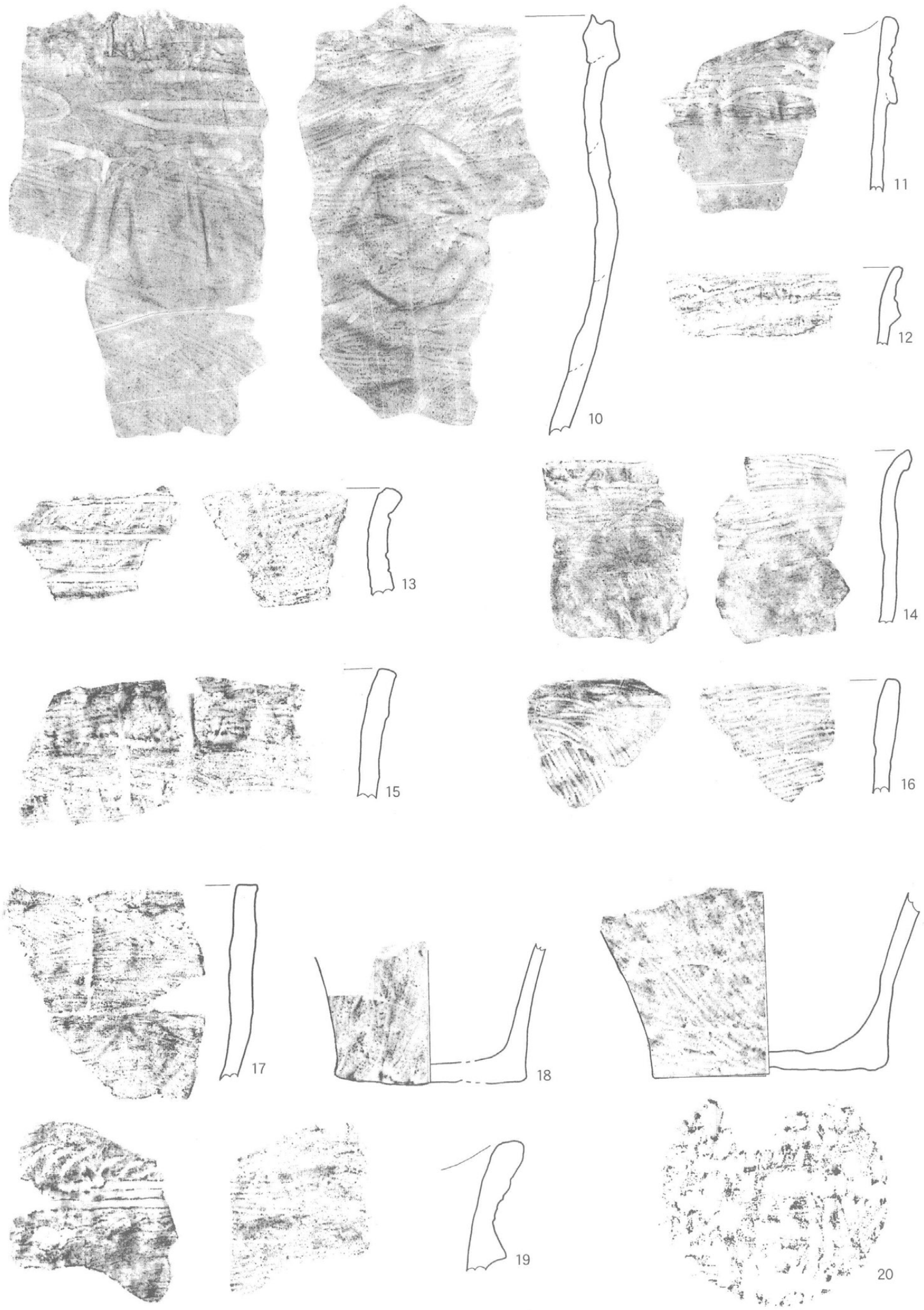


第65図　C区４号竪穴住居跡実測図（1/40）

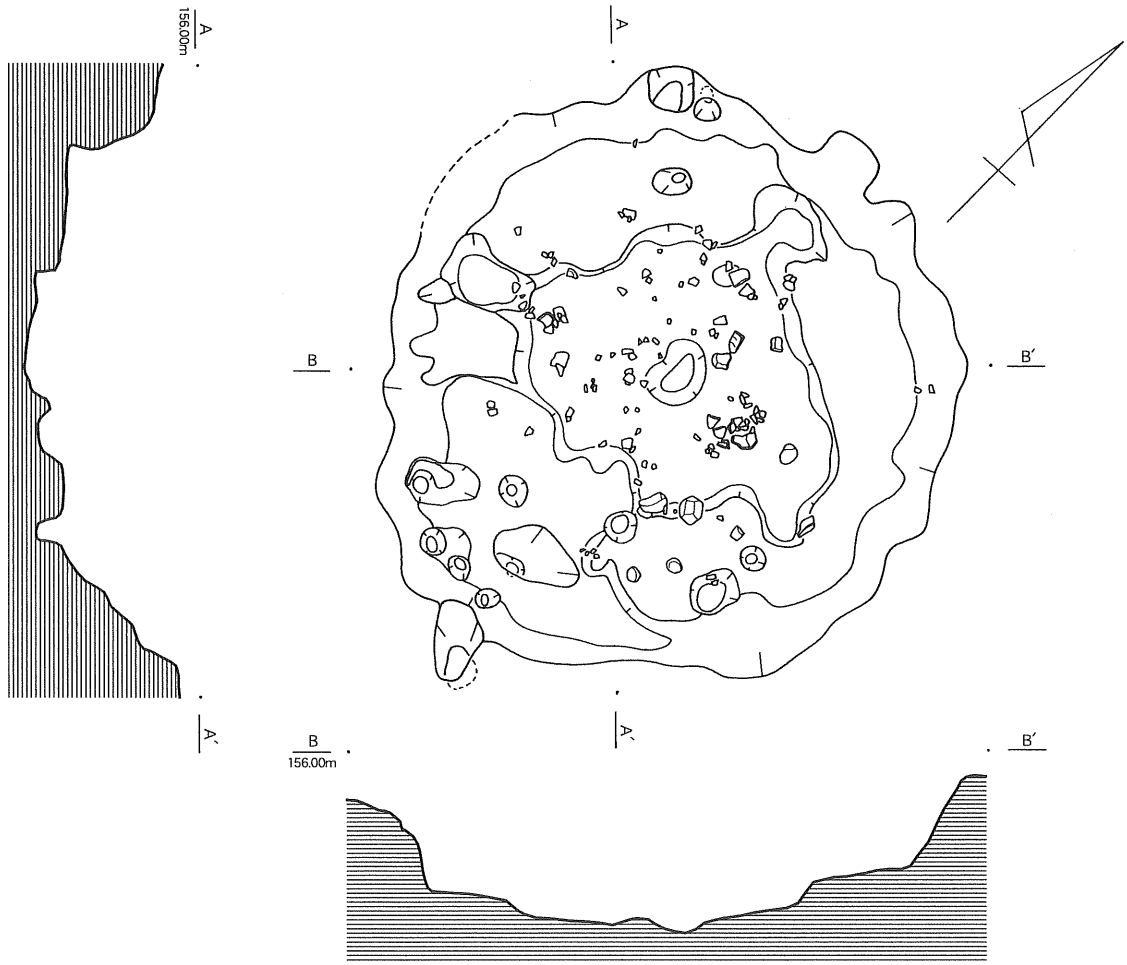
5号竪穴住居跡

調査区の南西側において検出された。6、8号竪穴住居跡の東側に位置する。平面面形態は円形を呈し、直径約3.1m、検出面からの深さ約0.7mを測る。床面は中央が一段、約10cm下がる。ピットは計12本が確認されている。埋土は御池軽石をやや多く含む茶褐色土一層である。埋土中より縄文土器が出土している。

19は大きく張り出す文様帯をもつ深鉢口縁部である。沈線文、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。20は深鉢底部である。平底で網代痕を有する。



第66図　C区４・５号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第67図　C区５号竪穴住居跡実測図（1/40）

6号竪穴住居跡

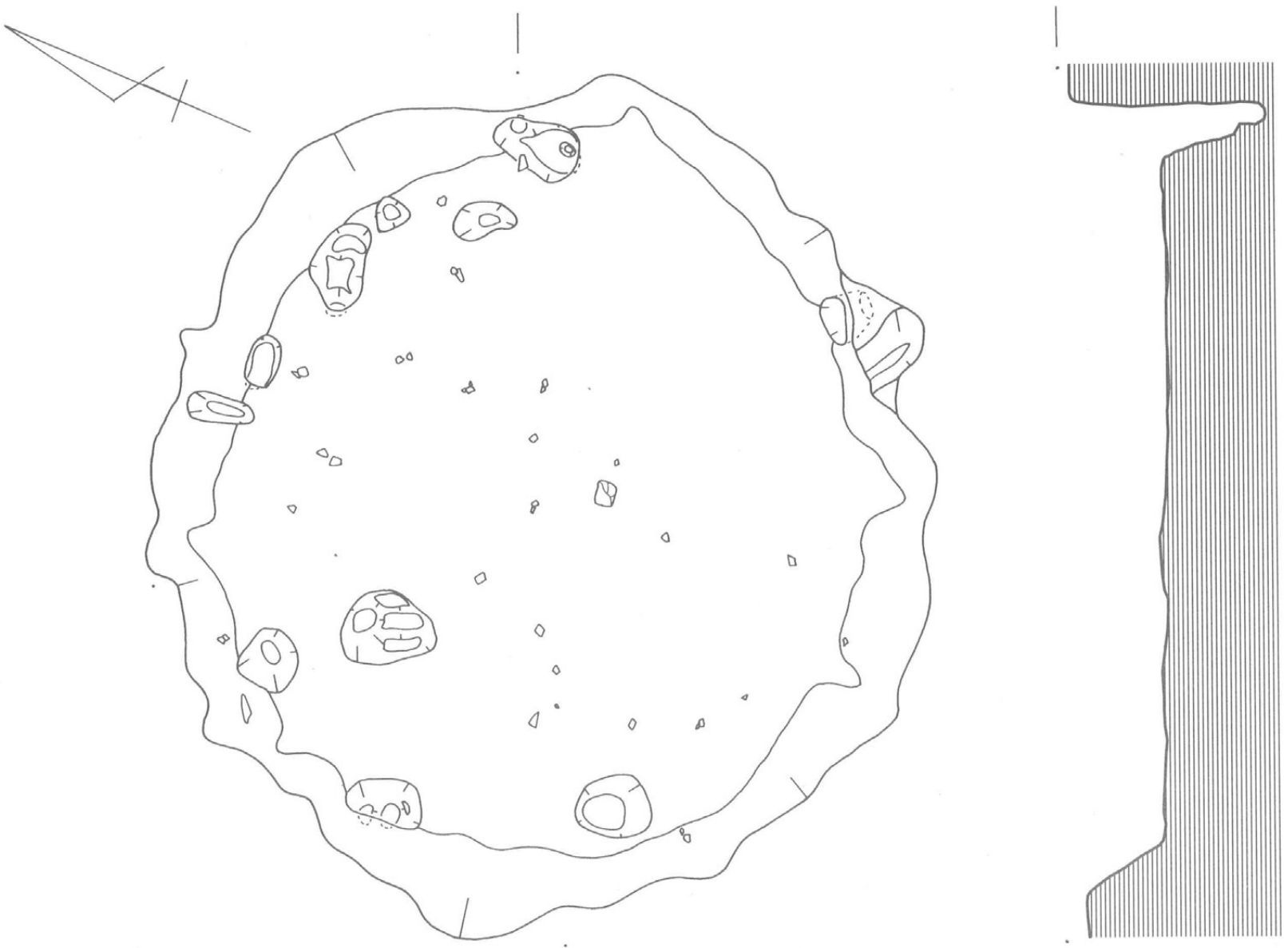
調査区の南西側において検出された。8号竪穴住居跡の南側、7号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約4.0m、検出面からの深さ約0.45mを測る。床面は平坦で、ピットは計10.本が確認されている。埋土は御池軽石を多く含む茶褐色土一層である。埋土中より縄文土器、礫が出土している。

27は深鉢底部で平底である。69は磨製石斧である。平面形態は台形状を呈し、刃部は両刃である刃部の3分の2程は欠損している。石材はフォルンフェルスである。

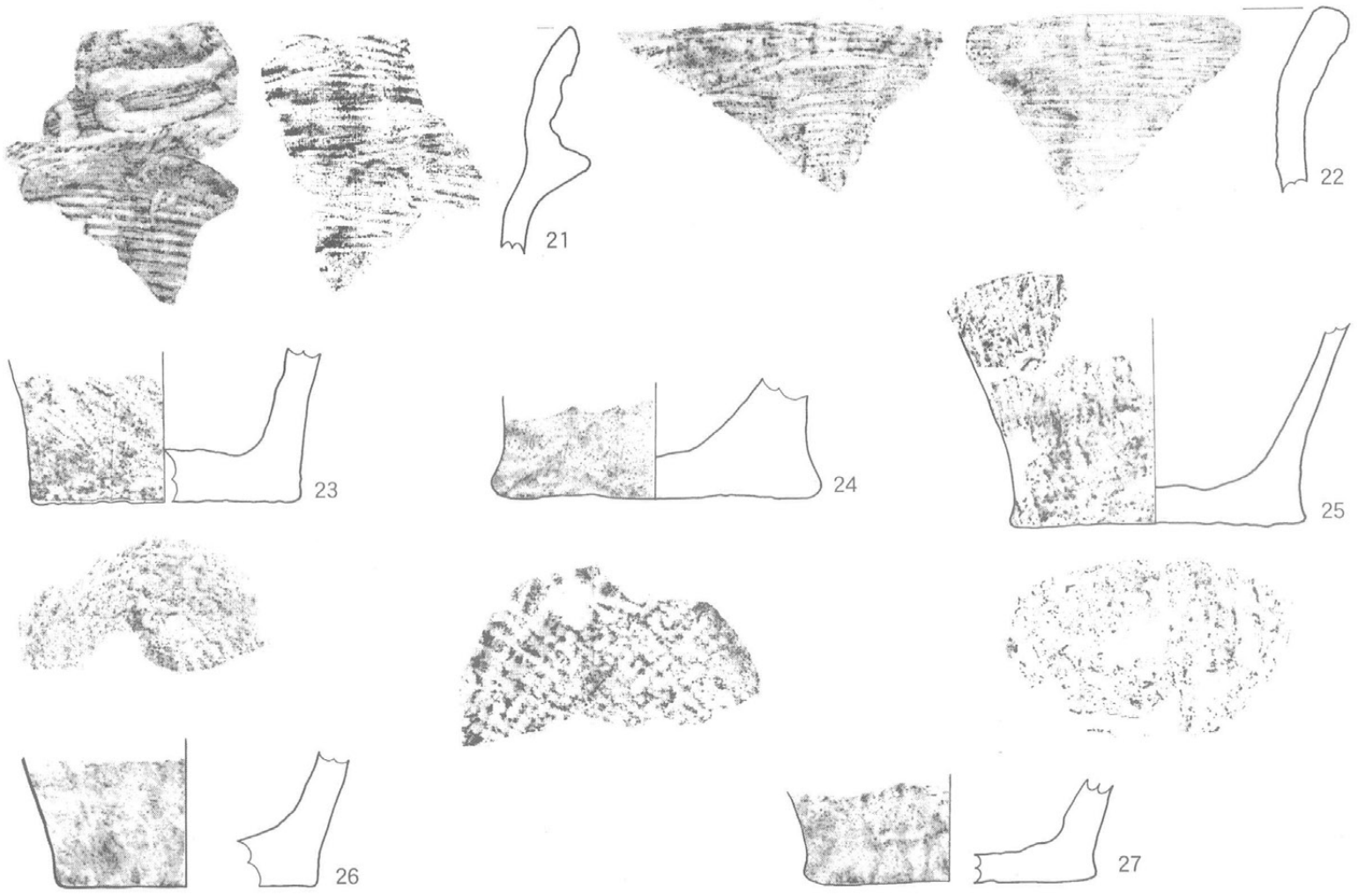
7号竪穴住居跡

調査区の南西側において検出された。8、9号竪穴住居跡の南西側、6号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は円形を呈し、直径約2.9m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で、ピットは3本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

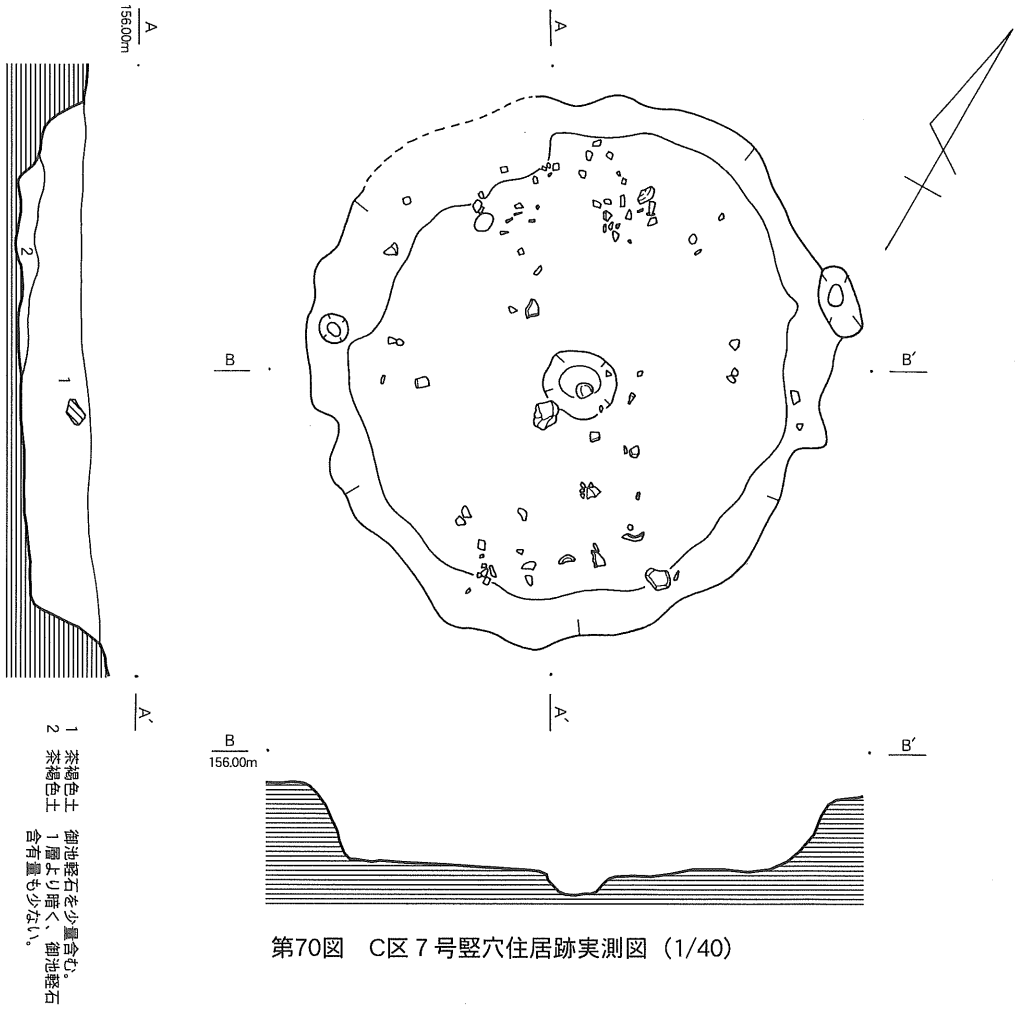
21、22は深鉢口縁部で、21は口縁部文様帯が著しく張り出し口縁部断面が逆「く」字状を呈する。凹線文と爪形文を施す。22は外反する口縁部で、口唇部は平坦に仕上げている。23～26は深鉢底部で、いずれも平底であり、23、24は網代痕を有する。



第68図　C区６号竪穴住居跡実測図（1/40）



第69図　C区６・７号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第70図　C区７号竪穴住居跡実測図（1/40）

8号竪穴住居跡

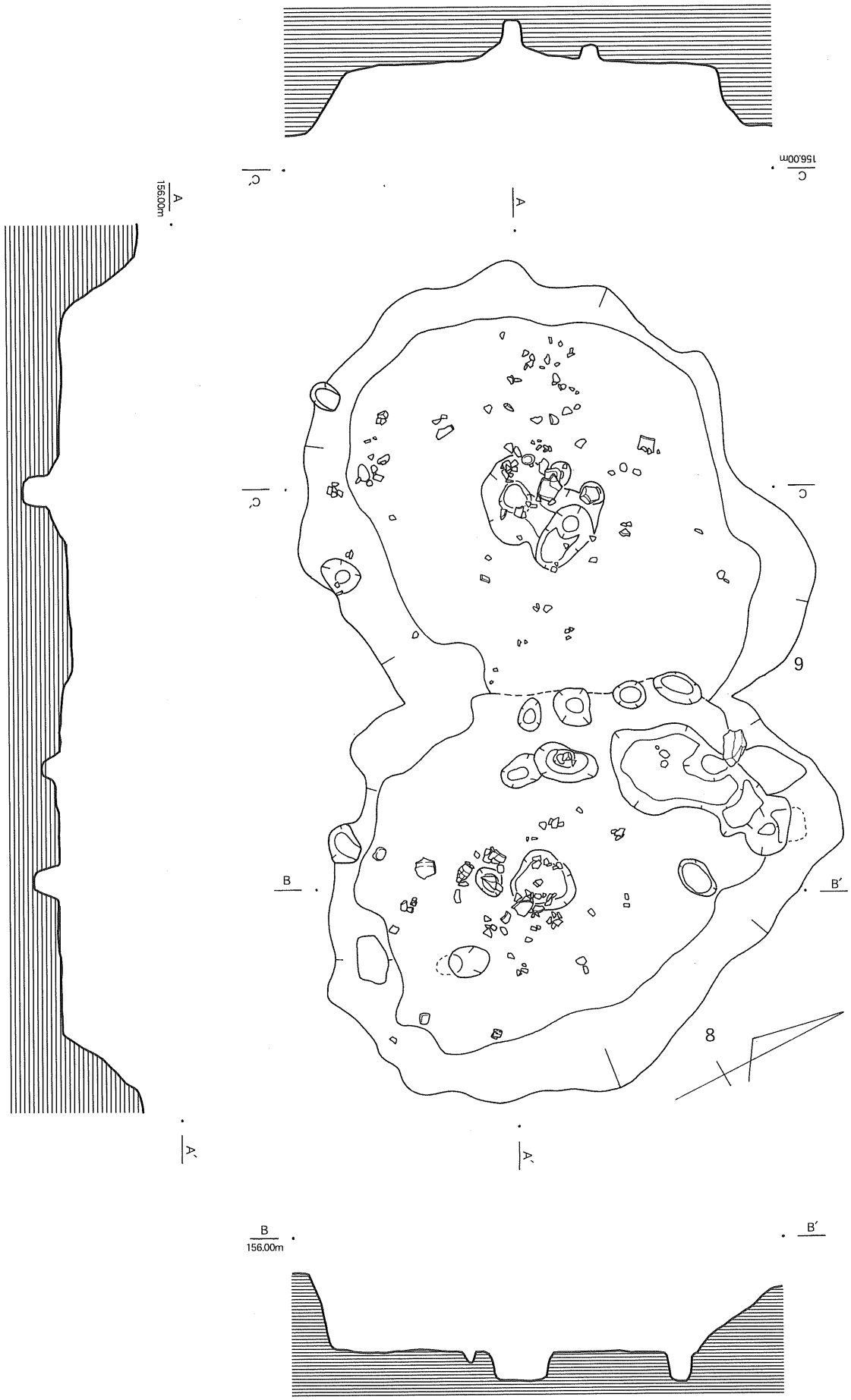
調査区の南西側において検出された。5、6、7号竪穴住居跡の北側に位置する。9号竪穴住居跡と切り合っている。平面形態は楕円形を呈し、長径約3.8m、短径約3.0m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、北側に楕円形を呈し長径約140cm、短径約50cm、床面からの深さ約20cmを測る土坑をもつ。ピットは計10本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。28は床面付近からの出土である。

28～34は深鉢である。28、29、33、34は口縁部を肥厚させ文様帯を形成する。28、29は文様帯下部が著しく張り出し、口縁部断面が逆「く」字状を呈する。28は沈線文、爪形文、貝殻腹縁刺突文を施し、29は貝殻腹縁による連続刺突文を施す。33、34は文様帯が小さく、33は沈線文、34は貝殻腹縁による連続刺突文を施す。30は外反する口縁部で波状口縁である。31は頸部の屈曲より口縁部が短く外反する。30、31共に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。32は直線的に立ち上がる口縁部である。

9号竪穴住居跡

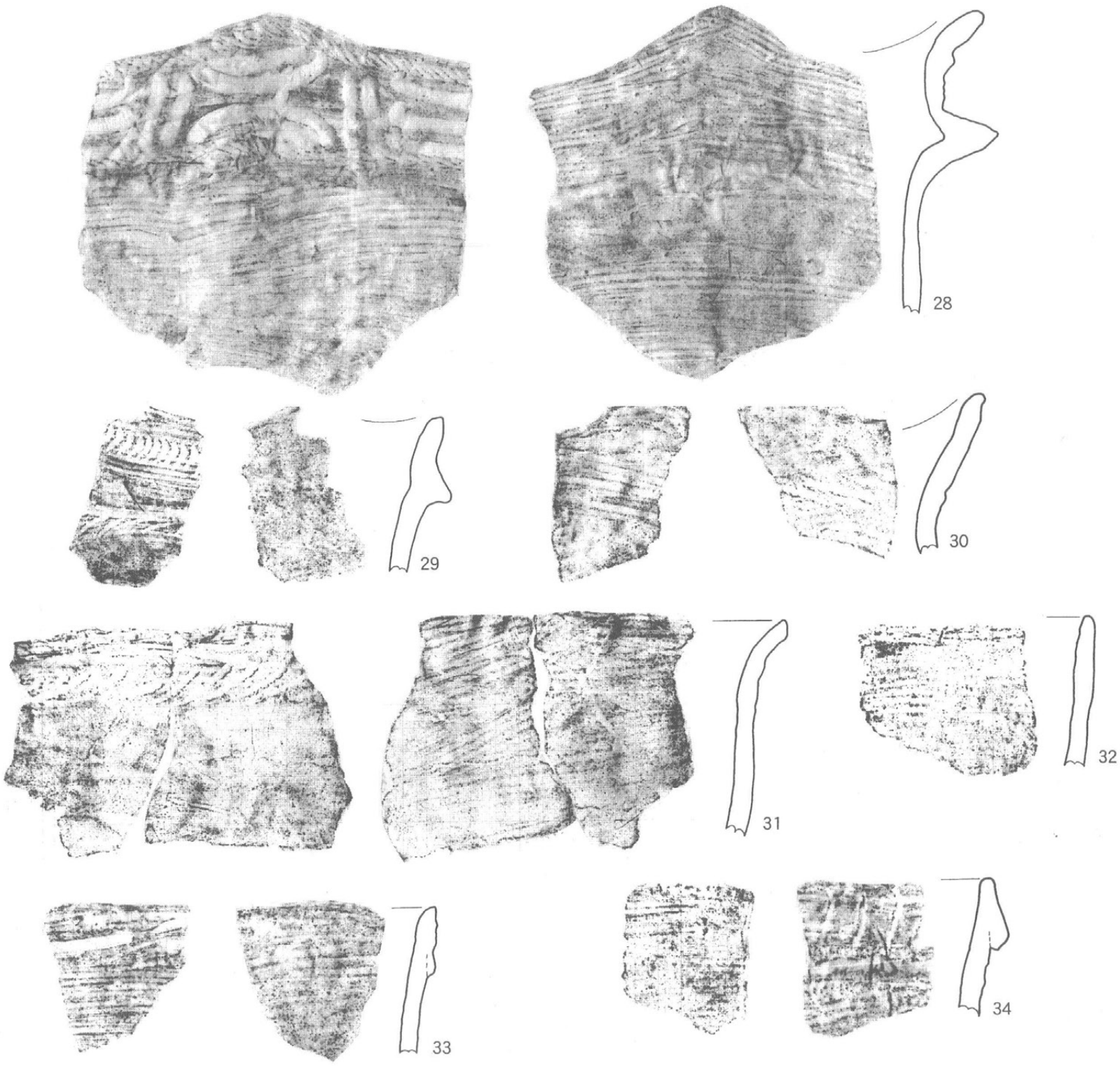
調査区の南西側において検出された。5、6、7号竪穴住居跡の北側に位置する。8号竪穴住居跡と切り合っている。平面形態は楕円形を呈し、長径約3.6m、短径約3.1m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、中央に楕円形を呈し長径約100cm、短径約60cm、床面からの深さ約30cmを測り、底が著しく狭まる土坑をもつ。ピットは計4本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

35、37、38は口縁部を肥厚させ文様帯を形成する深鉢である。35、37は文様帯下部がやや大きく

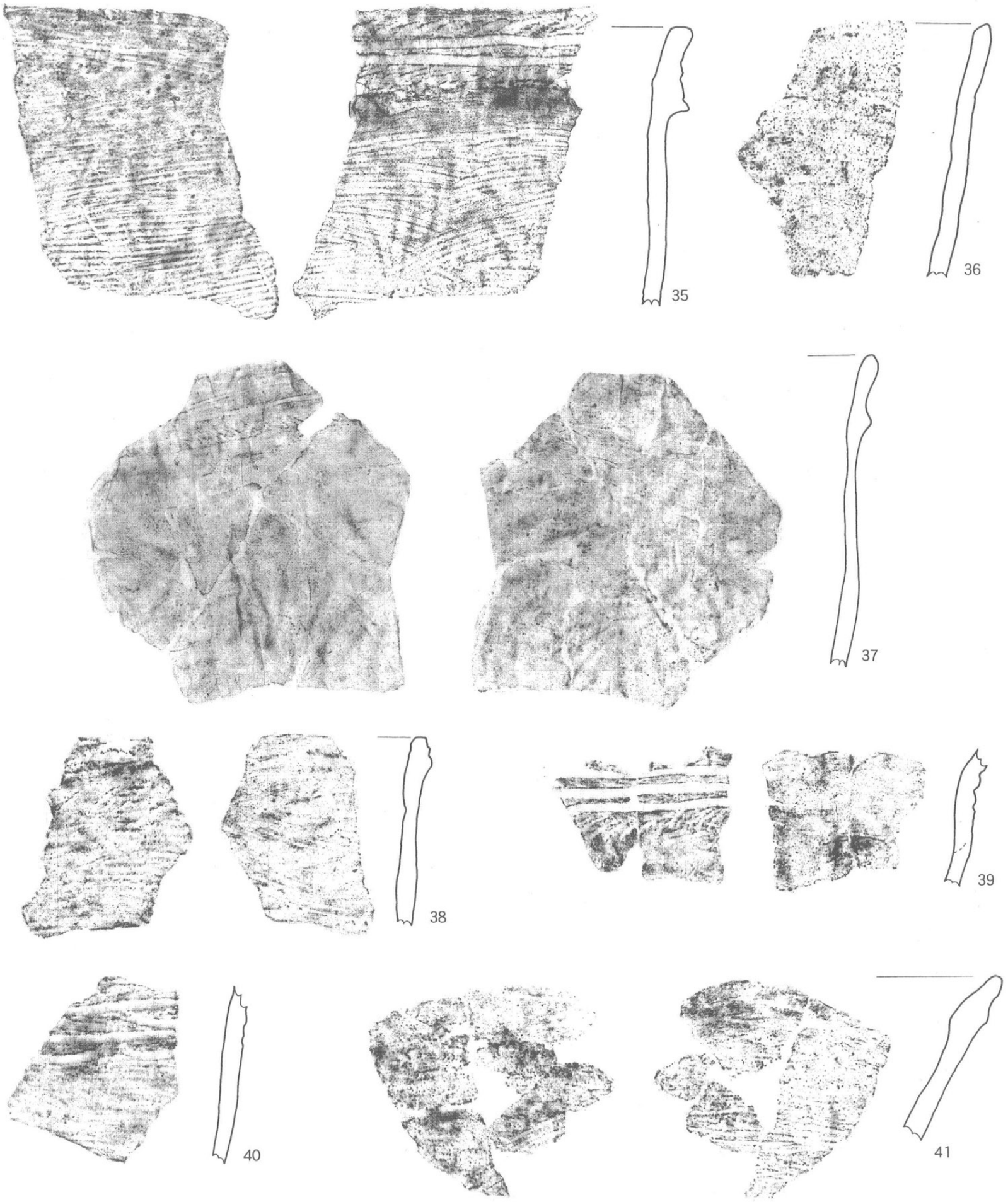


第71図　C区８・９号竪穴住居跡実測図（1/40）

張り出し、35は沈線文と貝殻腹縁刺による連続突文の組み合わせ、37はヘラ状工具による連続刺突文を施す。38は文様帯幅が狭く、肥厚部とその下部の2段にわたり貝殻腹縁による連続刺突文を施す。36はやや外傾しつつ直線的に立ち上がる深鉢口縁部である。39、40は深鉢胴部で、39は上部に沈線文、下部に貝殻腹縁による連続刺突文、40は沈線文と横位の貝殻腹縁による連続刺突文を施す。41は浅鉢口縁部と考えられる。70は敲石である。楕円形を呈し下部に敲打痕を有する。石材は頁岩である。



第72図　C区８号竪穴住居跡出土土器実測図（1/3）

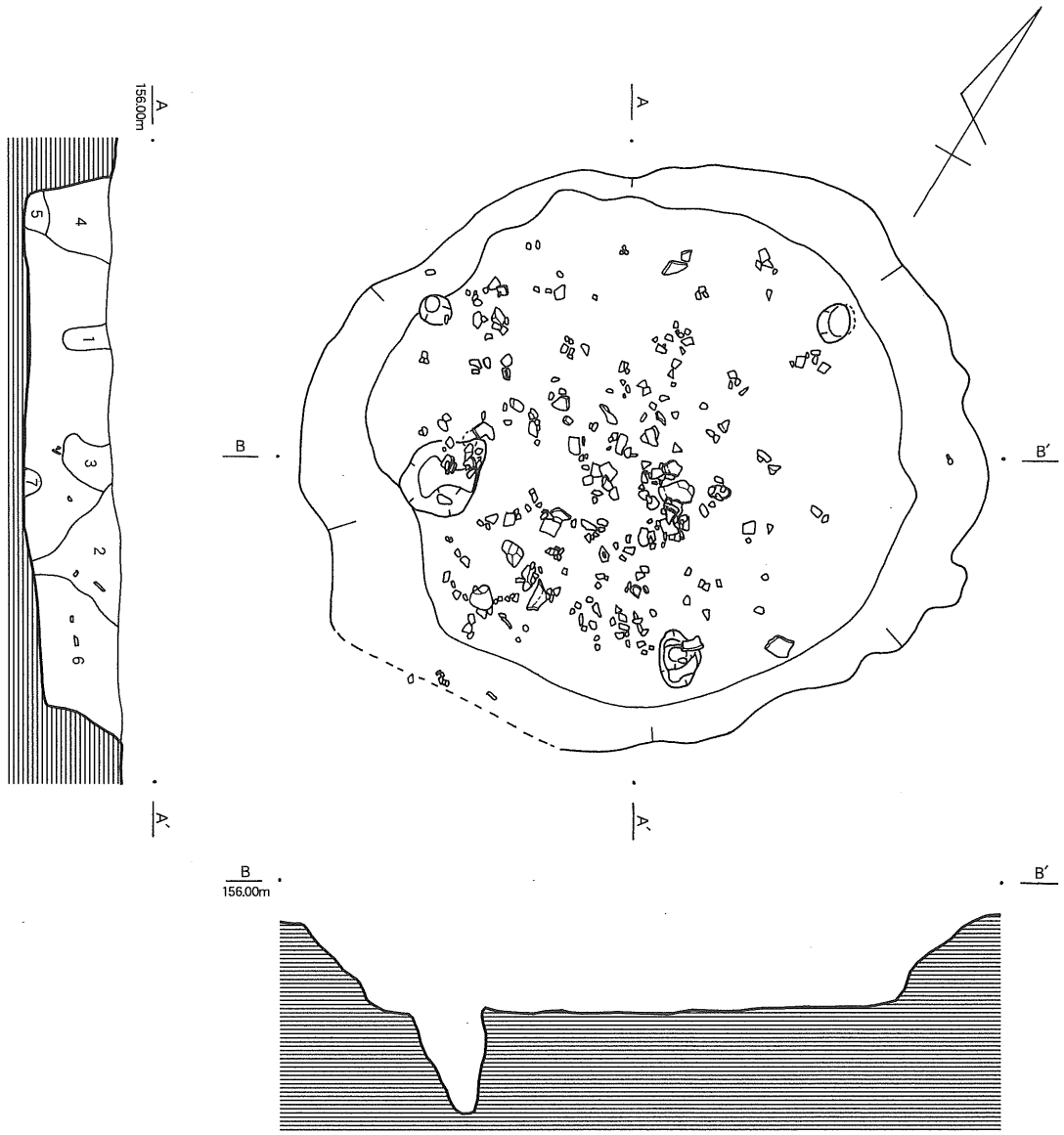


第73図　C区９号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

10号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約3.7m、短径約3.0m、検出面からの深さ約0.55mを測る。床面は平坦で、ピットは計4本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

42、44は頸部の屈曲より口縁部が短く外反する深鉢である。屈曲部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。45、47から51は口縁部を肥厚させ文様帯を形成する深鉢である。47、48は文様帯下部が著し



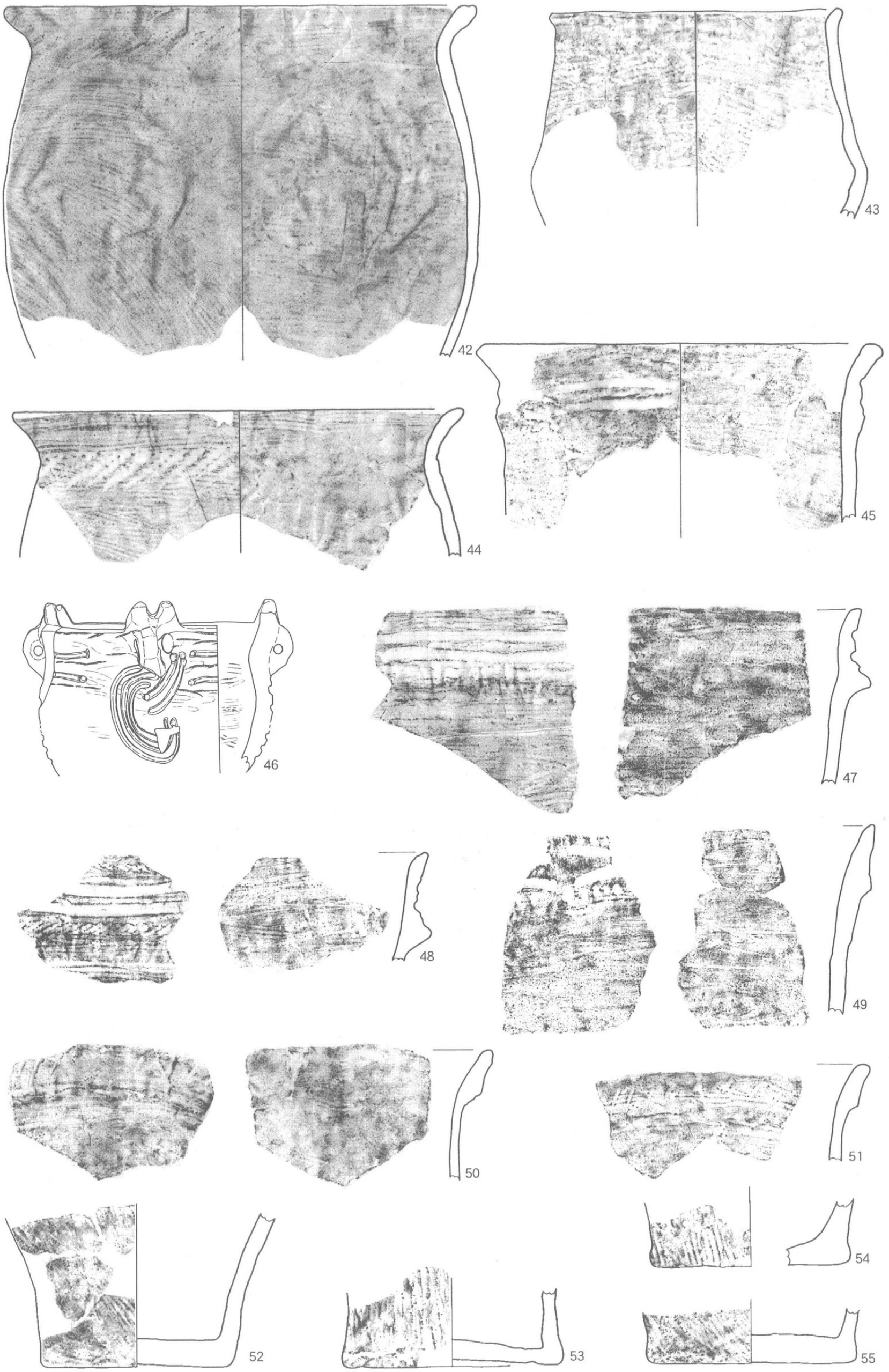
第74図　C区10号竪穴住居跡実測図（1/40）

り出し、中央に沈線文、その上下もしくは下に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。49は文様帯の張り出しはやや小さく、中央に沈線文、その上下に棒状工具による連続刺突文を施す。50、51は文様帯が小さく、ヘラ状工具による連続刺突文を施す。43、46は小型鉢である。43は口縁部が外反する。46は刺突で止めた沈線文、貝殻腹縁刺突文を施す。52～55は深鉢底部でいずれも平底である。67は磨製石斧である。刃部は両刃で、基部を欠損している。石材はフォルンフェルスである。

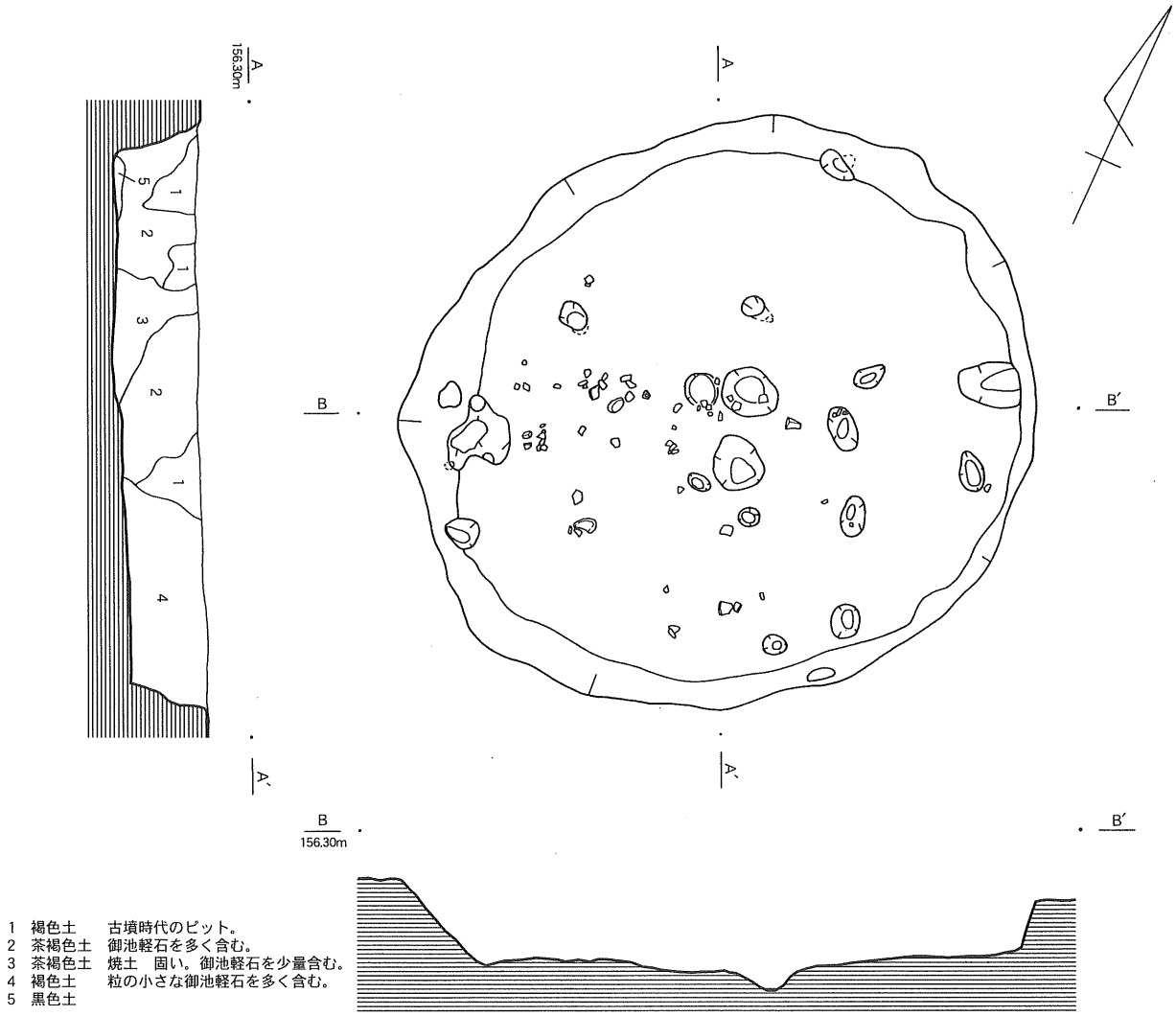
11号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約3.5m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、ピットは計13本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

56は黒色磨研土器の深鉢胴部と考えられる。



第75図　C区10号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第76図　C区11号竪穴住居跡実測図（1/40）

12号竪穴住居跡

調査区の中央において検出された。13号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、一辺約2.6m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、中央に円形を呈し直径約50cm、床面からの深さ約40cmを測る土坑をもつ。床面は平坦で、ピットは計4本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

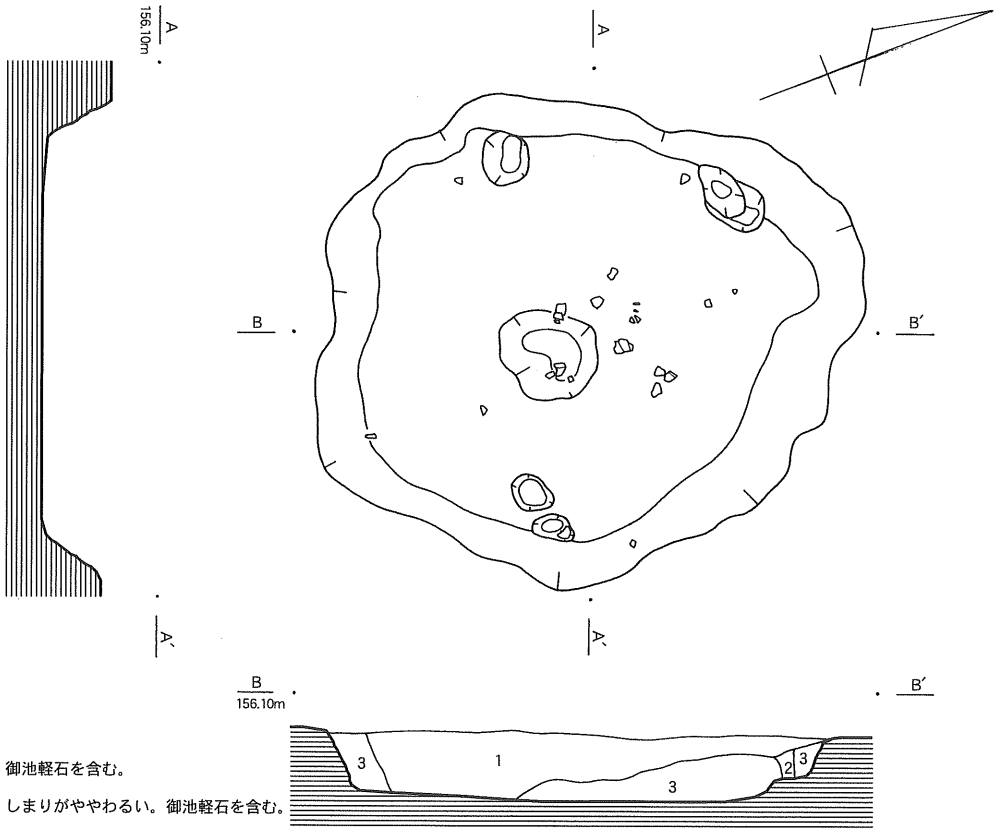
57は深鉢底部で平底である。

13号竪穴住居跡

調査区の中央において検出された。12号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は楕円形を呈し、長径約5.6m、短径約4.0m、検出面からの深さ約0.45mを測る。床面は中央が一段、約10cm低くなる。ピットは計12本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

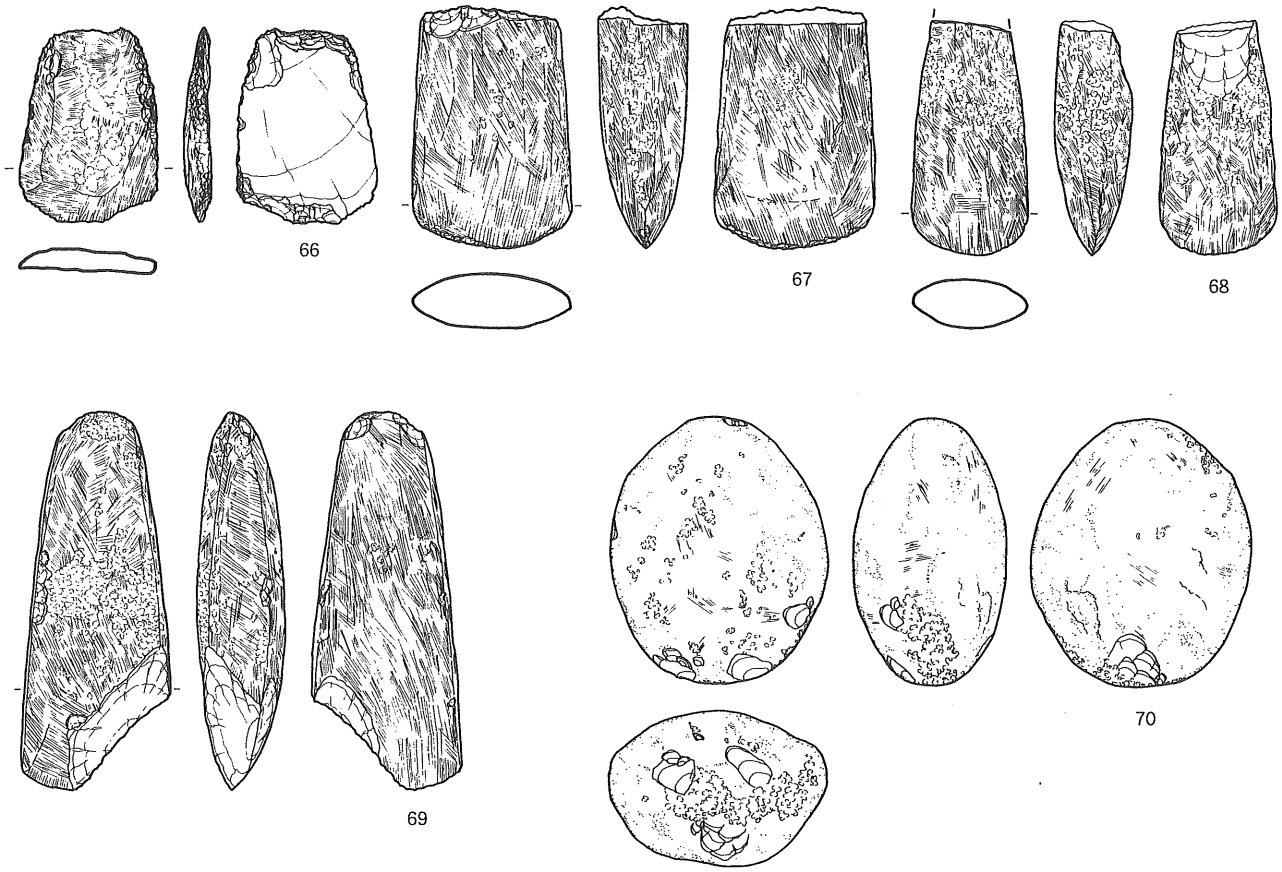
58は口縁部を肥厚させ文様帯を形成する深鉢で、文様帯下部が著しく張り出し口縁部断面は逆「く」の字状を呈する。59、60は深鉢で59はやや外反する口縁部、60は胴部である。いずれも平行沈線文を施す。

第77図　C区11～17号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

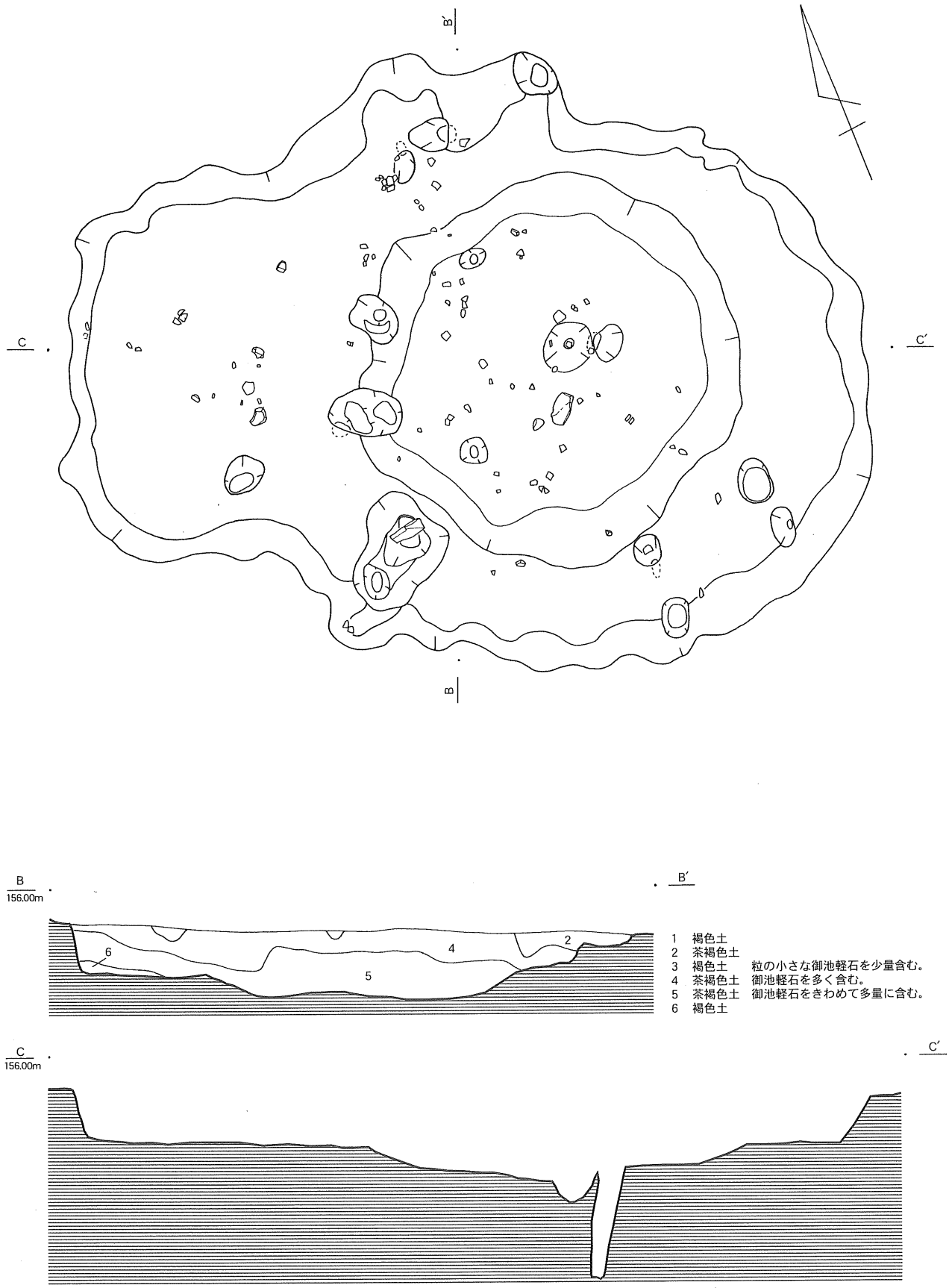


1　茶褐色土　御池軽石を含む。
2　御池軽石
3　茶褐色土　しまりがややわるい。御池軽石を含む。

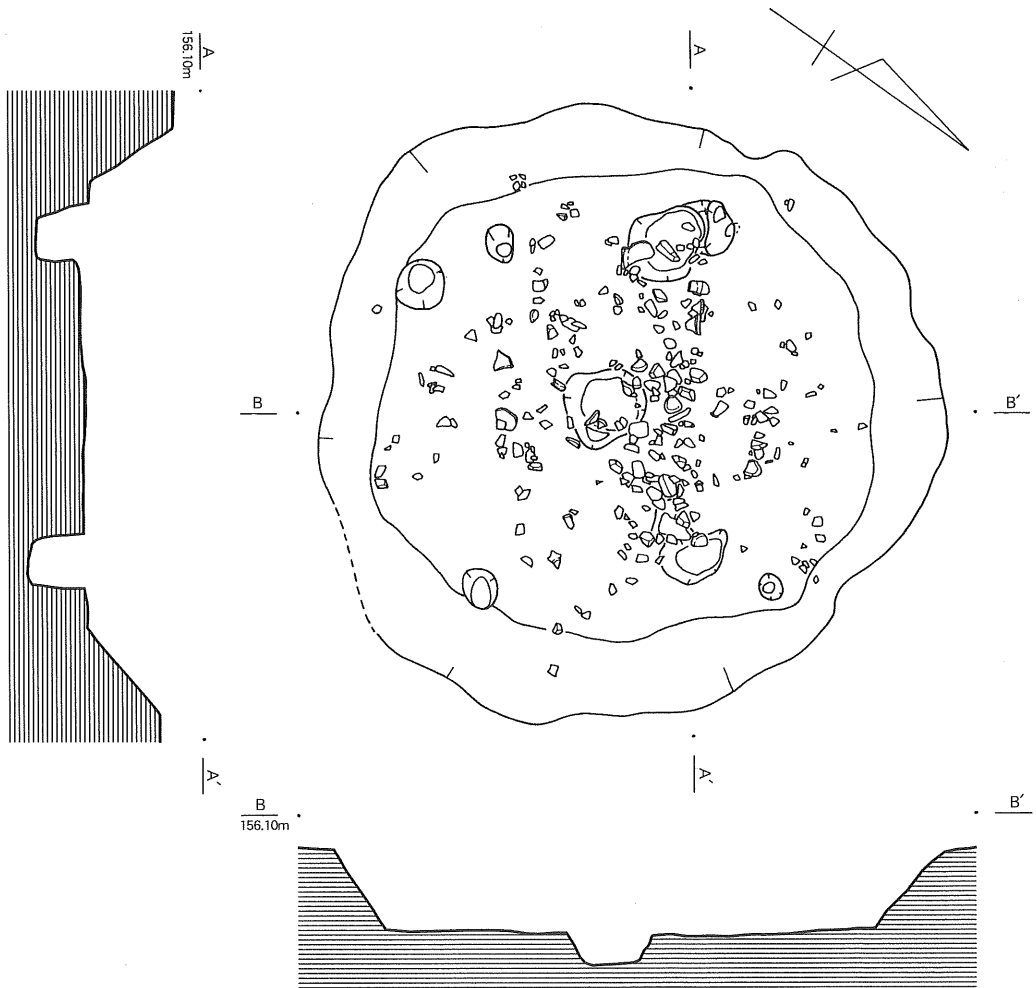
第78図　C区12号竪穴住居跡実測図（1/40）



第79図　C区４・６・10・15号竪穴住居跡出土石器実測図（1/3）



第80図　C区13号竪穴住居跡実測図（1/40）



第81図　C区14号竪穴住居跡実測図（1/40）

14号竪穴住居跡

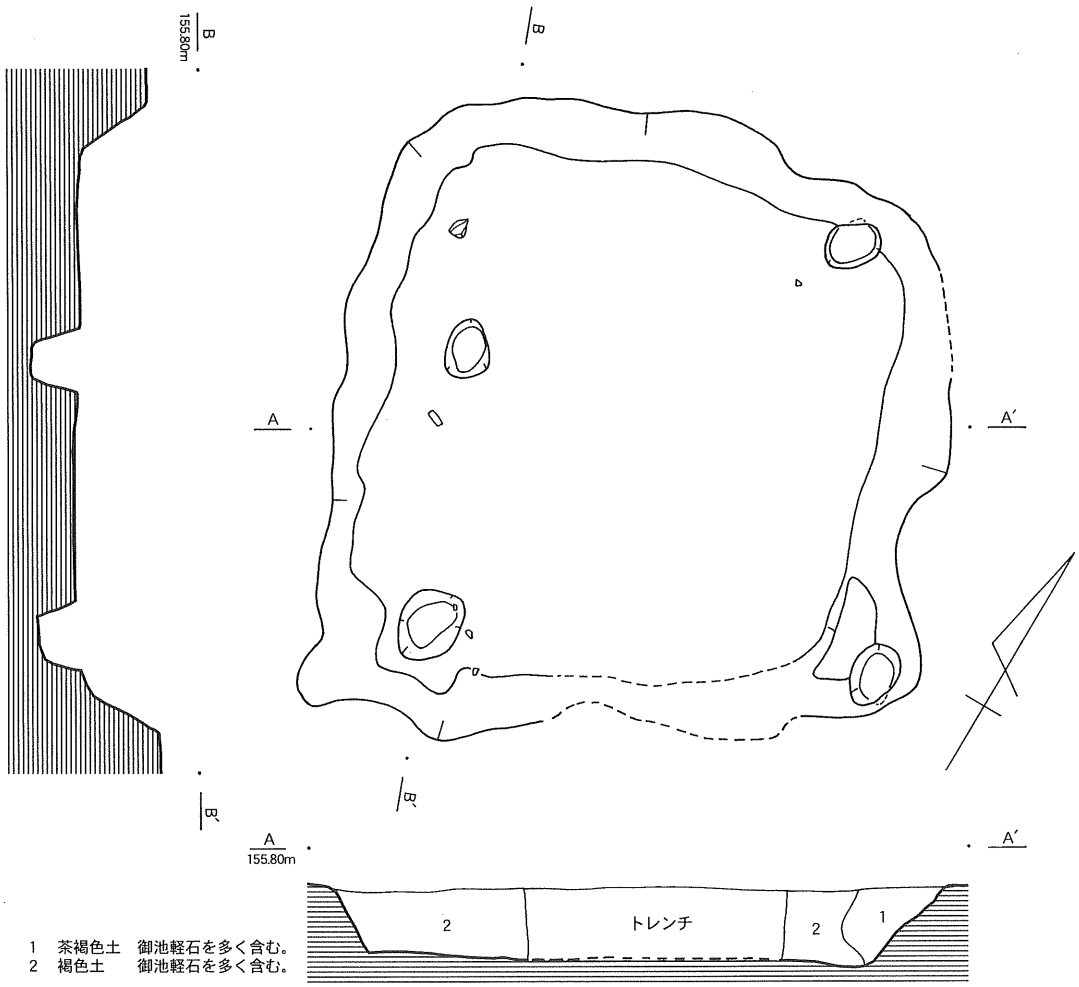
調査区の北側において検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、長軸約3.4m、短軸約3.1m、検出面からの深さ約0.45mを測る。床面は平坦で、ピットは計8本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

61は深鉢で平底の底部は網代痕を有し、胴部は膨らみをもって立ち上がり、頸部において屈曲し口縁部は外反する。口縁部内面に平行沈線文、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。68は磨製石斧である。刃部は両刃で、基部を欠損している。石材はフォルンフェルスである。

15号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約3.3m、短軸約3.2m、検出面からの深さ約0.35mを測る。床面は平坦で、ピットは計4本が確認されている。埋土中より磨製石斧のほか縄文土器の小片が出土している。

68は磨製石斧である。刃部は両刃で、基部を欠損している。石材はフォルンフェルスである。



第82図　C区15号竪穴住居跡実測図（1/40）

16号竪穴住居跡

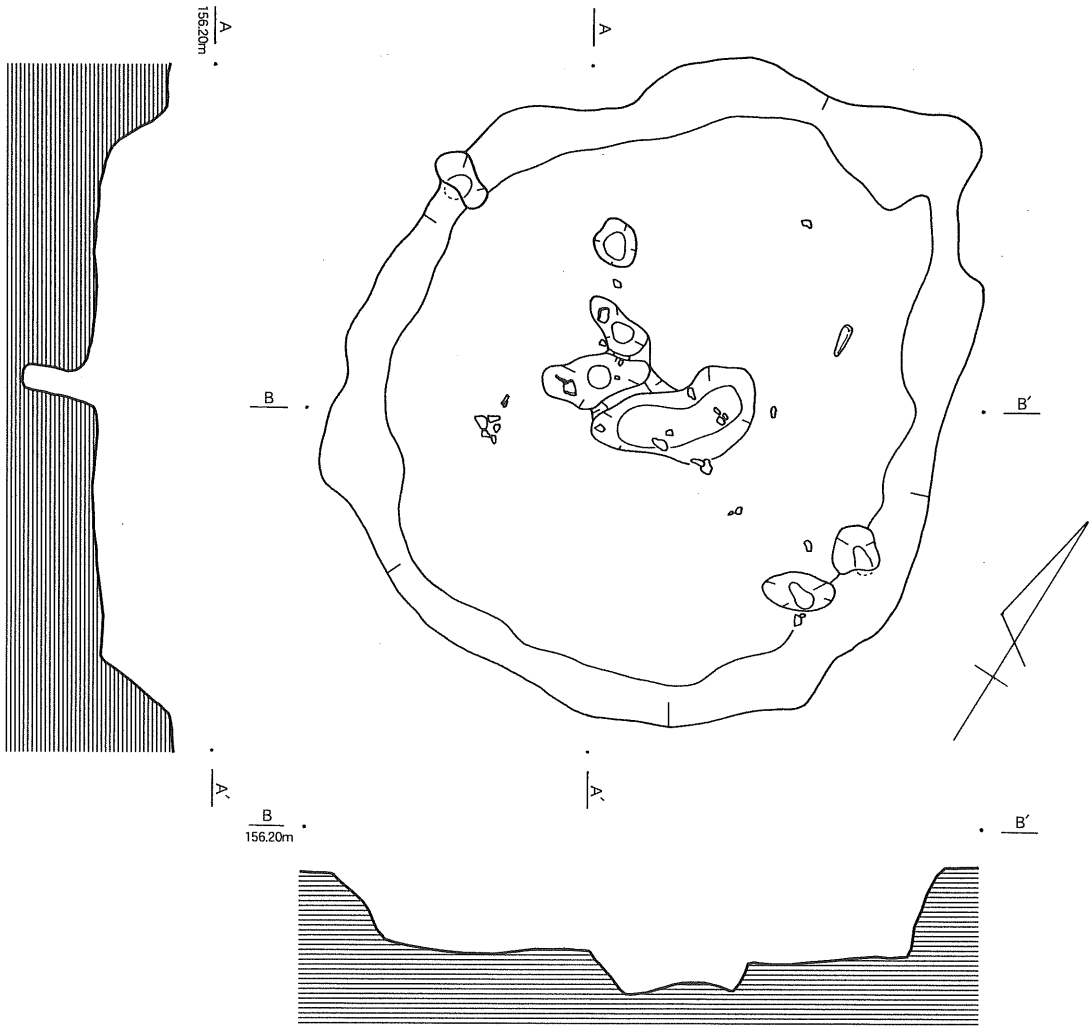
調査区の北側において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約3.4m、短径約3.2m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に楕円形を呈し、長径約85cm、短径約50cm、床面からの深さ約45cmを測る土坑を持つ。ピットは計6本が確認されている。

62は外反する波状口縁でヘラ状工具による刺突文を施す。63は胴部で沈線文を施す。

17号竪穴住居跡

調査区の西隅において検出された。平面形態は方形を呈し、長軸約3.1m、短軸約2.7m、検出面からの深さ約0.45mを測る。床面はほぼ平坦で、南、西壁にそって一段高くなる。中央に円形を呈し、直径約50cm、床面からの深さ約50cmを測る土坑を持つ。ピットは計10本が確認されている。

64は胴部の屈曲において明瞭な段をもつ浅鉢と考えられる。65は深鉢口縁部である。

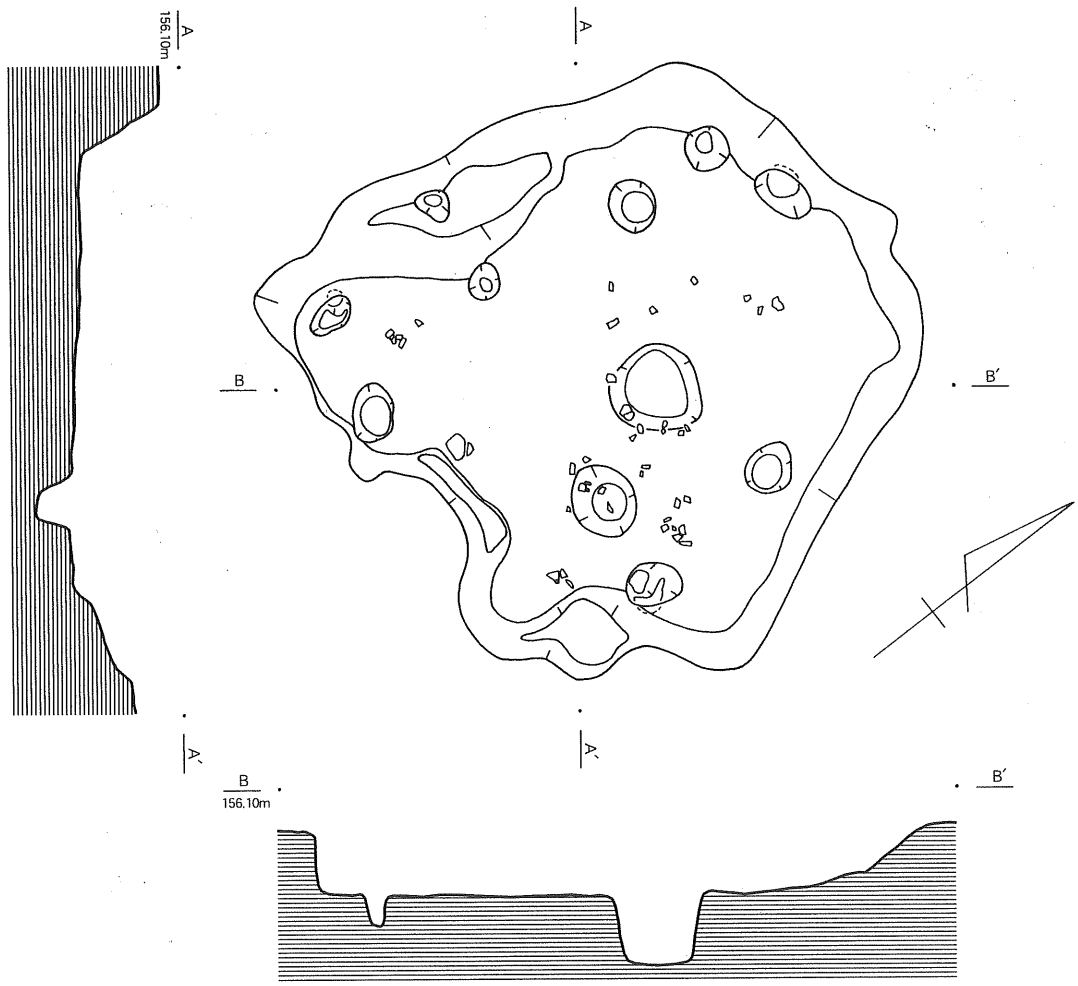


第83図　C区16号竪穴住居跡実測図（1/40）

1号土器集積

調査区の西隅において検出された。長軸約2.0m、短軸約1.5mの範囲に縄文土器、石器合わせて35点が集中して出土した。

71は口縁部を肥厚させ文様帯を形成する深鉢で、文様帯下部が著しく張り出し口縁部断面は逆「く」の字状を呈する。刺突で止めた凹線文と横位の貝殻腹縁刺突文の組み合わせを中心に置き、上下に連続刺突文を施す。72は石刀である。先端部は欠損している。中央から両端に伸びるに従い細くなり、ほぼ中央に指掛けと考えられる抉りをもつ。全面にわたり非常に丁寧な研磨が施されている。

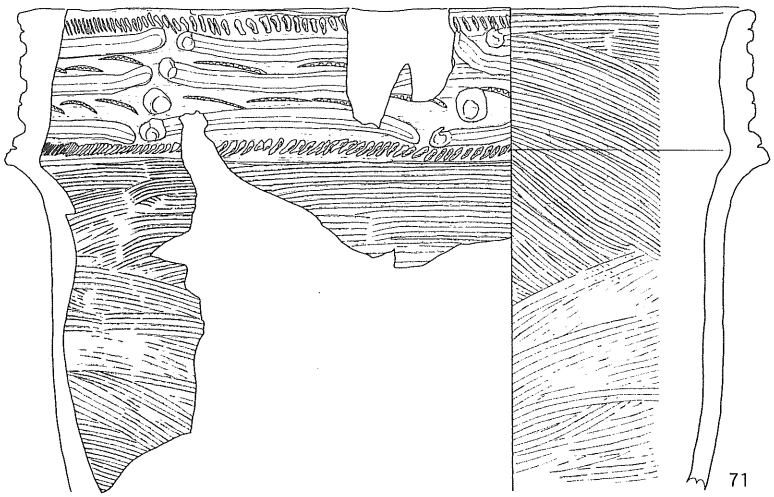


第84図　C区17号竪穴住居跡実測図（1/40）

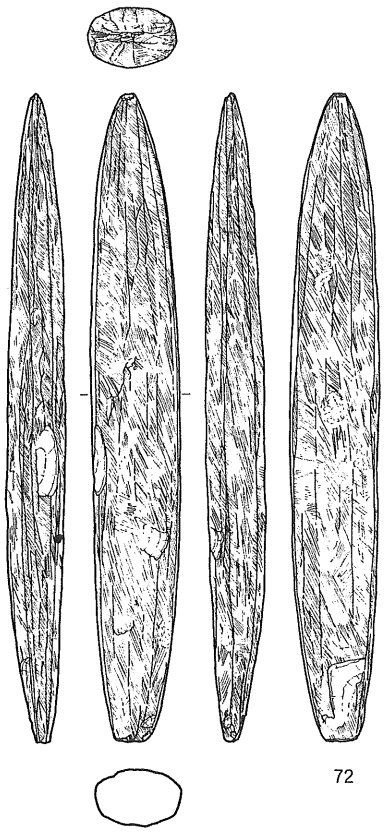
表29　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表1

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。ナデ。スス付着。	ナデ。	明赤褐	赤褐	1㎜程度の石英粒少量。1㎜程度の白色・茶褐色粒少量。	
2	1号住居	縄文土器	深鉢	(25)			ミガキ。スス付着。	ナデ。	赤褐	橙	1㎜以下の黒色・白色粒ごく少量。	
3	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明赤褐	赤褐	1㎜程度の石英粒少量。1㎜程度の白色・茶褐色粒少量。	
4	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。貝殻条痕。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	明褐	明赤褐	1㎜以下の白色粒ごく少量。雲母微量。	
5	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	橙	1㎜以下の黒色、白色粒微量。雲母微量。	
6	3号住居	縄文土器	深鉢				突帯。貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	黄橙	橙	1㎜以下の黒色、白色、茶褐色粒微量。	
7	3号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい褐	にぶい橙	1㎜以下の石英粒ごく少量。1～2㎜の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
8	3号住居	縄文土器	深鉢				突帯。貝殻条痕。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1㎜以下の黒色、白色粒微量。雲母微量。	
9	3号住居	縄文土器	深鉢		(12)		ナデ。網代痕。	ナデ。	にぶい橙	橙	1～2㎜の黒色、茶褐色粒少量。	



第85図　C区１号土器集積出土土器実測図（1/3）



第86図　C区１号土器集積
出土石器実測図（1/3）

表30　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表2

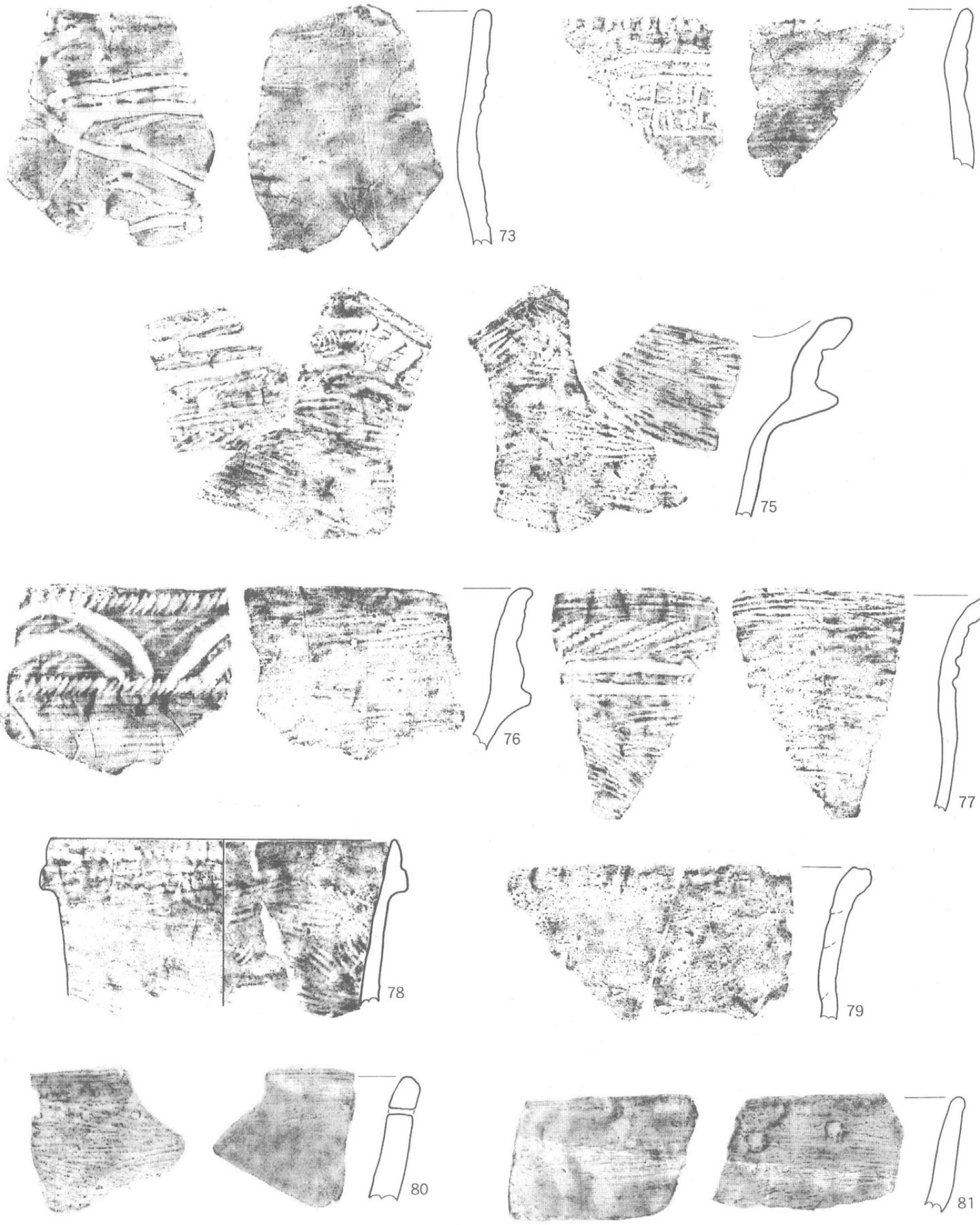
単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
10	４号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐	褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
11	４号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・茶褐色粒微量。	
12	４号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明赤褐	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
13	４号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗褐	橙	1mm以下の白色粒少量。	
14	４号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。スス付着。	暗褐	暗褐	黒色・白色・茶褐色粒子微量。	
15	４号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。スス付着。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の茶褐色粒ごく少量。	
16	４号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。スス付着。	橙	にぶい橙	黒色・白色粒子微量。	
17	４号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。スス付着。	貝殻条痕。ナデ。スス付着。	にぶい橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
18	４号住居	縄文土器	深鉢		9.6		貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい橙	1mm以下の黒粒少量。	
19	５号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の白色・黒色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
20	５号住居	縄文土器	深鉢		11		貝殻条痕。ナデ。網代痕。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
21	７号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	灰褐	1mm以下の白色・黒色・茶褐色粒微量。雲母微量。	
22	７号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	浅黄橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。雲母微量。	

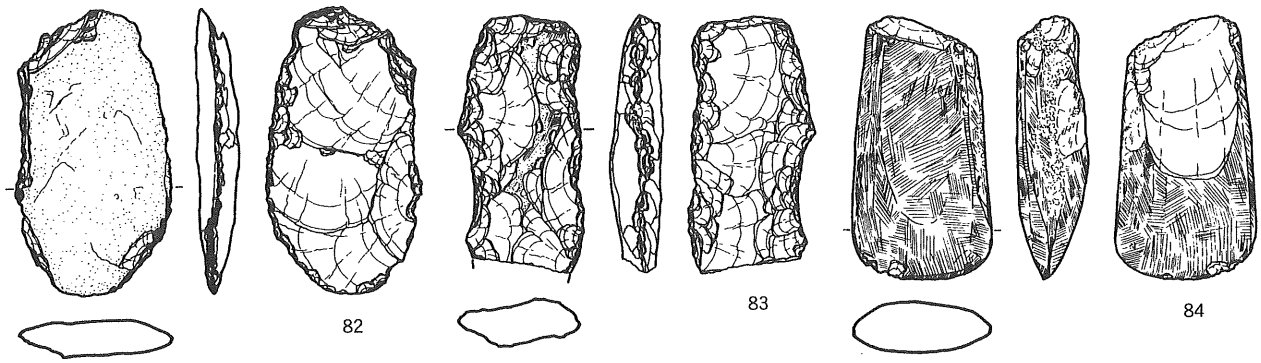
表31　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表3

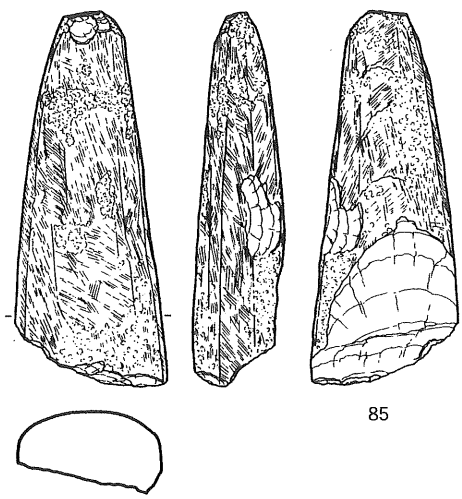
単位：cm

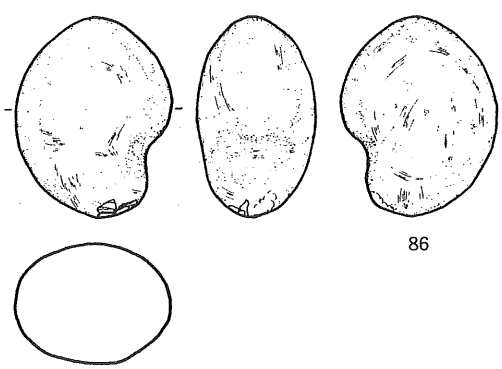
No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
23	7号住居	縄文土器	深鉢		(9.1)		貝殻条痕。ナデ。網代痕。	貝殻条痕。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
24	7号住居	縄文土器	深鉢		11.7		ナデ。網代痕。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
25	7号住居	縄文土器	深鉢		9.8		貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	褐灰	1～2mmの黒色・茶褐色粒少量。	
26	7号住居	縄文土器	深鉢		8.6		ナデ。	ナデ。	浅黄橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母微量。	
27	6号住居	縄文土器	深鉢		(10)		ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
28	8号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。雲母微量。	
29	8号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	にぶい赤褐	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
30	8号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
31	8号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母ごく少量。	
32	8号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の茶褐色粒少量。	
33	8号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい橙	浅黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒少量。	
34	8号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい赤褐	橙	1mm以下の白色ごく少量。雲母ごく少量。	
35	9号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
36	9号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mmの黒色・茶褐色粒少量。	
37	9号住居	縄文土器	深鉢				刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。雲母ごく微量。	
38	9号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい黄褐	橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。雲母ごく微量。	
39	9号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm程度の白色粒少量。雲母少量。	
40	9号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒微量。雲母微量。	
41	9号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	褐	橙	1mm以下の白色粒微量。雲母微量。	
42	10号住居	縄文土器	深鉢	(26.2)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明赤褐	1mm以下の白色粒ごく少量。	
43	10号住居	縄文土器	深鉢	(16.3)			貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
44	10号住居	縄文土器	深鉢	(25.2)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm程度の白色粒少量。	
45	10号住居	縄文土器	深鉢	(22.4)			沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の黒色・茶褐色粒少量。	
46	10号住居	縄文土器	深鉢	12.2			沈線文。ナデ。	ナデ。スス付着。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
47	10号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
48	10号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
49	10号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。雲母少量。	
50	10号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	黒褐	にぶい橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。雲母少量。	
51	10号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	黒褐	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
52	10号住居	縄文土器	深鉢		10.3		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
53	10号住居	縄文土器	深鉢		11.2		工具ナデ。ナデ。	工具ナデ。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
54	10号住居	縄文土器	深鉢		(11.2)		工具ナデ。ナデ。	ナデ。	橙	にぶい橙	1～2mmの白色粒少量。	
55	10号住居	縄文土器	深鉢		(11.6)		工具ナデ。ナデ。	ナデ。	にぶい橙	橙	1～2mmの白色粒少量。	
56	11号住居	縄文土器	深鉢				ミガキ。ナデ。スス付着。	ナデ。スス付着。	暗赤褐	黒褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒少量。	
57	12号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	明赤褐	にぶい褐	1mm以下の黒色・茶褐色粒少量。1～2mmの白色粒微量。	
58	13号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	明赤褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
59	13号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	にぶい赤褐	にぶい赤褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。雲母微量。	
60	13号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	

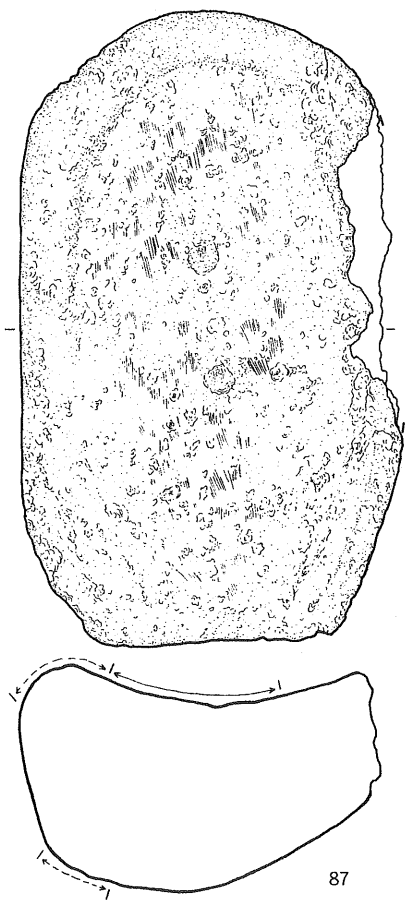


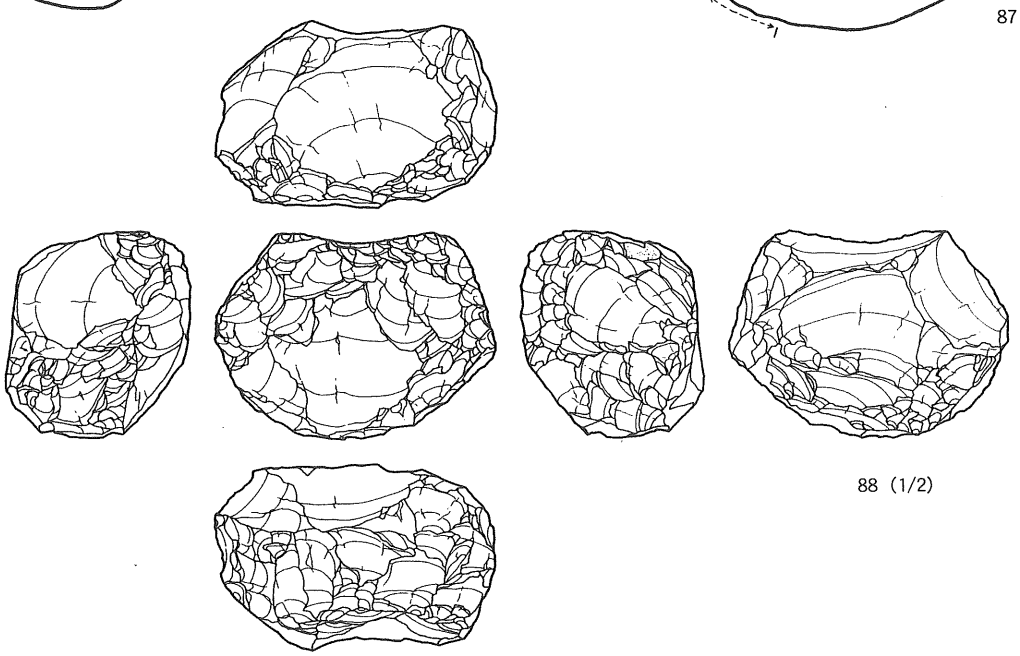
第87図　C区包含層出土土器拓影図（1/3）









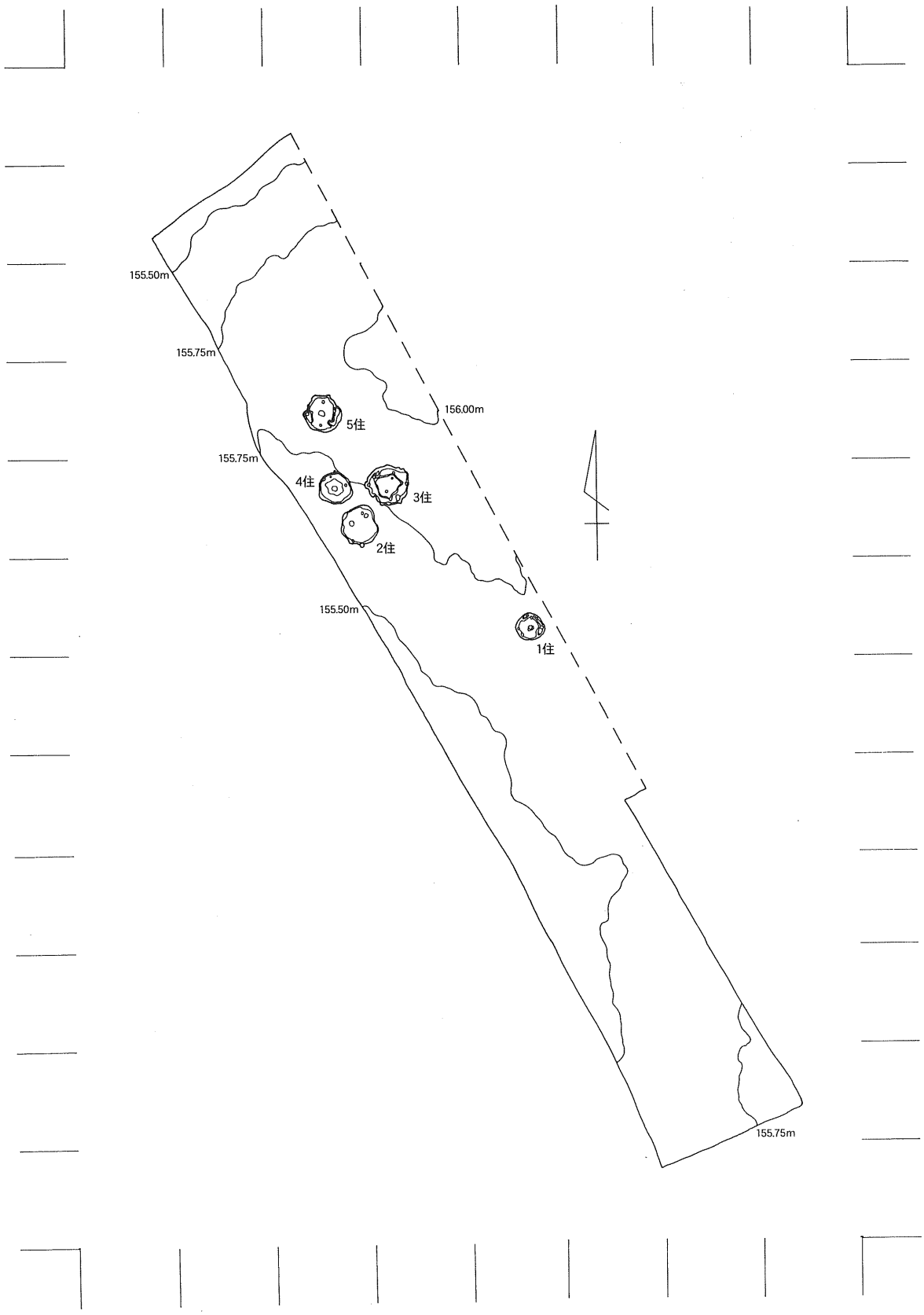


第88図　C区包含層出土石器実測図（1/3）

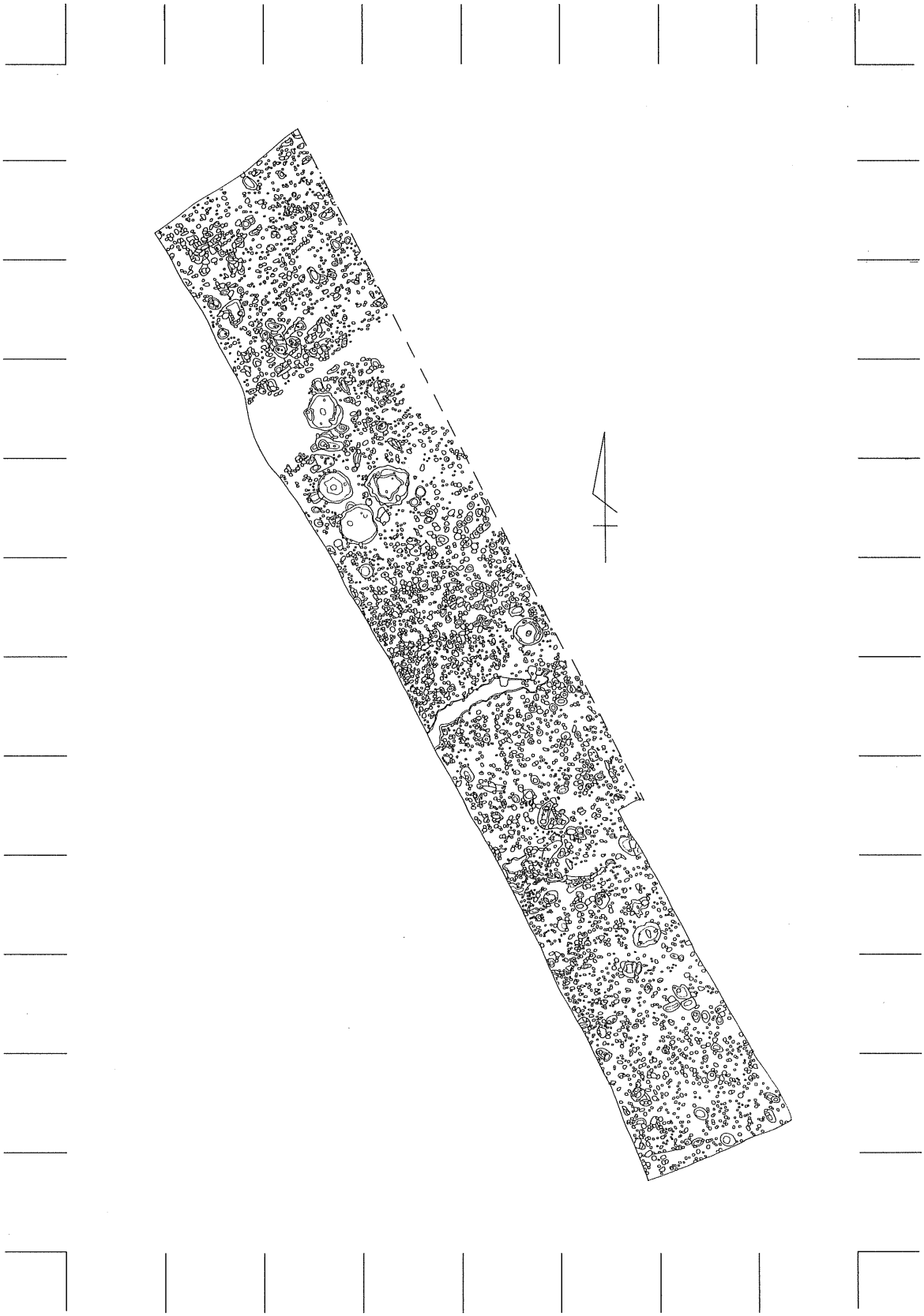
表32　山城第1遺跡第3次調査C区出土遺物観察表4

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器　下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
61	１４号住居	縄文土器	深鉢	(23)	10	23.5	貝殻条痕。ナデ。	沈線文。貝殻条痕。ナデ。	橙	にぶい橙	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
62	１５号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。スス付着。	にぶい橙	黒褐	白色粒子微量。	
63	１５号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
64	１７号住居	縄文土器	浅鉢				ナデ。	ナデ。	暗赤褐	赤褐	1mm以下の石英粒微量。1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
65	１７号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。スス付着。	ナデ。	褐灰	褐灰	1mm以下の石英粒少量。	
66	4号住居	石器	磨製石斧	7.55	5.55	0.85						51g・フォルンフェルス？
67	10号住居	石器	磨製石斧	(9.3)	6.35	3.6						273g・フォルンフェルス
68	15号住居	石器	磨製石斧	6.35	4.7	3						191g・フォルンフェルス
69	6号住居	石器	磨製石斧	14.8	6	3.4						421g・フォルンフェルス
70	9号住居	石器	磨石	10.9	8.5	6.1						776g・頁岩
71	１号土器集積	縄文土器	深鉢	(29.6)			凹線文。貝殻腹縁刺突文。刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい赤褐	明赤褐	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
72	１号土器集積	石器	石棒	(25.5)	3.5	2.2						283g・頁岩
73	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1～2mmの黒色・白色粒微量。	
74	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
75	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒少量。	
76	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	黒褐	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
77	包含層	縄文土器	深鉢				沈線文。貝殻腹縁刺突文。。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	暗赤褐	赤褐	1mm以下の黒色・白色粒微量。雲母ごく微量。	
78	包含層	縄文土器	深鉢	(16.1)			刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	黒褐	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
79	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	黒褐	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。雲母やや多く含む。	
80	包含層	縄文土器	深鉢				孔列文。ナデ。	ナデ。	灰黄褐	にぶい黄橙	1～2mmの白色・茶褐色粒ごく少量。	
81	包含層	縄文土器	深鉢				孔列文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1～2mmの白色・茶褐色粒ごく少量。	
82	包含層	石器	使用痕のある剥片	11.3	6.2	1.4						116g・フォルンフェルス
83	包含層	石器	打製石斧	9.8	4.7	1.8						117g・砂岩
84	包含層	石器	磨製石斧	(10.45)	5.65	2.7						390g・砂岩
85	包含層	石器	磨製石斧	(14.5)	5.9	3.5						390g・フォルンフェルス
86	包含層	石器	磨石	7.8	6.1	4.8						323g・頁岩
87	包含層	石器	石皿	33	20.5	12.8						12.9g・砂岩？
88	包含層	石器	石核	5.6	4.55	3.7						108g・黒曜石



第89図　D区地形図（1/600）



第90図　D区遺構分布図（1/600）

D区の調査

層序

調査区の標高は155.50m～156.00mで、北東側が高く、西方向に向け傾斜している。1層・耕作土、2層・黒色土、3層・高原スコリア、4層・黒褐色土、5層・褐色土、6層・暗褐色土、7層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

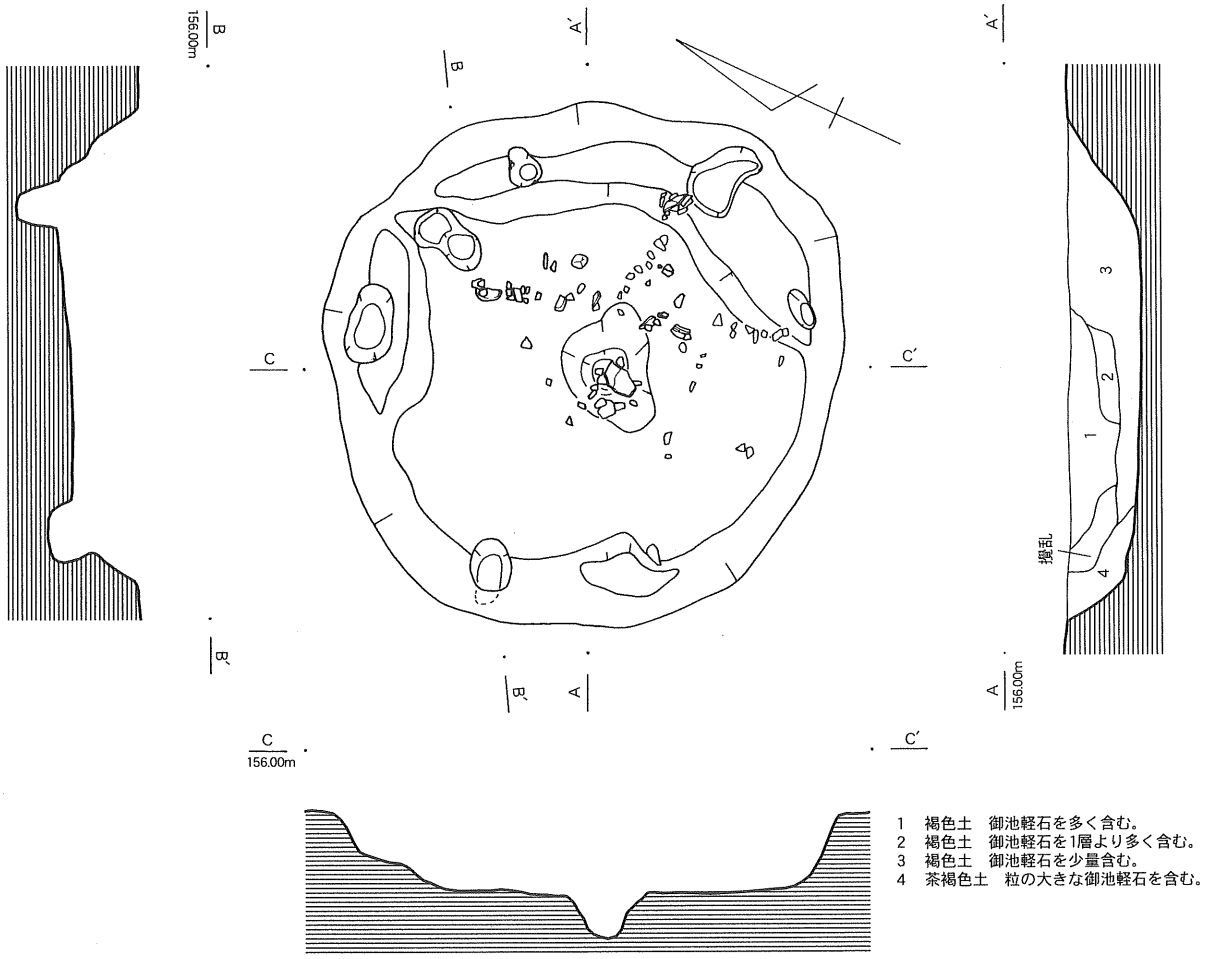
遺構と遺物

D区においては縄文時代の竪穴住居跡5軒、時期不明のピット多数が検出された。

縄文時代の遺構と遺物

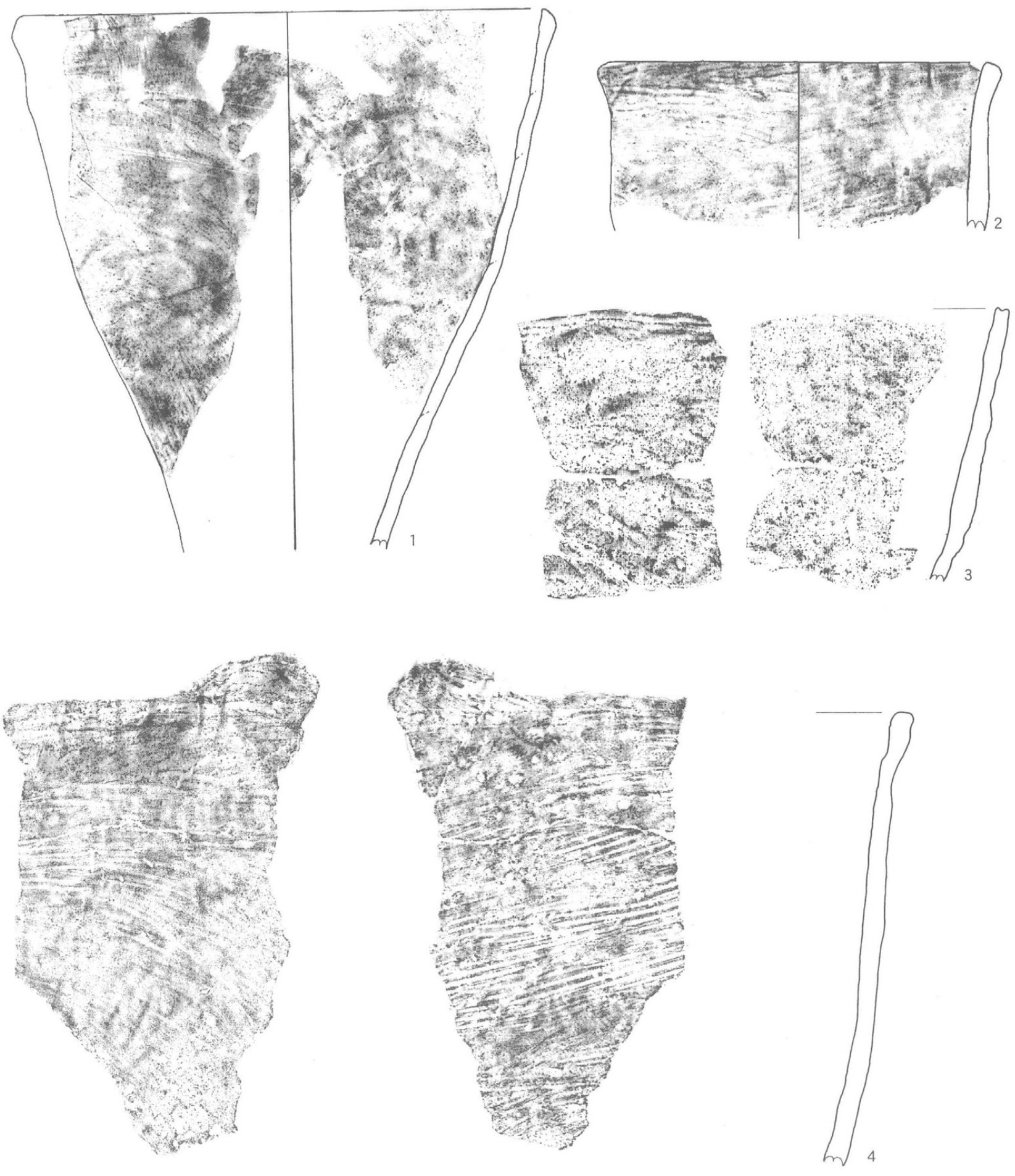
1号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。平面形態は円形を呈し、直径約2.7m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面はほぼ平坦であるが、北・東・西の三面が壁に沿って一段高くなる。中央に円形を呈し長径約65cm、短径約50cm、床面からの深さ約25cmを測る土坑を持つ。ピットは計5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

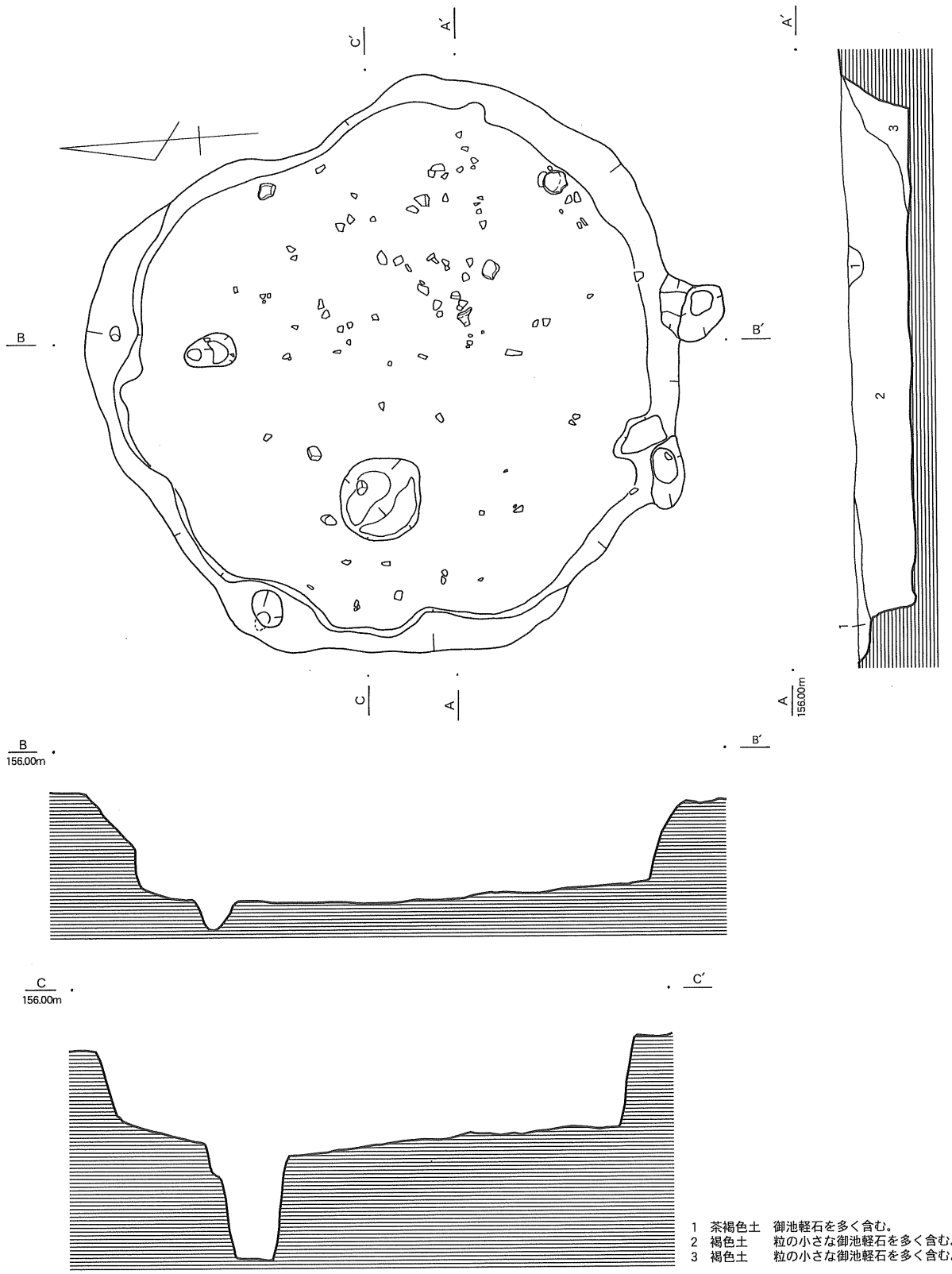


第91図　D区１号竪穴住居跡実測図（1/40）

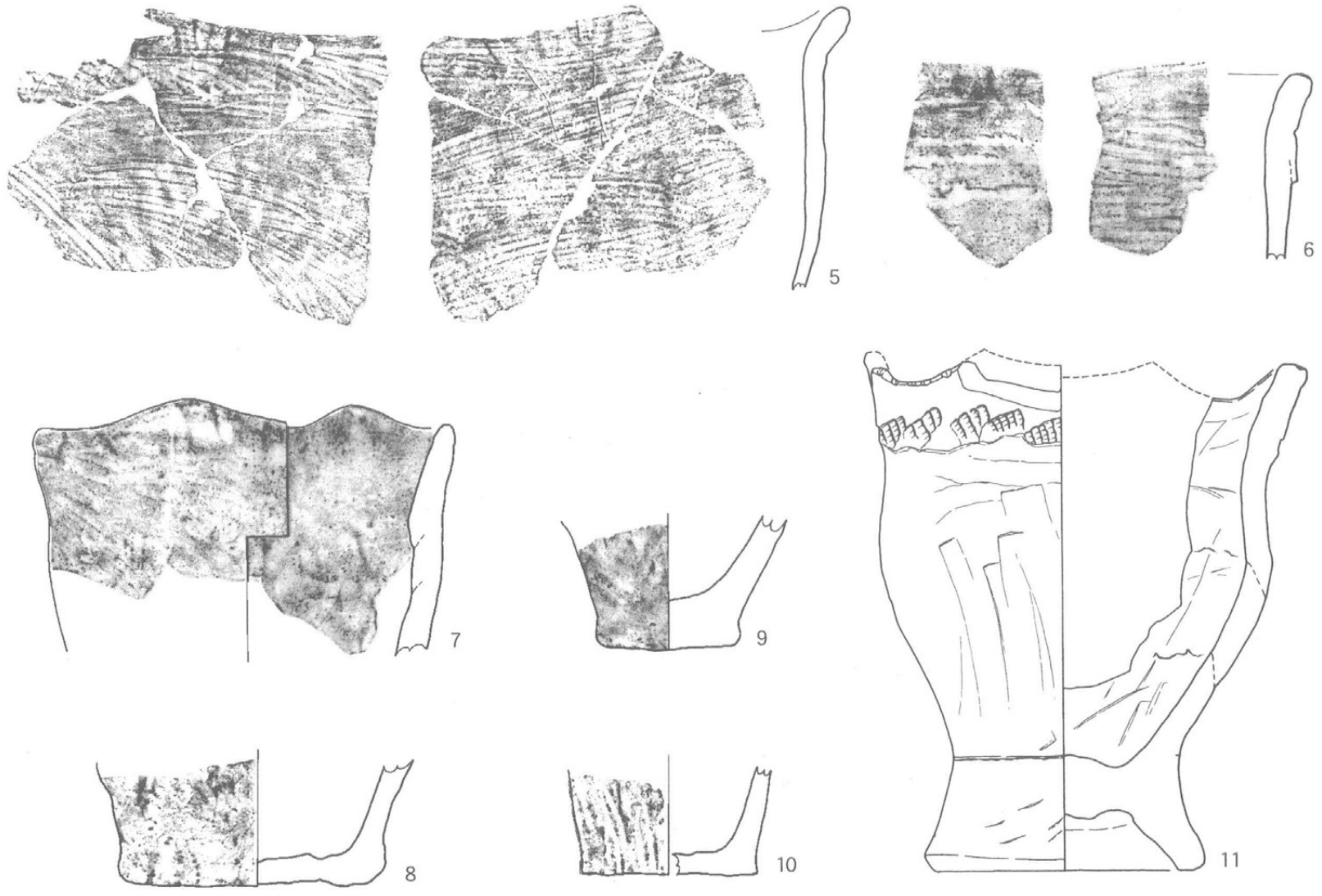
1～4は深鉢である。1はやや膨らみながら立ち上がり、口縁部はおいてわずかに外反する。2、4は口縁部がやや外反する。4は貝殻腹縁による連続刺突文を施す。3は直線的に立ち上がる口縁部で、口唇部に一条の沈線文を施す。



第92図　D区１号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第93図 D区2号竪穴住居跡実測図（1/40）



第94図　D区２号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

2号竪穴住居跡

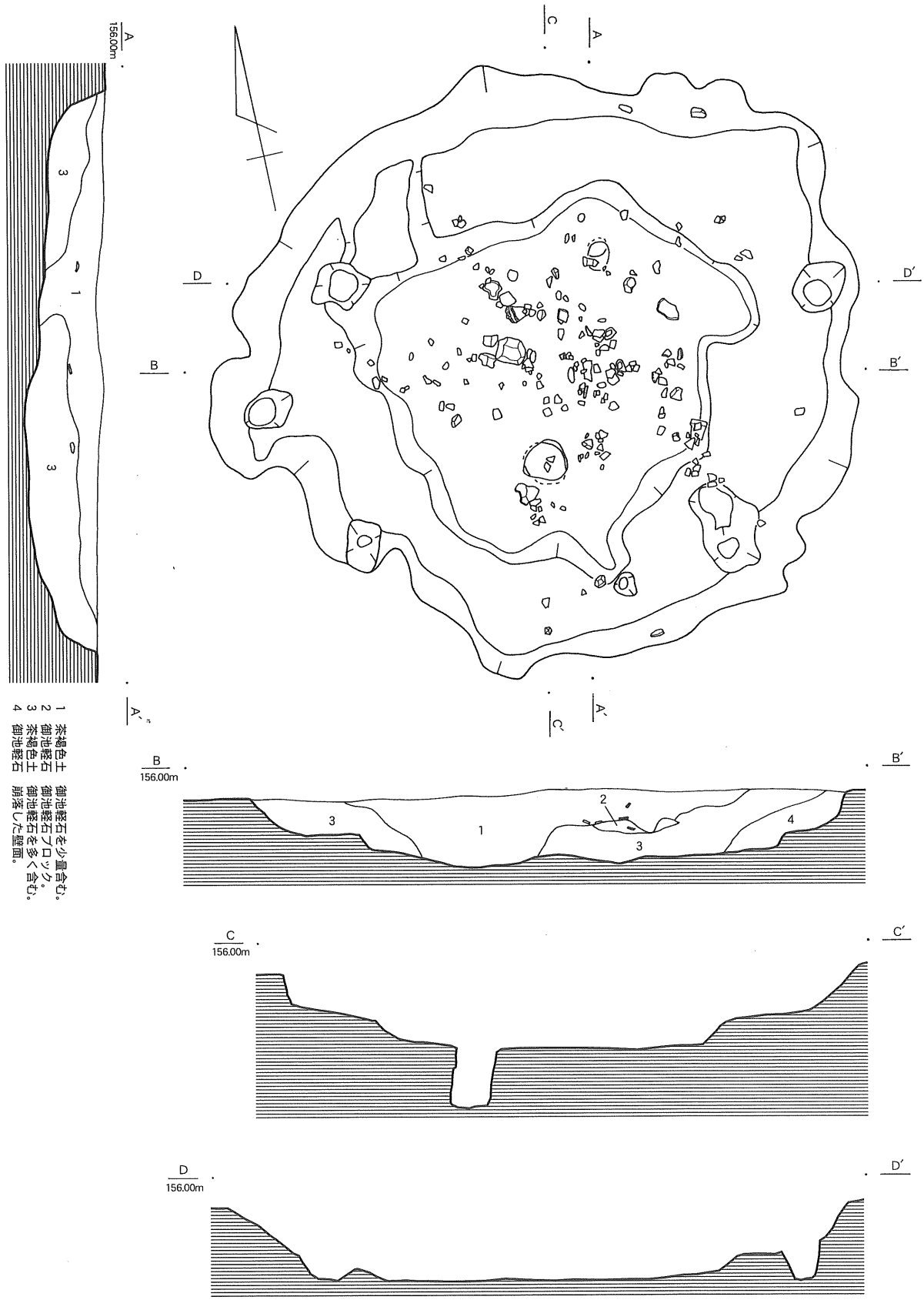
調査区のほぼ中央において検出された。3、4号竪穴住居跡の南側に位置する。平面形態は円形を呈し、長径約4.0m、短径約3.8m、検出面からの深さ約0.7mを測る。床面はほぼ平坦で、ピットは計5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

5から10は深鉢である。5は頸部において屈曲し口縁部は短く外反する。波状口縁で屈曲部に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。6は口縁部をやや肥厚させ文様帯を形成し、貝殻腹縁による横位の連続刺突文を施す。7は小型の深鉢で口縁部がわずかに外反する。波状口縁である。8～10は深鉢底部で、いずれも平底である。11は台付鉢である。胴部は膨らみをもち、口縁部は外反する。また口縁部をわずかに肥厚させ文様帯を形成し、貝殻腹縁による連続圧痕文を施す。

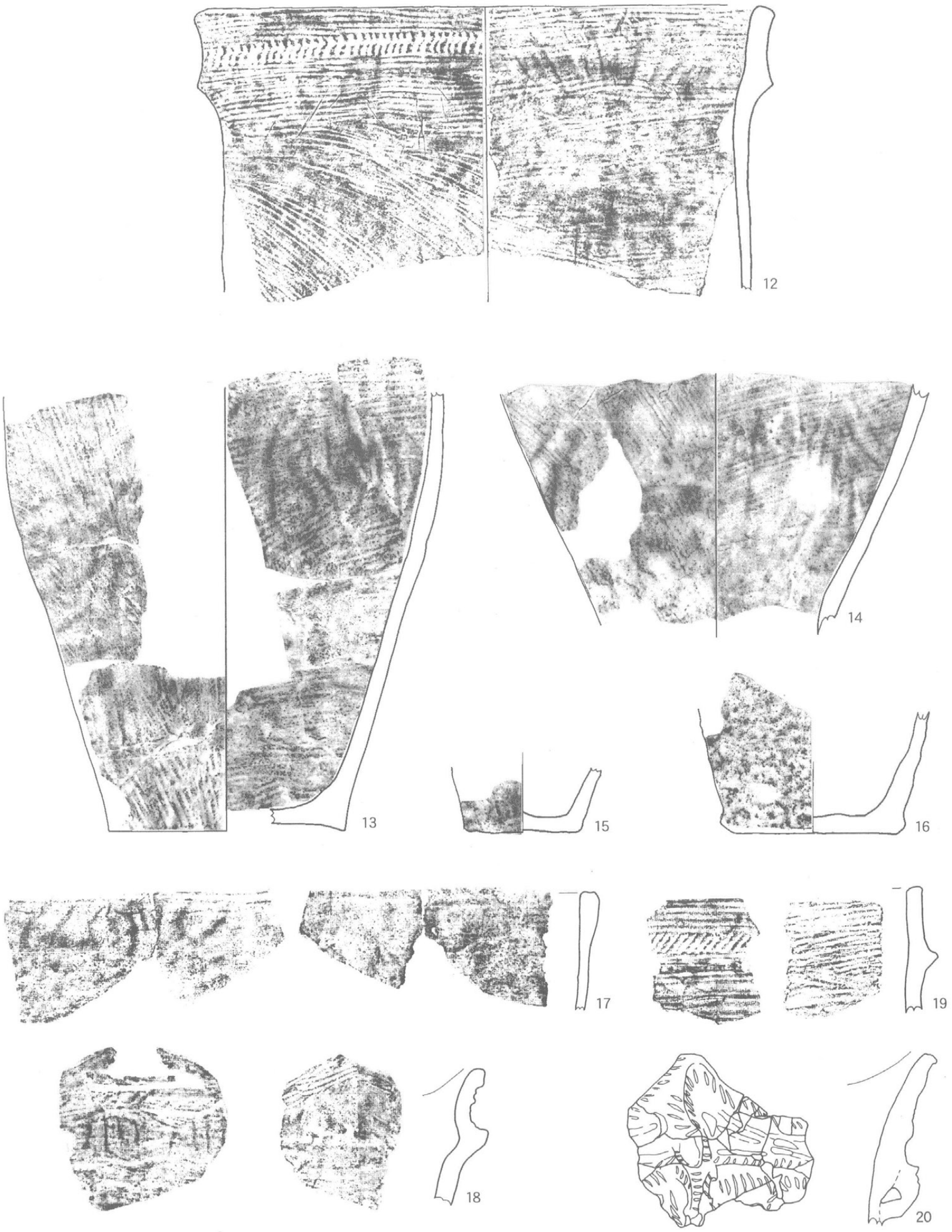
3号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。2号竪穴住居跡の北側、4号竪穴住居跡の東側に位置する。平面形態は円形を呈し長径約4.2m、短径約3.9m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は中央が一段、約10cm下がる。ピットは計6本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

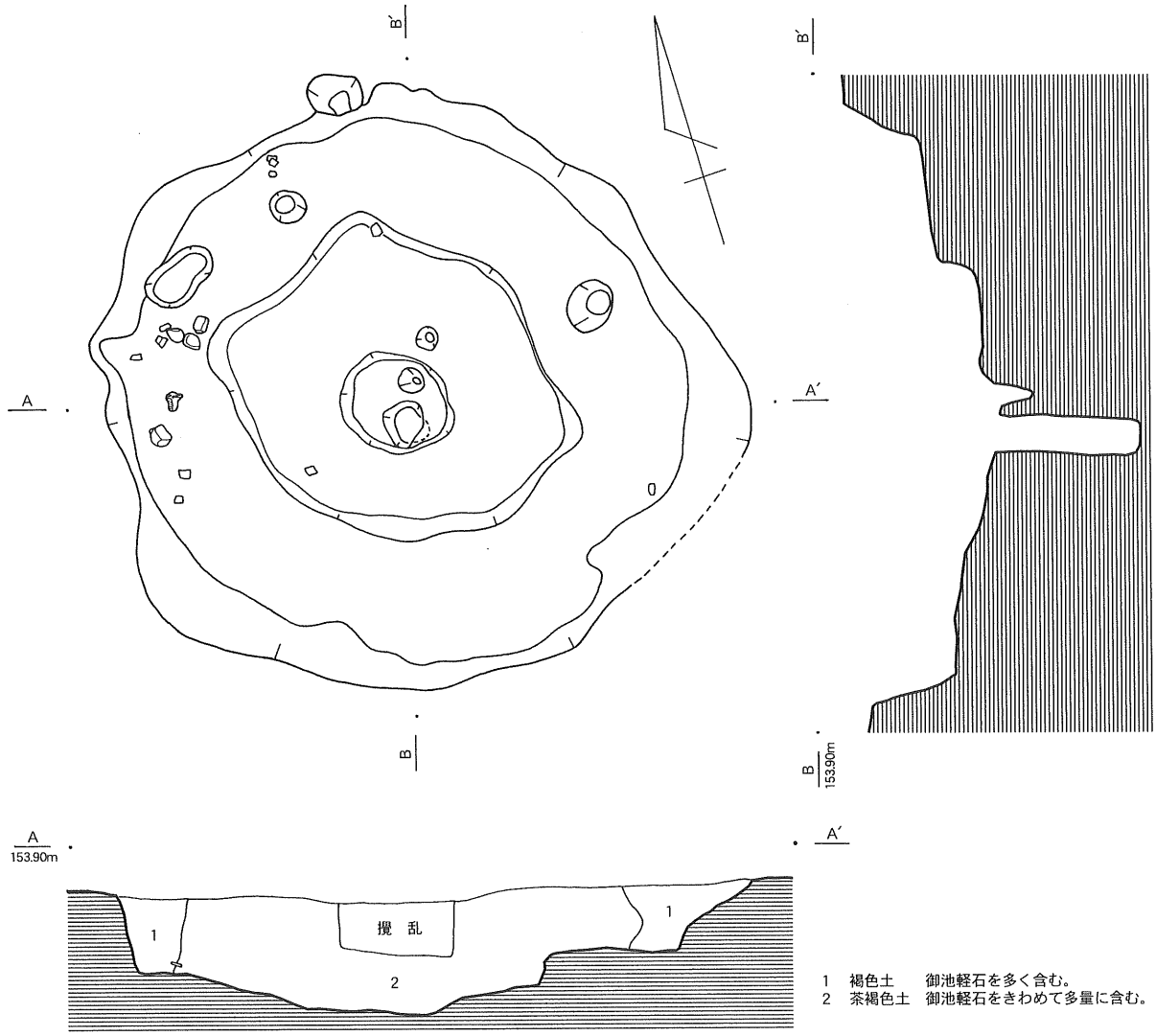
12、18は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す深鉢である。18は文様帯が著しく張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。12は貝殻腹縁による連続刺突文、18は沈線文、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。17は直線的に立ち上がる深鉢口縁部である。口唇部に一条の沈線文を施す。13は深鉢の底部から胴部にかけてで、14は深鉢胴部である。いずれも貝殻条痕による調整を施す。15、16は深鉢底部で平底である。



第95図　D区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



第96図　D区３・４号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第97図　D区４号竪穴住居跡実測図（1/40）

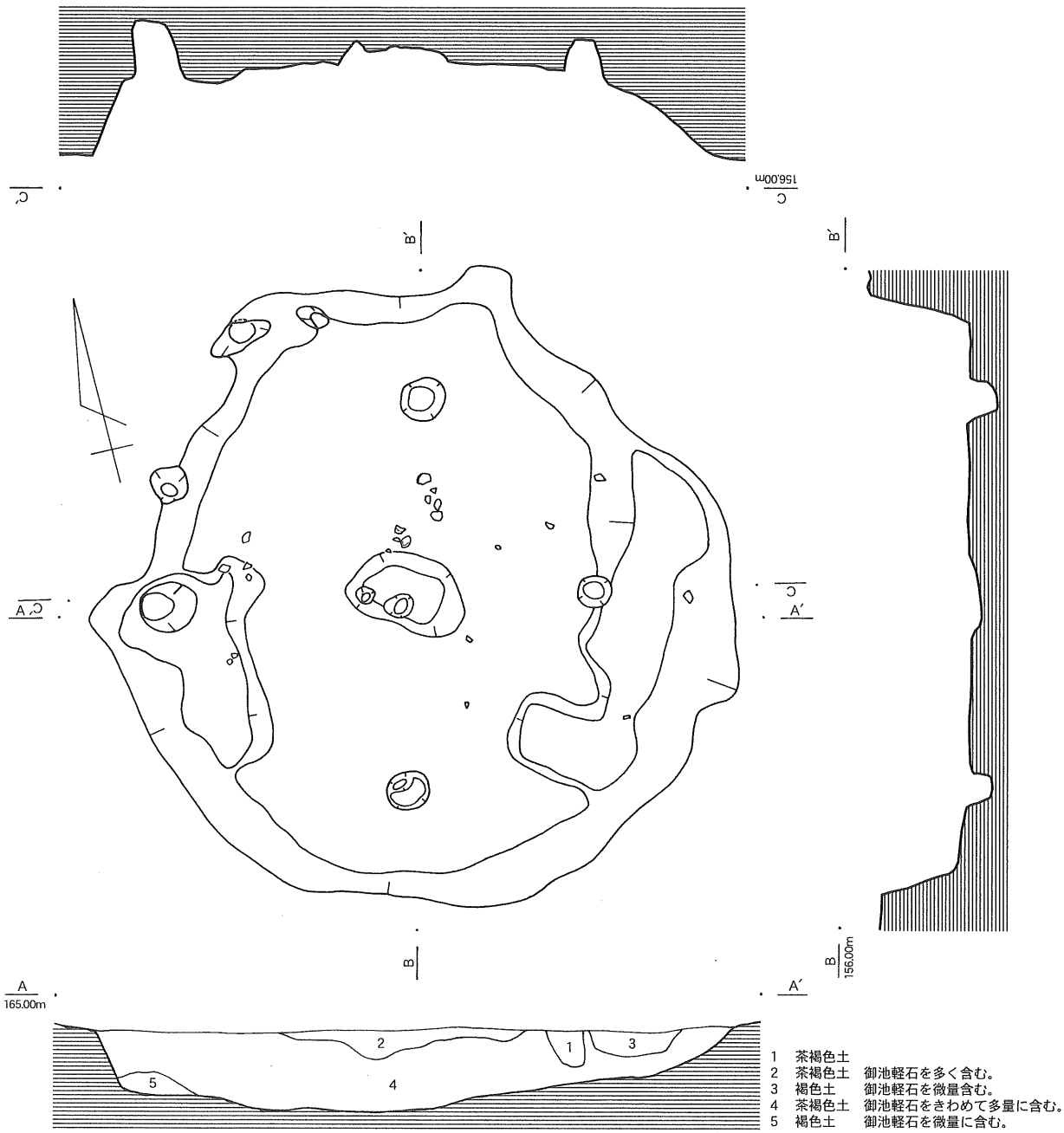
4号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央において検出された。2号竪穴住居跡の北側、3号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は円形を呈し、長径約3.6m、短径約3.4m、検出面からの深さ約0.7mを測る。床面は中央が一段、約20cm下がる。中央に円形を呈し長径約50cm、短径約65cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。土坑中央には直径約20cmのピットがあり深さは80cmを測る。ピットは計7本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。20、19とも床面付近からの出土である。

19は口縁部を肥厚させ文様帯を作り出す深鉢で、貝殻腹縁による連続刺突文を施す。20は深鉢口縁部で外反する。波状口縁で沈線文、ヘラ状工具による連続刺突文を施す。

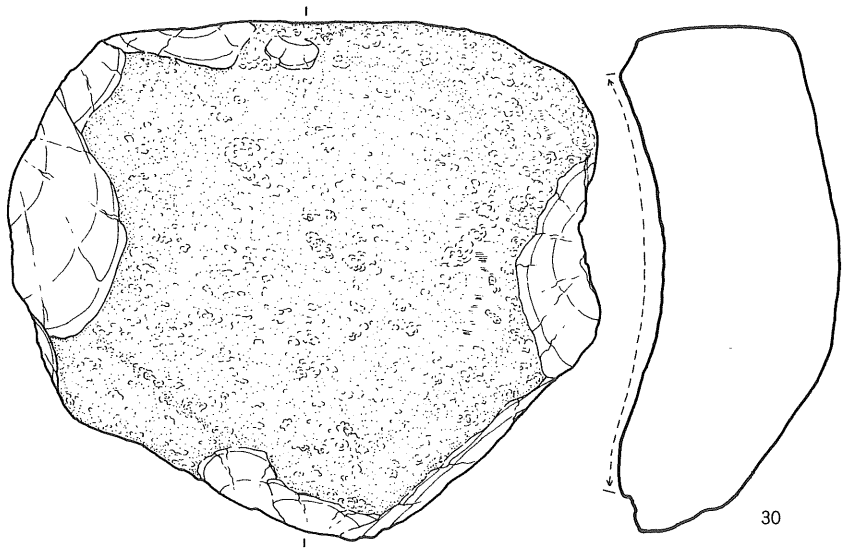
5号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央北側において検出された。平面形態は円形を呈し、長径約4.0m、短径約3.7m、検出面からの深さ約0.6mを測る。床面はほぼ平坦で、東・西の二面が壁に沿って一段高くなる。中央に楕円形を呈し長径約75cm、短径約45cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。ピットは7本が確認されている。埋土中より縄文土器の小片が出土している。

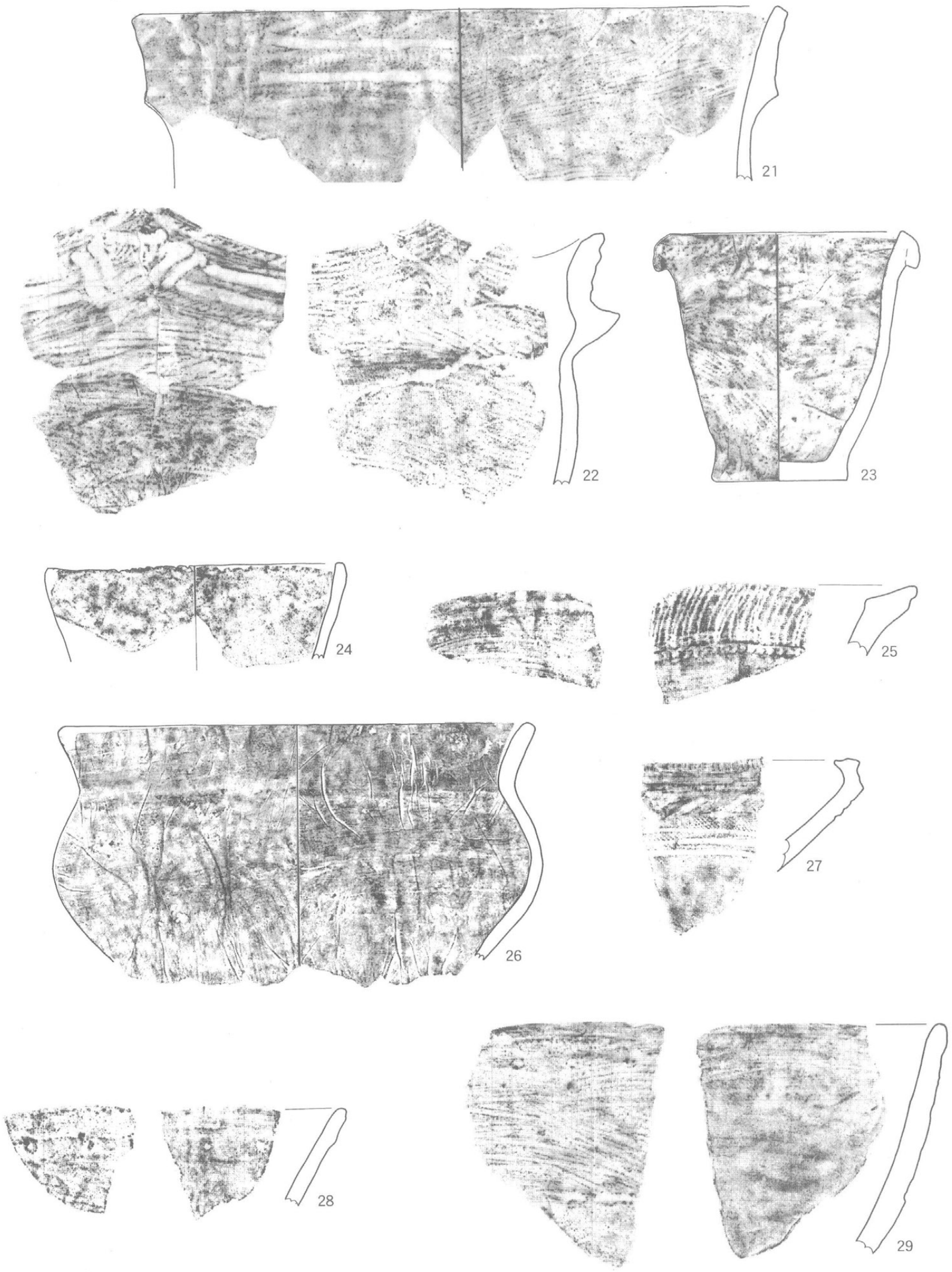


1　茶褐色土
2　茶褐色土　御池軽石を多く含む。
3　褐色土　御池軽石を微量含む。
4　茶褐色土　御池軽石をきわめて多量に含む。
5　褐色土　御池軽石を微量に含む。

第98図　D区５号竪穴住居跡実測図（1/40）



第99図　D区包含層出土石器実測図

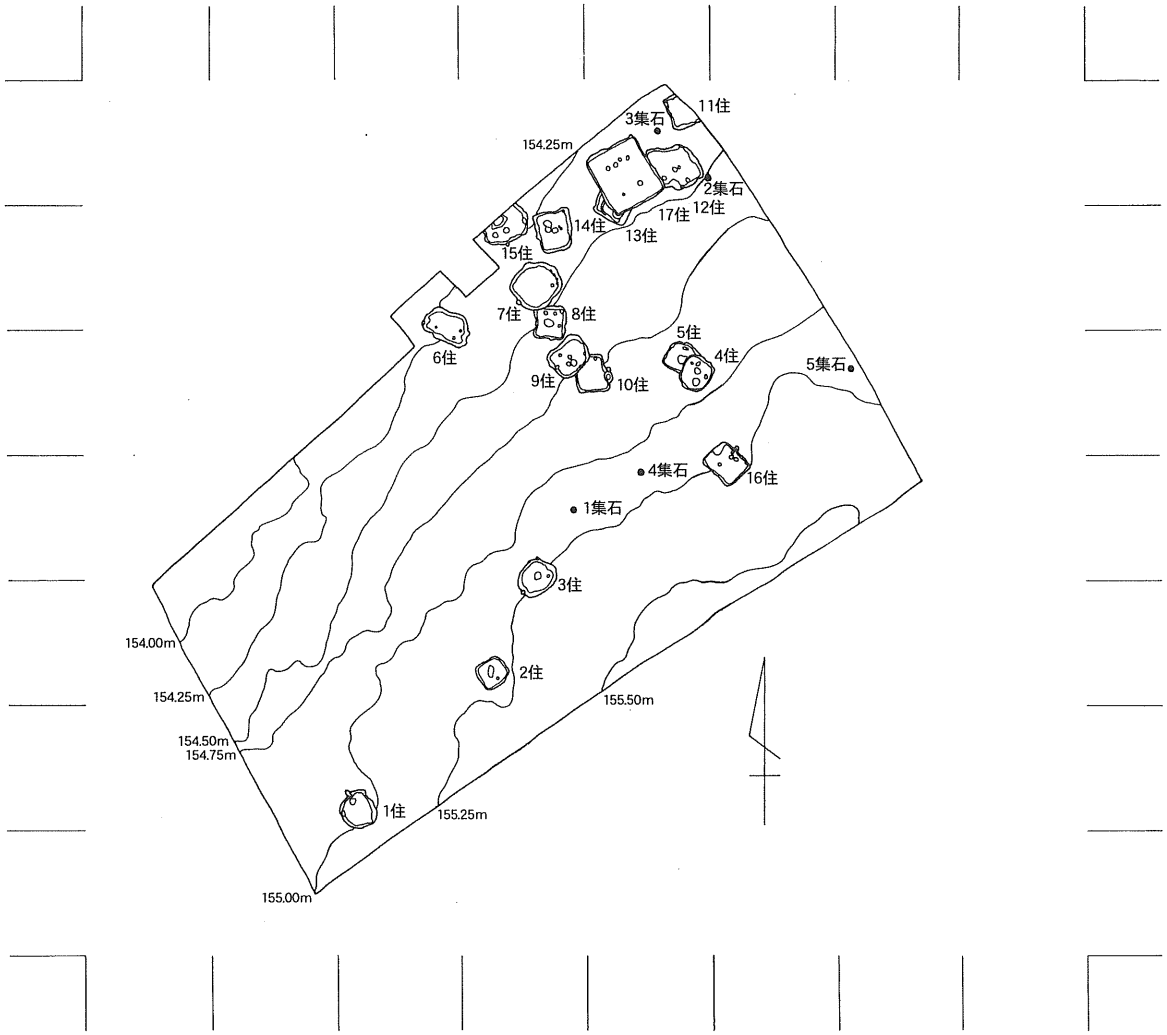


第100図　D区包含層出土土器拓影図（1/3）

表33　山城第1遺跡第3次調査D区出土遺物観察表

単位：cm

No.	出土位置	種別	器種	法量(上：土器 下：石器)			手法・文様		色調		胎土	備考
				口径	底径	器高						
				最大長	最大幅	最大厚	外器面	内器面	外面	内面		
1	1号住居	縄文土器	深鉢	(26)			貝殻条痕。ナデ。	ナデ。	褐灰	にぶい褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
2	1号住居	縄文土器	深鉢	(20)			貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	明黄褐	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
3	1号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	明黄褐	1～2mmの灰色・茶褐色粒少量。	
4	1号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	黒色・白色粒子微量。	
5	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	黒褐	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。	
6	2号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	褐	褐	1mm以下の白色粒ごく少量。雲母微量。	
7	2号住居	縄文土器	深鉢	(15.4)			貝殻条痕。ナデ。スス付着。	ナデ。	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
8	2号住居	縄文土器	深鉢		9.4		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色粒少量。	
9	2号住居	縄文土器	深鉢		5.2		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm程度の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
10	2号住居	縄文土器	深鉢		6.2		貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。	
11	3号住居	縄文土器	台付鉢	(16.4)	10.3	(18.5)	貝殻腹縁圧痕文。工具ナデ。ナデ。	工具ナデ。ナデ。	にぶい赤褐	明赤褐	1mm以下の黒色・白色粒微量。	
12	3号住居	縄文土器	深鉢	(30)			貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	黒褐	黒褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
13	3号住居	縄文土器	深鉢		(11.6)		貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
14	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	黒褐	1mm以下の白色粒少量。	
15	3号住居	縄文土器	深鉢		6.4		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒ごく少量。	
16	3号住居	縄文土器	深鉢		7.3		ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒微量。	
17	3号住居	縄文土器	深鉢				ナデ。	ナデ。	浅黄橙	浅黄橙	1mm程度の灰色・茶褐色粒少量。	
18	3号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。沈線文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色・茶褐色粒微量。	
19	4号住居	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の黒色・白色・茶褐色粒ごく少量。	
20	4号住居	縄文土器	深鉢				沈線文。刺突文。ナデ。	ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒微量。	
21	包含層	縄文土器	深鉢	(32.6)			貝殻腹縁刺突文。爪型文。凹線文。ナデ。	ナデ。	明赤褐	にぶい褐	1mm以下の黒色・白色粒ごく少量。	
22	包含層	縄文土器	深鉢				貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	橙	橙	1mm以下の白色粒微量。	
23	包含層	縄文土器	深鉢	(17.8)	6.6	12.2	貝殻腹縁刺突文。貝殻条痕。ナデ。	貝殻条痕。ナデ。	にぶい橙	明赤褐	1mm以下の黒色、白色粒少量。雲母微量。	
24	包含層	縄文土器	深鉢	(15)			刺突文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	褐灰	1mm程度の黒色、茶褐色粒少量。	
25	包含層	縄文土器	深鉢				ナデ。	貝殻腹縁刺突文。刺突文。ナデ	にぶい褐	にぶい橙	1mm以下の白色・茶褐色粒少量。雲母微量。	
26	包含層	縄文土器	深鉢	(23.6)			ミガキ。スス付着。	ミガキ。ナデ。	にぶい赤褐	黒褐	1mm以下の白色粒ごく少量。雲母微量。	
27	包含層	縄文土器	浅鉢				刺突文。沈線文。磨消縄文。ミガキ。	ミガキ。	黒褐	黒褐	1mm以下の白色・茶褐色粒ごく少量。	
28	包含層	縄文土器	浅鉢				孔列文。ナデ。	ナデ。	黒褐	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒微量。	
29	包含層	縄文土器	浅鉢				孔列文。ナデ。	ナデ。	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程度の白色・茶褐色粒微量。	
30	包含層	石器	石皿	32	27	10						9kg・砂岩？



第101図　E区地形図（1/600）

E区の調査

層序

調査区の標高は154.00m～155.50mで、南側が高く、北西方向に向け傾斜している。層序は1層・耕作土、2層・黒色土、3層・高原スコリア、4層・黒褐色土、5層・褐色土、6層・暗褐色土、7層・御池軽石である。調査以前は畑地として利用されていた。

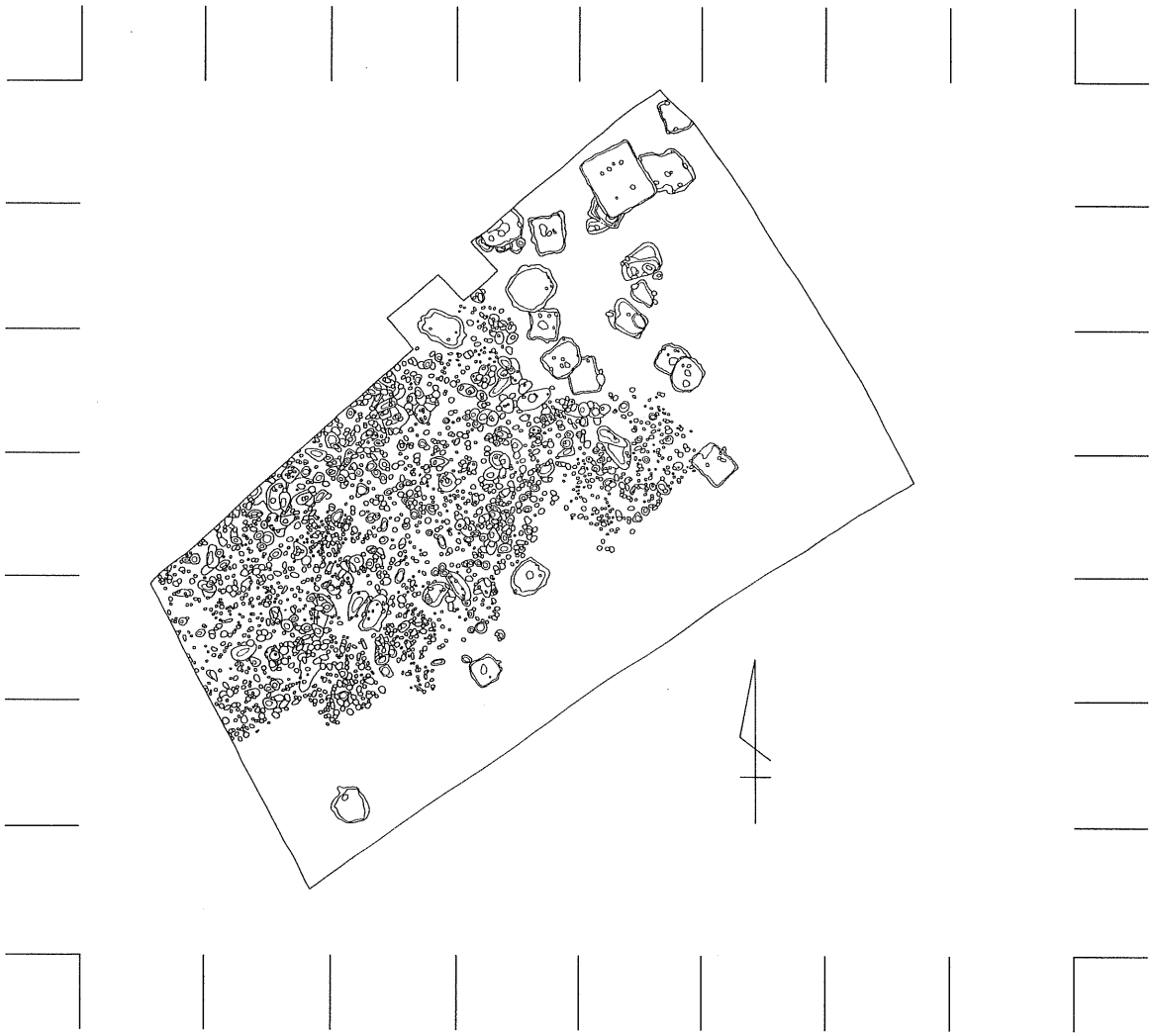
遺構と遺物

E区においては縄文時代の竪穴住居跡16軒、集石遺構5基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、時期不明のピット多数が検出された。

縄文時代の遺構と遺物

1号竪穴住居跡

調査区の南西端において検出された。平面形態は不整円形を呈し、長径約3.0m、短径約2.75m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面はほぼ平坦で、北側に不定形を呈する2基の掘り込みが確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。



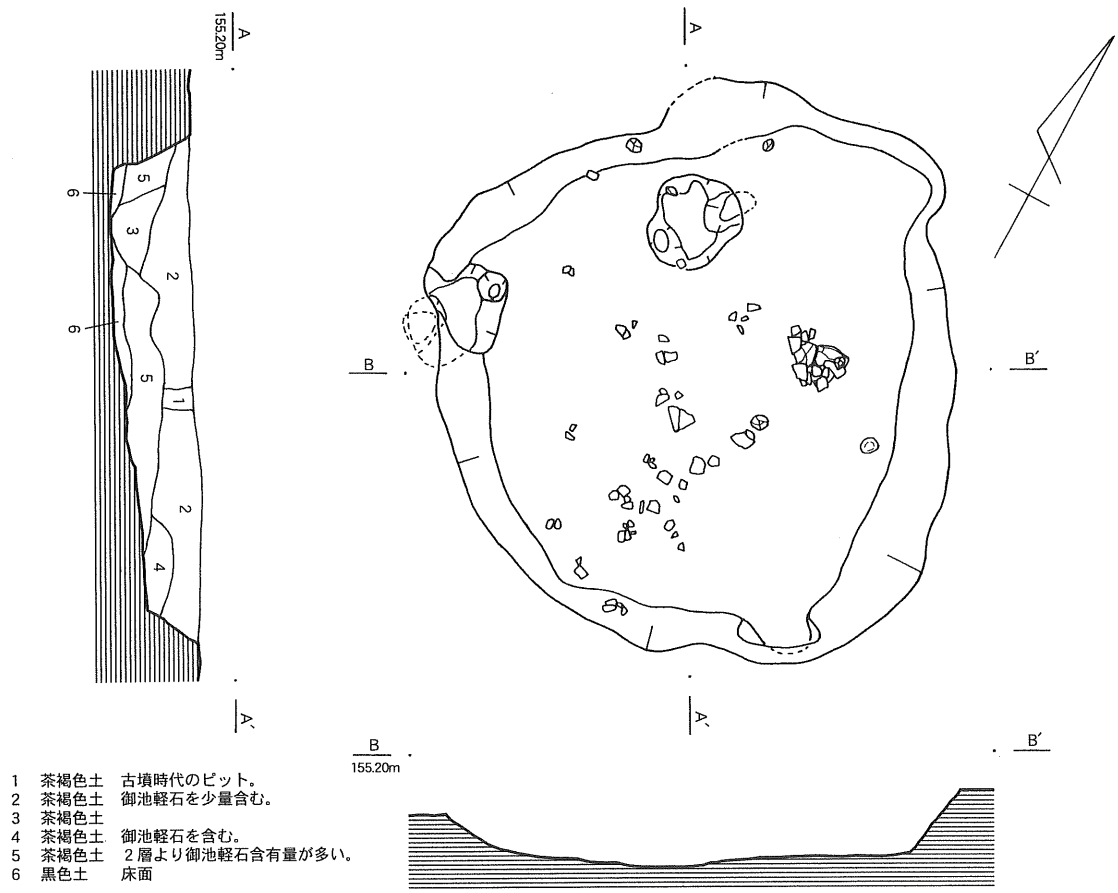
第102図　E区遺構分布図（1/600）

2はやや開きながら直線的にたちあがり、口縁端部に連続刺突文を施す深鉢である。1、3から6は口縁部を肥厚させ文様帯を形成し、貝殻腹縁による連続刺突文を施す深鉢である。1、3から5は文様帯幅が狭いが、6は文様帯下部が著しく張り出し、口縁部断面が逆「く」の字状を呈する。中央に2条の沈線文を施し、その上下に貝殻腹縁による連続刺突文を配する。8は底部でごく薄く網代痕が残る。

2号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は隅丸方形を呈し、長軸約2.3m、短軸約2.2m、検出面からの深さ約0.35mを測る。床面はほぼ平坦で、中央に楕円形を呈し、長径約80cm、短径約45cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。ピットは計3本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

9はやや内湾する深鉢口縁部である。2本の沈線文間に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。



第103図 E区1号竪穴住居跡実測図（1/40）

3号竪穴住居跡

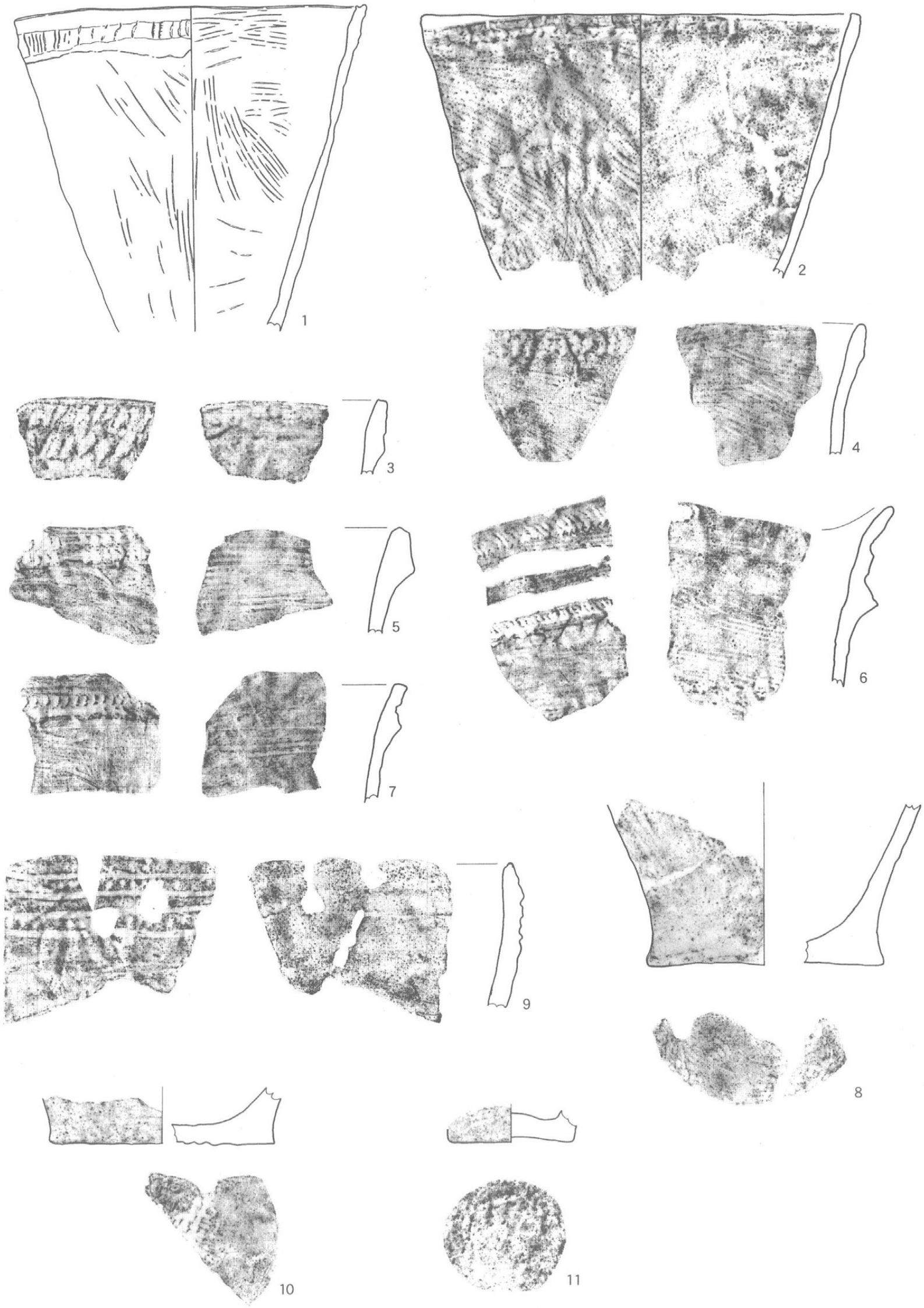
調査区のほぼ中央南側において検出された。平面形態は楕円形を呈し長径約3.1m、短径約2.65m、検出面からの深さ約0.45mを測る。床面は平坦で、中央に円形を呈し長径約65cm、短径約60cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。計5本のピットが確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

10、11とも深鉢底部で10は平底で網代痕を有し、11は若干の上げ底である。12は石皿で石材は砂岩である。

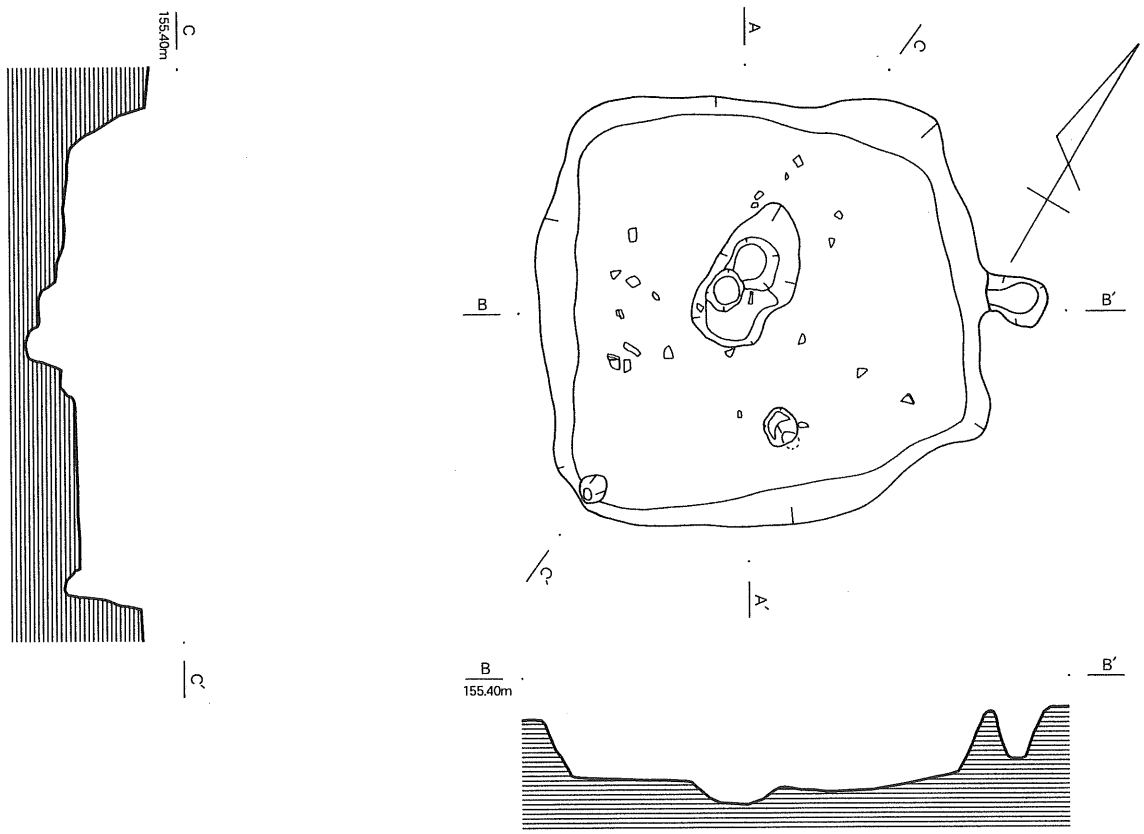
4号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。5号竪穴住居跡を切っている。平面形態は楕円形を呈し、長径約2.9m、短径約2.5m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面はほぼ平坦で、中央と北側に土坑2基をもつ。中央に位置する1号土坑は不整円形を呈し直径約50cm、床面からの深さ約40cmを測る。北側に位置する2号土坑は円形を呈し直径約55cm、床面からの深さ約30cmを測る。埋土中より縄文土器の小片のほか、礫が多数出土している。13は床面付近からの出土である。

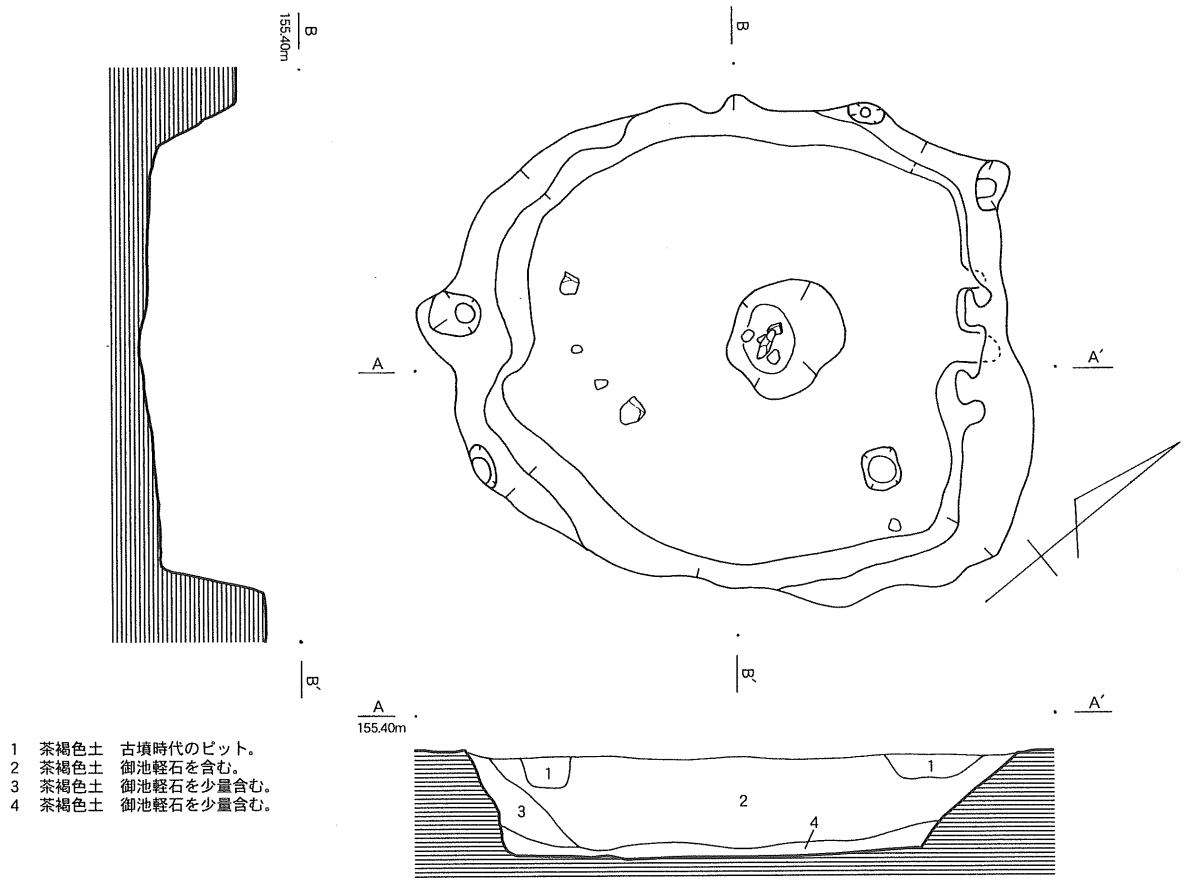
13は石皿で石材は砂岩である。



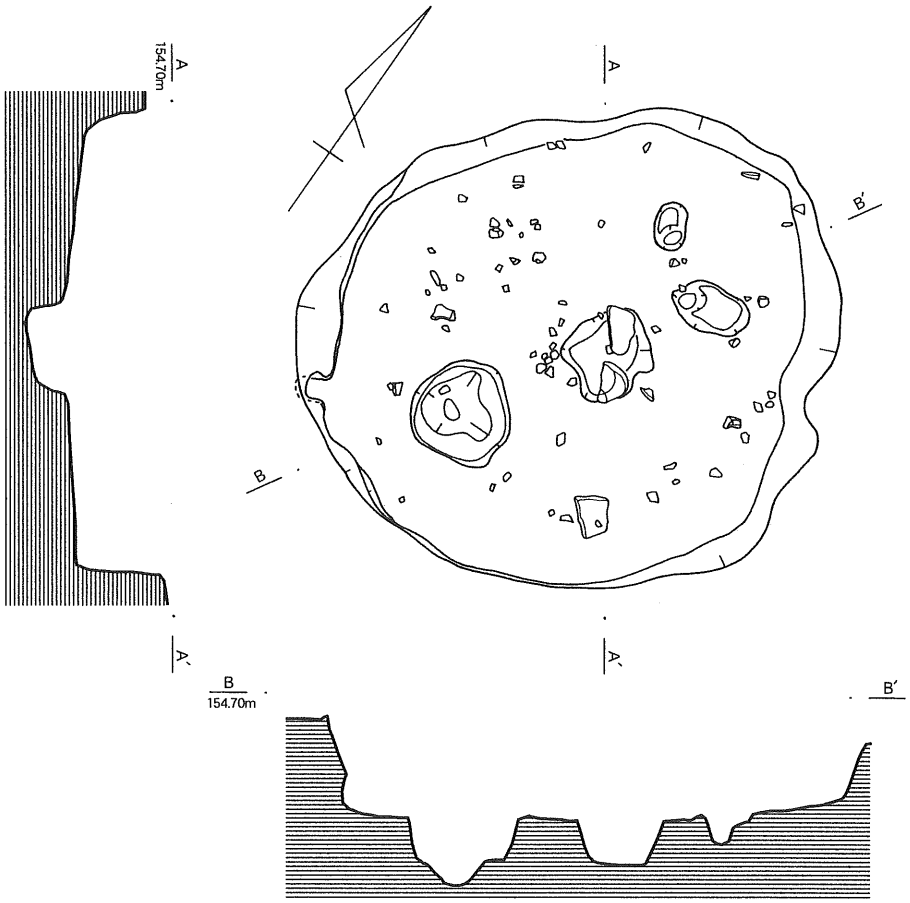
第104図　E区１～３号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



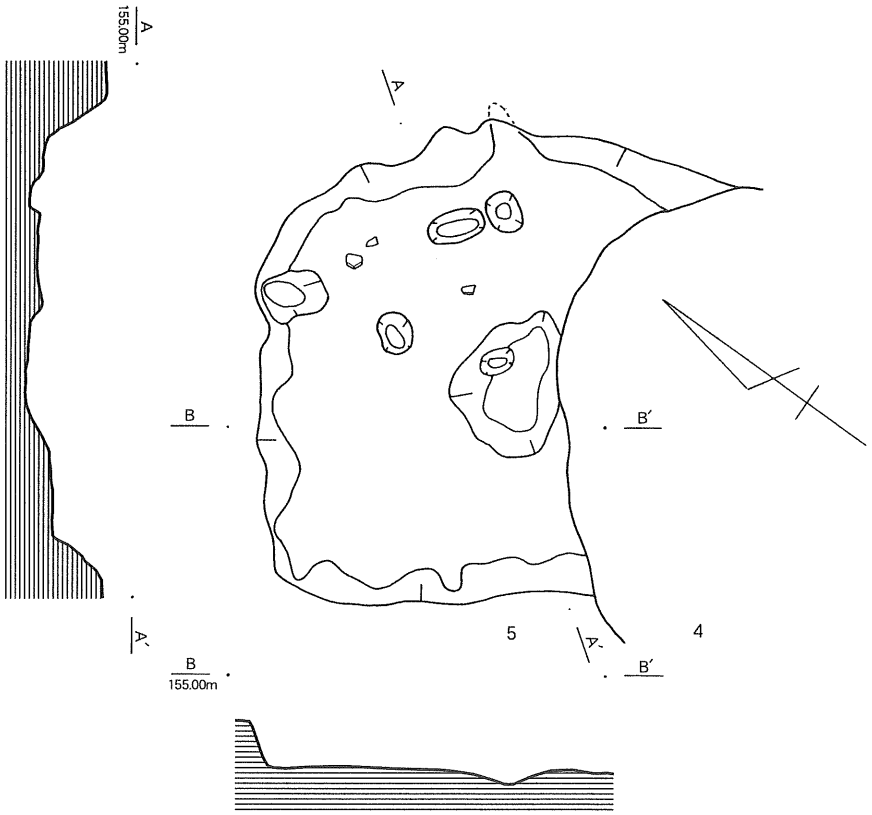
第105図　E区２号竪穴住居跡実測図（1/40）



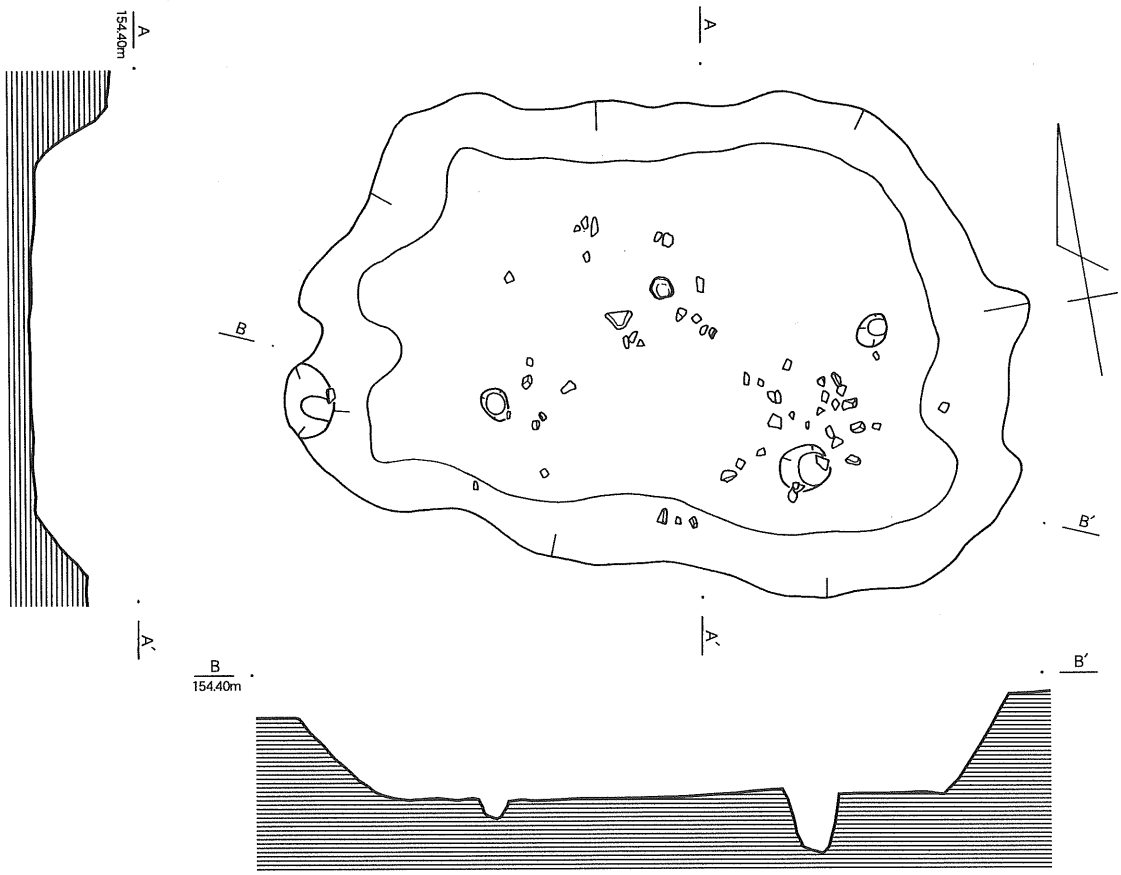
第106図　E区３号竪穴住居跡実測図（1/40）



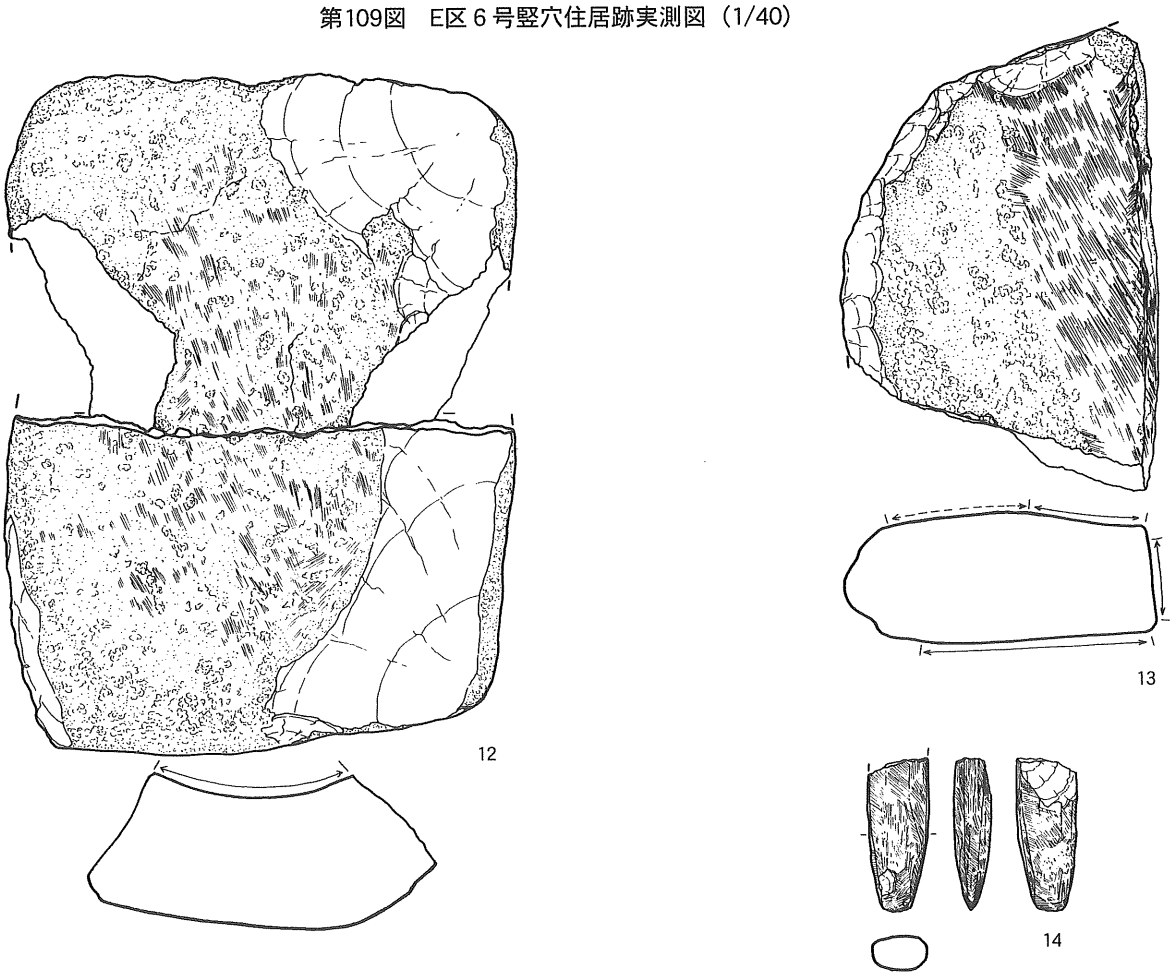
第107図　E区４号竪穴住居跡実測図（1/40）



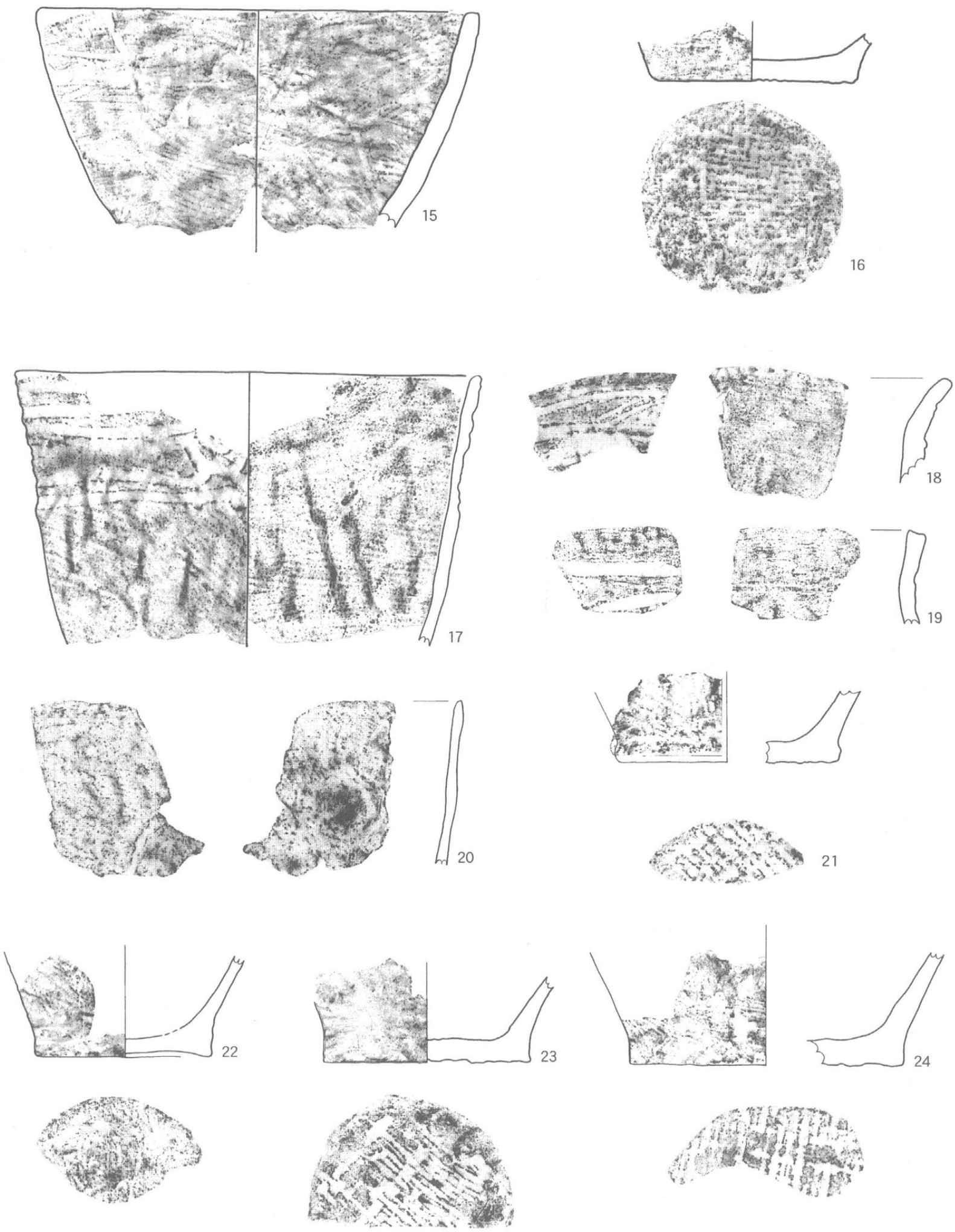
第108図　E区５号竪穴住居跡実測図（1/40）



第109図　E区６号竪穴住居跡実測図（1/40）



第110図　E区３・４・６号竪穴住居跡出土石器実測図



第111図　E区６・７号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

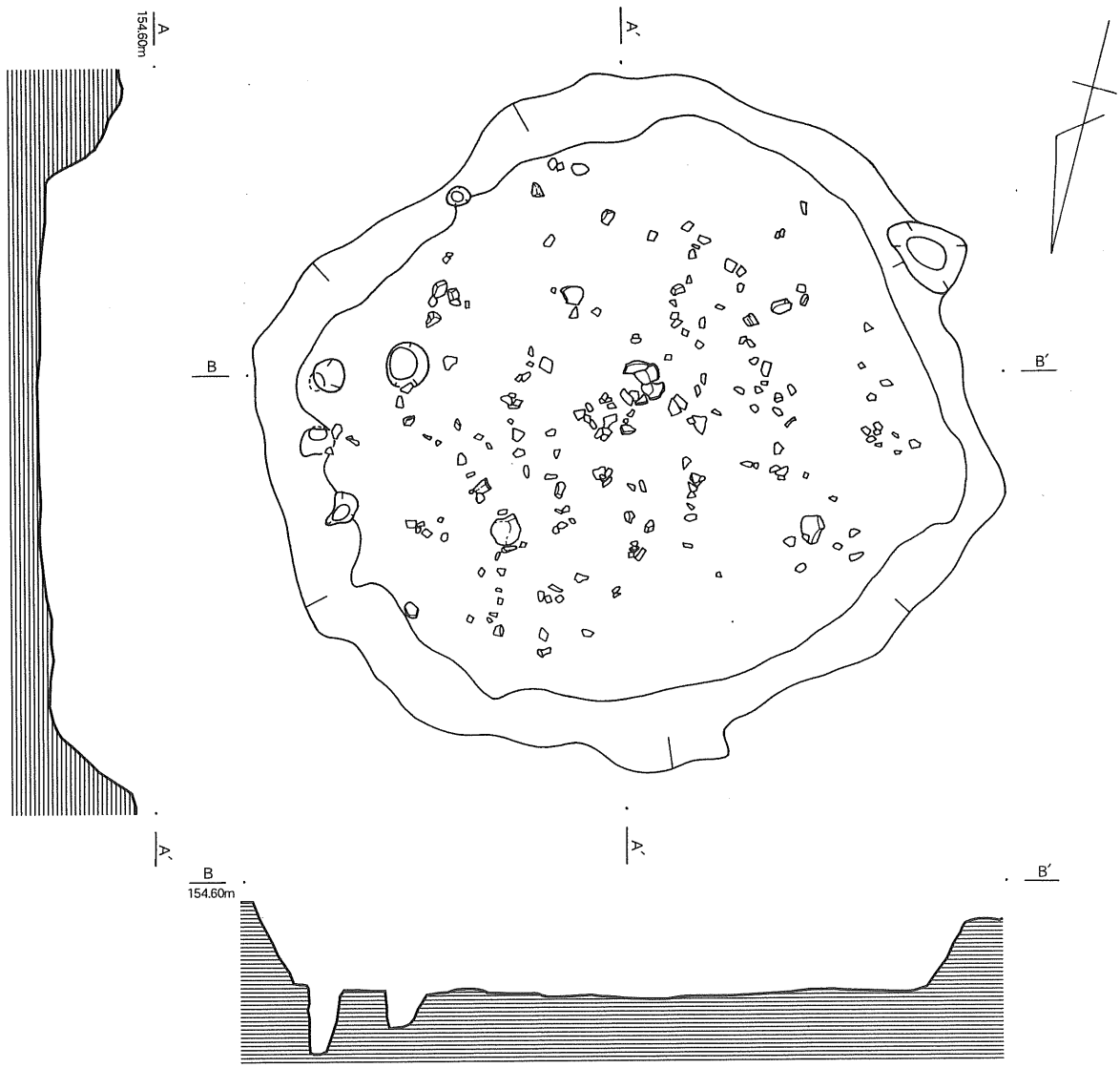
5号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。4号竪穴住居跡に切られている。平面形態は隅丸方形と考えられ、一辺約2.5m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、中央に楕円形を呈し長径約80cm、短径約65cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。ピットは4本が確認されている。埋土中より縄文土器の小片が出土している。

6号竪穴住居跡

調査区の北側において検出された。7、8号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、長径約3.7m、短径約2.4m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、ピットは2本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。16は東側の土器集中からの出土である。

15は深鉢口縁部でやや内湾し、口唇部は平坦に仕上げる。16は深鉢底部である。平底で網代痕を有する。14は小型の磨製石斧で刃部は両刃である。石材はフォルンフェルスと考えられる。



第112図　E区７号竪穴住居跡実測図（1/40）

7号竪穴住居跡

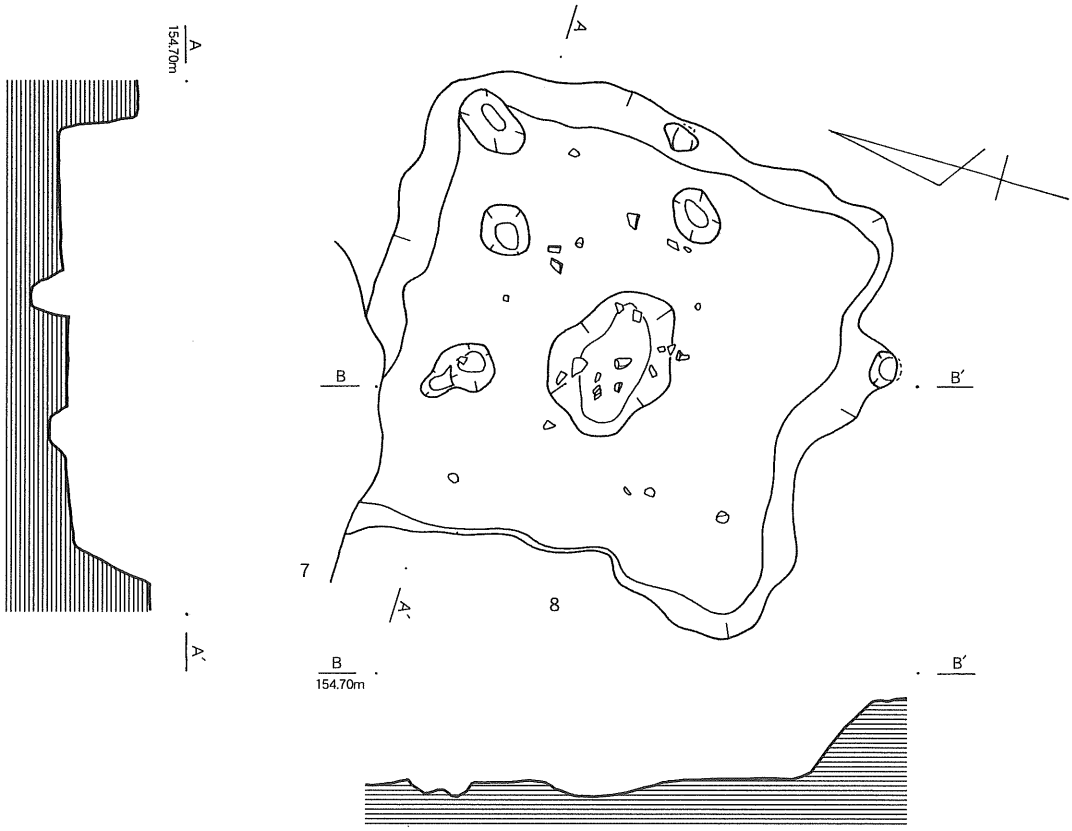
調査区の北側隅において検出された。8号竪穴住居跡を切っている。平面形態は円形を呈し、長径3.9m、短径約3.75m、検出面からの深さ約0.5mを測る。床面は平坦で、ピットは6本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。21は床面付近からの出土である。

17はやや外傾しながら直線的に立ち上がり、口縁部に平行沈線文を施す。18、19は頸部においてやや屈曲し、口縁部がやや外反し沈線文を施す。18は口唇部に貝殻腹縁による連続刺突文、19は沈線文を施す。20は直線的に立ち上がる深鉢口縁部である。21～24は深鉢底部で、21、23、24は平底で網代痕が残る。

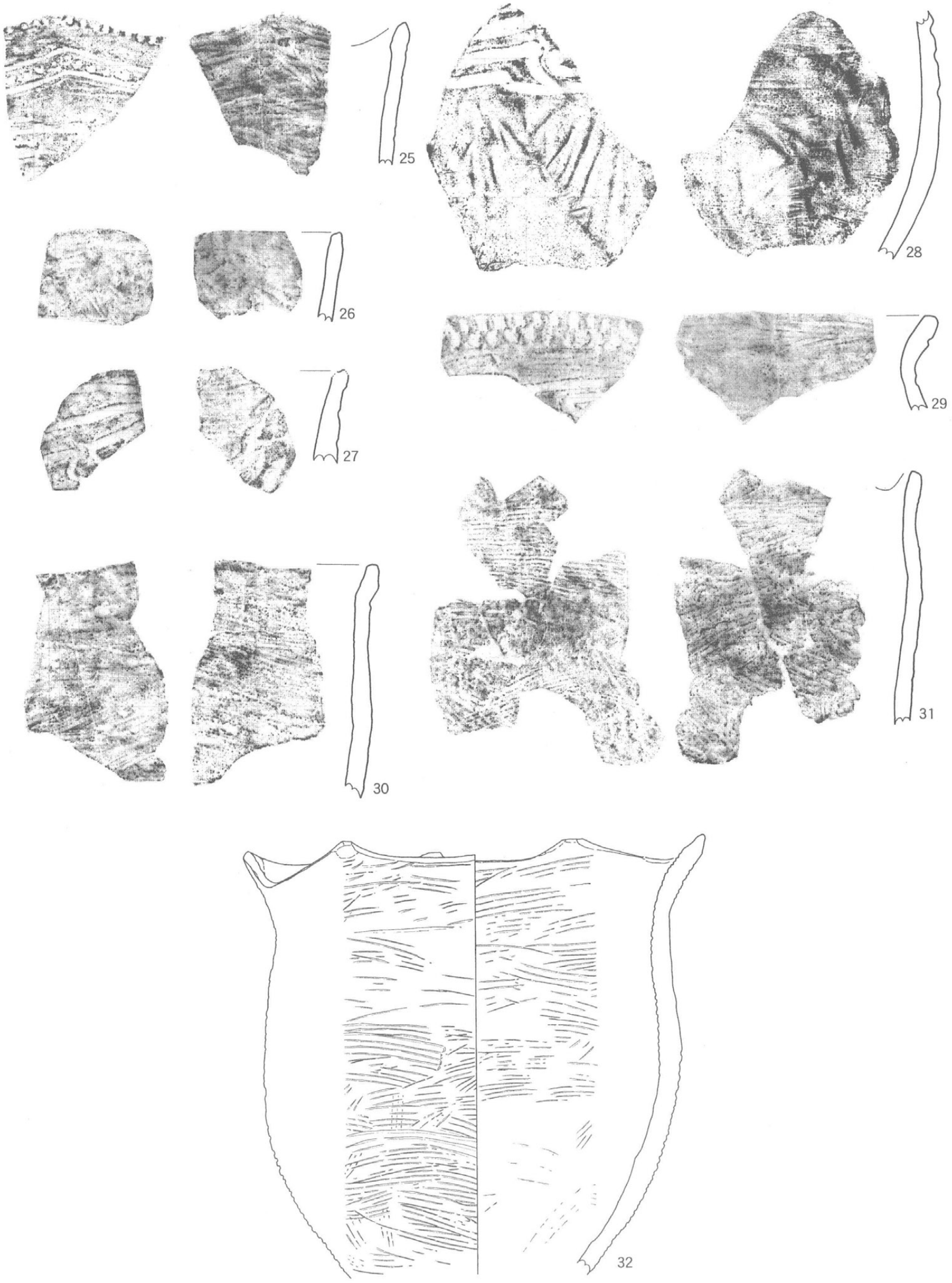
8号竪穴住居跡

調査区の北側隅において検出された。7号竪穴住居跡に切られている。平面形態は方形を呈し、一辺が約2.5m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、中央に楕円形を呈し長径約80cm、短径約65cm、床面からの深さ約10cmを測る土坑を持つ。ピットは5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

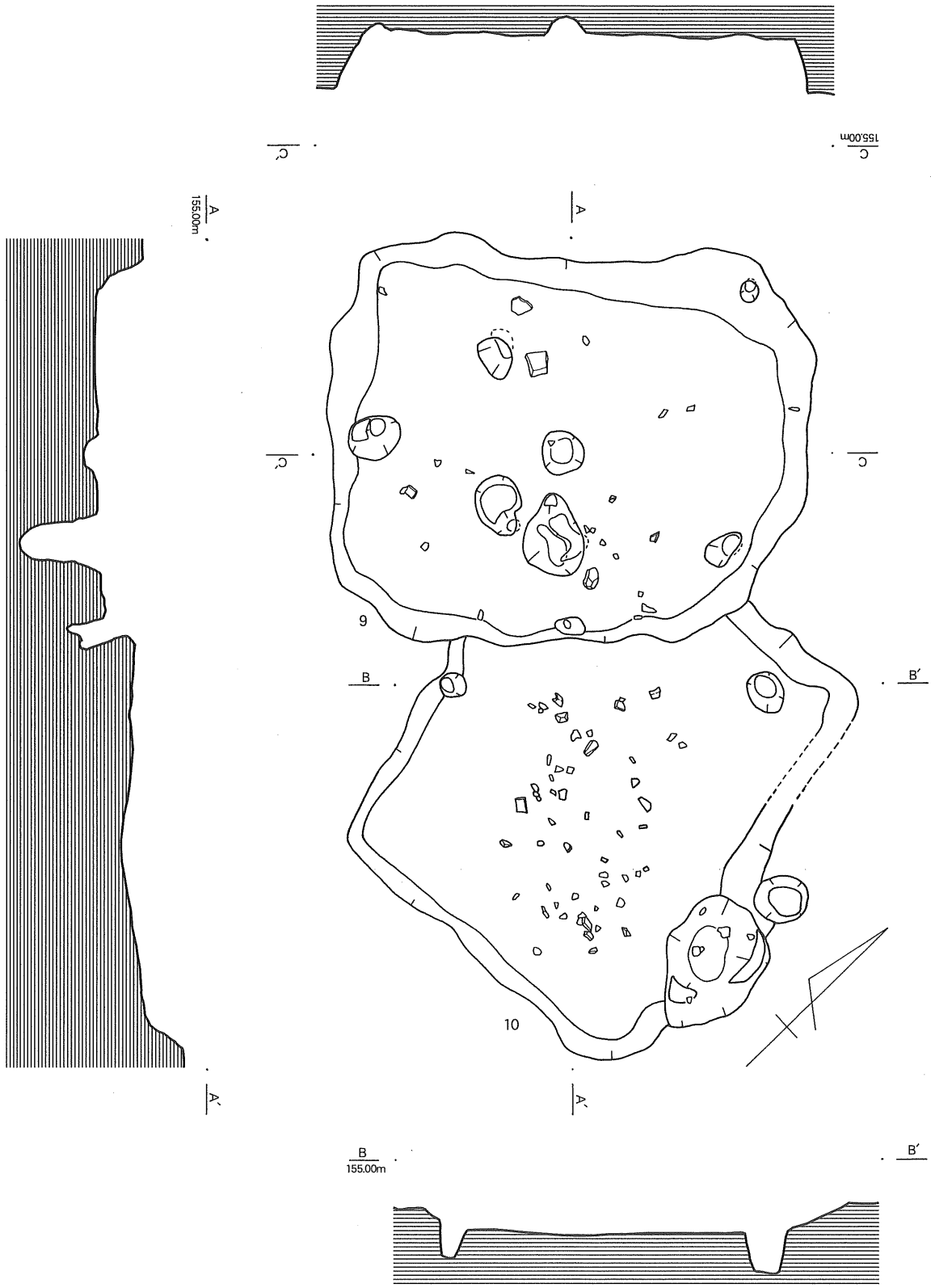
25～27ともに深鉢口縁部である。25は波状口縁で二本の沈線文間に棒状工具による連続刺突文を施す。また口唇部にも連続刺突文を施す。26は直線的に立ち上がる深鉢口縁部で、口唇部は平坦に仕上げる。27は直線的に立ち上がる深鉢口縁部で沈線文を施す。



第113図　E区８号竪穴住居跡実測図（1/40）



第114図　E区８～11号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第115図　E区９・10号竪穴住居跡実測図（1/40）

9号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央北側において検出された。10号竪穴住居跡と切りあっている。平面形態は隅丸方形を呈し、長軸3.15、短軸約2.5m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で、ピットは8本が確認されている。埋土中より縄文土器、礫が出土している。

28はやや膨らみをもつ深鉢胴部で、平行沈線文を施す。

10号竪穴住居跡

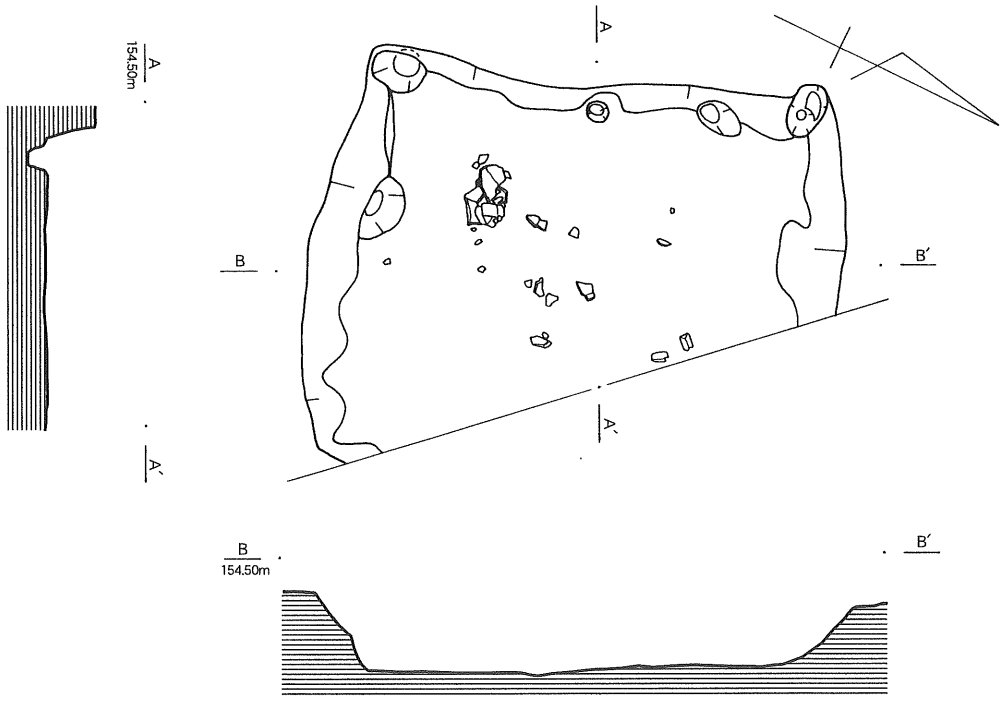
調査区のほぼ中央北側において検出された。9号竪穴住居跡と切りあっている。平面形態は長方形を呈し、長軸約3.1m、短軸約2.45m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、西壁に楕円形を呈し長径約90cm、短径約70cm、床面からの深さ約350cmを測る土坑を持つ。ピットは3本が確認されている。埋土中より縄文土器、礫が出土している。

29は外反する深鉢で口縁部がやや肥厚し貝殻腹縁による棒状工具による連続刺突文を施す。胴部に沈線文を施す。

11号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。東側は調査区外である。平面形態は方形を呈し、長軸約2.75m、短軸約2.0m（現存長）、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で、ピットは壁に沿って5本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

30、31は深鉢口縁部で口縁部がごくわずかに外反する。31は波状口縁である。32は深鉢で胴部はやや膨らみをもち、頸部において屈曲し、外反する口縁部は波状口縁となる。内外面共に全面に貝殻条痕による調整を施す。



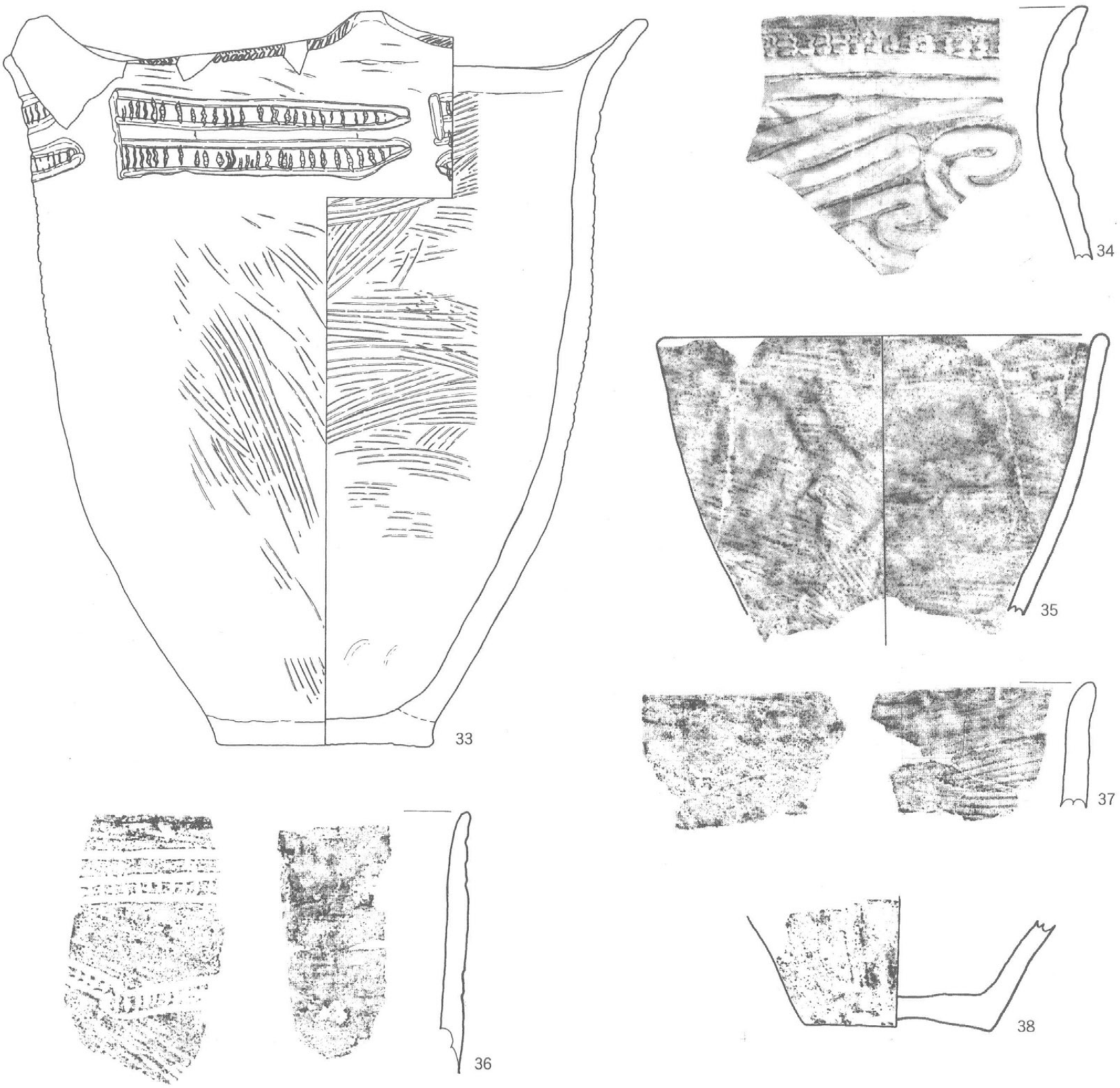
第116図　E区11号竪穴住居跡実測図

第117図　E区12号竪穴住居跡実測図(1/40)

12号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。17号竪穴住居跡に切られている。平面形態は方形で、一辺約3.0m、検出面からの深さ約0.3mを測る。その形態から東西に2軒の住居が切りあっている可能性がある。床面は平坦で、ピットは6本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。35、36は床面付近からの出土である。33は接合資料であるが、内1点は11号竪穴住居跡からの出土である。

33は深鉢で胴部はあまり膨らまず、口縁部は外反する波状口縁である。2条の沈線文間に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。口唇部は平坦に仕上げ貝殻腹縁による連続刺突文を施す。34～36は深鉢口縁部である。34は外反し上部に貝殻腹縁による連続刺突文、下部に平行沈線文を施す。36は直線

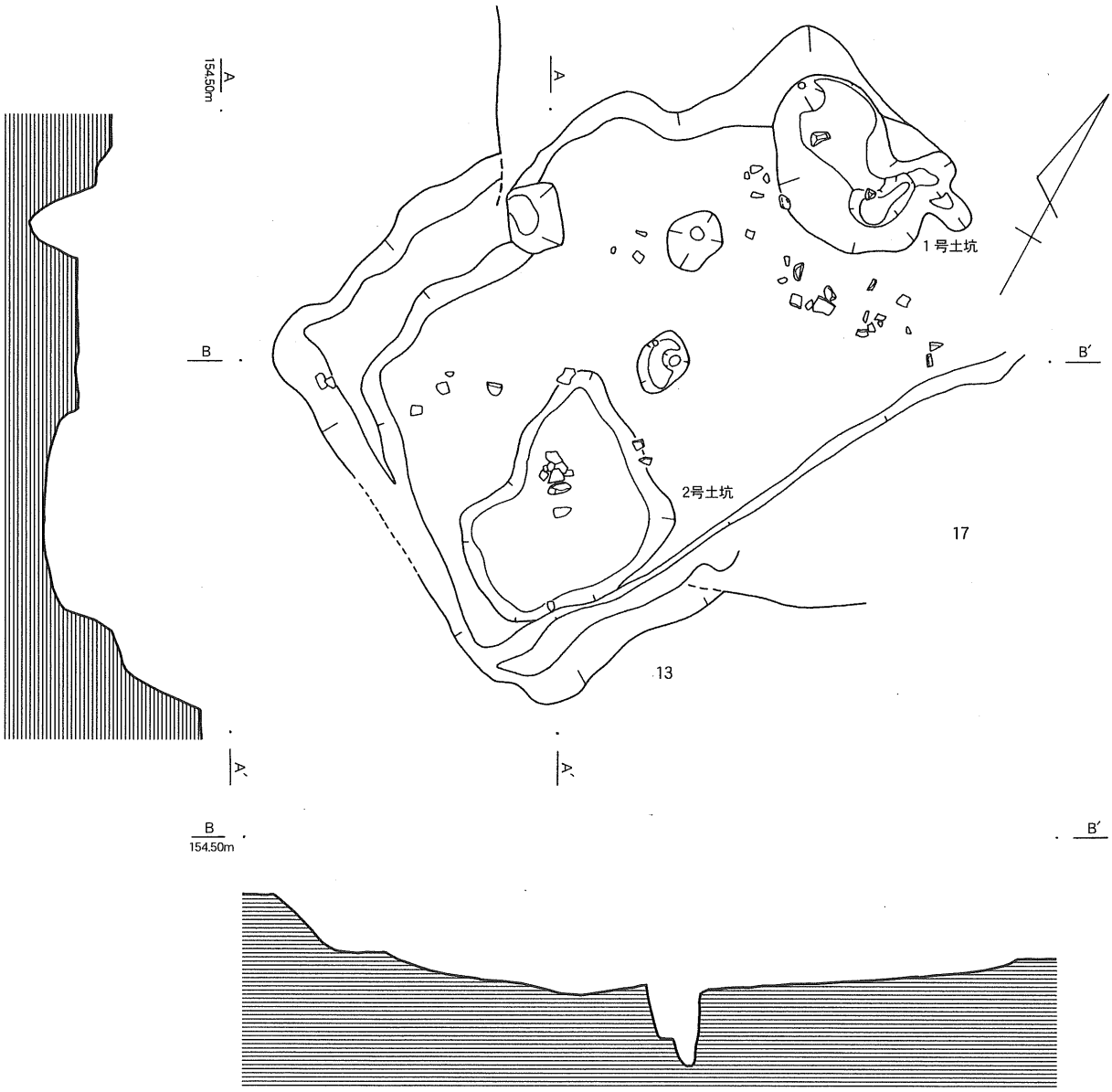


第118図　E区12号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）

的に立ち上がり2条の沈線文間に貝殻腹縁による連続刺突文を施す。35、37は直線的に立ち上がる深鉢口縁部である。38は深鉢底部で若干の上げ底である。

13号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。17号竪穴住居跡に切られている。平面形態は方形を呈し、長軸約4.0m（現存長）、短径約3.75m、検出面からの深さ約0.7mを測る。床面は中央がやや低くなり、南北に土坑2基をもつ。北側に位置する1号土坑は楕円形を呈し長径約115cm、短径約85cm、床面からの深さ約25cmを測る。南側に位置する2号土坑は不正形を呈し長軸約120cm、短軸約110cm、床面からの深さ約30cmを測る。ピットは3本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。



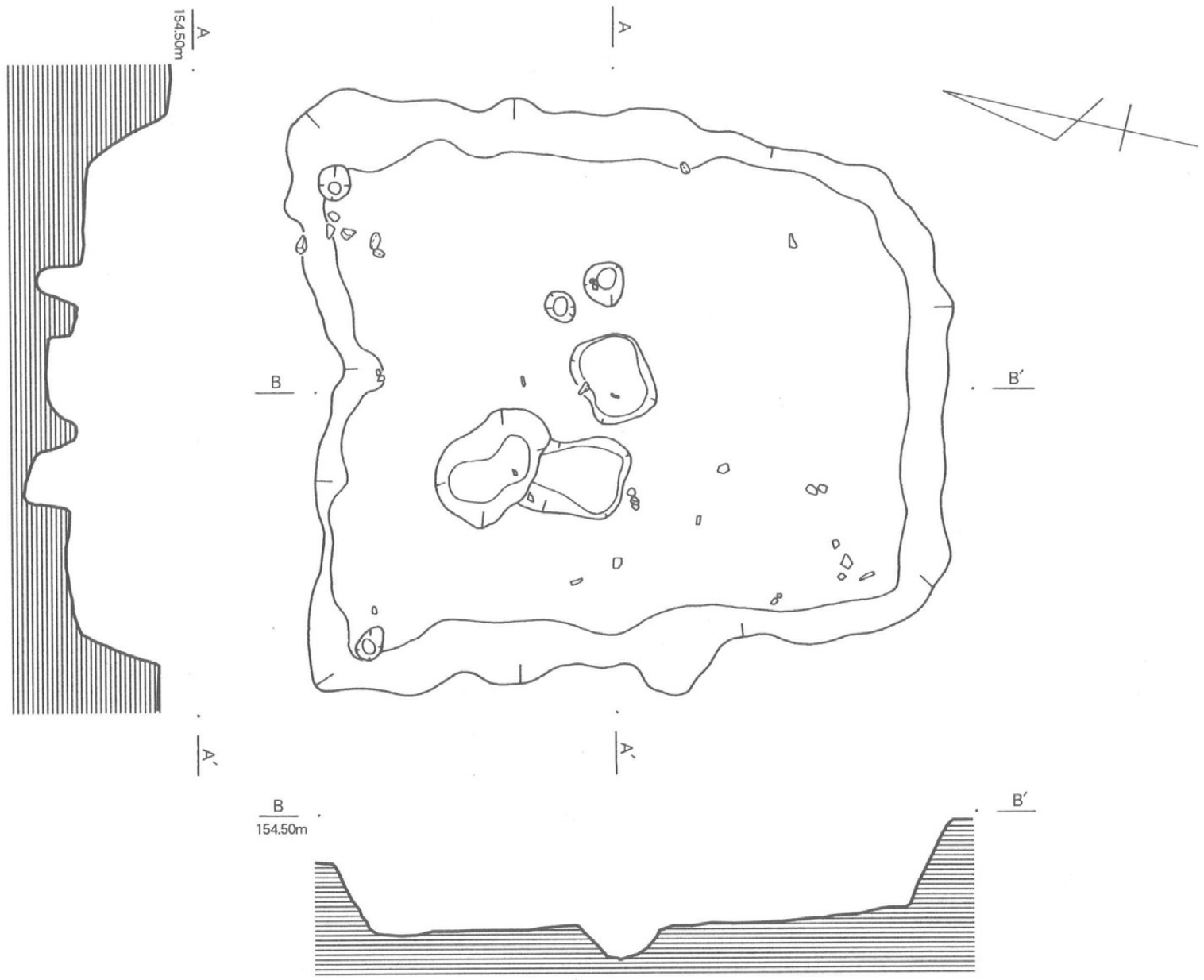
第119図　E区13号竪穴住居跡実測図（1/40）

39～41は深鉢である。39、40ともにやや内湾しながらも直線的に立ち上がる。同一個体の可能性がある。41はほぼ直立し端部は丸く仕上げる。

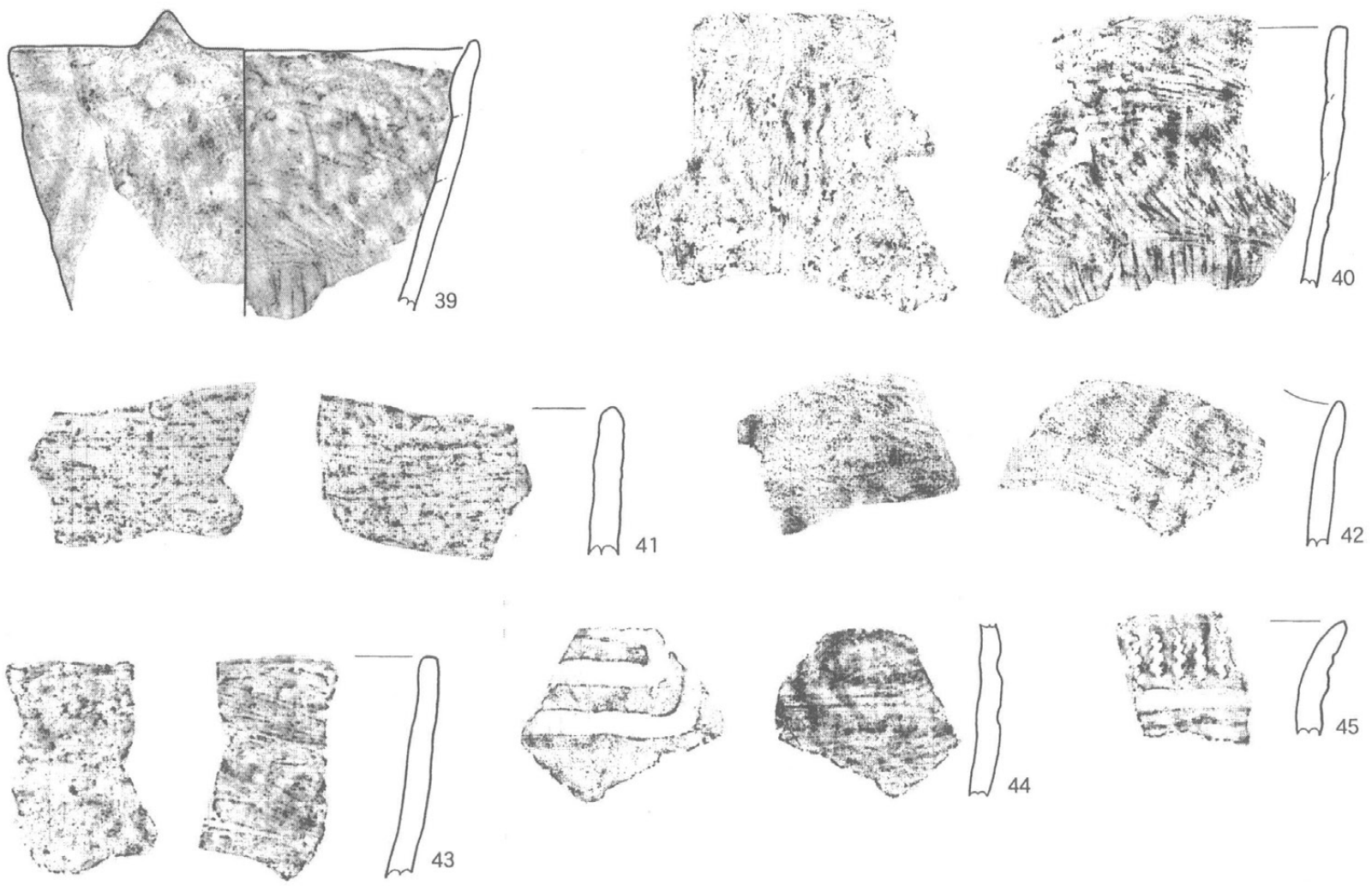
14号竪穴住居跡

調査区の北東隅において検出された。13号竪穴住居跡の西側に位置する。平面形態は方形を呈し、長軸約3.1m、短軸約2.7m、検出面からの深さ約0.4mを測る。床面は平坦で、中央に最大長40～60cm、床面からの深さ約15～25cmの土坑3基をもつ。ピットは4本が確認されている。埋土中より縄文土器が出土している。

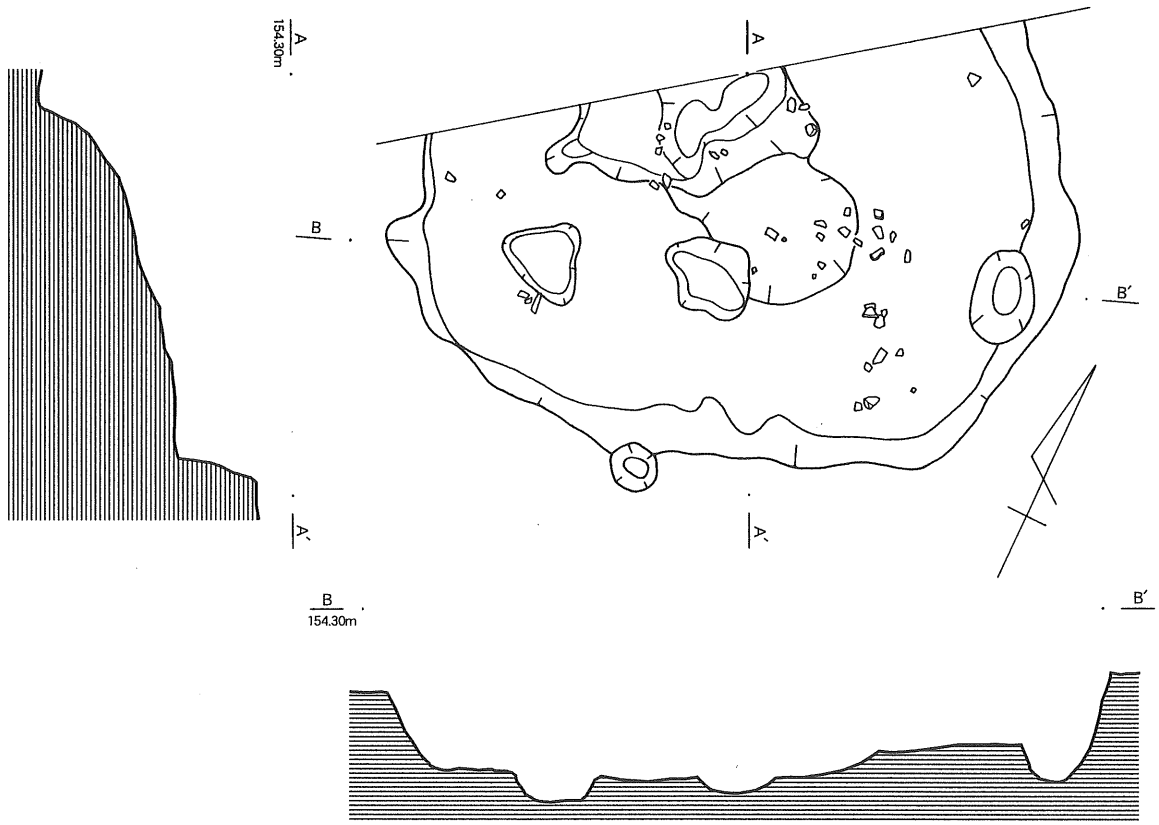
42は深鉢でわずかに外反する波状口縁である。



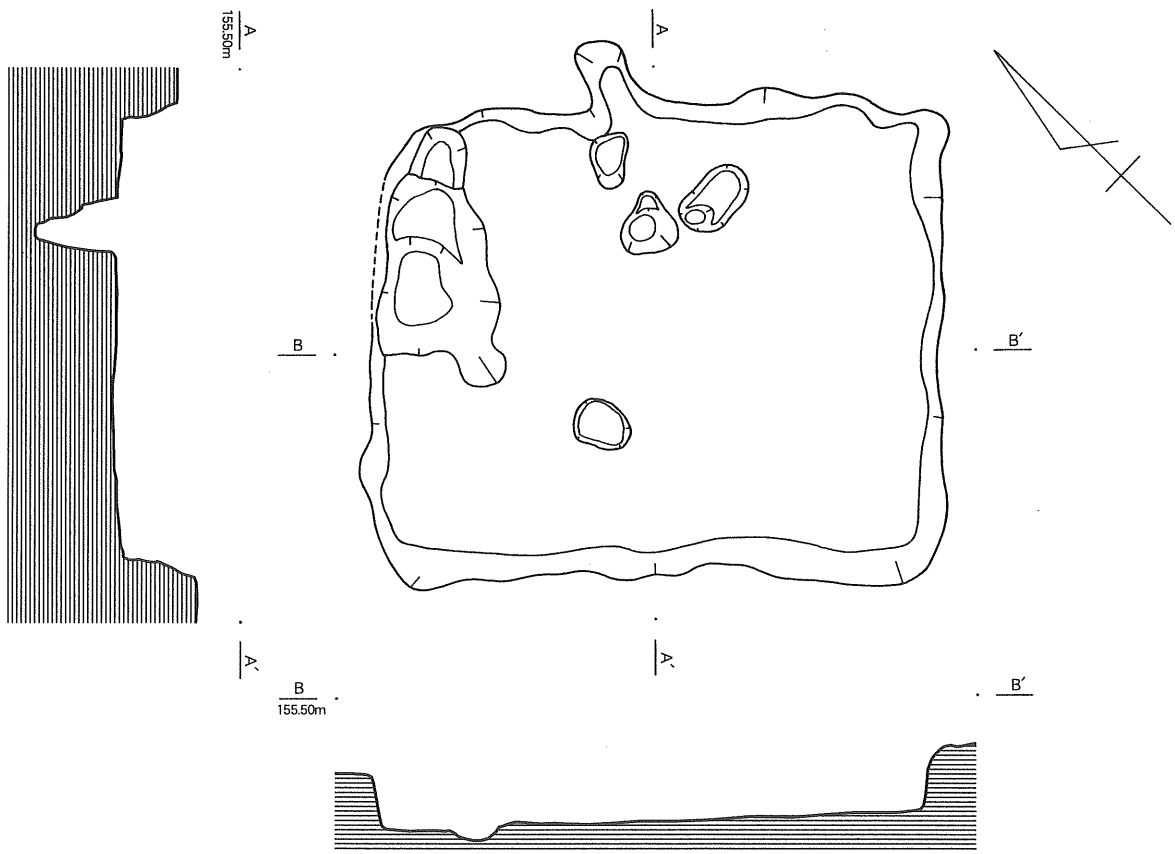
第120図　E区14号竪穴住居跡実測図（1/40）



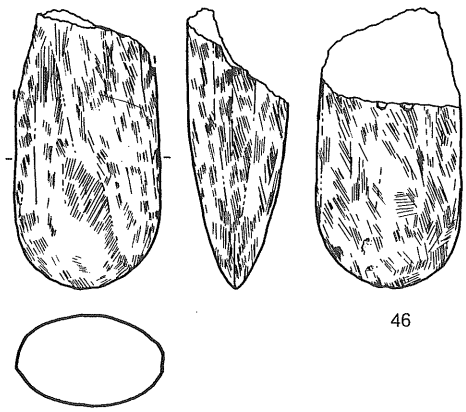
第121図　E区13～15号竪穴住居跡出土土器拓影図（1/3）



第122図　E区15号竪穴住居跡実測図（1/40）



第123図　E区16号竪穴住居跡実測図（1/40）



第124図　E区15号竪穴住居跡出土石器実測図

15号竪穴住居跡

調査区の北側隅において検出された。14号竪穴住居の西側に隣接する。北側は調査区外である。平面形態は隅丸方形と考えられ、長軸約3.7m、短軸約2.2m(現存長)、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で、中央に不正形を呈し、床面からの深さ約70cmを測る掘りこみをもつ。ピットは2本が確認されている。埋土中より縄文土器、石皿が出土している。

43、45は深鉢口縁部である。45は直線的に立ち上がり、口唇部を平坦に仕上げる。45は外反し上部に貝殻腹縁による連続刺突文、下部に沈線文を施す。44は深鉢胴部で凹線文を施す。46は磨製石斧である。基部は欠損している。断面は楕円形を呈し、刃部は両刃である。石材はフォルンフェルスである。

16号竪穴住居跡

調査区のほぼ中央東側において検出された。平面形態は長方形を呈し、長軸約3.0m、短径約2.5m、検出面からの深さ約0.3mを測る。床面は平坦で、西側壁面に沿って楕円形を呈し、長径約112cm、短径約55cm、床面からの深さ約60cmを測る土坑を持つ。ピットは4本が確認されている。

1号集石遺構

調査区のほぼ中央において検出された。長軸約50cm、短軸約40cmの範囲に広がる。長軸約80cm、短軸約50cm、検出面からの深さ約20cmを測り、楕円形を呈する掘りこみを伴う。

2号集石遺構

調査区の東北隅において検出された。12号竪穴住居跡の東側に隣接する。長軸約60cm、短軸約40cmの範囲に広がる。掘りこみは伴わない。

3号集石遺構

調査区の東北隅において検出された。11、12号竪穴住居跡の間に位置する。長軸約50cm、短軸約30cmの範囲に広がる。掘りこみは伴わない。

4号集石遺構

調査区のほぼ中央において検出された。長軸約50cm、短軸約30cmの範囲に広がる。掘りこみは伴わない。

5号集石遺構

調査区の東隅において検出された。東側は調査区外である。長軸約75cm、短軸約60cmの範囲に広がる。長軸約135cm、短軸約60cm（現存長）、検出面からの深さ約15cmを測る掘りこみが伴う。集石内より縄文土器が出土している。48は深鉢口縁部で外反する。48は深鉢底部で平底である。